



新聞切り抜きに見る 女の16年

V 女性と参院選 1977

202号 (特集40号)

社会 (22)

乳児死亡率さらに減り

平均寿命また延びる

離婚率は昭和の最高

主婦も立派な職業よ

1977年

雇用の平等確保を

過保護、洗い直し

婦人団体が抗議行動

生理休暇も再検討

婦人の地位向上へ

「国内行動計画」

戦後最多の婦人候補

男性本位の政治に不信

家庭

女性の選挙

女性の選挙

女性の選挙



新聞は時代を映す鏡です。

私たちはその意味で一九六〇年以来、新聞の切り抜きを続け、そのダイジェストを雑誌『あごろ』に連載してきました。

『新聞切り抜きに見る女の16年』は、当時のデータを基に、新しい資料も加えて、「国連女性の十年」を中心とした女性の動きに焦点をあててまとめたものです。

この号に続き一九八〇年までの刊行を目指して作業を続けています。ただ、この仕事は、想像以上の莫大なエネルギーと資金を必要とします。作業を手伝ってくださる方、資金提供のお志のある方、ぜひご一報ください。千円、二千百円の資金でも、どんなにありがたいかわかりません。また編集作業はかなりの忍耐力を必要としますが、女の問題に関心のある方には、またとない学習のチャンスでもあります。ご連絡をお待ちしています。

新聞切り抜きに見る女の16年

1977

V 女性と参院選

「世界行動計画」「メキシコ宣言」を受けて策定された政府の「国内行動計画」は、国際婦人年連絡会加盟の諸団体はじめ、各方面から激しい抗議を受けた。女のゆくてにバラ色の光を投げかけた「世界行動計画」の根幹である「性別役割分業の否定、女性の労働権確立」などが含まれておらず、理想を著しく矮小化したもの、と受けとめられたのである。

この年、ILOで採決された「看護職員の雇用・労働条件及び生活状態に関する第一四九号条約」も、各国が賛成票を投じる中、日本政府は棄権した。

しかし、七五年にメキシコで打ち鳴らされた男女平等の鐘の音は、この島国にも、たしかに響いていた。この年の「女性登用、女性進出」の記事は、きわだって多い。国立婦人教育会館はじめ、各地に公立の婦人会館がオープンしたのもこの年である。

その一方、相変わらず多いのが母子心中。そして物価高。女たちが初めて結集して候補を推した参院選は、田中寿美子さん以外は敗れ、中江連の〈日本女性党〉は解散した。

新聞切り抜きに見る女の16年 V 女性と参院選

年表 ● 1977年の主な出来事

法・制度・裁判	30
政治・行政	36
参院選／日本女性党／行動計画／女性の登用／駆け込み寺／婦人会館／その他	45
労働	54
ILO看護婦条約／雇用・就職／内職・パート／差別・不平等／保護と平等／その他	57
教育	61
教育現場／過熱する教育	65
保育・子育て	68
保育／保父／子育て／母と子	80
からだ	
健康／妊娠・出産／添加物・薬害	
差別	
活動	
グループ活動／会議・集会／女性史／戦争・平和／消費者運動／ボランティア／文化／スポーツ	
風潮	
時の流れ／主婦／結婚・離婚／くらし／衣／食／住／雑誌／性	

調査・統計	労働／女性の意識／結婚・離婚／主婦／くらし／家族・家庭・高齢者／子ども／住／その他	88
意見	政治／解放・平等／ことば／働く／主婦／子育て・教育／その他	97
相談		107
人	ひと／賞／逝去	110
本		127
事件	母子心中／父子心中／一家心中／心中／子捨て／子殺し／夫殺し／妻殺し／刺傷／殺された女／女が殺人 孤独な死／自殺／女の自殺／激増する少女売春／性犯罪／女の犯罪／だまされて／事故／お手柄	133
海外	韓国／北朝鮮／中国／台湾／フィリピン／インドネシア／マレーシア／タイ／シンガポール スリランカ／インド／オーストラリア／アフガニスタン／トルコ／イラク／シリア イエメン／エジプト／チュニジア／タンザニア／ナミビア／ノルウェー／スウェーデン／フィンランド イギリス／東ドイツ／西ドイツ／スイス／フランス／スペイン／イタリア／パチカン ギリシア／ユーゴスラビア／ソ連／カナダ／アメリカ合衆国／ドミニカ	143
資料		
I	看護職員の雇用、労働条件及び、生活状態に関する条約（ILO第一四九号条約）	158
II	看護職員の雇用、労働条件及び、生活状態に関する勧告（ILO第一五七号勧告）	162
III	五十二年度国の婦人関係予算	179

がきこえる」／「悪魔の手毬唄」／「八甲田山」／「ロッキー」／「キャリア」
[物価] 国鉄駅構内のコインロッカー、小型が100円から200円に、中型200円から300円に、大型200円から400円にそれぞれ値上げ。／東京・営団地下鉄の最低運賃60円から80円に、都営地下鉄の最低運賃70円から100円に。バスの均一料金70円から90円に値上げ。

[人口] 総1億1,322万5,921人 女5,734万2,922人 男5,588万2,999人（自治省7月24日発表）

[出生数] 1,755,100人

[死亡数] 690,074人

[平均出生児数] 2.33人

[日本人の平均寿命] 女77歳 男72歳

[女子雇用者数] 1,251万人（対前年増減率4.0%）

[雇用労働者中の女子の比率] 33.2%

[雇用労働者の平均年齢] 35.9歳 女33.9歳 男36.7歳

[雇用労働者の平均勤続年数] 9.4年 女5.8年 男10.8年

[雇用労働者の月間給与]（現物給与総額）女141,644円 男253,698円 男女格差（男子＝100）55.8（定期給与）女105,267円 男186,830円 男女格差56.3

[女子パートタイマー数] 313.7千人（対前年増減率－2.8%）

[家内労働者] 約162万人。93%は女子。／1時間の収入＝250円。／月収＝27,000円。

[学歴別新卒就職者数] 総1,032,162 女508,657 男523,505
中36,110（40,153）高321,949（274,993）短大102,790（11,550）
大47,808（196,809）（カッコ内は男）

[認可保育所数] 19,664所（公立12,287 私立7,377）

[入所児童数] 1,880,902人（公立1,193,590 私立687,312）

[物故] 1月3日 竹本小土佐／1月7日 金山らく／2月21日 沢崎梅子／2月24日 伊平タケ／2月28日 佐藤雅子／3月19日 高田せい子／3月21日 田中絹代／4月23日 萩原正吟／5月10日 ジョーン・クロフォード／5月22日 江田三郎／6月3日 ロベルト・ロッセリーニ／6月15日 森田翠香、土岐タカ／6月18日 長谷部広子（ひろ）／6月29日 森三千代／8月16日 エルヴィス・プレスリー／9月16日 マリア・カラス／11月4日 吉野せい／11月13日 山高しげり／11月26日 平山信子／12月1日 望月優子／12月25日 チャールズ・チャップリン

【この年】 不況／諸物価一斉引上げ／参議院選に史上最多の女性候補／日本女性党も誕生／行動計画案に女性団体抗議／保父誕生／男女で読む雑誌誕生／婦人会館建ち始める／母子心中多発／一男一女志向／行動計画／翔ぶのが怖い／保護と平等／ユニセックスズエア／ダウン・ベスト／ラジカセ流行／軽量小型ふとん乾燥機ヒット

【ブーム】 女のミニコミ／女性登用／カラオケ／テレビ・ゲーム／ベイシティローラーズ来日／塾／バレンタインデー／占い／キャンディ・キャンディ

【ことば】 翔んでる／フェミニスト／よっしゃ、よっしゃ／ルーツ／モラトリウム人間／普通の女の子になりたい／話がピーマン／翔ぶのが怖い

【賞】 田村俊子賞＝武田百合子、木々康子／女流文学賞＝宮尾登美子、高橋たか子／超空賞＝斎藤史／久留島武彦文化賞＝小嶋くるみ／講談社漫画賞＝水木杏子／エッセイストクラブ賞＝沢村貞子／国際赤十字映画祭特別優秀賞＝宮城まり子／赤松賞＝西村好江、万代房子、楠本かず枝、竹山栄／ヘレン・ケラー賞＝矢島せい子／全米女子プロゴルフ選手権優勝＝樋口久子

【本】 『あごろミニ』、『私はおんな』、『フェミニスト』、『アジアと女性解放』（『アジアの女たちの会』）、『MORE』創刊／『ノラ』、『アミカ』、『すてきな お母さん』廃刊／高橋たか子『天の湖』／高橋和巳の思い出／中島梓『表現の変容』／竹西寛子『管弦祭』／高木敏子『ガラスのうさぎ』／柴田道子『ひとすじの光』／絲屋寿雄『明治維新と女性の夜明け』／エリザベス・ジェインウェイ（内野久美子・佐々木洋子訳）『男世界と女の神話』／平塚らいてう新性道德論集『むしろ女人の性を礼拝せよ』／山川菊栄『女性解放へ——社会主義婦人運動論』／荒井愛子『女人風土記 房総の女』／増田永修編『富山の女』／市川房枝『私の言いたいこと』／小林登美枝『平塚らいてう』／『看護婦のオヤジがんばる』（同会編）／斎藤英子『谷中村問題と学生運動』

【TV】 海は甦る（初の3時間ドラマ）／岸辺のアルバム／祭りばやしが聞こえる／刑事スタスキー＆ハッチ／あらいぐまラスカル／ムー

【CM】 トンデラ・シンデラ／クッキーフェイス／独占者（営団地下鉄）／一枚のキップから（国鉄）

【漫画】 キャプテン・ハーロック／銀河鉄道9 9 9／生徒諸君！

【うた】 「電線音頭」「しらけ鳥音頭」／「津軽海峡冬景色」／「秋桜」／「わかれうた」／「ホテル・カリフォルニア」

【映画】 「宇宙戦艦ヤマト」／「幸福の黄色いハンカチ」／「ねむの木」の詩

1.20	初の5年もの割引国債発行。	米、カーター大統領就任。
1.21	「1兆円減税」で5野党合意。	米・カーター、ベトナム戦争徴兵忌避者を全面恩赦。
”	東京地検、小佐野賢治（議院証言法違反）・児玉誉士夫（所得税法違反・外為法違反）を在宅のまま起訴。	
1.23	社会党の社会主義協会を主体とした「三月会」が発足。	
1.24	東京国税局が児玉誉士夫の資産第3次差押え、総資産約30億円全面封鎖。	
”	日本自動車工業界、「昨年のわが国の自動車生産台数が史上最高の784万1447台に達した」と発表。	
1.26		人民日報、憲章77（1.6）を支持。
1.27	婦人問題企画推進会議「国内行動計画」を策定。	
”	ロッキード事件丸紅ルート初公判。	
1.29	女性団体、国内行動計画の政府発表を前に、日本大会問題提起者および世話人で各項目を検討、記者会見（於婦選会館）。	
”	社会党内の新しい流れの会、「社会党の任務と課題」を発表。	
1.30		国連、世界人口年鑑で'75年の世界総人口を39億6700万人と発表。
1.31	ロッキード事件全日空ルート8被告の初公判、東京地裁で開廷。	
”	来日中の米・モンデール副大統領、対日貿易大幅赤字の善処を要望。	
”	参院の13委員長選出。女性議員からは佐々木静子（社）が交通安全対策委員長に。	

1 月

月日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
1. 1		EC、200カイル水域宣言。
1. 3		英、IMFからの巨額借款・物価体系手直し、消費財値下げ。
1. 4	東京・高輪で胃酸コーラ事件。	
1. 5	10年前、長崎市内で起きた「赤ちゃん取り違え」が血液型検査により判明。小学校4年生でそれぞれ本当の両親のもとへ。	
1. 6		チェコ自由派知識人、憲章77を発表。
1. 7	金山らく（女性理学士第1号）死去。	
1.10	警視庁、23年ぶりに覚醒剤取締本部設置。	ニカラグア、野党指導者チャマロ暗殺を機に反ソモサ暴動発生。
"	東証ダウ株価5000円台へ。	
"	〈あごろ〉、従来の季刊『あごろ』に加え、月刊『あごろミニ』を創刊。	
1.14	福島県白川郡棚倉町に初の女性町長（藤田満寿恵・保守系無所属）が誕生。岐阜県に続き2人めの女性町長。	
1.17	国際婦人年日本大会連絡会、福田赳夫内閣総理大臣に面会、推進本部長として男女平等を実現するための要望を申し入れ。	
1.18		エジプト・食糧への補助金削減に抗議する暴動が発生（～19）。
"		インド・ガンディー首相は連邦議会下院を解散、3月に総選挙を行うと発表。
1.19	フォード米大統領、東京ローズ（アイバ・戸栗・ダキノ）の特赦を発表。	ハンガリー、知識人30人がチェコ反体制派に連帯声明。
"		西ドイツの天文学研究所で、銀河系外宇宙で水の分子を確認。生物の可能性を示唆。

2.15	今冬最強の超一級寒気団が南下、東京などで平均気温、戦後最低。	ネバールで「婦人の参加」テーマに、国連のアジア・太平洋地域セミナー（～2.22）。
"	'49.8に起きた弘前大教授夫人殺し事件で、服役した那須隆の再審判決公判が仙台高裁で開かれ、無罪判決。	カナダ・新市民権法公布。カナダ人はイギリス臣民たることを停止。
2.16	日米、繊維輸出規制枠全廃合意。	
"	マッターホーン北壁の冬季単独登頂に長谷川恒男が、日本人初・史上2人目の成功。	
2.17		カーター米大統領、人権運動支持の書簡をソ連のサハロフ博士に送る。
2.20	第11回青梅マラソンに1万人余が参加。完走率55%で、死者・けが人続出。	
2.21	昨年末、水俣病認定行政の遅れを指摘する判決が下ったのに応じ、認定申請者8派初の統一行動。	
2.22	国内行動計画学習会。	
2.23	宇宙開発事業団、わが国初の静止衛星・技術試験衛星Ⅱ型「きく2号」の打ち上げに成功。	
2.24		米・NBC放送は、女性職員に「差別した」と、総額200万ドルの補償支払いに同意。
"		米・カーター、国連で人権外交を強調。
"		アルジェリア・国会選挙。
"		アフガニスタン・ダーウード、新憲法発布。
2.25	自民党、国民祝祭日として3月3日のひな祭りを「婦人の日」と提案。	

2月

月日	国内の動き	海外の動き
2. 1	政府、「婦人の10年・国内行動計画」発表。婦人年連絡会、抽象的と批判声明。	ポーランド反体制派22人連帯声明。
"	昨年11月から東京・新宿で発生していた「火曜放火魔事件」の犯人、現行犯逮捕。	
2. 3	総評、「国内行動計画」批判。母性保障などのILO条約批准の推進を春闘重要課題とするよう全国に指示。	
"	14年ぶりの豪雪。「1月1日以来死者31人、家屋倒壊312棟」と警視庁発表。	
2. 5		タンザニア・アフリカ人民族同盟とアフロ・シラジ党が合併、革命党を結成。
2. 7		中国『人民日報』等に毛沢東路線全面擁護の社説。
2. 9	婦人団体代表者会議、国内行動計画に不満を表明する会の開催を決定。	スペイン、ソ連と国交回復。
"		全米ネット、8日連続のテレビ映画「ルーツ」(アレックス・ヘイリー原作)、テレビ史上最高の平均視聴率35%を記録。
2.10	200カイリ漁業水域の最初の協定、日米漁業協定調印。	
2.12	資生堂、日米OLの意識調査発表。「アメリカ女性は職業に意欲的、日本女性はセックスに開放的」。	
2.13	国公立大学共通1次試験の初の模擬試験実施。全国210か所、26000人が参加。	
2.14	東京駅地下街で拾われたチョコレートから、青酸ナトリウム検出。	
"	都立高等保母学院が男性受入れ。	
"	ユニチカ、20%人員削減。レーヨン等5部門分離独立。	
"	国連大学翻訳者として、男女応募者1254人から田代泰子採用。	

3.15	厚生省、「保母資格を取得できるのは女性だけ」とされていた児童福祉法を改正。男子に保育職員の道を開く。	
"	米国産グレープフルーツやレモンのカビ防止剤OPPについて、厚生省が「遺伝性は認められない」と発表。	
"	千葉・野田市に、女性副議長誕生（鈴木美津子・社）。習志野市に続いて2人め。	
3.16		インド・第6回総選挙。反会議派のジャナター（人民）党が圧勝。
3.20	全盲の石川准，東大合格。	
3.21		インド総選挙，国民会議派大敗。ガンジー首相落選。
3.23	最高裁，韓国籍の金敬得を司法修習生に採用（外国人初採用）。	英・労働党と自由党の間でリブ・ラブ協定成立。
"	国会の裁判官弾劾裁判所，鬼頭史郎京都地裁判事補に罷免判決，法曹資格剥奪。	
3.24	子どもの未来を守り少年法を考える婦人集会（於 主婦会館）。	
3.26	社会党前副委員長江田三郎，離党。社会市民連合結成へ。	
3.27	新自由クラブ，代表・幹事長に「55歳定年制」。	大西洋上のカナリア諸島テネリフェ空港でバンナム，KLM両ジャンボ機激突炎上，575人死亡。
3.29	千葉県警に初の女性警部誕生(岩井寿美子)。	
[この月]	●労働省「既婚女子労働者に関する労働実態調査」結果発表。	●イスラエルで“中絶”合法化。

3月

月日	国内の動き	海外の動き
3. 1	〈アジアの女たちの会〉結成（富山妙子、松井やより、加地永都子ら）。	アルゼンチン・人権抑圧を理由に削減された米軍事援助を拒否。
3. 2		伊・仏・スペイン共産党書記長初会議。
3. 3		リビア・国名を人民合衆国（ジャマ・ヒーリーヤ）と改め、最高機関として全人民会議設置・（モロッコ）内閣改造で反対党が入閣。
3. 4		ルーマニアのブカレスト地方で大地震。
3. 5	政府決定の国内行動計画に不満を表明する37婦人団体が集会（於主婦会館）。	ブラジル、米国の人権外交に対して、米国の軍事援助拒否。
”	ロッキード被告、橋本登美三郎、茨城県で胸を刺され、全治2か月。	
3. 7	群馬テレビ、右翼団体の「北方領土を返せ」コマーシャルを放映。	第1回アラブ・アフリカ首脳会議、60か国参加してカイロで開催（～9）。
3. 8	国際婦人デー（東京・中央区立中央会館）。	ザイール・コンゴ解放民族戦線、シャバ州（旧カタンガ州）侵攻開始、第1次シャバ紛争始まる。米仏モロッコがザイール政府への支援開始（～5.26）。
3. 9	東京・社会文化会館で「差別図書購入全企業中央糾弾会」（部落開放同盟）。「特殊部落地名総鑑」や「部落リスト」などの差別図書を購入した全国企業103社の代表が集まった。	
3.10		カーター米大統領、在韓米軍の撤退方針を表明。
3.12		チリ・政党解散、政治活動禁止を内容とする政党禁止令を布告。
3.14		国連水資源会議、150か国参加してアルゼンチンで開幕。

4.16	野党要求の3000億円追加減税を含む修正予算案成立。	
"	〈行動を起こす女たちの会〉、東京・千駄ヶ谷区民会館で各政党の代表者を招き、男女平等政策について討論会。	
4.17		リヒテンシュタインで女性が初の選挙権を行使。
4.24	動力炉・核燃料開発事業団自主開発の高速増殖実験炉「常陽」が臨界に達し、エネルギー自立化へ踏み出す。	
4.25	政府、憲法施行30周年記念式典を行われ方針を決定。	
"	日劇レビュー、41年の幕とじる。	
4.26	革新自由連合発足（代表 中山千夏ら）。	
4.29	ソ連、日ソ漁業条約の廃棄を通告（5.27領土問題を棚上げにして日ソ連漁業暫定協定調印）。	
"	山下泰裕（東海大）、全日本柔道選手権に史上最年少（19歳）で優勝。以後9連覇。	
(この月)	<ul style="list-style-type: none"> ●電話を利用した出版物（「タイム・ライフブックス」）の販売をめぐり、消費者と業者のトラブル発生。「買う意思がないのに本が届いた」など、都消費者センターに苦情続出。 ●田村俊子賞をやめることが決定。 ●石川達三・日本ペンクラブ会長、再任を辞退。 ●初任給平均10万3123円。 ●第6回赤松賞に西村好江、万代房子、楠本かず枝、竹山栄。 	

4 月

月日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
4. 1	婦人就業援助センターを設置（内職相談センターを改組）。	
"	名古屋河合塾、東京に進出。	
"	日本教育テレビ（NET）、テレビ朝日と改称。	
"	自民党の独禁法改正案要綱に、主婦連など20団体が反対声明。	
"	中ビ連「日本女性党」を東京都選挙管理委員会に届け出。	
4. 2	女性労組員約5000人「国内行動計画」に抗議集会。	ソ連・モザンビーク友好条約調印。
4. 4	平戸大橋開通。	
4. 5		カナダ・北西準州の上院議員にアダムズが任命さる。カナダ議会初のイスラエリット議員。
4. 6		イラン・イスファハーンの南方で地震、死者多数。
4. 7	日米政府間で、日本製カラーテレビ輸出自主規制合意（昨年輸入台数の60％）。	西独・ブバック検事総長暗殺。
4. 9	公取委、短繊維紡績系の不況カルテル認可。	
4.10 ～16	婦人週間のテーマは昨年と同じ「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」。	
4.11	第20回婦選会議（7 婦人団体議会活動連絡委員会主催。東京・婦選会館）。	
4.13	衆院ロッキード問題調査特別委員会で中曽根康弘が証言、疑惑を全面否定。	
4.14		米、韓国から核ミサイル撤去開始と発表。
4.15	東京都婦人センター（かけこみ寺）オープン。	

5.20	衆院ロッキード問題調査特別委，証人喚問出頭を拒否した児玉誉士夫を最高検に告発。	最後のオリエント急行，バリ出発。
”	障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会会長矢島せい子，ヘレンケラー賞受賞。	
5.22	江田三郎（69）死亡（社会市民連合後継・江田五月）。	
5.24	慶応大学商学部で，入試問題漏洩事件発覚。2教授解職（6.22 同大日吉でスト）。	ボドゴルヌイ・ソ連最高会議幹部会議長の政治局員解任。
5.25	大阪大文学部非常勤講師フィリップ・カール・ベータ（米国人）「ジーパンの女の子は出ていきなさい」と発言（11日），抗議が殺到。同講師は辞任の意思表示。	
”	独禁法改正案（公取委の営業の一部譲渡命令，違法カーテンに対する課徴金納付制度，金融機関の持株保有制限など）	
5.26	共産党委員長宮本顕治，「革新統一戦線」を提唱，共闘をせまる。	
5.27	福岡地裁小倉支部，女性の漁協加入承認を命ず。	
”	日本共産党，歯舞・色丹を北海道の一部とし，ソ連に返還求める新見解。	
5.30	第16回国際看護婦協会大会（～6. 3）。	米・カーター，次期戦略爆撃機B-1の生産を中止。
[この月]	<p>● 早乙女勝元作「東京大空襲」の一部が，53年度版中学校教科書に登場。</p> <p>● 6大都市タクシー値上げ（東京基本料金330円）。</p>	

5 月

月日	国内の動き	海外の動き
5. 1		トルコ・イスタンブールで「血のメーデー事件」。
5. 2	政府、領海法案（領海を3カイリから12カイリに拡大）及び200カイリ漁業水域法制定の方針を決定（海洋2法）。	スイス国民議会（下院）議長に、初の女性議長エリザベート・ブルンチー代議士。
”	国立大学共通1次試験のための大学入試センター発足。	原子力発電と核燃料サイクルに関する国際会議、ザルツブルクで60か国参加して開く。
5. 6	新東京国際空港公団、開港反対派の鉄塔2基を撤去。	
”	東京の地下鉄・バス運賃値上げ。	
5. 7	福田首相、第3回サミットで日本の52年度実質経済成長率6.7%達成を約束。	第3回先進国首脳7か国会議開催（～5・8、ロンドン）。
5. 8	三里塚鉄塔撤去で抗議集会の3700人と機動隊衝突死者1人。	第3回サミット（ロンドン）で「ダウンニング街宣言」（インフレなき経済拡大持続、保護貿易主義の抑制）が出された。
5. 9	社会党委員長成田知己、反自民の全野党政権構想を提言。	
”	東京・府中市議会新議長に初の女性議長（石井文）。	
5.11	北海道三井石炭鉱業芦別鉱業でガス爆発、死者25人。	
5.14	第22回働く婦人の中央集会（東京・1700人参加）。「国内行動計画」をめぐり討議（～5.15）。	
5.17	運輸省、審議会委員に女性を起用（運輸技術審議会委員・石原一子、気象審議会専門委員・波多野ミキ）。	イスラエル総選挙、労働党が敗北。定員120人のうち婦人議員は8人。
5.18	魚の値上がりで魚隠しや魚ころがしが問題化。東京都、強制立ち入り調査決定	環境破壊兵器禁止条約調印式・33か国が調印。
5.19	運輸省、魚倉庫の一斉調査決定。	
”	日航・全日空、定期便エアバスを大阪空港に初乗り入れ。空の大量輸送化に拍車。	

6.15	『アジアと女性解放』（「アジアの女たちの会」）創刊。	スペイン、総選挙で婦人議員が27人に（従来の約4倍）。
"	和歌山県有田市で集団コレラ発生。真性23人を含め、疑似・保菌者が99人。	
6.16		アイルランド、総選挙で共和党が大勝。婦人議員は148人中5人に。
6.18	参院選挙立候補者中女性36人、史上最多。	
"	中比連の日本女性党、確認団体となる。	
"	長谷部ひろ死去（元参議院議員。無所属・愛知）。	
6.19		韓国・古里原子力発電所運転開始。
6.20	最高裁、過度の拘束預金は独禁法違反、利息制限法超える実質金利部分は私法上無効と判決。	オーストラリアで開かれた第29回捕鯨委員会で、加盟国（17）、オブザーバー（17）のうち捕鯨擁護は、日本・ソ連のみ。
"		米最高裁判所、「自由意志による妊娠中絶に医療扶助制度はあてはまらない」と裁決。
6.21		イスラエル、右派連合ベギン内閣成立。
6.22	最後の替女・金子セキラ3人が、老齢のため引退。	米下院国際機関小委で、亡命中のK C I A元部長が「金大中事件は当時のK C I A部長が指揮した」と証言。
6.25	〈行動を起こす会〉、2年目の記録集『行動する女たちが明日をひらく』刊行。	
"	中小企業分野での大企業活動規制の中小企業分野調整法公布。	
"	厚生省が51年の「簡易生命表」発表。日本人の平均寿命、女性77歳、男性72歳に。	
6.26		NY・シカゴ・ロスなどでゲイ差別反対デモ。
6.27		ジブチ共和国独立。
6.30	東京・世田谷の三井アルミニウム工業社長宅玄関前で、時限爆弾が爆発。	カーター米大統領、次期戦略爆撃機B1の配備計画中止を発表。

6 月

月日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
6. 1 ～22		第63回 I L O 総会で「看護職員の雇用及び労働生活条件」に関する第 2 次討議が行われ、看護職員条約並びに勧告を採択。
6. 1	世田谷区・経堂に区立婦人会館オープン (23区初)。	米・保健教育厚生省、学校・病院等施設での障害者差別を禁止。
6. 2	東京地裁で児玉蒼士夫の初公判、脱税と外為法違反の起訴事実をほぼ全面否認。	
6. 3	衆院本会議で独占禁止法改正案が可決、成立。	
6. 5	〈女と政治を考えるつどい〉集会、京都で。	セーシェル・ルネ首相によるクーデタ。マンチャム大統領失脚。
"		トルコ・総選挙で共和人民党が勝利。
6. 7	社共、参院宮城地方区での政策協定調印。	伊上院が 2 票差で人工妊娠中絶自由化法案、否決。
6.10	〈「政治を変えたい女たちの会」〉、参院戦に田中寿美子、吉武輝子、俵荫子を推薦、新・女の時局大演説会を開く。	北京で李先念、ファム・ヴァン・ドン会談。李副首相、中越間に存在する懸案を指摘。
6.12	樋口久子、全米女子プロゴルフ選手権で日本人初の優勝。	
6.13	労働省「若年定年制、結婚退職制等改善年次計画」を策定。	
"	パレスチナ・ゲリラ医療機関で奉仕活動後帰国した看護婦中野マリ子再渡航を外務省が拒否。旅券の発給取消が判明。	
"	ジーパンをはいて勤務という理由で、突然解雇された矢野よしえ (23)、岐阜地裁に地位保全の仮処分申請。	
6.14	婦人問題企画推進本部、「婦人の政策決定参加を促進する特別活動推進要綱」を決定。本部長メッセージを発表。	

7.21	ロッキード事件・小佐野賢治の第1回公判, 東京地裁で。小佐野は偽証を全面否認。	
"	北海道立近代美術館開館。	
7.22		スリランカ, 総選挙で保守党が圧勝。婦人議員4人に。
"		中共第10期3中全会で鄧小平の党副主席などへの復帰, 江青ら4人組の党除名決定。
7.23	文部省, 小・中学校の新学習指導要領を告示, 「核」「公害」の記述復活。「君が代」=国歌の規定はそのまま。	
7.25	米韓安保協議会 (在韓米地上軍の撤退等を決定)。	
7.28	高知地裁, 白ろう病に林野行政の責任を認め, 元営林局職員12人に対する550~1100万円の損害賠償を命じた。	
7.31		米・ニューヨークで「サムの子」と名乗る連続射殺魔が, アベックを襲撃。連続8件。
(この月)	●農林省「農村婦人の家」設置開始。	

7 月

月日	国内の動き	海外の動き
7. 1	日本の領海12カイリ、漁業専管水域200カイリがスタート。	
7. 4		スペイン総選挙で41年ぶりに中道右派スアレス内閣成立。
7. 5		パキスタンで軍事クーデター。
7. 6		アルバニア労働党機関紙、中国の対米接近を批判。
7.10	第11回参院選で社会党敗北。自民党は相対的安定へ。婦人議員は16人で2人減少。	米・全国婦人党創立者のアリス・ボール死去。
"	東京都議会選挙。自民、新自ク伸び、与野党逆転。婦人議員は5人で、1人増。	
"	公明・民社両党、連合政府樹立を目的とした合意書に調印。	
7.11	慶応義塾大、昨春の中等部不正入学関係者の3人を処分。	
7.12	中比連・日本女性党解散。	
7.13	社会党成田委員長、石橋書記長、参院選敗北の責任をとり、辞意表明。	ニューヨーク中心部に大停電事故発生。14日、略奪などで暴徒約3000人を逮捕。
7.14	初の静止気象衛星ひまわり1号打ち上げ。	
7.16		中国、鄧小平が副主席に復活。
7.17		ミス・ユニバース・コンテストでトリニダードトバコ代表が栄冠獲得。同コンテスト初の黒人女性。
7.19		デューカキス米マサチューセッツ州知事、'27年に処刑されたサッコとバンゼッティの裁判は「無罪」と宣言。

8.20	〈行動を起こす会〉、性差別と政治を語る合宿（200人参加。～8.21）。	
8.23	天皇が那須御用邸の記者会見で、敗戦時の「人間宣言」の第1目的は「五か条の御誓文」の伝達、と発表。	
8.24	京都市は、二重窓、吸音壁、防音壁などの防音設備のない深夜スナックは今後、市内で営業を許可しない方針に。	
8.26	最高裁長官に岡原昌男。	カナダ・ケベック州議会、フランス語の単一言語州とする「フランス語憲章」（条例101号）可決。
8.27	東京で連続降雨22日間の新記録。	
〃	名古屋で「女性史のつどい」初の全国集会（～8.28）。	
8.29		国連砂漠会議（～9.9。ナイロビ）。
〃	第23回日本母親大会（東京・日本教育会館）。	第8回南太平洋フォーラム（～31、ポート・モレスビー）。
8.30		ユーゴスラヴィア大統領チトー訪中。中共との関係回復。
8.31	中野浩一、世界自転車競技選手権大会・プロニスクラッチ初優勝。	
〔この月〕	<p>● スルメイカ、主漁場の日本海がソ連、北朝鮮の200カイリ宣言と乱獲により減産高値。都内や首都圏の魚屋で1匹400～450円と豚肉並みに。</p> <p>● 農林省「婦人農業従事者セミナー開設事業」開始。</p> <p>● ビデオディスク国内販売。</p> <p>● 永井龍男、『エーゲ海に捧ぐ』の評価をめぐり、芥川賞選考委員を辞退。</p>	

8 月

月日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
8. 1		北朝鮮・経済水域200カイリ軍事境界線50カイリ設定。
8. 3	14年ぶり原水協・原水禁統一の世界大会広島で開催。	
8. 6	福田首相、東南アジア6か国訪問に出発。	
"	全国婦人税理士連盟第20回記念総会（東京・約200名出席）。	
8. 7	北海道の有珠山が突然噴火。農作物に被害。	福田首相、クアラルンプールでASEAN首脳と初の首脳会議。
"	成田空港の騒音テスト開始。	
8. 8	生涯教育センター主催全国大会、800人参加（～8.10）。	
8. 9	女子高校生殺人事件（'63）で、最高裁は2審の無期懲役を支持、石川被告の上告を棄却。	
8.10	東京で婦人国際平和自由連盟第20回総会、22か国277人参加（～8.15）。	米・パナマ両政府、パナマ運河支配権を今世紀末をもってパナマに全面委譲することで原則的に合意と発表。
8.11		米・ニューヨークの「サムの子」、逮捕。
8.12		中国共産党11全大会（文革終結宣言、4つの近代化の新党規約決定）。
8.13	「台湾人元日本兵士の補償問題を考える会」が東京地裁に総額7000万円を求める訴訟。	ロンドンで戦後最大の人種暴動。
		中国・大学統一入試復活決定（'78～）。
8.15	『フェミニスト』（編集 渥美育子）創刊。	
"	『愛のコリーダ』で大島渚ら、わいせつ文書図画販売で起訴される。	
8.16	警視庁、ヤミカルテル摘発の資料を出版業者に流した疑いで、公正取引委員会の課長補佐らを独禁法違反容疑で逮捕。	

<p>“</p> <p>“</p> <p>“</p> <p>9.21</p> <p>9.22</p> <p>9.23</p> <p>“</p> <p>9.25</p> <p>9.26</p> <p>“</p> <p>9.27</p> <p>“</p> <p>“</p> <p>9.27 ～30</p> <p>9.28</p> <p>“</p> <p>(この月)</p>	<p>国鉄グリーン車、33.3%値下げ。</p> <p>対外経済対策閣僚会議、当面の経常収支黒字減らし対策決定。</p> <p>大蔵省、構造不況業種の既貸付金利引き下げを政府関係金融機関に通達。</p> <p>通産省、合繊15社に減産指導実施通告。</p> <p>文部省、不合格内定の教科書に再審査の機会を設けるなど、教科書検定規則と検定基準を改定。</p> <p>独身婦人連盟、創立10周年記念総会開催(東京・市ヶ谷)。</p> <p>日本婦人会議第15回定期大会・記念集会(東京・全通会館ほか。～9.25)。</p> <p>航空自衛隊、国産支援戦闘機F1を三沢に配備。</p> <p>カネミ油症事件の被告、鐘淵化学工業が、極秘に17億円余の漁業補償金を支払っていた事実が明らかに。</p> <p>横浜市緑区に米軍機(ファントム)墜落。死者2人。</p> <p>社会党大会で、「新しい流れの会」の榎崎弥之助・田英夫・秦豊、離党。</p> <p>日航機、マレーシア・クアラルンプールに墜落。33人死亡。</p> <p>第7回離島婦人会議(テーマ「物価対策と消費生活」他)。</p> <p>飛鳥田一雄横浜市長、委員長不出馬声明。</p> <p>日本赤軍、バリ発東京行きの日航機ハイジャック。</p> <p>●千葉県で高3の少年、足立区で小4の少女など、少年・少女の自殺相次ぐ。</p> <p>●沖縄良部台風、907.3mbの最低記録。</p> <p>●労働省婦人少年局に婦人雇用コンサルタント配置。</p>	<p>ベトナムとジブチ国連加盟承認。</p> <p>スイス・国民投票により、レフェレンダム・イニシアティヴ成立に必要な署名数を引き上げ12週以内の中絶自由化を否決。</p>
--	--	--

9 月

月日	国内の動き	海外の動き
9. 1	米価改定に伴い、生活保護の生活扶養基準額改定。1%弱の上乗せだが、20~40歳の男22,600円、女19,120円で3,480円など男女差は歴然。	
9. 2	播磨灘一帯に赤潮が異常発生。養殖魚230万匹以上が死ぬ。	
9. 3	王貞治（巨人）、756本の本塁打世界最高記録樹立（9. 5 国民栄誉賞第1号受賞）。	
9. 4		全米オープンテニス選手権の女子で、14歳のトレーシー・オースチン（米）が優勝。
9. 5	田子の浦港「ヘドロ公害」住民訴訟で、東京高裁、製紙4社にしゅんせつ費負担の判決。地方自治法による公害住民訴訟初の勝訴。	木・土星探査ボイジャー1号打ち上げ。
"		西ドイツ財界ハンス・シュライアー経営者連盟会長、西ドイツ赤軍に誘拐。
9. 6	ミレーの「種まく人」など2点を約2億円で山梨県が購入。来年11月から県立美術館で一般公開。	
9. 7		米・パナマ新パナマ運河条約調印。
9. 8	静止気象衛星ひまわりから初の地球画像。	
9. 9	国会議員の歳費、月額平均100万円の大台を突破することが確実。	
9.10	警視庁、歌手・井上陽水ら大麻取締法違反で逮捕。以降芸能界大麻汚染で次々に逮捕。	
9.12		ノルウェー総選挙で、婦人議員36人が当選。
9.14	林野庁、国有林経営立て直し長期再建計画決定。不要資産売却など。	
9.16	曲尺・鯨尺の製造販売許可の方針発表。	
9.19	東京高裁は、松下電器産業への独占禁止法による損害賠償請求訴訟を、損害の立証が不十分と請求棄却、賠償請求権は認める判断。	
9.20	政府は「ベトナム難民対策連絡会議」の設置を決め、難民の定住は認めない、と決定。	ベトナムの国連加盟承認さる。

10.20	国立婦人教育会館が埼玉県嵐山町に開館(11月12日開館式)。初代館長・縫田禪子。	タイ軍部無血クーデター。
10.24	大阪で全国初のサラ金被害者の会結成。	
10.26	新日本婦人の会、創立15周年記念レセプション(東京・日本教育会館)。	
10.27	レヴィ=ストロース(仏・人類学者)来日、〈民族学の責任〉講演。	
10.29	東京地裁で東京スモン訴訟の和解成立。	ベトナム航空国内便を亡命希望の4人が乗っ取り、3人を殺傷。シンガポールに着陸。
10.30	開成高校生殺人事件。	
10.31	総理府婦人問題担当室「国内行動計画前期重点目標」を解説。	「核ジャック」防止策の国際会議がウィーンで開幕。日本も参加。
〃	建設省、新潟県長岡市の信濃川河川敷を廃川敷処分にすると発表。半分の所有権が田中元首相の関連する室町産業に。	
(この月)	<ul style="list-style-type: none"> ● FCT(子どものテレビの会・市民のテレビの会)発足。 ● 紙おむつ・パンパース試験販売。 ● テレビゲームブームで大阪府眼科医会が学校検診の中で近視・乱視を調査する方針を発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ジュネーヴ和平会議の再開とパレスチナ人の合法的権利を含む包括的解決をうたう米ソ共同声明。 ● ベトナム・カンボジア国境地帯で武力紛争。

10月

月日	国内の動き	海外の動き
10. 1	安宅産業、伊藤忠に吸収合併。	米・ソ、中東和平共同声明発表。
"		米・エネルギー省発足。
10. 2	テレビ朝日「ルーツ」を8日間放送。平均視聴率23.4%。	
10. 3	米財務省、日本製の炭素鋼厚板をダンピングと仮決定。	バングラデシュでクーデター未遂。
"		インド・ガンディーが職権濫用容疑で逮捕・投獄され、翌日釈放。
10. 4	税制調査会、一般消費税導入を首相に提言。	ベオグラードで欧州安保協力会議(～12.22)。
10. 5	福岡地裁、カネミ油症事件、被害者側全面勝訴の判決。	
10. 7	参院「無所属クラブ」結成。河野謙三、田英夫、秦豊、江田五月ら。	ソ連で新憲法採択。
"	自然食品ブームでニセ薬を売り、1年半で24億円の純益の薬品会社社長を逮捕。	
"	マンスフィールド駐日米大使が、日本の軍事力増強の危険を警告した論文を、米紙に掲載。	
10. 8	第3回世田谷婦人の会議(世田谷区民会館。参加約700人。「現代文明と健康」など6部会)。	
10.12	警視庁、山口組系の暴力団を中心に戦後最大の摘発。	
10.13		西独赤軍、ルフトハンザ機乗っ取り、ドバイに強行着陸。
10.15	国内行動計画前期の重点施策について聞く会(国際婦人年連絡会)。	
10.18	通産省、電力9社と大手ガス3社の円高為替差益を880億円と試算。料金据え置きを指導。	エクアドル・軍事政権がアストラ精糖工場の争議に介入、120人の労働者を虐殺。
"		西独・ソマリアのモガジシオ空港で、ハイジャックされたルフトハンザ機を国境警備隊特殊部隊が解放。

11.17		ソ連・ブレジネフ書記長が訪米、「中性子爆弾の実験を数年前に実施。製造は控える」と発表。
11.18		米・ヒューストンで第1回全国女性会議開催。
11.19	食糧農業物に限定せずに水田転作促進のため、農林省、米需給均衡化対策を決定。	台湾の桃園県長不正選挙で民衆が抗議行動（中樞事件）。
11.20		エジプト・サダト大統領、イスラエル国家を承認。
11.21	婦選運動の協力者として知られる平山信子さん死去。	ギリシア・総選挙で新民主主義党が勝利。
"	投機的短期資金流入防止のため短期国債公募一時停止。	
11.24	日本銀行が6億ドルの記録的介入で240円を維持。	リビア、エジプトと断交。
"	東証ダウ株価4,600円割れ。	
11.25	参院で自民党の国鉄運賃法、健康保険改正法、給与、防衛、離職者臨時措置法の5重要法案すべてが審議未了で国会幕切れ。	
"		フィリピン軍事法廷、ベニグノ・アキノ前上院議員に銃殺刑宣告。
11.28	民社党大会、佐々木良作委員長・塚本三郎書記長を選出。	
"	福田内閣改造。対外経済担当相を新設、牛場信彦（元駐米大使）を起用。	
11.30	米軍立川基地、32年ぶりに全面返還。	
"	住宅金融公庫、利用者の平均返済額は月収の18.3%、土地も購入の場合は月収の3分の1と発表。	
(この月)	<p>●「タウン誌」ブーム。首都圏を中心に半年で10数誌創刊、全国では300誌以上に。</p> <p>●ペンクラブが大島渚の著書『愛のコリーダ』に関し、刑法175条を批判。</p>	

11月

月日	国内の動き	海外の動き
11. 1	大蔵省、外貨準備高（10月末現在）を史上最高の195億7700万ドルと発表。	米国政府はILOからの脱退を、ILO事務局に正式通告。
”	1ドル=247円の円高記録を更新。	初の全国的経営者団体、オーストラリア産業連合設立。
”	労働省、初代広報室長に川橋幸子起用。	
”	第2回婦人問題会議（テーマ：男女平等と社会慣習）が労働省主催で開催（東京サンケイ会館）。	
11. 3	婦人問題企画推進本部、国内行動計画前期重点目標発表。	国連総会、ハイジャック防止決議を全会一致で採択。
11. 4	第三次全国総合開発計画閣議決定。	国連安保理が対南ア強制武器禁輸決議。
”	毎日新聞株式会社新発足。	
11. 5	京都競馬場のレースで7頭が落馬、騎手1人が死亡。	
”	〈男子厨房に入ろう会〉が東京・銀座で発会式。	
11. 7		世界最大の商業銀行「バンク・オブ・アメリカ」に初の女性重役（バーバラ・M・ホワイト）。
”		モスクワ「赤の広場」でロシア革命60周年記念式典。
11. 8	奈良県立医科大学、昭和33年～43年入学者の3分の1の裏口入学が発覚。	マレーシア・非常事態宣言、イスラム党の閣僚辞任。
11. 9	福田首相、衆院予算委の円高問題集中審議で、成長率6.7%達成は困難と表明（65億ドル大幅黒字）。	
11.11	法務省が、ネズミ講「天下一家の会」の法人登記を抹消していたことが明らかに。	
11.13		ソマリア・対ソ友好条約を破棄、米に接近。
11.15	東京国立近代美術館工芸館開館。	
”	「婦選会館15周年の集い」（東京・婦選会館。参加160人）。	

”	厚生省、中央児童福祉審議会が、「保育料引き上げ」など具申。	
12.21	防衛 2 法（防衛庁設置法・自衛隊法）改正案成立。（自衛官1807人の定数増などを決定）。	韓国・輸出目標額100億ドル達成。
”	東京都都内私立幼稚園の53年度入園児の年間経費は平均21万円と発表。	
”	第46回全日本フィギュアスケート選手権大会で渡部絵美が史上初の6連勝。	
12.22	都労働局「東京都における内職的家内労働の実態」発表（都内293万人、常時内職者推定21万人。時給100～249円）。	
12.25		イスラエル・ベギン首相、エジプト訪問。
”		チャップリン没(1889.4-16～)。
12.26	特定不況業種離職者臨時措置法・船員雇用促進特別措置法公布。	
12.28	国防会議、次期主力戦闘機に F 15, 対潜哨戒機に P 3 C 採用を決定。	
”	警視庁、交通事故による年間死者が19年ぶりに9,000人台を下回ると発表。	
12.31		カンボジア、ベトナムと断交。
(この月)	<ul style="list-style-type: none"> ●「昭和52年版厚生白書」発表。「高齢者社会」は、「おばあさん社会」など指摘。 ●日航女子社員、日弁連「女性の権利に関する特別委員会」へ性差別の告発と調査の申立。 ●大阪医労協看護婦調査で、夜勤20回が多く、58.2%が有症との結果。 ●「カラオケでミュージシャンは失業」と東京フィルが労組を結成。「日本音楽労働組合協議会」も発足。 ●都市部で、肥満・凶暴化したドブネズミ（体長33センチ、体重6キロ）が乳児を殺傷の事件相次ぐ。 ●キャバレー、銀座・新橋から、蒲田・渋谷・吉祥寺などに転進。 	<ul style="list-style-type: none"> ●米・ロサンゼルスシティ・オブ・ホープ病院とロサンゼルス大学サンフランシスコ校の共同研究、初めて人工遺伝子でホルモンを合成。 ●米大統領、中性子爆弾生産に踏み切る暫定的決定。

12月

月日	国内の動き	海外の動き
12. 2		アラブ諸国、トリポリ会議対エジプト断交。
12. 3	動労成田空港燃料輸送に反対、減速闘争。	
12. 4		マレーシア航空のボーイング737が乗っ取られ、墜落。日本人1人を含む乗客乗員100人全員死亡。
12. 5	中小企業倒産防止共済法公布。	
”	大学進学率11年ぶりに減少、今春の大学、短大進学率は37.7%。昨年より0.9%減。	
12. 8	国際婦人年連絡会、労働省等に 前期重点目標の実施申し入れ。	
”	私立医大学協、来春の学生納付金を初年度平均700万円、6年間平均1850万円に。	
12. 9	年金制度基本構想懇談会が中間意見を発表。婦人の年金適用・給付のあり方、遺族年金の水準、離婚した妻の保障、支給開始年齢及び費用負担の男女差の見直し等を指摘。	
”	波止浜造船倒産。	
”	ソウル地下鉄疑惑発覚（三菱、丸紅、三井、日商岩井）。	
12.10		国際アムネスティにノーベル平和賞。
12.12	日米経済交渉開始（米は日本の経常収支赤字化要求）。	
12.13	社会党大会、飛鳥田一雄委員長・多賀谷真稔書記長を選出。	マレーシア・国民戦線、イスラム党の除名を決定。
”	最高裁、「ベトナム反戦プレート訴訟」上告審で、プレート着用は懲戒理由に該当すると、1, 2 審判決を破棄。	
12.14	円、欧州市場で1ドル=237円台に急騰。	
12.15	最高裁、古河鋳業の波辺まつ代に、「既婚女性の整理解雇は合法」と上告棄却。	北朝鮮・人民経済発展第2次7か年計画を採択。
12.20	最高裁、「神戸税関事件」「四国財務局事件」上告審で、免職処分正当の逆転判決。	

法・制度・裁判

法

法制審「少年法」審議入り

法制審議会は、総会を開き、

検察官関与の強化をめぐって厳

しい論議を呼んでいる少年法改

正に関する審議に入った。同部

会審議をボイコットしていた日

弁連の委員も出席。

中間報告に盛り込まれた改正点は

①少年法の権利保障の強化と一

定限度内の検察官関与の二つの

面から少年審判の手続きを改め

る ②一八歳以上の年長少年の

事件は、検察官の関与を強める

など、ある程度の特別扱いをす

る — など。

日弁連は改正反対を貫くこと

にしており、審議状況をみなが

ら修正案を提出することになり

そう。(2・3朝日)

労働衛生法改正案は適当

中央労働基準審議会は労働安

全衛生法改正案の内容を「適当」

と答申。改正案は、六価クロム

や塩化ビニールなど有害性物質

による職業病対策を強化しよう

というもの。(2・5朝日)

*

有害化学物質に関する調査体

制整備などを盛り込んだ労働安

全衛生法及びじん肺法改正案が、

九日、政府原案を一部修正し成

立。(6・10朝日)

「男性優位」の国籍法

子どもの国籍や帰化の条件が

すべて夫によって決まる「国籍

法」。また、日本人と結婚した

外国人の帰化、日本国籍をとる

条件にも男女不平等。

衆院予算委員会第一分科会で

憲法学者の土井たか子議員(社

会)が追及。福田法相は「男女

平等を実現させる方向で検討す

る」と答えたが。(3・13朝日)

社会党「男女平等法」提出

米・英・カナダなどすでに

実施されている「男女平等法」

を社会党が初めて今国会に提出

する。しかし婦人議員は三%、

成立はむずかしそう。当の社会

党も「男性上位」。そんなもの

つくらなくてもという「抵抗」

もあったという。立案者の田中

寿美子さんについても、「副委

員長」説が大会のたびに出るが
いつもお流れ。(4・27朝日)

国際結婚の法改正

外国人の夫との間に生まれた
子は日本国籍がなく、妻も夫の
戸籍に入れないなど、国際結婚
について日本の制度は不合理だ
らけ。外国人、日本人双方から
改正意見が出ている。

(5・23朝日)

健康保険法改正案、

臨時国会で成立

健康保険法改正案の修正をめぐり、共産党を除く与野党政調・
政審会長会談が開かれ、健保制
度の抜本改正を三年以内に行う
ほか、ボーナスから徴収する保
険料の料率を政府案の二%から
一%に引き下げる——などの修
正を加えることで合意、臨時国
会で成立、来年一月一日から実

施される。

健保改正案は患者に高い負担
を負わせるとして新自由クラブ
を除く各野党が反対し、前国会
では参院で廃案となった。

(12・7朝日)

離職者法 失業給付期間を延長

構造不況業種を中心とした離
職者の生活の安定と再就職の援
助を目的とする「特定不況業種
離職者臨時措置法案」が参院本
会議で可決、成立。政府は、法
の適用対象となる業種を政令で
決めたいえ、来年一月施行する
が、十二月一日以降の離職者に
もさかのぼって適用する。今の
ところ繊維、造船などの指定が
確実。

「特定不況業種」からの離職者
に対しては、有効期間三年間の
「求職手帳」が発行され、失業
給付期間に六〇日間の個別延長
が認められ、さらに四〇歳以上

は三〇日を加算した合計九〇日
間の延長が可能になる。

(12・9朝日)

制度

年金の男女格差是正

年金の官民・新旧・男女格差を
廃止しようと社会党が年金五か
年計画構想を発表。共済受給は
六〇歳から。妻の年金権を確立。
代わりに厚生年金の女子優遇を
廃止するなど。(6・6朝日)

妻と年金

夫が「厚生年金」加入者なら
妻は遺族年金が出るが、「国民
年金」なら出ない。厚生年金は
世帯を一位としてとらえている
のに、国民年金は個人を対象
にしているからである。母子年

金も同様。夫が国民年金加入者
なら、妻も国民年金に入ってい
ないと年金を受けられない。

(11・21読売)

「寡婦加算」引き上げを

社会保険審議会の厚生年金保
険部会は四日「厚生年金保険の
緊急改善に関する意見」をまと
め、在職老齢年金の所得制限緩
和等を上申するとともに「意見」
として遺族年金の引き上げの必
要性を指摘したが、実現にはか
なり時間がかかるとの判断から、
当面「寡婦加算額」の大幅な引き
上げを求めた。(12・5読売)

遺族年金の配分一律は問題

厚生年金の遺族年金を受給で
きる順位は配偶者が一位。ただ
し夫は六〇歳以上でなければ受
けられないが妻は年齢制限がな
く子の有無も関係なく一律に受

けられる。しかし十分に働ける

「子なし若妻」には給付制限す
べきだとの意見もある。諸外国
では年齢や子の有無で率が違っ
ているが、「子なし」といって
も就労の機会が多いとはいえな
い日本、むずかしいところだ。

(12・20読売)

母子家庭に介護人制度

福岡県は、乳幼児をかかえた
母子家庭に母親が病気で倒れた
とき、電話一本で介護人を派遣
無料で身の回りを世話する「母
子家庭介護人派遣制度」を六月
からスタートさせる。

(4・20西日本)

武蔵野市は育児休暇一年に

武蔵野市職組は給与八割支給
を目指し交渉を続けていたが、
一割支給で合意、六月の市議会
に提案される。

(6・7朝日)

母子家庭に愛の手を

中野区は、母子家庭の母親が
病氣などで寝込んだ場合に家政
婦を派遣する「母子家庭家事援
助者派遣制度」を発足させるこ
とになった。二三区では初めて。

(8・27読売)

裁判

胎児性油症児に焦点

油症新認定患者一五五人を原
告とするカネミ第二陣民事裁判
が福岡地裁で開かれた。要求損
害賠償額は二五億八〇〇〇万円。

原告中最年少者はまだ二歳八か
月。母親がカネミ油の摂取をや
めて六年後に産んだ「黒い赤ちゃ
ん」だった。「今は正常な発育
をしている」という国側。内臓
障害がひどく、よそ目にはわか

りにくいがとて「治った」と

は言えない。原告側は「被害者
本人の訴えを真摯に受けとめて
被害の実態の把握を」と要望。

(2・10各紙)

百里基地裁判敗訴

一八年七か月、一〇四回の口
頭弁論を重ねてきた百里裁判の
判決はわずか三分間。反対派の
リーダーとして陣頭指揮をして
きた元町長の山西きよさん(六
八)「(基地誘致派にリコールさ
れた)は、判決はいかにあろう
と真相を知る人こそがくだしう
る断」と心境を歌にして、命あ
る限り闘い続けると唇をかんだ。

(2・17各紙)

医療保険事務管理協会を訴え

「有利な内職」と講習会を開
いていた協会を東京の主婦が都
消費者センターに訴えたが、あつ

せんがまとまらず損害賠償訴訟
に持ち込む。従来なら二、三万

円の少額被害は泣き寝入りに終
わっていたが都の「消費者救済
条令」により訴訟費用も貸付け
られ、画期的な結果となった。

(3・3読売)

騒音殺人に懲役13年の判決

騒がしい隣から逆に「うるさ
い」といわれ腹を立て、そのこ
幼女を殺した主婦(四〇)に。

(3・9毎日)

解雇女性勝訴

お茶くみをしなかったことな
どを理由に解雇されたのは不当
だと、雇用関係存続の確認を求
めていた加藤製作所(東京・大
田区)社員の石川みのりさんが、
東京地裁で勝訴。

(4・1信毎)

子育て争い

子どもの養育をめぐる裁判で勝訴した母、父親の手もとにある子どもを取り戻そうと強制執行を申し立てたが、大阪地裁は棄却。(4・14朝日)

子争いに勝利したが：

妻(三四)が実家に連れ帰った子を夫(三一)が取り戻した『子争い裁判』で、二九日、大阪高裁は母親の訴えを認めた。が、子は「パパ」之父のひざに駆け寄り、判決後、父は、「殺しても取り返す」と書記官にかみついた。(6・30毎日)

妻の「感謝料」

離婚の判決では、一〇〇万円。差し押さえ家財の評価額は十万円足らず。妻は「裁判って、こんなことでいいのでしょうか」と語る。(4・15朝日)

離婚裁判なんかならぬか

結婚する前から関係のあった女性のところを外泊を繰り返して妻をかえりみない夫との離婚裁判八年。妻の感謝料は十万円弱。『長い裁判、実効性の少ない強制執行、生活費や養育費は訴訟で同時に解決できないわずらわしさ。多くの問題が「納得のいく離婚」を求める妻にとって手かせ足かせになっている」と下光重二弁護士。(4・15朝日)

定年差別を訴える

男子五八歳、女子五三歳の定年差別は憲法違反だと、秋田県厚生連病院で、五三歳で正規職員から嘱託雇用された女性(六七)が、農業協同組合連合会を相手どり、雇用関係存続の確認と、賃金の差額の支払いを求めた。訴訟を秋田地裁民事部に起こした。(4・27信毎)

ウソの永久脱毛機？

「毛をつまむだけで永久脱毛」のキャッチフレーズで「無痛永久脱毛機」を購入した大阪の会社員A子さん(二三)、「抜いた毛が再びすぐ生える欠陥商品だ」と、販売会社を相手取り、売買代金の返還と感謝料十万円など計七五万円の損害賠償の請求を大阪地裁に訴えた。(5・22信毎)

ジーパンで解雇とは」と告訴

岐阜市内のOL(二三)がジーパンをはいて仕事をした、昼休みにタバコを吸ったと解雇され、岐阜地裁に地位保全の仮処分申請を。(6・14朝日)

クロロキン被害者の会告訴

クロロキン被害者の会(慢性腎炎などの治療薬として使われ

てきたクロロキン製剤などの副作用により視力障害を受けたとする人たちの会)は、「因果関係は明白である」とし、小野田薬品ら製薬会社六社と厚生省の歴代薬務局長を告訴。また被害者の家族ら三五四一人も同じ趣旨の告発状をだした。薬害をめぐるこれだけ多くの被害者が告訴・告発したのは初めて。(6・29毎日)

化粧品訴訟

化粧品で顔が黒くなった、顔中にシミができた、と大阪など二府四県の主婦十二人が、化粧品メーカー五社を相手に総額一億二五〇〇余万円の損害賠償を求める訴訟を起こした。原告の一人A子さんは、「黒皮膚」と診断され、いま通っている病院は五つ目。どの医師も「いつ治るか言明できない」としか言ってくれない。(7・23朝日)

夫と同じ権利を

「夫と同じ仕事をしているのに妻を組合員にしないのは差別だ」と、三年前北九州市の柄杓田漁協の組合員の妻二人が組合員の地位確認を求めている民事訴訟で、福岡地裁小倉支部は訴えを全面的に認める判決。

(7・28西日本)

女性の魚協加入認められたが

「女も魚協加入を認めるべきだ」

——三年がかりで争われて来た九州・門司の人権闘争は、七月に女性勝利の形で決着がついたが、新門司開発工事の埋め立てに支払われた補償金を断念したことに対する周囲の不満がくすぶり始めた。闘いのあとのむなしさをかみしめる中心人物の松野さんは「道を開いたという自分の誇りだけが残ったのかなあ、そう思わんとつろうて」とぼつり。

(12・25朝日)

「女の顔」勝訴——大阪地裁

酔客に、高過ぎる、とコップを投げられ顔にアザを残したスナックのママが治療費・慰謝料一四〇万円を請求。判決は全額支持。

(8・10毎日)

「愛のコリーダ」起訴

大島渚監督の映画「愛のコリーダ」のスチール写真、脚本などをまとめた単行本「愛のコリーダ」を捜査していた東京地検は、著者の大島監督と出版元、三三書房の竹村一社長を、わいせつ文書図画販売、同目的所持罪で起訴した。

(8・16朝日)

実子あっせんの菊田医師を告発

子殺しをなくすため、として未婚の母らの新生児を、子どものいない夫婦の実子として戸籍に記載させる「実子特例法」の

制定を唱えている宮城県石巻市の産婦人科医・菊田昇医師に対して、愛知県産婦人科医会は医師法違反、公正証書原本不実記載、同行使の疑いで仙台地検に告発状を送った。

菊田医師は、年間約十人の「赤ちゃんのあっせん」をし、四八年春までの十年間で百人以上の「実子」をつくった、という。

(8・30朝日)

開かれるか、再審への道

昭和二十八年、徳島市で起きた「ラジオ商殺し」の富士茂子さん(六七)が、近く徳島地裁に五度目の再審請求を出す。富士さんは被害者の妻だが犯人とされ、懲役十三年の判決が確定、服役後出所。以来一貫して無実を訴え続けているが、事件当時に証言した住み込み店員二人が再審への協力を約束しており、弁護側は「茂子さんのぬれ衣を

晴らす」と意気込んでいる。

(9・3朝日)

弱い夫の訴え増える

札幌家裁では最近、浮気、暴力、大酒飲み、家庭を顧みないなどの理由で、夫が妻を訴えるケースが、夫婦問題の約四分の一までふえた。訴える夫は三〇歳代、妻は二〇歳代後半が多い。

(9・22朝日北海道)

「就職もできない」と訴え

「アルバイト皿洗いの際、ABS入りの洗剤を使い続けたため指がはれて曲がらなくなった」と、静岡市の元調理士の女性(二三)が、洗剤メーカー・新高化学工業を相手どり、損害賠償を求める訴えを静岡地裁に起こした。ABS(アルキル・ベンゼン・スルホン酸ナトリウム)は学会で問題になっている。

(9・23朝日)

踊家(五二)が勝訴、東京地裁は整形医師に支払命令。

高裁の勧告で予防接種死、和解

(9・27毎日)

肺炎の時に、インフルエンザ

の予防接種を受け死亡し、東京

都を訴えていた幼児の両親に二

三〇万円が支払われる和解が、

二六日、東京高裁で成立。都衛

生局は「あくまでも見舞い金。

損害賠償ではない」と主張。

(9・27朝日)

“男の顔”三二〇万円

シワの整形に失敗した男性舞

地裁は執行猶予四年の判決を出した。

(11・5道新)

安楽死に新見解

既婚女性の解雇やむなし

子殺し母に温情判決

子供のケガで夫に殴られ、一

歳半の長男を浴そうに沈めて殺

人罪に問われていた札幌の主婦

Y(二九)に対し「犯行は薄情

で悪質だが、恵まれぬ生いたち

と仕事一筋の夫との単調な家庭

生活での不満を考慮し、再出発

の機会を与えるべき」と、札幌

地裁は執行猶予四年の判決を出

した。

(11・5道新)

末期がんの激痛に苦しむ妻か

ら「早く死なせて。楽にしてほ

しい」と頼まれ、思い余って妻

を殺したのが安楽死に当てはま

るかどうかで争われていた囑託

殺人事件の判決公判が大阪地裁

で開かれた。

萩原昌三郎裁判官は被告に深

い同情を示しながらも、懲役一

年、執行猶予二年(求刑懲役二

年)の判決。

(12・1朝日)

外国で販売ならボルノOK

最高裁は二二日、外国での販

売が目的ならワイセツ図画所持

罪は成立しないと判決、地裁の

有罪を却下。

(12・22毎日)

五度目の 再審請求へ

才商殺しの富士茂子さん

偽証

裏付ける新証言

当時の「迷惑かけた」と協力

二店員「迷惑かけた」と協力

安楽死に新見解

試験「原則として医師の手

続

二店員「迷惑かけた」と協力

二店員「迷惑かけた」と協力

幼児の予防接種死
都、両親に330万円払う

高裁の勧告

見舞金の形で

「既婚を理由に解雇するのは憲
法違反」と古河鋳業を相手どり
解雇無効、賃金請求訴訟を起こ
していた元社員、渡辺まつ代さ
ん(四二)に最高裁は「合理化
のための人員削減はやむを得な
かった」。(12・15日経)

政治・行政

選挙

福島に女性町長が誕生

東白川郡棚倉町で、前町長未亡人藤田満寿恵さん（五四）が初当選。女性町長は同県では初めて。全国でも岐阜県本巣郡穂積町町長について二人目。

（1・15毎日）

「定数は正」の資料集

〈神奈川県三区有権者の会〉が資料集第一巻を発刊した。国会

は「一票の価値を平等に」と衆院の定数は正運動を進めているが、資料集には運動の経過、マスコミの記事、定数は正に関する記録などが収録されている。

（1・20朝日）

女性の九割が「自主投票」

十二月の総選挙を「民主政治をたてなおす市民センター」と「婦選会館」が都内の婦人にアンケートした結果、九〇・八％が、夫や有力者の意見に左右されない、自分の意志による自主投票。

（2・20読売）

減ってきた婦人都議

都議会の婦人議員は四十年の刷新選挙で十一人、定数の九・二％にまでなったが、四十八年には五人に減って現在に至っている。

その要因の一つは、婦人の立候補自体が少なくなったこと。

もう一つ注目されるのは当選率。従来、婦人の当選率が高かったが、前回の四十八年で逆になり、男性の当選率五六・六％に対して婦人は四五・五％と差がついた。

（6・23朝日）

〔参院選〕

吉武輝子さんを参院選へ

〈新しい連動を求める人びとの会〉（代表、小沢遼子）が旗揚げ。参院選全国区に、吉武輝子さんを立てることに決めた。

（4・11毎日）

各政党に男女平等を聞く

〈国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会〉では参院選をひかえて各政党がどのように男女平等をおし進めている

るかにについて聞く会を開いた。

自民党を除いた各政党と女性

党、〈新しい連動を求める人びとの会〉に具体的な質問状を。

だが社会党の田中寿美子さん

(今国会に男女平等雇用法案を提出する)を除いては各党抽象論に終始。

(4・18朝日)

女と政治を考えるつどい

女性の自由な立場で自由な討論の会を、と訴えて京都の女性

グループが六月五日集会。大盛況。

(6・10京都)

政党代表者に聞く会

婦人有権者同盟が、理想選挙

推進市民の会と共催で「参院選の意義を問う——政党、政治グループ代表に聞く会」を九日開

催。女性党以外の八代表が公開質問に答えた。

(6・10朝日)

政治変革へ動く女性たち

十日、〈政治を変えたい女たちの会〉の総決起大会が全電通会館で。〈行動の会〉〈あごら〉

〈女・エロス〉など女性解放グループの呼びかけで、田中寿美

子・依萌子・吉武輝子の三候補を推せん、弁士たちが熱弁をふるった。

(6・11毎日)

十日の「新・女の時局大演説

会」は六〇〇人を超す参加者があふれた。政治に鋭い批判を持

ち、議会制度にそっぽをむいていたと思われるリブたちが、三人もの推せん者を立てたのは

「組合活動でも女が一人加わることによって変わるから」「女

だけが集まって話し合える根拠地としての空間や機関誌など心

を通わせられる媒体ができ、すそ野が広がり、運動の結果として政治をつかみたいと考えるようになったから」と言う。

五〇〇人を超す聴集が駆けつけた。流れは変わるか…。

(7・9朝日)

高投票率「問われる中身」

(6・17信毎／6・23毎日)

*

全国有数の高投票率の信州女性には、有権者数も、したがって投票数も、男性を上回る。市部

より郡部が高い。隣近所の目も

あって女性は選挙を話題にしないが少しは自覚のめばえも。物

価・教育を共通公約に各候補は女性票獲得戦を続けている。

(7・4信毎)

婦人候補はこう考える

立候補した動機は？

吉武輝子「生活と政治のバイブ役になろうと。」

扇 千景「女性の声のメッセンジャーに。」

松井つね子「政治革新の必要を痛感して。」

田中すみ子「支持母体、党からの要請で。」

石本しげる「看護婦の地位向上をしかかった。」

柏原ヤス「福祉社会の建設

(7・7東京)

女性の選挙

今回の参院選では、女性の候補者数三六人と、これまでの最高。「男女一人ずつ選んだ学級選挙に戻ってみることも考えていい」と樋口恵子さん。

(7・9朝日)

青空選挙相談所開設

「きれいな選挙推進共同委員会」の市川房枝さんらは、参院選の前に「迷う一票」の街頭相談。政治教育の必要あり、と紀平倅子さん。

(7・9毎日)

女性の当選率は二二%

女たちの参院選挙

参院選では三六人という史上最多の女性候補が国会議員のいすを目指して戦ったが、八人が当選しただけ。(7・12東京)

女性票逃した女性候補

七〇年代の婦人運動は政治と断絶したところで行なわれてきたが、今回は政治を通して要求を通そうという方向が見えた。が、八人しか当選しなかったのは、既成政党の厚い壁に対し、準備不足、組織が未成熟だったからだろう。

候補者自身も日常的不満は訴えても政策の具体案は示さず、主體的な弱さが目立った。密林を自力で切り開くには身ごしらえと道具が必要。それをどうととのえるかが今後の大きな課題だ。(水田珠枝)(7・16朝日)

立候補者数は史上最高。当選率は二二%、平均四三%を下回る史上二番目の低さ。しかも当選者は全員既成政党。「組織・金・事前選挙」：女が食い込む基盤がなかった。主婦を甘く見、反戦平和を正面から訴えた人がいなかった」

(石垣綾子)(7・17信毎)

「女は役割を人に押しつける。投票したらあとは議員まかせ。そんな中で自分でやろうという人たちが出てきたのは新しいことと思う」

(小中陽太郎)(7・17信毎)

ベツ議員が

赤いじゅうたんを登るとき

参議院初当選の扇千景センセ、サッソウと初登院。登院後は、

自民党本部へ。福田総理らに囲まれて自民党の「花のベツ」ぶりを早くもいかになく発揮。

(7・28東京)

一度やってごらんよ

選挙は面白かった。実際の選挙戦で女の役目はお茶くみ、炊事係、マスコットガール。この実情に触れると、なるほどここから生まれる政治は汚くなる、男権主義になるわけだと実感できて面白い。これに對置する「民衆のための民衆の選挙」を模索していくのはなお面白い。

しかし、みんなが面白がって選挙に一步踏みだしたらプロは面白くないだろう。私たちが汚さに顔をそむけているところでプロは好き勝手をして来たのだ。

(中山千夏)(7・29読売)

五年先を目指して組織化を

「政治を変えたい女たちの会」が応援した三候補中、当選は田中寿美子さんだけだったが、やっぱりだめだなんて全然思わない。三人で一二〇万票集めたのだ。次を目指して前進したい。

(河野貴代美)(7・29読売)

〔日本女性党〕

日本女性党はマイナス効果

〈中び連〉を軸に日本女性党結党というが、すでに一年前に、世界中の女が集まって「世界行動計画案」ができていた。それを受けて日本政府も「国内行動計画」を作った。国内の婦人戦線が一大結集して男女平等等を達成するためがんばっているとき、女性党などという場当たりのものが生まれることは、真剣な婦人運動に対するマイナス。

(4・29信毎)

出ました候補十人

六月十一日ミリタリールックのユニホームで記者会見。「女の利益を第一に考え、保革どちらにもつかない」と結党宣言。候補者は希望者を募集して予備選挙するユニークな方法で十人を揃えた。(6・12毎日)

女性党確認団体に

一八日、二人の候補者が届け出、合計十人となり、「政治団体確認書」を交付された。(6・18朝日)

榎代表、演説中にけられる

一九日、ハチ公前で二六〇人を前に演説中の女性党党首、榎美沙子さんが男(三三)にけられ、軽いけが。街頭演説会は中止。(6・20朝日)

ののしり合い解散

赤坂のホテルで解散宣言。百人を超す報道陣に落選二候補が榎さんを告発して荒れた。(7・13朝日)

怨念にズレが

三〇〇〇年続いた男社会を根底からくつがえすと、ピンクヘルに金モールで戦っていた党首の怨念は知識だけ。一方おばはん候補のは骨の髄まで。そのギャップが出たのでは。(南部ひろ)(7・14毎日)

女性党を高く評価

あのやり方は下手だったが本質は良かった。公務員の一定率を女性にするのは米国では実現していることだし、候補者を公募したのもよい。女の利益を代表する女団体があっていい。解

散は残念。次回は準備を十分に、地道な「実績の人」を出そう。

(袖井孝子)(7・29読売)

行政

〔行動計画〕

“過保護” 洗い直す行動計画

一日の閣議で「国内行動計画」が了承された。①各種審議会委員への婦人の登用②若年定年制、結婚・妊娠・出産退職制の是正、母性給付の引き上げ③生理休暇の再検討、圧縮などを基調に、④法制上の婦人の地位の向上⑤あらゆる分野への婦人の参加促進⑥母性の尊重と健康の擁護⑦老後における生活安定の確保⑧国際協力推進をうたったもの。(2・1各紙)

婦人各団体、行動計画に反発

「計画全体の基調が婦人の権利の側でなく経済開発のための能力活用にある」「世界行動計画で決められた雇用平等のための政府機関の設置もない」「これほどひどいとは思わなかった」と、各団体はカンカン。(2・1各紙)

婦人団体が抗議行動

「国内行動計画」に憤慨した婦人団体は一日午後、続々と抗議声明。各党婦人議員も藤田総務長官を突き上げ「とりあえず中間目標として五年計画をつくる」言質をとった。(2・2各紙)

男女平等を認めぬ福田さん

施政演説の中で福田さんは婦人対策を長々と語ったが、中身は婦人の能力を利用しようとする

るだけ。特に婦人の労働権を無視した責任は大きい。

(市川房枝)(2・3朝日)

不平等撤廃へ法的な措置を

女性の労働権は生存権の一つだという「労働権の確認」が絶対必要だった。

(高島順子)(2・4朝日)

どうする「共修」否定の動き

性別役割にとられない教育こそ最も重要なのに無視されている。(駒野陽子)(2・5朝日)

労働と育児の矛盾まず解決を

社会保障上の女性の権利を女性責任論にすりかえている。

(清水澄子)(2・7朝日)

総花的な婦人問題施策

多様な婦人問題を盛り込もうとすると総花的になるだろう。ポイントを婦人労働権の保障と男女の役割分担に置くべきだった。(2・7朝日社説)

行動計画・一部来年度から実施

民主主義下では政府はきわめて間接的にしか影響できないが、要望はほとんど盛り込んだ。計画は政府の実行と約束の文書。これから見てほしい。

(久保田参事官)(2・9朝日)

後ろ向きの「婦人行動計画」

「世界行動計画」は女性の労働権の確立と性的分業の変革が二本柱なのにスッポリ抜け落ち、「女よ家庭に帰れ」を推奨している。

(吉武輝子)(2・9毎日)

問われる婦人問題への姿勢

先ごろ総理府から発表された「婦人の十年・国内行動計画」に民間婦人団体は抗議しているが、都の予算でも要求額の八・四の二三〇万円だけ。実施は五十四年度以降というスローペース。(2・13毎日)

「行動計画に不満を表わす会」

国内行動計画の是正を迫る民間三八団体が、五日主婦会館で不満の内容を表明、今後の対策を練った。(3・6朝日)

国内行動計画に抗議

二日、労働省中庭で婦人労組員約五千人が婦人中央集会。

「男女の不平等、差別を解決しない政府の国内行動計画は許せない。婦人の働く権利を保障せよ」と抗議。(4・2朝日)

二つの施策動きだす

婦人の地位向上をはかるため、今後十年の政府の施策を示した「国内行動計画」が発表になって四か月。二つの具体的施策が動き出した。

ひとつは政府の審議会委員のうち女性委員の割合を現在の二・八%から一〇%に増やすなどの「婦人の政策決定参加を促進する特別活動」。もう一つは、労働省が強力な行政指導を行なう女性の定年差別解消のための「若年定年制、結婚退職制度改善年次計画」。(6・21朝日)

都婦人問題会議が初会合

「東京都行動計画」を策定する「都婦人問題会議」が二〇日、都庁内で初会合。委員は、学識経験者・婦人活動家など二八人(女性一九、男性九)、会長は鍛冶千鶴子さん。(6・21毎日)

動き出した男女平等化政策

政府が二つの政策を発表した。百の說法より率先して実施してほしい。が、思いつきにならぬよう。

また労働省の「改善計画」も、法的拘束力を伴わない行政指導だけで改めるのは容易でない。民間の労働団体、婦人団体なども積極的に協力を。

(6・25毎日社説)

北海道婦人行動計画案を聞く会

上川支庁で一七日、道北の婦人団体代表ら八〇人の出席で開かれ、男女格差や過重労働に悩む婦人が多いことが改めて浮彫りにされた。

辺地での学習機会の問題や、主婦の家事労働評価の矛盾点なども指摘された。

(10・18朝日北海道)

札幌でも行動計画づくり始動

「婦人の十年」のための道内行動計画づくりのために意見を聞く会が一九日札幌で開かれた。男女の役割分担意識が根強く残っていることに対して政治の責任が不明確であり、全体的にもっと具体性がほしいという声が多く出された。

家庭科男女共修や、全国で入所率が最下位の北海道の保育施設拡充を求める声、低賃金・無権利の女性雇用が多い実態を黙認するなといった指摘がなされた。

(10・23道新)

都行動計画の起草委員決定

都婦人問題会議は、答申の起草委員に樋口恵子、松原治郎氏ら八人を選出、一月下旬に中間報告を出す。

(10・25毎日)

国内行動計画前期重点目標決定

国際婦人年に続く「国際婦人の十年」の取り組みのため「国内行動計画」が策定されたが、その前期重点目標が決まった。十一項目のうちで主なものは、

「婦人の政策決定参加の促進」「家業・家庭での妻の働きの評価」「新しい教育機会の創出」「新しい時代に即応する学校教育」「雇用の男女平等」など。

(11・4毎日)

婦人施策、自治体はお粗末

〈行動の会〉では先月、婦人のための施策について各自治体に公開質問状を出したが、「行動計画」をつくっている県はゼロ、「来年」が三都道府県で、「予定なし」が大多数。女・子供意識がまだ抜けないことが明らかになった。

(12・25読売)

〔女性の登用〕

参議院に女性委員長

参院の委員長交替で女性議員から佐々木静子氏(社)が交通安全対策委員長に。(1・31朝日)

婦人の採用を検討

藤田総理府総務長官は政府の各種審議会の委員のうち一割を婦人委員にする方針を検討中と答弁。現在、婦人委員は二・六％程度。(4・2朝日)

女性市議会議長誕生

埼玉県上福岡市、亀井麗子さん(四三)。「政治の主人は私たち一人一人なのだ」と認識する無党派の人たちの手で、新しい政治勢力を作りあげる。これ以外に国民を救う道はない」と無所属を貫く弁。(4・3毎日)

府中市議会に女性議長

府中市議会は五月九日の臨時市議会で石井文さん(五六)を選任。多摩地区の女性議長は立川、保谷市に次ぎ三番目。石井さんは市議六期目。

(5・10朝日/読売)

運輸省審議会委員に二女性

運輸省の審議会に二人の女性委員が登場。一人は運輸技術審議会委員の高島屋東京支店次長石原一子さん(五二)。もう一人は気象審議会地震予知部会の専門委員となる主婦、波多野ミキさん(四三)。(5・18信毎)

審議会に女性を積極登用

第五回婦人問題企画推進本部会議は一日「婦人の政策決定参加を促進する特別活動」の推せん要綱を決定、各種委員に婦

人を登用、公務員の採用促進、国際会議への婦人の派遣を決め、地方公共団体にも同様の配慮を要請する。(6・15朝日)

婦人問題施策の一步前進

国政レベルの各種審議会委員の婦人数は二・八%。今後五年間に一〇%程度に増やすことになった。

一方、労働省は女性に差別制度を採用している企業の実態を調査、結婚・妊娠・出産退職制、五五歳未満の定年制の解消をはかる。具体的施策を期待したい。

(6・18朝日社説)

初の林野庁女性技官

昨年度の国家公務員上級試験で林野庁として初めて女性技官が採用され、五月から長野宮林局で第一歩を踏み出した。

東大農林科卒の佐々木典恵さ

ん(二二)。十年もすれば宮林署長のいすが保証されるエリート。「女性を強調しては現場の仕事はできません」

「覚悟はできています」。

(7・1信毎)

郡山市に初の婦人課長

市民相談室長の花井キイさん(四五)。八月一日付で商工部消費者行政課長になる。市役所入り二八年目。つれあいも市の課長。

(7・25福島民報)

名古屋市の初代婦人室長

中山恵子さん(四五)。早大法学部卒、中学教師を経て市教委入り、七年目に抜てきされた。すし屋の夫と三人の従業員の五人暮らし。子はない。

(8・11中日)

郵政審議会に二女性

郵政省は二六日付で郵政審議会委員に二女性を登用。現在女性代表として山高しげりさんがいるが、新たに「消費者代表」として選ばれたのは、評論家の五代利矢子さんと吉沢久子さん。

(9・27朝日)

札幌の女性裁判所長転任

全国で二人目の女性裁判所長野田愛子判事が、二〇日付で前橋家裁所長に移動。一年十一か月の札幌生活だった。

(10・21朝日北海道)

労働省広報室長に女性

労働省新設の大臣官房総務課広報室長に川橋幸子さん(三九)が起用された。(11・2毎日)

*

「広報室は各局のやっている仕

事をお知らせするいわば通訳です」と、につこりPR。

(11・2日経)

「駆け込み寺」

駆け込み寺・初日は四人

夫の暴力などからのがれて緊急避難できる現代版駆け込み寺「都婦人相談センター」が一五日にオープンした。初日に四人の婦人が駆け込み、電話相談も五三件あった。(4・16読売)

二か月で一八〇人

現代版駆け込み寺、東京都婦人センターへの入所者は一八〇人を超えた。ほとんどの人の全身に打撲のあとがある。申し込み殺到で「つらい繁昌」。

(6・15朝日)

公設・駆け込み寺の半年

今春開所した「東京都婦人相談所」には、半年で一一〇〇件の利用者が。「ここへ来て二、三日落ち着くと、みんなすっかり明るさを取り戻す」と所長さん。医師・心理判定員など専門家を含めスタッフは四七人、平均年齢四七歳、下着、おむつも無料で支給する行き届いた保護だが、保護期間は二週間、いつも定員は満杯、オーバーすることも。

駆け込んだ人の三〇%は婦人保護施設へ、二〇%が帰宅(もう一度やり直してみよう)、一〇%が入院(栄養失調や体じゅうキズの人が多い)で、就職は九%。「保護した三三六人のうち、職があるのは三人だけ、暴力亭主でもするしかない」。中には暴力息子に追い出された老母もいるという。

(11・13読売)

「婦人会館」

世田谷に区立婦人会館

六月一日に、経堂にオープン。託児室つき。午前九時から午後十時まで利用できる。区立は二三区で初めて。(6・1毎日)

都の婦人会館は青山に

二九日、美濃部知事は初めて建設予定地を明らかに。しかし細部の検討はまだ。

(9・30毎日)

国立婦人教育会館オープン

婦人教育の振興をはかって設立された婦人教育会館が埼玉県嵐山町に二〇日オープン。三五〇人収容の宿泊施設、千人以上が使える研修施設、テニス・バレーコートも備え、国立としては世界でも初めて。一四万平方

メートルの敷地に二万八千平方メートルの建物がある。

(10・20各紙)

「その他」

政策立案に女性も

地婦連など八つの婦人団体代表が首相に婦人の地位向上について要望。首相は「皆さんの意見を国政に反映させたい」と答えたにとどまり、具体的には答えず。(1・9各紙)

福祉後退がまん型

五十二年度予算大蔵省案が十三日内示されたが、福祉の中心は、健康保険目「負担の大幅アップなど弱者を直撃する」「低福祉高負担」で福祉政策は大幅に後退。二〇世帯に二人の寮母を、との母子寮関係者の要求は認められず、運営費アップでも

わずか七%だけ。(1・13朝日)

四月十日を婦人の日に

国民生活審か

「社会指標」速報体制

労働省婦人少年局三〇歳に

わく厳しく「ゲチ福祉」

総額二兆五二四二億円。十

三日、五十二年度予算の大蔵原
案内定。景気浮揚、物価抑制、
財政再建のトリレンマ(三重苦)
の中で、チビチビ福祉に、値上
げラッシュ。
(1・13読売)

自民党は「ひな祭り」を「婦
人の日」にする構想について協
議したが婦人対策特別委は①婦
人の日制定は望ましいが②婦人
参政権を初めて行使した四月十
日がふさわしいと提案、さらに
検討することになった。
(3・4朝日)

生活の質を数字で表示する社
会指標が国民生活審議会でまと
まる。離婚を家族の解体と見な
していたり、進学率についても
受験地獄の検討がなかったりで
問題が多い。
(3・25毎日)

初代局長の山川菊栄さんは
「私たちのおもな仕事は、婦人
少年局そのものの宣伝でした」
とふり返る。現局長の森山真弓
さんは、「身近なところから婦
人が男性と平等な立場に」参加
していくことが、いまの課題」。
(9・1読売)

母子家庭に朗報

就業訓練手当を一年間
雇用促進のために全国調査
GNT・KAWAGUCHI

雇用の平等確保を 過保護、洗い直し

生理休暇
も再検討

郵政審議会に
新たに「女性
雇用促進」の
審議を要する
と、労働省は
明らかにした。
女性雇用の
促進は、労働
省の重要な
課題の一つで
、これまで
「女性雇用
促進法」を
制定し、女性
雇用の促進
を図ってきた
が、労働省は
、女性雇用の
促進を図る
ためには、
女性雇用の
促進を図る
ための制度
を洗い直し
、必要に応じて
改正する
必要がある
と、明らかに
した。

「国内行動計画」 婦人の地位向上

国内行動計画は、婦人の地位向上
を図るための重要な計画の一つで、
これまで「国内行動計画」を制定し、
婦人の地位向上を図ってきたが、
労働省は、婦人の地位向上を図る
ためには、国内行動計画を洗い直し、
必要に応じて改正する必要がある
と、明らかにした。

女性の選挙



女性選挙権の行使は、婦人の地位向上
を図るための重要な手段の一つで、
これまで「女性選挙権法」を制定し、
婦人の地位向上を図ってきたが、
労働省は、婦人の地位向上を図る
ためには、女性選挙権法を洗い直し、
必要に応じて改正する必要がある
と、明らかにした。

戦後最多の婦人候補

男性本位の政治に不信

戦後最多の婦人候補は、女性本位の政治に不信
を表明した。戦後最多の婦人候補は、
女性本位の政治に不信を表明した。
戦後最多の婦人候補は、女性本位の
政治に不信を表明した。

労働

〔ILO看護婦条約〕

ILO、看護婦条約を採択

日本は棄権

ILOの本会議は、週休四八時間、週四〇時間労働の「看護婦員の雇用および労働・生活条件に関する条約」を二二日採択した。しかし、票決の際、日本政府代表は「無理な話」と突っぱねて棄権した。労働側代表として出席した拓植ついで子さんは、ILOの線に近づける運動を展開するといふ。

(6・22毎日)

看護婦条約の批准を

ILO総会で、日本政府代表は「看護婦条約」の票決を棄権した。これは看護婦の地位向上に反対であることを示しているが、その一方で、深刻な看護婦不足を生んでいるのだ。もしわが国の看護婦教育が、国際水準以下なら、早急に是正する必要がある。政府は、世界の国々から「看護婦地獄」などの非難を浴びないうちに「看護婦条約」にそって、地位向上と医療全般への積極的な参加体制を確立すべきだ。

(7・2信毎)

〔雇用・就職〕

大学院は出たけれど

東京大学で就職先のない博士浪人が激増している。博士課程を終えながら落ち着く先がみつからず、高校の時間講師や家庭教師として生活費をかせぐ人が多い。大学関係者の話では、かつてはかなりの数の大学教授が東大出身で、大学院を出ると順次、講師や助教授として採用されていた。しかし新設大学などは自校で教授陣を養成し始めるなど、大学院生の現実は厳しい。

大卒女子は売り場店員

苦しい女子就職戦線の中でジャスコなどスーパーが大量採用。今までの採用の結果が成功だったから。だが大卒のレッテルはこの業界ではもう無意味。

(2・4朝日)

女性是不況にも強い?!

一九七四、七五両年の失業状況結果(バリ経済協力開発機構発表・二月三日)によれば、米

(1・3朝日)

(5・4朝日)

女子学生哀歌

の連携などを決議。

英、イタリアなど七か国で、女性の雇用が男性を上回る。ただし日本、フランスは減……。

(2・5読売)

百貨店では女性上位

二回目の職員採用試験。三七倍の難関を突破、二〇歳の女性が初採用された。(9・20毎日)

女子の就労状況

就職浪人が六％に達しそうな不況の春だが西武百貨店では大卒男子七〇人に対し女子七〇人を採用、給与は同じ。将来の幹部に…と積極的。(3・31朝日)

来春卒業見込みの四年制女子大生は八万六千人。うち五万二千人が就職を希望している。女性の職場進出という点では欧米やソ連などと比べ、我が国は後進国。一部では男性と肩を並べて働く婦人もみられるが、サラリーマン社会はまだまだ「男優位」。

(10・27日経)

「内職・パート」

主婦、パートで奮戦

郊外デパートで働く奥さんパートの人氣が高まっている。「地元密着の意味からも効果がある。人生経験も豊富だし、商品を見分ける力もある」とデパート側は評価。(7・7東京)

国鉄、戦後初の女性採用

雇用労働者として働く女子は一二〇三万人、四十九年、五十年の連続マイナス成長が、五十年には三・一％のプラスに。特に建設業(六・一％)、運輸通信業(四・八％)、卸小売業(四・五％)が増加、管理的職業は九・一％も増加したが、単純作業はさらに大きく一・六％増。既婚者は六四・一％、男に對する賃金は五六・一。企業の二割が男女別定年制で、四〇歳未満五・六％、四〇―五五歳六三％、五五歳以上三一・三％。

国鉄は昭和二十四年の女子労働者大量首切り以来、電話交換手・看護婦・バス車掌以外の一般職への女子採用を中止していたが、四月一日付で二七名の準職員を戦後初めて採用した。全職員四三万人中、女性は二％弱の七〇〇〇人だが、組合側には「いい職場を女性にとられる」という目立たぬ反対がある。

(10・21朝日)

手をにぎる「内職・パート」
「二―三日総評主婦の会主催で開かれた「第十三回内職・パート大会」に約三〇〇〇人が参加。昨年の内職工賃の平均は時給二六四円で前年より六三円アップ。だが二〇〇円以下が半数を占め、家内労働手帳を受けているのは五％。この打破のため「時給四五五円以上」の要求と、労組と

不況、物価高のなか、パート応募者が激増している。募集があればすぐ満パイで、小さい子供持ち主婦が多く、レジャー派は姿を消し、「少しでも収入になれば」という人がほとんど。(11・16道新)

「安全井」扱いに對抗

二年半前のパート五〇歳定年

制に反対して結成されたベトリカメラのパート組合は十月の会社倒産後も、労組と協力して、自主再建を目指している。全国で約一九〇万人とも言われる女性のパートは主婦が多く、不況時にはまっ先に切り捨てられるが、「パートは安全弁という考えを当然とする社会を変えて行きたい」と。(12・27朝日)

内職の悩み聞きます

物価高と収入の伸び悩みで内職者は増える一方だが、不況で求人は減り工賃は安い。県では「家内労働旬間」中「内職移動相談所」を開設。工賃の安さと女性に技術のないのが悩みのたねという。(5・21徳島)

都内、内職者の実態

東京都労働局が二二日発表した「東京都における内職的家内

労働の実態」によると、都内二九三万人の主婦のうち、常時内職者は推定二万、一時間一〇〇―二四九円の賃金で働いている。動機は大半が「ヒマがあったもったいない」だが、四分の一は「内職しないと苦しい」。(12・23毎日)

主婦内職はレジャー型

都労働局がまとめた内職の実態調査で、「現在している」四・九%「この一年以内にしたことがある」四・一%、推定数二六万四千人が経験。

その理由は「ヒマがあってもつたない」五六・三%、「自由になるお金がほしい」四三・七%、「世帯主の収入が十分でない」二三%。使い道は「自分の小遣い」「生活費」が同率トップで五〇・六%。回答者は一般家庭主婦二二八人、内職補導所登録者三七六人、授産場居宅

内職者七八人の計一六七二人。「内職主婦」の全都的調査はこれが初めて。(12・23読売)

〔差別・不平等〕

入社試験の指定校制度

企業に廃止働きかけ

海部文相は二四日、学歴偏重社会を打破する手だてとして、

入社試験の指定校制度を廃止するよう企業に働きかけていく意向を明らかにした。(1・25朝日)

ILO四条約批准を

総評は、「婦人の十年国内行動計画」について「男女の役割固定打破と男女平等実現のための条件づくり」を無視した具体策抜きの作文だ」と批判する態度を明らかにした。それとともに、①男女平等、母性保障に

かわる四つのILO条約を批准し、関係国内法を整備する、②男女平等の労働権を確立するため労働基準法を改正する、の二点を要求する運動を春闘の重点課題として進めるよう、全国の加盟単産、都道府県評あてに通知した。(2・4朝日)

「女性の応募はダメ」に怒る

政府資金によるアジア経済研究所の大卒職員募集を「日本男子」としたのを労組が抗議したが、研究所側は「国籍」だけを削って求人広告したため婦人部は百人近い署名を集めて撤回を迫り、国会にも働きかける。(2・14朝日)

「男女募集」に是正

監督官庁の通産省が是正を指導。同研究所は「男女募集」の広告を出すという異例の措置に踏み切った。(2・16朝日)

男女差別定年制は「差別」

参院予算委員会で田中寿美子議員（社）が「国内行動計画から男女差別定年制は正が抜けているのはなぜか」とただし、さらに「男子五五歳、女子五〇歳の定年は差別。企業の三三・四％はこのような差別定年制をとっている」と迫った。石田労相は「明らかに差別であり、労働基準法の趣旨に反する」と答弁した。

（4・6朝日）

田植賃、男女同額に是正

人吉市農業委員会が決めた田植えの日雇い賃金は昨年より男は二〇〇円増、女は四〇〇円増で、共に二、二〇〇円に是正された。

「田植えの場合、女性のほうがむしろ働く」と。

（5・17熊本日日）

女性差別は正六億二千万円

「差別賃金は労基法四条違反」と、立石電機を従業員組織が京都下労基署に訴えていたが、同署はこれを認めて会社側に勧告、会社は本年一月、女子従業員や退職者二六〇〇人に総額六億二千万円を支払った。

（5・21朝日）

女性差別を五年間で追放

労働省は企業内の女性差別を今年から五か年計画で解消する方針を決めた。

計画によると今年は差別企業の実態を調査。それに基づいて五十三、四年度で四〇歳未満定年制や結婚・妊娠・出産退職制の解消をはかる。

企業側の協力が得られない場合は強力な手段もとる方針。

（6・14朝日）

女性の差別なくなるか？

労働省はこのほど「若年定年制、結婚退職制等改善年次計画」を策定した。

実際は、従業員三〇人以上の企業で定年制を採用しているのは七四・一％。男女別定年制のある企業は二三・五％。結婚・妊娠・出産など女子だけに適用される差別退職制のある企業七・九％。

だが問題が法廷に持ち出されない限り差別はなかなか改められない。「女を安上りの労働力としている国内行動計画では小手先の施策をいくら積み重ねてもダメ」と総評婦人部。

（6・22毎日）

女の職場への男性進出反対

長崎県諫早市で学校の給食室にバーナーなどの機械設備が入った。これらの操作のため、こと

し三月初めて男性一人採用を内定。ところがこれを知った市内一四小学校の女性調理員が、

「女性から仕事を奪う」と組合を通じて市当局に採用中止を申し入れた。男性は市水道局で臨時勤めをしながら正式採用を待つ毎日。市当局は思案中。

（9・11西日本）

婦人労働改善に息長い運動

婦人雇用者数はこれまでの最高に達したが、能力を発揮する機会も、それに対する処遇も不十分である。今日から始まった婦人労働週間は「職場における男女平等」を目標に、若年定年制、結婚退職制、同一賃金等の将来の問題のほか、婦人の就業分野の拡大をテーマに加えた。

働く婦人が増えたといっても多くは臨時やパート。その背景には固定的な役割分担意識があるが、性急な運動では逆効果

生む危険がある。息長い運動を繰り返すはかない。同時に婦人自身の意識変革が必要。また時間外労働制限も問題。労相の諮問機関「就業における男女平等問題研究会」が保護法制を見直すよう提言しているが、働く婦人の側から声が出れば運動はより強力となろう。(10・21毎日)

職場で男女は平等か

「婦人職場指導者ゼミナール」が東京・芝で八〇人を集めて開かれ、三人のパネラーが自社の状況を発表。

(婦人洋品卸販売会社) 従業員一三〇〇人、うち一〇〇〇人が女性だが大学卒は八〇人、既婚者一八〇人。大卒三〇人採用募集に八〇〇人が殺到した。

(ホテル) 五七〇人のうち女は二〇〇人、役職八一人中、女一七人、取締役も一人いる。占領軍に接収されていた時期に男

女別なしの指導を受けたことが影響している。

(電算機製造販売会社) 三万五〇〇〇人中、九〇〇〇人。課長代理は三人、女子リーダー一五〇人、プログラマー一〇〇人。新しい仕事なので試みを大事にし、女性管理職も採用したが、プロジェクトチームに一五〇人っていた女は、今や「いらない」と言われている。

パネラーの一人、西独の記者ヒールシャーさんは、「結婚まで就労する〇しは非常に日本的。もっと驚くのは、能力を持たなければ職業人として生きていけない経験をややというほどしてきた母親たちが、自分の子に同じような生き方しできない教育をしていること」と嘆いた。

(10・25朝日)
遅い昇給・乏しい研修

「男性にくらべて女性の賃金や

格付け、業務、福利厚生制度利用など、制度上・運用上の差別がある。調査をしてほしい」と

日本航空の女子社員三五人が、「女性の権利に関する特別委員会」(鍛冶千鶴子委員長)に申し立てを行なった。

申立書は、最近の女子社員の比率の増加、男子と同一または同質の労働を女子が行なっていることなどを挙げている。

(11・13朝日)
初任給は伸びたが

労働省が三日まとめた「五十二年度賃金構造基本統計調査」によると、初任給は男子中卒と女子大卒の伸び率がよく、いずれも八・八%アップ。ただし女子大卒の就職先は小企業がトップで三二・七%、次いで大企業二八・一%、中企業二一・七%の順。男子大卒は大企業三〇%、中企業二五・七%、小企業二〇・

九%。(12・4読売)

「差別なし」はタテマエだけ

「闘い続ける女たち——低成長のきびしさの中で」をテーマに〈国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会〉が総括集会を開いた。

「民間の会社だけでなく、地方公共団体によっては、上級職試験の受験資格を男性だけに限ったり、男性の多い職種で給与体系を変えている」と告発。

(12・5朝日)

「女の壁」昨今

「結婚しても働き続ける意欲」みなのに女子大生に企業の門は厚く閉ざされている。「女の子は会社の潤滑油。もろもろの雑事を素直にやり、コピーとりの最中でも男がくれば『お先にどうぞ』というのが、期待され

る女子社員。だから結婚退職制がなくても四、五年でやめる」

長野県社会部の調査では、男女別定年の企業は二三・四％。

特に輸送用機器・衣服・精密機器など女子の多い企業が男女別定年を採用。

「男以上にがんばらなくては一人前と認められない」「技倆は同じでも、いつ結婚するか……と信頼感がない」

県労働科学研究所の四十九年の調査では「女は役職に昇進できない」三一・八％、「昇進は男が有利」二九・二％。平等といわれる県職員でも、本庁の女性一三〇人中、係長以上は係長二人だけ。

また学校では「出産を前に退職勧告」「家族が病気で休めない」

夫との関係は、「大半は従属物で我慢」「何回も決意しては崩れた離婚。いざ断行したら胸のつかえがサツとおりのた。こん

なに気楽でいいのかと思うほど」

*

七回にわたって連載された〈女の壁〉、「しかし国際婦人年以來、女も平等なのだという考えが六、七〇代のおじいちゃんたちの頭にも入ってきた」で結ばれている。(12・6・14信毎)

平均賃金一六万対一〇万

都労働局が発表した「中小・小規模企業の賃金白書」では平均賃金男子三六・四歳、一六万七四六〇円、女子三三・二歳、一〇万四四七〇円と格差がハッキリ。前年比は中企業で九・四％、小企業で六・八％アップだが。(12・12読売)

ピンクカラー労働者

伝統的な女性の職場で働く労働者を問題にした「ピンクカラー労働者」がいま米国で注目をあ

びている。米国の女性労働者は全労働者の四一％だが、給料は男の五七％。ピンクカラーの多くは家事に関連した仕事、すなわち女が金銭的報酬なしに働いてきた仕事。だから賃金も低い。男の仕事とされてきたホワイトカラー、ブルーカラーに進出するとともに、ピンクカラーの仕事と賃金の関係を考え直そう、というのが米国の女性労働界の大きな動きになっている。

(12・21読売)

不況下、人員整理は女から

交通遺児家庭の働く母親の五五％はパート。平均月収は八万円を割る。不況の中で人員整理の対象にされる人が後をたたない。社員の場合でも実際は解雇に近い希望退職を迫られるケースが増えている。コパルでは、五〇年に希望退職者を募ったが応募者が少なかったので、「二

人以上子供のいる女性」を解雇した。その後、景気が上向き、再び新規採用もし、パートも雇った。円高不況の今、またまたパートの年内整理。会社の都合で切り捨てられる女性たち。(12・28朝日)

〔保護と平等〕

ILOから見た世界の婦人労働

近年の婦人労働の最大の関心事は、女子労働者の実質的な平等をどう確保するか、その場合女子労働者の保護との関連をどう考えるかだ。

世界の大きな流れは男と同じ基盤に立って、男女同じ基準の保護——という方向を向いているが、国の事情によって考えは分かれる。妊娠・出産に関する直接的母性保護はもっと強めようという方向は大勢をしめている。(高橋展子)(8・3朝日)

働く婦人の保護と平等

〔イギリス〕働く婦人の割合は日本よりかなり高く、結婚後も働きつづけるのが当然という意識が一般的であり、さまざまな職場に「おばさん」クラスの労働者を見かける。法的にも雇用性差別禁止や母性保障などが整っているが、現実には「差別」の抗議がひんばんに起こっている。

〔中国〕夫婦共働きはごく当り前で、職場でも家庭でも完全に男女平等が実現されている。産休は五六日だが作業軽減に配慮がされており、託児所は朝から晩までのみでなく、土・日だけ引き取ってあとはずっと預けるという形も可能。託児所で母乳を与えることもできる。休日には子どもづれの夫婦が公園にどっとくりだすが、妻の表情に、天の半分を支える誇りが確かにうかがえる。

〔アメリカ〕六四年の公民権法によって労働市場での一切の差別が禁止されてから、男に限られていた職種への進出が急速に進んだ。しかし一方で、夜勤を平等に押しつけたり、出産休暇を認めない会社が出るなど理想と現実の差も顕著になっている。資格をとって差別を克服するためか、主婦の大学へのＵターンも目立つという。

〔デンマーク〕深夜勤務も男女平等に受け持つし、家事育児もごく当然なこととして夫と分担。「残業はめったにないが、やったときはその分お金でもらわず休暇にしろらう」と新聞社外報部次長のジーセンさん。一日七時間半の労働時間だが、今一番の希望は「もっと勤務時間が短くなって家庭と生活大事にできるゆとりがほしい」とこと。

〔シンガポール・マレーシア〕外国人がまず驚くのはこの官

庁・民間会社でも女性が多いこと。未成年者が人口の過半数を占める若い国であり、青年男子に兵役があるためあって、勤労者の四割は女性。しかし、男女の賃金格差はかなり大きく、女子は男子の六割弱。多民族社会の常で、言語や宗教による差別を禁止していても、職種に暗黙の制約がある。

〔フランス〕雇用平等や母性保障など法律こそ整っているが、現実の職場には旧態依然の差別が残っている。女性の平均賃金は男性の七割弱、若い女性の六割は失業中。「経営者の女性軽視、安価な労働力として女性を使う」という昔ながらの感覚が問題の根源」と、労働総同盟婦人問題担当執行委員フーボン女史は言う。

〔エジプト〕全雇用労働者のうち女性性は約一四％。社会主義国で婦人に対する保護も手厚く、賃金での男女差別も禁止され、

守られている。物価が高く給料が安いという国民全体の不満は聞くが、性差別の不満はほとんど聞かない。働く婦人の当面の問題は育児というが、工場には保育所が普及してきつつある。むしろ軍隊にかりだされる男性の昇進が遅れて不利だし、夜勤などイヤなことだけ男に押しつけてあとは平等というのは「女尊男卑」だとボヤク男性もいる。

〔韓国〕労働者の約四割が女性。輸出産業面での活躍が目立ち、国力培養の旗手といっても過言ではない。が実態は過酷な労働、低賃金。賃金の性差別は禁止されているが職種差別が厳しく、女子の平均賃金は男子の約三分の一。儒教精神の色濃く残る韓国で女性の権利拡大への道はこれから。

〔ソ連〕労働者のうち女性性は五一％。大学卒の男女比が女性五九％と男性を上回り、知的労働につく比率が高い。給与平均

は男性と同じ。母性に対して国家が種々の恩典を整えている。

しかしこのような共働きでなお家事労働の負担が女性にかかっているのも事実で、離婚も多い。

〔スウェーデン〕女性の勤務が禁止されている唯一の場、軍隊も、解禁論がふつと中。これが解禁になると職業の男女差別は一〇〇％なくなる。問題はその中で職業の性による偏りが是正されて初めて賃金の完全同一化が図れる。そこで、技術関係職種に多く女性を雇用するよう、融資の際、条件をつけたら、学校教育で男女の職業選択の既成観念と偏見をなくす努力をしている。(10・21―30道新)

〔その他〕

女の太腕で『地銀』誕生

昨年末、野村証券の中に、全国のベスト10にランクされる

『地銀』が誕生。働くのは、

「累積投資募集員」という約二三〇〇人のおばさんたち。

(1・7毎日)

看護婦に夜間交通費を支給

看護婦の夜間看護手当の中に深夜通勤のためのタクシー代が加算された。五十二年予算政府原案の中に確保すべく厚生省を動かした火つけ役は〈看護婦のオヤジの会〉。(1・30朝日)

職業訓練手当、四月から実施

母子家庭の母親の就職のための職業訓練中を保障するもの。問合わせは職安へ。

(2・28朝日)

水産加工場の主婦に暗雲

二百カイリの規制で、釧路市内の水産加工場で働く二七〇〇

人の主婦が失業寸前。

(3・20朝日)

週休二日制、壁にぶつか

労働省が発表した五十二年年度の労働者の労働時間に関する調査結果(常用労働者三〇人以上の民間企業約六千社)によると、週休二日制を採用している企業は全体の四割強。三年間横ばい状態で「景気停滞の影響大」と同省はみており、「公務員、金融関係の抵抗感」なども理由にあげている。(4・3朝日)

第二二回働く婦人の中央集会

山野和子総評婦人対策部長を実行委員長に五月一四、一五、東京で開催された。全国から約一七〇〇人が参加、「賃金」「母性保護」「職業病」など一四分科会で報告・討論が行なわれた。集会討論は政府の「国内行動

計画」をめぐり、「保護と平等」の問題を中心に、論議。

賃金をめぐる分科会での声を拾うと、「雑用に甘んじ差別と

考えないのは退職する気だから」「永動なら不満」「春闘で二〇〇〇円以上の昇給額でも女は七五〇円で頭うち」「基本、生活給は男は四五歳、女は三〇歳でストップ」etc.「男女二本立て賃金違法は勝訴の実績もあり、労働基準監督局に申告を」と大羽綾子氏。

(5・22読売/6・4信毎)

腰痛保母さん職業病に認定

帯広市福祉事務所の保母さん(二八)。同市の認定患者はこれ

で五人。(7・20朝日北海道)

容姿端麗の方、給三〇万円

三越が「ファッションシスターズ」七期生を募集。一八一三

教育

〔教育現場〕

車いすの女子に大学入学許可

六歳でせきずい炎にかかった白石さんが名古屋の日本福祉大学の入学を許可された。学費が安いので指折りの同大学は、便所を特設、段差をスロープにする工事もある。(3・3朝日)

給食費六年間では倍増

給食費の保護者負担は低学年で月二七七円。安全性が問題のポリプロピレン副食器は小学

校で三六％、中学で四〇％も使われている。都教委の昨年五月の調査で。(3・3朝日)

女子教育これでいいのか

「いまの女子高校生は、二三歳までの人生設計しかもっていない」と、「女子教育小分科会」で女教師の発言。教育現場では、男女の役割分業論の固定化の傾向にある。(3・11毎日)

消費者教育で家庭科必修

葛飾区立中心中学校の石阪征

枝教諭は、この一年、家庭科の食物領域の授業の一部で、男女共修を試みた。環境汚染に重点をあてて。(3・18毎日)

主婦らが手作り教育白書

「教育費の父母負担はおかしい」という疑問を大切に育て、二年間、コツコツと解明に取り組んできた〈横浜の教育を考える会〉の主婦たち。

その成果「五十一年度PTA予算書にみる義務教育への父母負担の実情」をこのほど発表。

(3・23毎日)

女性十三人「晩学の志」

千代田区立一ツ橋中学校で通信教育を終えた卒業生は平均年齢五〇歳の女性十三人。「青春時代から、向学心を燃やしてきた人ばかり」と馬渡頼子教諭。(3・23読売)

車イスでも立派な教師に

中東頼子さんは、大阪市の教員採用試験に合格。だが採用通知はまだ来ない。このため昨年二月、中東さんはじめ支援の障害者団体、教師、学生たちは

「車イスの教師をつくる会」を
結成、大阪市教委と交渉してき
たが、この三月末で採用有効期
限も切れる。(3・25毎日)

異動発表で目立つ女性の進出

都内公立校の女性校長は新た
に十一人、教頭は十人が誕生。

(3・31毎日)

楽しい車中授業

知恵遅れの幼児のための「め
だか学園」は園児の大半が市外
通園者のため、スクールバスを
だしている。最近では交通渋滞の
ため車中時間がのび、園児がイ
ライラ。ためにカーステレオを
取りつけて歌をうたったりの車
中授業。(4・16徳島)

徳大医歯学部 女性教授

徳島大学歯学部教授に西野瑞

穂・大阪大歯学部講師が決まっ
た。和歌山県出身。歯の保存・
修復が専門。(4・19徳島)

女の子はつくられる

「女は科学に弱い」とされてい
るが、実験の主導権はいつも男
子。女子はあとしまつなど補助
的な役割を負うから、いつまで
たってもできない。女にも平等
に実験の機会を与えると、どん
どん伸びる……など「女」がつ
くられていく過程を九回にわたっ
て特集。(5・16・26朝日)

一段と女先生「上位」に

徳島県下小中学校教員の女子
化傾向はさらに強まり、小学校
では五六・三％が女性。高齡化
も目立ち、若い男子教員の確保
を要する声が高まっている。

(5・22徳島)

男女家庭科共修に前進か？

小・中学校の教育内容を改め
る新しい学習指導要領案が発表
になった。その中で中学の「技
術・家庭」は、従来の男女別・
学年別をやめ、一七領域(金属・
機械・食物・被服など)から七
以上を選択履修すればよいこと
になった。

「男女共修にちよっぴり前進し
た」が、物作り偏重に批判。

「何のために作るのか、が位
置づけられていない。だから男
女共に学ばせる内容もお粗末」
と〈家庭科の男女共修をすすめ
る会〉の半田たつ子氏。

(6・11朝日)

社会が女を教育

「家庭で電気類を直す必要に
せまられても夫は昼間いない。
反対に妻が病気になるっても夫は
家事が何もできない、ではこま

る。技術・家庭科を男女一緒に

(三九歳主婦)

「男子が数学や英語を勉強して
いる間に、泣く思いで家計簿の
計算をしているなんて、不公平」

(二五歳女子高生)

「究極のところ、大半の男性は
女性に能力を認めていない。

「女はバカでいい」と教室で公
言してはばからない男性教師も
いる」

(二三歳教師)

特集「女の子はつくられる」
への読者の声から。

(6・18朝日)

殉職女教師ら四人表彰

札幌の杉村久吉先生記念奨学
財団が昨年から始めた教育功労
者表彰で、今回は、大正時代に
殉職した女教師や、道内初の女
性校長など四人が表彰されるこ
とになった。

(8・21朝日北海道)

杉並の電話教育相談六か月

杉並区教育委員会で始めた電話相談の相談者は圧倒的に母親。内容は、友人関係・反抗・勉強の方法・勉強ぎらい・登校拒否など半年で三〇〇件。自殺の心配も。

「今の母親は子どもに対する自信をなくしているようだ。子どもたちも直接電話してほしい」と区教委。(12・2東京)

高校進学率は女性上位

今春中学を卒業した一五八万人中、進学は男七四万五千、女七二万六千。進学率は女九四・〇％で男より一・八％高かった。

(12・8読売)

「男女同数」の原則揺らぐ

都では新設都立高は男女同数の原則をとっているが、蒲田高

は女子を二〇人少なくする方針を決めた。「地元の私立女子高を圧迫しない」という圧力に屈したかたち。父母や都立高増設運動関係者からの反撥は必死。

(12・14毎日)

幼稚園二〇万円時代

都の幼稚園は全体の八割が私立。

都の発表した来春の私立幼稚園父母負担額は今春に比べ平均八・九％のアップで二万六千余円。全体的傾向として付属幼稚園などが高く、宗教法人の幼稚園などには平均以下のところが多い。

公立はこれにくらべて平均三万九千余円で来春も変わらない見通し。ただし公立園児は全体の一四％、父母にとっては頭の痛い春。(12・22読売)

「過熱する教育」

塾一〇番鳴りっ放し

東京と千葉でオープンしたら問合わせが殺到。開設した「学習塾の姿勢を止し子供を守る会」もびっくり。(2・23読売)

塾立時代

文部省の「学習塾」の全国実態調査によると、全国で約五万そこに通う小・中学生は全体の二〇・二％。塾の先生の一七％は、教師の内職。(3・12読売)

過熱は都会だけ

教育には地域差、個人差が大きいのに、これまで「過熱」のデータばかり。TBSがこのほど実施した調査結果では「イライラしているのは大都市のサラリーマン家庭。子どもに残すも

のがある階層は結構のんびり。地方都市もそれほど過熱していない」。(6・24毎日)

すそ野広がる教育ママ

世田谷区立幼稚園の平均競争率は約七倍。公開抽選会場では、どの母親の顔もひきつっている。私立の小学校に入れようと塾通いも多い。塾の入会金は三万円、週四回で一万八千円。教育ママは、幼稚園児の母親たちへも、しだいに広がっている。(10・31朝日)

今や教育パパ時代

「父と一人で正月特訓」

「母の話は聞かぬようにした」母親の声援を受け、教育の主導権は父が……。麻布学園教職組が分析した現代版「父子鷹」像。(12・22毎日)

保育・子育て

〔保育〕

「無認可保育所」広がる底辺

美濃部知事の手で初めて行政の光をあびた無認可保育所。表面的には保育の底が引き上げられたかに見えるが、助成金の対象にすらならない無認可保育所が増えているのが実体。目標は無認可保育所の解消であったはずなのに。

(1・7毎日)

障害児に保育の機会を

長野市の主婦の呼びかけで、

障害児の親やボランティアが団結。「混合保育」の実現や差別撤廃を目指して組織づくりを呼びかけている。

(1・8信毎)

保育料値上げ

三歳以上は平均一・九五倍アップ。三鷹市が四月から実施する。

(1・15読売)

どうなる保育園建設

「保育園は騒音を発生させる。環境権を侵害する建設計画は認められない」と住民側。「区有

地を放置できない」と区側。双方歩み寄る気配のない「元代々木保育園」。

(1・18読売)

保育料二・五倍に怒る

東京二三区の保育料値上げに不服審査請求が北、板橋、練馬三区だけで五三〇件。全区に波及しそう。

(1・25読売)

保母の半数、転出望む

世田谷の区立保育園で、二五人の保母さんの半数近くが父母会との対立を理由に「転出」を

希望、保育園は空中分解寸前。

(2・7サンケイ)

「こぐま園」を救って

心臓病の子を持つ母親たちが、〈全国心臓病の子供を守る会〉などの協力を得て、渋谷区にある教会の集会所で運営している保育園。都の補助金を受けられなくなるため、存続の危機に直面している。

(3・15読売)

九州大学に二保育所

教職員の五年間にわたる運動

がみのつて、二保育園を福岡市が許可。金沢大、名古屋大について全国で三番目。ゼロ歳から就学前まで。定員は各六〇名。一般市民の入園も可。

(4・9 西日本)

連絡簿をきちんと

大抵の保育所では、園児の生活の様子を記入する連絡簿を用意しているが「仕事が忙しいせいか、家庭の様子をあまり熱心に記入してくれない親が多くて困る」と保育さんたち。

(10・26日経)

幼稚園・保育所二元行政調整へ

幼稚園や保育所には五歳児の九割が通園しているのに、その設置状況はかなりアンバランス。その一因として、文部・厚生両省による二元行政が指摘されているため、両省は審議会メンバー

らによる「幼稚園及び保育所に関する懇談会」を発足させた。

(11・1 毎日)

保育料毎年引き上げも

厚相の諮問機関、中央児童福祉審議会は、二〇日、国の保育料徴収基準について①賃金・物価に毎年スライドすべき②低所得者からも食料料を徴収——と具申した。父母にとってはきびしい答申。

(12・21 読売)

「保父」

保父に門戸解放

都内には練馬・立川・足立・大田の四高等保母学院があるが新年度から保育所で働いている男性にも門戸を開放。二、三年後には「保父」が誕生する。

(1・29 読売)

「保父さん」の説明会

東京都私立保育園連盟対策雇用委の主催の会に百人以上つめかけた。四時間立ち続けて帰らぬ参加者の九割が男性。養成校は？ 仕事の内容や賃金は？ と熱心に質問。女性からは「女性の職場を狭めるのでは」との心配が。

(2・2 朝日)

保母試験に男が初挑戦

都立の保母養成所の試験が行なわれ、初の男性受験者は九八人。この中にはすでに保育所で働く「無資格保父さん」の姿もみられた。

(2・28 各紙)

保父誕生

全国の保育園で働く男性の数は約四百人だが、法令の裏付けのない「無認可保母」。全国男性保育者連絡会の三年越しの運

動で、厚生省は三月中にも政令改正を行ない「認知」する動きだ。一四万人の保母に対し四百人は微々たるものだが、大企業入社の困難、家事の共同負担などの社会的背景で増加の見通し。すでに看護士・準看護士は六千人、保健婦に男性採用の要望もある。

(3・3 朝日)

保父さん入試突破

東京都立高等保母学院四校の入学合格者七〇〇人中、男性三二人。その三分の一強、十三人がサラリーマンや公務員からの転身組。

(3・10 毎日)

「保父」さん認知

男性保母を一日から正式認知することが十一日の閣議で本決まり。ただし法律的には名称がなく「名なし」。(3・11 朝日)

保父さん認可

改正された児童福祉法施行令が一五日から発効。「男子でも保育に従事する資格を有する」ことになった。保母養成所への入所、保母試験の受験もO・K。

(3・25読売)

男子職員を保育所に

力仕事も多い……と、保父さんならぬ男子職員を市立保育所に配置。北海道登別での初の試み。

(4・8朝日)

保父志願もどうぞ

東京都は、練馬、立川、足立、大田の各都立高等保母学院の五十三年度募集要項を発表。受験資格は①高校卒業(五十二年三月卒業見込みを含む)、または高卒者と同等以上の資格を有する②満一八歳以上で、児童福祉

施設で二年以上、児童の保護に従事した、のいずれかに該当する人。

(7・17朝日)

「子育て」

五つ子スクスク満一歳

鹿児島市立病院でウブ声を上げて今日で一年。(1・31読売)

育児二か月でノイローゼ最高

「赤ちゃん一〇番」に相談する人は二か月が一番多い。重なる疲労、心の不安。夫の理解と手助けこそ必要。(2・22読売)

母の家出

子どもを育てられない、という訴えが児童相談所に相ついでいる。理由の中で一番多いのは、「母の家出」。

一般的に母親は子どもを育て

る力があって経済力がない。父親は経済力があって子どもを育てる力がない。そういう長年の社会の特徴がこの傾向を助長している。

(4・23朝日)

“支え”を欠き孤立する母

「最近の母親は、まるで自信がない」とは、東京家裁の非行少年係。ヒステリックに泣く、わめく。子を守り、監督する親の姿勢など皆無。しかしこれは母親を支えてやる者がいないからだ。と千葉家裁の前沢智恵子調査官は言う。育児の悩みを吸収・消化していた親せきや地域など緩衝地帯がなくなった。しかも父親がだらしがない。厄介なことはすべて妻に押しつける。子どもが保護されたとき昔は父親が飛んできたが、今は九割以上が母親、と警察は嘆く。

(5・8毎日)

“ベビーホテル”

にわかにブーム

ベビーホテル、ベビールームが、猛烈な勢いで東京中心に増えている。出産、冠婚葬祭などの際利用するほか、旅行、映画、パーティー、ショッピングなど遊びのために子どもを預ける例も目立つ。ニューファミリー層の利用がブームの背景だが、死亡事故などを招いた例もあり「認可制にすべきだ」という声も強い。

(7・4朝日)

男性のための育児大学開く

三〇名(申し込みは二四〇名)のヤングパパは何の抵抗もなく熱心に講習を受けた。

(8・28西日本)

小樽市保健所に育児一〇番

核家族ママの相談役として八

からだ

〔健康〕

合成女性ホルモンでがん

母親が流産予防のために飲んだ女性ホルモンが原因で、思春期になった娘が腫（ちつ）がんになる——ジエチルスチルベストロール（DES）という合成エストロゲン剤の副作用が問題になっている。DESはすでに「追放」されているが、メキシコで開かれた国際産婦人科学会では、米国の学者から約一八〇もの症例が報告され、改めて話題を呼んだ。

（1・10朝日）

いかに死ぬか

全国の家庭医が中心につくっている学習組織〈実地医家のための会〉が、「安楽死シンポジウム・植物状態患者をめぐって」を開いた。

医学の進歩によって、つくりだされた難題であり、結論を急ぐことなく、広く各分野の人びとと「現代人の生・死」をみつめていきたい、というのが会の基本的考え方。長期看護に疲れ果てている家族にも社会的バックアップが必要とされる。

（1・10朝日）

風疹ワクチン三〇万人分OK

まず適齢女性から接種を。ただ直後の妊娠はやはり危険、と厚生省。

（2・1朝日）

風しん大流行の兆し

昨年、一昨年と全国で猛威をふるった風しんがまた大流行の気配を見せ始めた。厚生省は、「妊娠の可能性がある主婦はくれぐれも注意を」と呼びかけている。日本母性保護医協会は、「妊娠可能な女性に優先的にワクチンを接種する」ことを申し

合わせている。（2・16朝日）

リユーマチは女性に多い

原因がまだ不明、治療のキメ手のないリユーマチについて、〈日本リユーマチ友の会〉が白書を完成。

これによると患者の八割以上が女性。二〇―三〇歳の働き盛りの女性に多いのは知られざる事実。発病年代は三〇歳代が多い。白書はその他リユーマチの特徴や診断法、治療法、日常の注意まで網羅している。

（5・28朝日）

タンポンにご注意

生理用品は目覚ましい普及率だが、長期間連続使用すると膈にかいようができる危険が……

アメリカの産婦人科学雑誌に、コロラド大のパレット氏が発表。

(5・30朝日)

乳がん早期発見へ新技術

米航空宇宙局(NASA)は、コンピュータに組み込んだ画像解析システムにより、乳がんX線写真の読み取りに利用する研究に取り組んでいる。このシステムはX線写真の微妙な影まで判断し、その能力は人間の目の八倍。この方法が普及すればきわめて初期の乳がん発見も可能になり、手遅れになったり、大手術で苦しむ女性の数も減少するはず、という。(6・13朝日)

農婦の貧血

農家の婦人が献血したら三割、多いところでは五割が「血が薄くてもらえない」と。十年前の話。ところが専門家が調べてみると今日でも働いている農家の母親の約三割が貧血状態。大部分は「鉄欠乏性貧血」。鉄分の多い肉、卵、魚などをとるべき。そのほかに過労がある、と若月俊一医師。

(7・12朝日)

タバコと乳児突然死の関係

乳児突然死症候群(SIDS)の原因は母のタバコでは？とワシントン大学で調査。

SIDSの子の母親は、元気な赤ちゃんの母親にくらべると愛煙家が多く、一日一箱で一・八倍、一箱以上は三・五倍にものぼった。アスピリン、コーラ、コーヒーの比較では差なし。

「おなかの中にいるときや、

生まれたばかりの赤ちゃんの呼吸器がニコチンや一酸化炭素の障害を受け、突然死の下地を作るのではないか」と同大のバーグマン博士。

(7・18朝日)

ママ予備軍の風しん予防

予防接種法施行令の一部改正が一九日の閣議で決定、八月一日から中三の女子生徒の風しんの予防接種が義務づけられる。

(7・19毎日)

「植物人間」に痛切な反響

六月中旬から四二回にわたって連載した「植物人間の記録」に、大きな反響があった。家族の生活を思い、「息子の装置を外して」と頼む母親、妻を見守る夫、医師への不信と信頼。記者の調べをはるかに上回る多様で痛切な苦悩があった。

(8・4朝日)

B型肝炎、予防に光明

重症の肝臓障害の原因とみられるB型肝炎ウイルスの感染ルート解明と、予防対策を研究していた東京都のプロジェクトチームは、中間報告を発表。そのなかで、①B型肝炎ウイルスの大半は、妊娠中や分娩のさいに、母親から子へ感染する経路をとる②実際に母子感染が起こるのは、母親が感染性の強いウイルスを持つ場合に限られる③したがって、そのような母親に、ウイルスの増殖をはばむ作用を持つインターフェロンを投与すれば、大きな予防効果が期待できると、などの点を明らかにした。

(8・16朝日)

初潮年齢また早まる

初潮は、最近でも、テンポはおそくなりはしたが、着実に早くなっていることが、全国の小、

中学校調査でわかった。全国平均は十二歳と六か月。戦前は十四歳から十四歳半ぐらいたった。初潮年齢を早める原因として、都市化も大きな要因と考えられている。

(8・21朝日)

女が八割、慢性リウマチ

慢性関節リウマチ患者の八割は女性。

発病のピークは二つで、初潮時から二、三〇代までと、更年期。急性は高熱をとまなうが、慢性は疲労・貧血・ノイローゼ程度ですまされ、見のがすことが多い。

(11・20読売)

〔妊娠・出産〕

不妊症にもハリ治療が有望

十三人中二人に赤ちゃん誕生。長崎医大三補助教授らの研究で。

(2・14読売)

ジン臓移植ママ出産

日本では初めて。京都で。

(2・22読売)

産み分け自由の薬、人体実験

イギリスのポラード医師が、“産み分け剤”を開発。ウサギの実験では成功率八〇%。これから百人の女性有志を使ってテストに入る。

(3・1朝日)

お産二〇万円時代

初めて赤ちゃんを産むと、妊娠中の健康診断や入院分べん料だけで約一七万五〇〇円、これにベビーベッドなど育児用品代など間接経費を加えると二〇万円を軽く超える——東京都や神奈川県之母親一四四人を対象にして、出産にどのくらい費用がかかるか国立公衆衛生院の前田信雄社会保険室長や助産婦の

斉藤益子さんらが調査。

(3・17朝日)

診療を断られて主婦死亡

二六日午前一時ごろ、神奈川県南足柄市の女性が自宅で流産。小田原市の産婦人科病院二か所に入院や診察を依頼する電話をしたが断られた。このため近くの駐在所に助けを求め、救急車で小田原市内の病院に運んだが出血多量で、病院に到着した時はすでに死んでいた。

(5・26朝日)

母乳のPCB大丈夫かしら

厚生省が、昨年全国で行なったPCBと農薬による母乳汚染と、その母乳による母子の健康調査の結果によると、PCB、BHC、DDTは量の多少はあるものの検査したすべての母乳から検出された。(7・2朝日)

人工じん臓の女性が出産

人工じん臓を使って血液を透析しながら生きている女性に男子誕生。

女性のじん不全患者が透析を受けるホルモンのバランスがくずれ妊娠しなくなる。妊娠しても自分の体を維持するのにせいっぱい。世界でも数例だけ。母、市坪クニ子さん、父、久雄さん。

(7・7朝日)

赤ちゃんの血液検査

生まれてくる赤ちゃんの一万人に一人は先天性代謝異常。早期発見すれば知恵遅れを防げるので、厚生省は今秋から血液検査を実施する。(7・27朝日)

不妊治療にビタミンCの力

ビタミンCの新しい役割として、「排卵誘発」が明らかに

た。群馬大産婦人科の五十嵐正雄教授が排卵誘発剤を与えても排卵しなかった不妊症の人に同時に一日四〇〇ミリグラムのピタミンCを与えたところ、月経も排卵もなかった二人のうち十二人が排卵した。「副作用はほとんどなく、試す価値あり」と同教授。

(9・21朝日)

妊娠と同時に個別相談開始

出生後の指導だけでは手遅れ、と中野区が十月一日から「母子保健コーナー」を新設する。

(9・29毎日)

未熟児出生とBHCの関連性?

BHC(有機塩素農薬)による母乳汚染問題についての調査結果が近く発表される。BHCが使用禁止になってから約六年、しかし「母乳など人体への汚染は続いており、使用量が多かっ

た西日本ほど未熟児の出生率が高い」と、国立公衆衛生院の林路彰母性小児衛生学部長。

(10・26朝日)

出産白書で一万枚アンケート

国際婦人年大阪連絡会(四三団体)が、大阪市立婦人会館で記者会見し、「出産白書」づくりのためのアンケート調査に一般の協力を呼びかけた。

十月末、妊婦のほか助産婦、看護婦らが集まって、出産をめぐるシンポジウムが開かれた。その席でとくに多かった問題点

①出産費用が高すぎる②陣痛誘発剤への不安について、近隣各府県を中心に主婦、職業婦人に一万枚のアンケート用紙を配って、本格的な調査を始めることにしたものの、一万人という大規模な出産調査が女性たちの手で行われるのは、これまで例がない。

(12・17朝日)

水泳でお産を軽く

妊婦の水泳は欧米では珍しくないが、日本では「べからず集」の筆頭。しかし川崎では日本医大の杉山医師をコーチに、「泳ぐ妊婦グループ」が血行がよくなり、腰痛が解消、お産も軽いと好評。

(12・18読売)

〔添加物・薬害〕

添加物に親も子も無関心

板橋区の都立志村高校、家庭クラブの女生徒が行なった「食品を見直そう——飲みものを追って」の研究結果を発表。

同じ仲間の高校生の意識調査をしたり、消費者センターで着色料の検出テストをしったり、地域の自動販売機を調べたりした結果は、有害添加物があまりに多く、それが入っていることを知っていたのは三四%だけ。知

らないと答えた人の七〇%が女子。(2・10毎日)

カビ防止剤OPP

かんきつ類のカビ防止剤OPPは遺伝子の損傷作用が問題になっているが、このほど米国産グレープフルーツやレモンからOPPが検出された。

しかし米国はOPP許可を要求しつづけ、ついに政府はOPPをだした。

怒ったのは消費者団体。「国民の健康よりも日米関係を重視した政治的許可」と各消費者団体はボイコットをよびかけている。(7・9毎日)

「遺伝毒性」の怖さを訴え

主婦連、有権者同盟等、四団体が、サッカリンなどについての連続勉強会を開く。

(9・21毎日)

差別

女性差別反対

司法研修所の教官ら四人(裁判官の身分を持つ)が、女子司法修習生に「男が生命をかける司法界に女の進出は許せない」などと発言したことに対して、「女の人権、働く権利を踏みにじる裁判官はやめてもらおう」と呼びかけ、三千人を超える人々が国会の裁判官訴追委員会に訴追を申し立て。(1・26朝日)

女子大開放して男子教員作れ

「保父さん」も話題になる最

近、小学校、幼稚園にも男子職員が半数程度いてよいと思うが問題は免許状取得。国公立大教員養成過程と一部私大を除くと幼・小教員養成課程は女子大・女子短大以外は有していない。養成課程を男子にも開放せよと訴えたい。(投書)(2・20朝日)

子連れの傍聴拒否の審議会

保育料の値上げ案の審議を聴こうと子どもを背に市議会に出かけたが門前払い。働く婦人への差別か。革新自治体にしてこの暴挙?(投書)(2・24朝日)

テレビに見る男女差別

テレビのクイズで「結婚のとき作る着物の紋」は「夫の紋」が正解。ドラマはもつと心痛む場面が多い。影響力の大きいテレビこそ前向きな姿勢がほしい。(投書)(2・26朝日)

尻助金に熊本女性カッカ

道路掃除など地区の共同作業に女性が出ると男の三分の二以下と評価され尻助金(しりすけきん)を五百円から千円とられる。八〇すぎた男が一人前とさ

れ、よく働く女が追加金をとられるとは!と熊本婦人少年室が是正を指導。(3・7朝日)

父子家庭も保護の対象に

母子家庭の保護は保障されているが父子家庭の生活保護法は空文に等しい。片親の場合は一と無差別平等に改正を。男はささと再婚しろというのか。

(投書)(3・15毎日)

女子学生のジーパンは不可

大阪大学文学部講師フィリッ

(11・2日経)

まだまだ多い「不平等」

ブ・カール・ベータさん(五六)の「ジバン学生は授業を受けさせない」発言をめくり、各方面で論争が……。 (5・25朝日)

ベータさんの辞表受理

大阪大学文学部は、フィリップ・カール・ベータ講師から出していた辞表を受理することを決める。「あの学生たちと議論することを考えるだけで頭痛がしてくる。頭痛のタネと関係を絶ちたい」と辞表を出していた。

(7・8朝日)

女子にも甲子園への道を

「女の子にだって甲子園の青春を」——一四歳の女子中学生の投書が「声」の欄に載った。が、日本高校野球連盟では「同一条件の原則に反する」と壁は厚い。かつての女子ノンプロ、サロンバスチームの対戦相手は

九割強が男性で、勝率七割五分だったが……。 (5・26朝日)

わんぱく大相撲、女人禁止

杉並区予選三位入賞の女の子、国技館の土俵は「女人禁止」とあって出場できず、決勝戦は男の子がピンチヒッター。

(6・13朝日)

日本「フェミニスト」考

米国のfeministとは男女平等論者のこと、日本のフェミニストは男女不平等論者で女好きの男のことである。

日本の「フェミニスト」運動

は放送局が一貫して推進している。普通男女のきき手が二人で出てくるが、女のきき手は質問もしないし感想も述べない。つまり放送局は若く美しく頭の空っぽな女を選び出して公衆に示す事業を組織的に実行している。

米国のリブは「ゴゼ」解放の略語だが、日本のリブは「ゴゼ」女は男のアバラ骨の一本に過ぎないという意味である。

(真面目な冗談 7・13毎日)

女人禁制、甲子園グラウンド

「甲子園への女子参加反対論は非論理的な感情論。テニスに混合ダブルスができたときのことを考えてみるとよい。女子に野球の道を開くのは関係者の意識の変革しかない」と団地少年野球部を見ている平城さんは言う。

(7・21朝日)

平等は慣習の見直しから

今も根強く残る男女の差別意識や役割分担。一方で女性自身が差別に甘んじているふしもある。平等意識を培うには女性自らもっと積極的に「社会慣習をみなおす」必要がありそうだ。

まだまだ多い「不平等」

表札は夫の名前、年賀状には夫の名を大きく、夫が亡くなると喪主は妻でなく男子、地域の共同作業に出ると男の五―八割の報酬、金融機関は金を貸さない……など、まだまだ多い不平等なしきたり。婦人週間に「社会慣習をみなおす」を取りあげた労働省はこのほど全国の婦人少年室を通じて集めた「男女平等を妨げている社会慣習などの事例」集をまとめた。

(11・8読売)

女性の体力は劣るか

運動や力仕事で女はほんとうに男にかなわないのか。オーストラリアの学者が調査した報告によると、三、四〇年もたつと、女性の世界記録は男性の記録に

追いつく。たとえば水泳では、五六年では男女間の差が

(11・9読売)

働く女、まだイバラの道

〇・六%、六六年には一〇%、七六年には八・五%にもちが

た。これまで女性の記録が劣

っていたのは生理機能の差ではな

く、女性に競技の場を与えなかつた

社会事情が原因という。

東京都民生局が都内の成人女性一五〇〇人を対象に「婦人問題に関する世論調査」を行な

「現在仕事を持っている人」四二・五%、このうち「賃金が安い」「職種が限られた」などで「就職時の男女差別を感じた人」三四・八%。家事分担では食事の用意・片づけ・洗濯などには八割の夫が手をださない。働く女性は、「共働きの負担が

大きい」三九・二%、「子供のことがおそろそかになる」二二%などの不安を感じている。若年定年制などについては半数前後が反発。しかし家庭の負担などから男性と同等の勤務が難しい現状は半数が認めている。

(11・11読売)

「せめてマネジャー」急

なのにベンチ入り

女子選手は「マネジャー」を急ぐ。これは、女子選手が、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。これは、女子選手が、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。

理屈、並べ締め出し

女子選手は、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。これは、女子選手が、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。



レディーははかぬ?



教室追い出された女子学生

阪大 米人講師の発言でいふ騒動

女子学生が、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。これは、女子選手が、試合中にベンチ入りし、試合の進行を監視し、必要に応じて選手を交代させる役割を担う。しかし、女子選手は、男子選手と比べて、マネジャーの役割を十分に果たせていない。

活動

「グループ活動」

△不公平税制をたたす会 旗揚げ

全国サラリーマン同盟、日本消費者連盟、総評、日本生協連など約五〇団体が税の公平を求めて、一八日、△不公平税制をたたす会△を発足させる。「国民本位の福祉型税制」の実現を政府、各党に迫り、幅広い活動を展開する。(1・17朝日)

「車イスの訴え」実る

「私たちの生きる望みを断た

ないで」と進行性筋ジストロフィーの患者たちが渡辺厚相に訴えた思いが認められ、国立神経センター発足のための医療設備費六億二千万円が通った。一時は来年度予算の大蔵原案でゼロ査定になっていたが。(1・20朝日)

運賃法定主義緩和には反対

主婦連、公団自治協など二〇団体でつくっている全国消費者団体連絡会の代表一七人が一九日、国鉄本社で高木総裁に「運賃法定主義の改悪と値上げに反対する申し入れ」を文書で手渡

し、一時間余にわたり懇談、今後二、三か月に一回ぐらい懇談の機会をもつことになった。

(1・20朝日)

過疎地で生き生き(長野)

上伊那郡長谷村に主婦の生活改善グループ「かやの実」が生まれて十年。農業だけでは暮らせず内職生活だがコーラスや手芸なども楽しく。(1・31信毎)

へ丸の内女性文化クラブ

東京・丸の内の一류企業に勤

める〇したちのサークル。さまざまな問題を話し合い、文章にすることで、自分を見つめようというもの。

「高い給料払って、どうしてこんなに遊ばせてくれるのかと思うことがある。私たち、もっと働きたいのに」(3・30毎日)

へ一葉会

重度心身障害者の施設づくりを目ざしている。作家・田中澄江さんが顧問役に。現在、一〇〇〇万円の募金活動を進めている。(4・5朝日)

あたりまえのリブ運動

女の自立を目指し連帯の輪を広げようと〈女性のアクセスを求める会〉が北九州に誕生して一年。二〇代から三〇代の主婦ばかりで週一回の勉強会をひらくかたわら、ミニコミ誌・ニュースレターを四号発行。

「女性差別や政治的な解放を運動にするよりは、主婦が自立できにくいのはなぜ、という身辺の問題から考えていきたい。」

(4・7西日本)

離別母子世帯の実態調査

広島市の離婚した母親たちのグループ〈児童扶養手当を一八歳に引き上げる会〉は生活実態を社会に訴えよう—と全国の仲間と呼びかけて離別母子家庭の実態調査を始める。調査内容は①生活②仕事③子どもの三つに大別され、質問は住宅事情、職

場の待遇、離婚による変化など、三一項目に及ぶ細かいもので、特に「離婚の子どもに与える影響」に重点が置かれている。

(5・9信毎)

おんな情報誌つくって満五年

世代も居住区も違うけれど、

「いまの世の中、女にとって生きにくい」という思いで結ばれているグループ〈あごら〉は、宣伝もせず、一般には無名に近いが「女たちに伝えたい情報は何か」を唯一の編集方針に、七二年二月以来、珠玉のような情報を送り続けている。

(5・18毎日)

ライフ・サイエンス研究会

暮らしに関するさまざまな問題について勉強し合い、生活者としての立場から、社会へ発言していこうというグループ。

「健康と食事」「家庭看護」「老後のプラン」等の小冊子も作る。

(5・26朝日)

夫婦は別姓でもいいのでは

〈結婚改姓に反対する会〉では、結婚したらほとんど夫の姓を名めることに疑問。長い間、女自身の中に血肉化した結婚観、夫婦観を洗い直し、「オレの妻」「うちの嫁」という所有感を男性や社会からなくしていこうと呼びかけ、一万通の請願書を提出する。メンバーは、教師、タ

イピスト、弁護士、OLなど六人。ささやかだが地道な運動を続ける。

(6・1毎日)

〈パンセ〉

千葉の主婦三二人は、法律にとりくんでいる。といっても条文の解釈ではなく、法的な考え方の道すじ——法感覚——を学

んでいる。

市教委が主催している「婦人大学セミナー」から独立。グループ名は〈パンセ〉。

(6・15毎日)

〈中国を知る集い〉初会合

松岡洋子・江間章子・高峰秀子さんら女性文化人たちの呼びかけで、中国の婦人十人を招いて話し合い。賛同者百人、当日は三八人が参加。(6・24毎日)

素人の家づくり

女性一級建築士の前田邦江さんが主宰する「住まいの実技講座」では実習として六畳の離れ建築を手がけた。壁や内装など実習と理論を毎月重ね、十月には完成の予定。受講者七五人はサラリーマン、自営など全部素人。女性も主婦など二〇余人が参加。

(8・1読売)

人権訴えリレー行進

アムネスティ日本支部のキャラバンが人権を訴えながら東海道(約六百公里)を歩き通し、四日、大阪市・大阪城公園にゴールインした。

八月一日に東京・日本橋を出発、二泊三日間かかった「ウォーカーソン(ウォークとマラソン)」には、東大生、主婦、クリスチャンの会員ら延べ約七〇人が参加、「政治犯釈放」を訴えた。(9・5朝日)

絵本に表われた性別役割

性差別を考え続けているグループ「へいどばた」が七三―七四年に発行された絵本「三三三点を分析」「繰り返される類型像を子どもに植えてくれているのに、作者も疑いを持たない」と、発表。人間の多様な像がほしいと訴えている。(9・9―10朝日)

日本の婦人運動は終わった

中ビ連解散を誤報したニューヨークタイムスに日本から抗議が続く。「テリブル、もっと調べて書くべきだった」と外人女性記者。英文毎日九月一日四号にも「ニューヨークタイムスの記者は日本男性の専制ぶりを書きながら、彼自身古典的な男性専制」と長文の抗議文が載った。(9・28毎日)

変わりゆく〈全地婦連〉

社会奉仕から学習へ、さらに実践へ……。会員六五〇万人の〈地婦連〉が変身しつつある。

市町村単位の婦人会の全国組織として昭和二十七年発足した〈地婦連〉は、三〇―五〇代が八九%、家庭婦人中心の組織だが、国際婦人年以後婦人問題にも関心、「入浴の順序」「家事・育児の経済的評価」などもテ

マに。が、新しい活動をどう育てるか、まだ問題も……。

(10・5毎日)

ふえる婦人問題研究団体

全国で百以上に。ほとんどがミニコミを発行。「過激な言葉の暴力で女の怨念をぶちまけ、女が女自身を拒否する時期はすぎた。男性敵視より主体性の確立を」という〈あこら〉、「男はジャマ、とりあえずは女から始めたい」という〈ホーキ星〉など、運動方針はさまざまだが、無名の女から女へ、地道な活動は着々広がりつつある。

(10・9毎日)

アムネスティ本部で活躍

ノーベル平和賞を受けた国際アムネスティは、拷問禁止、公正な裁判、死刑廃止などを要求、政治犯の救援活動を続けている

国際的な民間の人権擁護団体。

三四か国に支部を持ち、会員一五万、日本にも千人の会員がいる。ロンドンにあるその本部を訪れたところ、百人ほどの専従職員が女性。「全地球の人民のために働く」と、きびきびと働いていた(伊地知優子)。

(10・12読売)

不安な老後を訴える

〈独身婦人連盟〉(会員約三〇〇人)は、十周年記念文集「わだつみの声をとわに」を刊行した。職場での冷遇への怒りやら、老母をみるとつらさなどをつづりながら、老後対策を切々と訴えている。

(10・25朝日)

〈あこら〉初の全国集会

ウーマンリブのミニコミ代表誌「あこら」が発刊満五周年を記念して初の全国集会を開いた。

できたばかりの国立婦人教育会館で。

大半が二〇代、三〇代の主婦、子連れが三分の一。北海道・東京・東海・遠くは九州・四国からの参加者も。集会は「CR」「女が働くこと」「リブ論」など盛んな討論が朝方まで。夫に同窓会といつわって出席した会員もここでは同志に囲まれて言いたいことが言えるといったふんいきで生き生きと。

(11・3 東京)

〈女・エロス〉五年

七一年夏、長野県のリブ合宿で出会った仲間たちがつどい、「今、ここに、私たちは何ものにも規定されない女である」と七三年末、雑誌『女・エロス』の産ぶ声をあげてから五年。ひたむきに自らの〈生〉を切り開いていきたいと願う女たちの共通の場でありたいと編集委員は

いう。(11・3 毎日)

たばこ追放・女の会

「タバコを吸わない人がいるところでは吸ってほしくない。胎児まで巻き添えにされるのはガマンならない」と、〈タバコ〉の害を追放する女たちの会が名古屋に生まれた。まず病院や乗り物・駅・映画館・地下街等公共の場での喫煙追放運動から始める。(11・19 読売)

〈男子厨房に入ろう会〉

会員約二〇人。東京ガス銀座センター三階の料理教室で発会式が開かれた。

「今日ほど日本に豊かに、あらゆる食品が満ちあふれている時代はありません。同時に今日ほど、それら食品に真心が失われている時代もあります。そこで私たちは自ら厨房に入り、

あらゆる想像力と創造力を駆使し、食べる身になって真心をこめて調理しようと思いたちました」(発会宣言)。(11・6 朝日)

*

〈男子厨房に入ろう会〉の会員はいま中学生から七〇歳まで二〇〇人。「仕事では自己表現ができないから代わりに料理を」と、管理社会の息抜き場として「知的創作活動」の料理は男たちに人気。(12・6 毎日)

女性学会スタート台に

女性学への関心が高まってきた。男性が形づくった各分野の学問を女性の視点から見直そう、というもの。

女性学が注目され始めたのは、七〇年、フロリダ大学に「女性社会学」講座がおかれてから。ウーマンリブの学者から男性中心理論に対する批判が高まってきた。

日本でも女性学講座を持つ大学が幾つかでき、今夏にはハーバード大で日本女性研究をしている女性たちと第一回の国際女性学会が開かれる。従来の女性運動の行動することだけでなく理論化することの作業もやっていきたい、と国際女性学会の慶大岩男寿美子教授。

(12・12 日経/3・30 朝日)

女のためのスペース

八月に京都にできたシャンバラ(地下王国)。ガランとした細長い空間にイスが十個、タナにはミニコミ、雑誌。店というより「女子高校のクラブ室」といった感じ。

女たち五人で経営、十一月には京大時計台下ホールで「女の祭り」を開いた。かつてのリブのかたくなさはなく、だれもが楽しいからやっていると感じだった。(12・14 読売)

〔会議・集会〕

日本有識婦人クラブ全国大会

テーマは「働く女性の中年からの生活設計」、安定した老後について話し合った。この点でも国内行動計画の具体策の乏しさが指摘され、特別委員会を設置、政府に働きかけることを決議した。

(2・9読売)

徳島婦人会議開く

婦人週間の記念行事の一つとして県と徳島婦人少年室の主催で、樋口恵子さんも「身の回りの社会慣習を見直す」と題して講演。

(4・20徳島)

働く婦人の家館長会議

一九日長野市で開かれ、「県働く婦人の家連絡協議会」が発足した。これは「県の婦人問題

行政の総合的窓口にと、この四月県労政課内に発足した福祉婦人係の呼びかけによるもので、各館長が互いに連絡を取り合い、勤労婦人問題を研究協議し、勤労婦人の福祉の向上に役立てようというもの。(5・22信毎)

第一八回全国婦人の集い中央会

五月二〇、二二日、東京で「男女の平等をめざして自立・連帯・行動」をスローガンに、同盟系約九百人が参加。職場の現状、これからの活動について語り合った。全体会、分科会では、男女の賃金格差が問題となり、労組独自の行動計画が強調された。(5・23読売/信毎)

国際看護婦協会第一六回大会

七十数か国の参加を得て成功裡に終了。

今大会の流行語は、プライマ

リー・ヘルス・ケア。医師から独立して予防看護やリハビリテーションに当たる看護婦の重要性が各国代表から強調された。西独では「開業看護婦」も発達、途上国では「はだしの看護婦」も。日本の遅れが感じられた。

(6・6朝日)

「私の声」北信北区集会

各立場の二十数人が信毎本社で集会。「社会制約の大きさ」「組織とのかかわり方の問題点」「甘え・家事中心(社会参加密度に個人差があるか)」等と語り、「国連の『婦人の十年』も残り八年。ボヤボヤせず力をつけて」と締めくくった。

(8・1信毎)

婦人国際平和自由連盟総会

八月一〇―一五日の六日間ブリンズホテルで二五か国から三

百人を集めて開催される。「平和の問題は政府だけにはまかせておけない」と六〇年間にわたり女性の立場から呼びかけている国連の外郭団体。「軍国主義は男女平等主義と真つ向から相対するもの」と。(8・10読売)

*

「人類を守るのは女性——私の考えでは女性がリーダーになって世論を起こし、世界を中性子煤得の危機から救うべきである」とマックブライド氏が演説。

(8・13朝日)

「生涯教育」の全国大会

生涯教育センター主催の大会が八月十日の三日間、オリンピック記念青少年センターで開かれ、八百人が参加。

家庭内の人間関係に悩む数人の主婦が、十年前、自分自身のエゴを見つめようとスタートしたこの会は、一人一人の内面的

な自己教育に重きを置いており、親の自己教育などが強調された。

(8・11読売)

離島婦人会議

第七回会議は、二七—三〇日、東京で、「物価対策と消費生活」「教育と後継者養成」をめぐって意見を交換。(9・27毎日)

世田谷婦人会議

国際婦人年を記念して発足した「世田谷婦人の会議」の第三回大会が、八日、世田谷区民会館で約七百人の主婦を集めて開かれた。

一番々瀬康子さんの講演のあと「現代文明と健康」「法律上の婦人の地位」など、六部会に分かれて討議。(10・9毎日)

“出産問題” シンポジウム

出産をめぐる不安や不満、問題点を、個人的なことで終わらせず、みんなで持ちよって、もう一度考え直してみよう——というシンポジウムが国際婦人年大阪連絡会主催で開かれた。出座にかかる費用のばらつき、まか不思議さに不満は集中した。年内に「出産白書」をまとめる予定。(11・3朝日)

家庭や慣習を考え直そう

労働省主催「日本婦人問題会議」が四〇〇人余りの女性を集めて開かれた。テーマは「男女平等と社会慣習」。自分の家庭生活、地域慣習などを考え直した。「自分の家、職場、地域など日常生活の中で自分も含めてみんなが繰り返していることで出来上がるのが社会慣習で、それ

は法や制度とはズレた部分を持っている。抽象論や一般論では解決できない」と東大教授の松原治郎さんはこの問題を整理した。(11・4朝日)

女性社長・重役連合会

女性社長・女性重役約千五百人が、「ビジネス社会における女性の地位の向上」をめざして会合。商工会議所婦人会の連合会が年一回の総会を開く。まだ就職の決まっていない女子大生、会場に行って就職運動してみた。(11・8毎日)

完全なる男女平等の国

中国婦人代表団を迎えて、横浜で中国婦人の実情を聞く会がもたれた。

「婦人は天の半分を支えている」という現実、婦人の労働参加・社会参加において男性と

全く平等、母性保護にも特に考慮が払われ、出産休暇は八週間の全額有給。授乳時間は午前、午後一回ずつ。その上に完備した保育所」に日本婦人はため息。(11・15毎日)

婦選会館一五周年の集い

婦人参政権獲得の記念と、理想選挙の普及徹底をはかる拠点として設けられた婦選会館の開館一五周年記念集会と講演会が一日、同会館で開かれ、市川房枝さんらと共に活動してきた婦人や同会館の市民大学講座で学ぶ若い人たち一六〇人が一五年間の歩みを振り返った。(11・16読売)

全米婦人会議を傍聴して

十一月一八日から二一日まで米テキサス州ヒューストンで全米婦人会議が開かれた。四日間

傍聴してきた河野貴代美さんの報告――。

壇上にずらり大統領夫人がそろい、全米から七千人の出席者という大集会。憲法に性差別禁止の項目を、レズビアンに市民権を、といった、より自由で平等な生き方を求めた二六項目の行動計画をめぐっての討論。反対派引きのばし作戦の、動議に次ぐ動議のなか、計画案通り承認されて終会。さて日本の私たちは次の世代に何を残せるか。

(12・2道新)

知った本当の育児

「子どもを預けるとはどういうことか」と問いつつ十三年間ユニークな保育室活動が続けて来た国立公民館が改築されるのを機会に、これまでかかわったすべての人で「保育室のつどい」を持つ。いま年間の利用児は四千。保育室は解放区という

と大げさかもしれないが、母子関係のあり方を問い、復権の望みを抱かせてくれた」と、ある母は語る。

(12・4朝日)

〔女性史〕

主婦手づくりの現代史採用

来年四月からの中学の国語教科書(教育出版社・新中学国語2)に青梅市内の主婦グループが足で書いた「多摩のおんな―手づくりの現代史」の一部が採用された。

(7・4読売)

初の「女性史のつどい」

「私たち自身の手で女の歴史を掘り起こそう」と各地に生まれた女性史研究会の第一回が名古屋市勤労婦人センターで二日間にわたり開かれ、一六〇人が参加した。相模原市史の編集者、北海道女性史研究会、兵庫県婦

人運動史研究会、京都婦人のあゆみ研究会などが発表、全体討論で「資料収集をまず重点に」と結論した。

(9・11朝日)

女性史研究、全道的に展開

昭和二〇年代、林屋辰三郎氏は、民衆史の発展のために、「地方・部落・女性」の歴史追求の必要性を語り、また高倉新一郎氏は、北海道の真の開拓史を、「女によって、もしくは女の助けをかりて」掘り出す必要を語ったが、なお女性史の分野はとりに残されてきた。そして三〇年たった今、北海道の女性史研究は、まさに女によって、女性自身の視点を基盤に全道的規模で展開されてきている。(桑原真人・北海道開拓記念館学芸部員)

(9・24道新)

分担決め歴史研究発表

今一度きちんと歴史を学び直したい。そんな思いで「国立団地歴史サークル」(会員二二人)が、月一回の会を団地集会所でもつようになって一五年。過去の歴史を客観的に認識しつつ現代をどう生きるかをそれぞれの立場で考えている。

(11・3朝日)

発掘された「女性史」

明治のなかごろ、将来を望まれながら渡米したまま、ぼったり消息が途絶え、その後、「娼婦に毒殺された」と伝えられていたジャーナリスト、立井信三郎が、底辺女性史の研究家、山崎朋子さんの調べで大正から昭和にかけて活躍した女流評論家、山田わかを娼婦の境遇から救い出していたことがわかった。またその死は、山田わかへの愛が

実らなかったための自殺と判明。

(11・9朝日)

〔戦争・平和〕

“東京ローズ”の特赦が決定

米・フォード大統領は一九日、第二次大戦中の対米宣伝放送アナウンサーで、反逆罪に問われ米市民権をはく奪された「東京ローズ」のアイバ・戸栗・タキノさん(六〇)の特赦を発表することになった。(1・19朝日)

引き揚げの記録を出版

「あゝ母なる国」を出した田端ハナさん(七〇)。舞鶴で援護運動の先頭に立ち続け「戦争の悲劇が忘れ去られてしまう」と私財を投じて記録集を刊行。

(5・1朝日)

女性の戦争体験記

「戦争の悲劇を再び繰り返さないために、戦時下の無名の女性たちの体験を若い世代に伝えたい」こんな願いから女性ばかりの手になる戦争体験記録の刊行運動が、京都市でスタート。来年一月には第一号が刊行される。

(10・31朝日)

卒業三〇年の記念誌

戦時中、旧満州大連で、濠掘り、貯水池づくり血まめをつくって働き、苦難の引き揚げでバラバラになった羽衣高女の十七回生が、戦中・戦後の女の歴史を一冊の文集に。(12・30読売)

〔消費者運動〕

消費者運動、一千万人に

関心事のベスト5は①安全性

②健康③物価④消費者啓発、教育⑤生活環境(ゴミ公害など)。

(1・31読売)

業者より強かった妻たち

年間三百トン以上の洋酒びんのほとんどを市が処理する川西市で、婦人による運動がみどり、サントリーに全品目回収を踏み切らせた。今後運動の輪を広げ、回収・再利用による経費増が値上げの理由にされないよう監視する。(2・21朝日)

放出野菜ほんとにあるのか

都が生鮮食料品の価格安定のため放出している野菜が店頭に見当たらない。港区の婦人調査員の自主追跡で。(3・6読売)

ソフトめんのポリ包装追放

埼玉県で全廃に決定。埼玉消

費者連絡会(代表・藤田佳津子さん)のママさんパワーに応えたもの。(6・2毎日)

建売住宅調査六七%は欠陥

〈主婦連〉は昨年十一月、東京、神奈川・埼玉・千葉で四百人の建売購入者を調査。六七%が「入居したら修理が必要」で悪質なものも多かったため建設省に消費者保護を申し入れた。

(7・27朝日)

子どものための消費生活講座

「夏休み子どものための消費生活講座」が板橋区消費者センターの主催で、小学五、六年生五二人は、「どうしたらテレビのコーマーシャルにまどわされないですか」とか「二セものジュースをどうしてみつけるか」などを聞いたり、ジュースをつくる実験をした。(8・3朝日)

不用品友愛セールの好評

不用になった衣料品や更生品の友愛セールが深川友の会主催で開かれ、主婦たちがワンサと集まった。(9・29道新)

ママさん人形劇団活躍

公害やゴミの問題、合成着色など、暮らしの中の消費者問題をわかりやすい人形劇にして子どもたちに訴えているママさん人形劇団がある。四十八年三月初演以来四年半、人形・衣裳・舞台装置、すべて手作り。脚本も母親たちの共同作業。ゴミ問題をあつかった「おこった神様」汚れた海をテーマにした「かっぱのかん平」などレパートリーは目下七つ。(11・12毎日)

化粧品品の景品付き販売規制

日本消費者連盟は、化粧品業

界が法に違反して景品付き販売を行なっている疑いがあるとして、公取委に取り締りの強化を要請、業界各社にも自主規制を申し入れた。(11・26毎日)

市民が選ぶ「良い医者」

関西消費者連合会と八尾市民消費問題研究会(ともに角田静子会長)は大阪高島屋前で「良い医者名鑑」を配布。両会が開設した「良い医者探し一二〇番」に市民から通報された「親切で良心的」な医者一〇三人をリストアップしたもののだが、医師会側はしぶい顔。(12・13読売)

「ボランティア」

ボランティアスクール開講

長野県社協は来月初のボランティアスクールを開講、即戦力を養成。(1・23信毎)

ボランティアの安定供給を

身障者や寝たきり老人、施設の子どものための支えとなって働くボランティアたちの質の向上と「安定供給」をめざす組織を民間ベースで作り出そうと「静岡ボランティアビューロー」が四月に発足する。(1・25朝日)

目の不自由な人のために

盲人のためのテープ図書館づくりを続けているグループ「松戸朗読奉仕会」はほとんどが主婦。ゆっくり、息長く、をモットーに活動。発足五年、テープも三七〇巻になった。奉仕と同時に自分にとっても勉強になったという人が多い。(2・9毎日)

老人へ毎日二回温かい給食

福岡市のベッドタウン春日市

福岡市のベッドタウン春日市

で始めて一年半。本人負担は月一万三千円。社会福祉協議会の事業で、大阪のように主婦のボランティアによるものではないが高く評価されている。(3・2朝日)

「ボランティア保険」四月から

活動中のボランティアのケガや第三者に与えた損害を保障する「ボランティア保険」が四月から試験的に実施される。年二百円の掛け捨てで最高百万円支払う。(3・3朝日)

女性美術館ボランティア登場

全国初の試みとして、北九州市立美術館ボランティアが登場。美術の鑑賞が三度のメシより好きという二〇代から五〇代までの女性三七名。三年間毎週一回の研修で美術史の専門的な知識を身につけたという彼女たちが

常設展示室に待機。入館者の求めに応じて解説やガイドを行なう。
(5・8西日本)

女同士黙っておれない、と

女性経営者や芸術家たちの奉仕団体〈東京ソントクラブ〉は、「ねむの木学園」の宮城まり子さんにバザーなどの収益金百万円を贈呈。
(8・11毎日)

〔文化〕

十歳迎えた「なるほど展」

婦人発明家協会は二十八年に設立されて以来、女性による発明の保護と育成、アイデアの商品化へのアドバイスなどを行っており、四十三年に、女性発明コンクールとして第一回「なるほど展」を開催、今年は第十回。この十年間に出品された発明品は二千点。うち百点は商品化さ

れている。
(2・18朝日)

若松賤子没後八〇年記念展

「小公子」などの初版本のはか明治女学校の寄宿舎規則など明治期の女子教育資料も。東京シミズ画廊で。
(2・25読売)

職能専門高等学校入学式

身体不自由児たちの教育施設「ねむの木学園」(宮城まり子園長)が六日で十年目。学園内でモノをつくり、成人になっても生きることを保障できる施設。その一歩が職能専門高等学校である。
(4・7朝日)

水着の一世紀展

米国から届いた一世紀にわたる五七点を含めて、女性の水着展が開かれている。

「女性のからだを公にしてい

くプロセスが、女性解放の進展と並行していて、それが西洋における女性解放を如実に反映している」とメトロポリタン美術館衣裳研究部ブラム女史。
(5・25朝日)

ごりょんさんの慰労会

博多山笠は男の祭り。期間中は商売も裏方もごりょんさん(奥さん)まかせとなる。それをねぎらって慰労会が。
(7・10西日本)

ミニ町会図書館十年に

江東区大島中央町の町会図書館は、同町に住む母親たちの協力でオープンして十年。区立図書館まで足を運べない幼児や低学年の子どもに喜ばれ、本を通じて「親子の断絶」もなくなつた、と父母から感謝。

(7・28毎日)

ママさん「演劇五輪」へ

モナコで開かれる国際アマチュア演劇フェスティバルに柏原演劇研究会の「ママさん俳優」七人が出演。夫はボリーナスをはたいて快諾、子どもは家事を引き受けた。
(8・14読売)

託児室つき音楽会

音大を出て、音楽教室を開いている〈グルッペ・クーゲル〉のメンバー岡さんたちは、若いお母さん方にも安心して音楽会に来てもらおうと、保母さんと託児室を用意した音楽会を二日に開く。室蘭で二度目の試みだが、一度目は大好評で、室蘭の文化向上に役立つ試みと期待されている。
(10・3道新)

お母さんの人形劇団

人形劇の好きな主婦九人で作っ

ている劇団〈星の子〉。練習と家事との両立はたいへんだが、子どもたちのキラキラ輝く目に会おうとそんな苦労はふつとんでしまふ。

(10・13朝日)

日本女性の素顔を紹介

婦人問題取材する外人記者の参考に、映画『ザ・ライフ・オブ・ウィメン・イン・ジャパン』(企画・財団法人フォーリン・プレスセンター、製作・インタナショナル映画)が完成した。働く女性、趣味を楽しむ主婦など、いま生きている日本女性の全体像をデータを中心に描いたもの。

(10・21朝日)

男子禁制の図書館

「主婦の友」初代社長が開館した「お茶の水図書館」が三〇周年を迎えた。一般用七万冊のほか、徳富蘇峰の七万冊、佐々

木信綱の二千冊も収蔵、利用度の高い一万冊を常時展示している。年間利用者六万人、その七割が女子大生、もっと主婦や〇しに利用して頂きたい。「教養の集い」も随時開催している」と、館。

(12・1毎日)

太田洋子の文学碑

被爆体験の記録「屍の街」などで知られる作家、太田洋子(一九〇六—六三)の文学碑をゆかりの広島市に建立する計画が具体化し、募金活動が始まった。

(12・20朝日)

「スポーツ」

女性マネージャーを探せ

最近、大手企業の運動部に女性マネージャーが大活躍中。教育ママに育てられてきた若者が多いせいか、女性にシリをたた

かれなければファイトがわかないのだという。

(3・28毎日)

女子ソフトボールブーム

ニュージーランドの女子チーム「バババ」が来日。日本の女子チームと対戦。ママさんチームやクラブチームの春季大会もたけなわ。

(4・22朝日)

婦人団体も五輪誘致を陳情

札幌が八四年冬季五輪の有力な候補地となったことから再誘致運動が活発化。札幌市婦人連絡協議会と道婦人スポーツ連盟も誘致を陳情した。

(5・3朝日北海道)

増えたツヨイ女の子

ビューティ・ベアの所属する目黒のジムでは少女たちが髪ふり乱し「ギャー」「ウォー」。小

四から四〇歳の主婦まで入門者百人。「それ、やつつけろ」と声援が……。

(6・11毎日)

増える女子マネージャー

女高生の間で人気上昇中なのが「野球部マネージャー」。東京大会出場の都立八八校も半分は女子マネ。「蔭の人」だが「参加できる喜び」で人気。

(7・16朝日)

少女野球チーム

その名も〈中央レディース〉。群馬県前橋市の少女チーム。いままでの対戦成績は二勝三敗。練習は毎日曜日、約二時間、しばしば監督のカミナリが落ちる。

(8・24読売)

女サッカー先生大奮闘

群馬県前橋市の明和女子短大

付設幼稚園教育養成所ではサッカーを授業にとり入れている。

「女子がサッカーをやるなんて」と反発されたが、四年前に開設。任地で幼児相手にサッカー教育を試みる卒業生もいて、サッカー熱の「底辺」を広げるのに一役買っている。
(8・24東京)

女子百米自由で五九・九秒

秒を実現。

(8・26各紙)

少女野球チーム奮戦す

女流剣士も熱戦を展開

山崎幸子さん(一五)が日本で初めて一分の壁を破った。世界記録は五五秒六五。
(7・27各紙)

全道警察柔・剣道大会に交通巡視員ら一六人の「女剣士」が技を競った。
(10・8道新)

札幌の「北海ベアーズ」は道内唯一の少女野球チームだが、結成三か月で対少年チームの成績が二勝一敗。来夏は初の「全国少女野球大会」に出場する。
(10・10朝日北海道)

前回はストップウォッチだったが、電気時計でも五九・九〇

子供のための消費生活講座

「CMにまどわされぬ知識を」



不公平税制をただす会

国民運動へあす旗揚げ
五十団体が結集
勤労者・消費者 婦人ら
人権訴えて
六百・行進
デモ行進
アムネスティ
日本赤十字社の活動・活動
日本赤十字社の活動・活動



高い実用性自慢

入賞作品など200点

きょうから
新展で

女性らしい發明いっぱい
10歳迎えた
なるほど展

風潮

〔時の流れ〕

幕開けた『枯渇の時代』

あれもこれから、あれかこれか、選択とケチケチの時代へ。

(1・1読売)

宝塚レビュー五〇歳に

身長平均約一六三、入学七・二倍。再びブーム(1・4読売)

古い、今年も女性にブーム

街の運命判断の客の七一八割

が女性。ヤングからミセスまで
家庭の悩みが半数。

(1・12道新)

チヨコレイトがモテモテ

二月一四日は「バレンタイン・デー」。「女性が男性に愛をうちあけてもいい」日に、ハート型チヨコレイト四百円から五百円が売れて、売れて……。

(2・5読売)

バストは女性の武器か?

女性下着メーカー主催のシン

ポジウムが一八日東京会館で。

「大小を論じる根本には男性支配の社会がある。大きさを決めるのは自分でいい」——野坂昭如氏ほかの意見。(2・21朝日)

高校生の美容講習に波紋

資生堂は四八万人、カネボウは女高生四〇万、男高生一〇万人対象に実施中。日本消費者連盟のアンケートに「中止させたい」と答えたのは京都・福井の二府県教委のみ。文部省は「学校が判断すること」と例によって見守る構え。(3・2朝日)

女性の検事志望ふえる

昨年の司法試験合格者のうち女性は、八・四%。その大部分は弁護士志望のようだが、検事志望もふえている。

「いまだに女性検事が話題になるようでは女性の地位後退では」と市橋千鶴子さん。

(3・8毎日)

「花の機動隊」発足

フケイトッキ―婦人警察官特別機動隊の発隊式が二六日、北の丸公園で行なわれた。二〇一

人、平均年齢二歳、婦人・老人・身障者のデモの警備に。

(4・27朝日)

「女、釣ります」で繁昌

デパートの売上高は、期間中二〇万人を動員するカメラショーよりも、その半数の生花展のほうがぐんと高い。

とかく女性には「衝動買い」に走りがち。そこでエレベーターやエスカレーター付近にはプラタポルテや総しぼりを並べる。「あらっ」「見るだけなら」から購買にエスカレートする。各フロアごとに甘いものの店を設置し、安価にしているのも女客の引き止め策。(5・13朝日)

自立している未婚の母

戦後二〇年、激減した母子家庭がまた増え始めた。しかも死別の割合が減り離別が増えている。

る。しかし経済的に自立し、相手との結婚や援助を期待しない「見上げるような」未婚の母たちも増えている。(5・21朝日)

「いのちの電話」七割が女性

身近な人間関係のかつとう、ざ折などあらゆる相談に二四時間応じてくれる「いのちの電話」。女性の相談が七割を占める。

(5・28朝日)

キャンディーズ解散宣言

人気コーラス・グループ「キャンディーズ」の三人が、渡辺プロの製作部長とともに記者会見。「今年の秋でグループを解散し、芸能界を引退したい」。

(7・19朝日)

ホステスを捕えてみたら

「せつ」盗罪は十年以下の懲役。

でも初犯だから執行猶予つき？

起訴猶予は無理でしょうか「白屋のひったくりで捕えられたホステス(三)の言に刑事がびっくり。調べてみると、夜学の法学部に学び法律家をめざして猛勉強。離婚し子を引き取りホステスに↓月商一四〇万、しかし立替金が多く「盗んでも金は払え」と言われ「警察に捕まれば私の苦しみは店にもわかると思っ

て」という経過がわかった。「金がほしかったのではなく、ハダに合わないホステス稼業とスバリ縁を切りたかったのでは」と同情的な刑事も……。

(10・9毎日)

OL気質

住友商事の社内誌「こみゅにてい」(十月号)の(女子社員対象のアンケート結果)によると一か月の貯金高は、三万円から四万円という人が約四割で最

も多い。小遣いの使いみちに「書籍」の購入をあげている人は一五%と少ない。

(10・26朝日)

つきあいの中のイエス・ノー

必要な時に「ノー」と言える本が引っ込み思案の主婦の間でひっぱりだこになっている。B〇C出版「自分を変える本」。

「推測」が交際の技術になっている日本の社会、「ノー」というのは大変。

「ただノーと言え、というのは無理。主婦も自分のやりたいことを見つけるようになってこそ相手のことも自然に考えるようになるのでは」と武田京子さん。

「考え方や生き方が多様化して、家の中でもイエスカノーかをはっきりしなくてはならなかった」——白石浩一さん。

(11・10東京)

床屋さん続々美容院に転身

長髪の流行以来、男が美容院に。そこで理髪店が大挙して美容院に転業、女性経営者が大多数だった美容業界に男が進出し始めた。中には材料も商品も共同購入するSPCも登場、パーマ三八〇〇円の格安料金、カットもいいと主婦たちにも好評で、今や理美容業界はホットな戦い。

(11・27読売)

こうるさい独身古参OL

「必ずおうかがいを立てないとヘソをまげられイジワルされる」と男たちをおびやかしているOLが多い。「しかし女房にしてみたら会社で鍛えられているので、姑、小じゅうとの扱い方がうまい」という夫からの声も。

一方、男性たちも酒を飲めば上司の悪口、口うるさい、人を

軽べつするなど、サエない男が多い。(企業の中のしゅうと・しゅうとめ)(12・13、20毎日)

「翔んでる」が流行語

自分自身に正直で、精神面でもセックスでも充足を求める女を追求して、アメリカ・ヨーロッパでベストセラーになったエリカ・ジョンズの『翔ぶのが怖い』が、日本でも五〇万部の大ヒット。以来、「翔ぶ」が大流行。

「何か変わりたい」という焦燥感が社会全体にあるのでは」と「MORE」の編集長は分析。

(12・21朝日)

人生案内この一年

例年どおり多いのは夫婦の問題。夫が無口でいやだなど、女の要求過多もふえた。安易な早婚離婚。子どもの扱いに悩み、生きがいを求める……。サラ金

の問題が多かったのも今年の特徴。(12・31読売)

【主婦】

開かれた家事へ

京都に残る「家事暦」によると昔は男の家事分担もあり、男の値打ちを子に教える機会になっていた。七七年はまず休日から改革を。(1・5読売)

自転車放置は主婦が大半

「自転車放置」に悩む小平市が同市内六駅に放置された自転車の実態調査をしたところ、目立ったのは、二、三〇代の主婦のモラルの低下。わずかな距離でも歩こうとせずに自転車で駅まで乗りつけ、歩道や道路にいたりかまわずとめる傾向が。

(1・7毎日)

女性のアルコール患者ふえる

夫や家族を送り出してからチビチビやったり、夫の帰りを待ちながら飲んだりの主婦が増加。

(1・13毎日)

主婦をとらえた個性

昨年二月にNET系で始まった『徹子の部屋』が好調だ。主婦の心をとらえているのはインタビュアーの女優、黒柳徹子。

「世の中、変わってきたなあ」そして「主婦のみなさんが、パーソナリティー(個性)を大事にして下さるようになったのが最高にうれしい」と本人。

(1・20朝日)

テレビ界、主婦層に巻き返し

女性べっ視とリブにしかられたりして、各局ともここ一、二年屋メロと決別の姿勢だったが

「女の性（さが）路線」が再び流行の気配。リブ路線よりも主婦路線。テレビドラマは時代を映す鏡とか。（2・26朝日）

「家計簿」に男性も入選

第二三回目の「わが家の家計簿」体験談入選四八編に男子三人が含まれた。なおことはサラリーマン家庭の主婦が昨年の四七%から六七%にふえ、年代は四〇歳代が増加。（6・11朝日）

がっちり計画性ヤング主婦

東京新聞主催の第二三回「わが家の家計簿」作文コンクールの入選者が決まった。今回は新婚の主婦の応募が多く、節約第一の傾向が薄れている反面、見事に「計画経済」を導入。（7・9東京）

主婦の一坪ショッピングが流行

一度でいいから、小さなお店をやってみたい——そんな夢をくすぐる「主婦の軒先商法」が大変なブーム。（8・21東京）

悩みは深し長男の妻

「夏に心乱れる長男の嫁」「親と同居しない兄夫婦」の二つの投書に六〇通の反響が。長男の妻の立場に苦しみつつも妥協点を探す姿が深刻。（9・4朝日）

「農協若妻の主張」発表大会

県農協婦人連盟と県農協中央会共催の「農協若妻の主張発表大会」が静岡県農業会館で開かれた。審査の結果、伊豆中央農協若妻学校の関森静子さんの「農業に勇氣と自信を」が優秀賞に、藤枝市若妻学校の寺田千

恵子さんの「農村の新しい女性像を求めて」が優良賞に選ばれた。（10・7静岡）

当世「嫁・姑」

エリート校からエリート企業に入った息子が、高卒で読書よりあみものが好きな妻を選んだことが母は気に入らず猛烈な嫁教育を。妻と母の両方からグチを聞いた彼は嫁教育をやめるよう母に言ったが事態は悪化、嫁は実家に戻った。

海外に赴任することになり妻を伴おうとしたところ母が激怒、高血圧で入院。息子は妻を母の看病のために残そうとしたので妻は離婚を申し立てた。家裁は看病は家政婦にまかせ、妻とともに赴任するよう調停したが、「今日あるのは母のおかげ、妻の選択を誤った」という「幼な夫」に妻は失望、離婚した。親が離婚のフィクサーである

家庭がゴロゴロしている。

一方、姑いびりも盛ん。E子は「母は長男がみる」という約束を信じ次男のSに嫁いだが母はSのもとに來、トラブルに。

そこで兄夫婦と四者会談を開き、母を養老院に入れ、費用を兄夫婦が持つことになった。母はそれを拒み、一時別世帯を持ったが結局は養老院入り。

別の例では、共働きの小学校教師。家事をみる姑に感謝していたが、子が生まれてから育児をめぐる衝突。姑は養老院行きを申し出たところ、あっさり受け入れられ大あわて。家庭相談員は「いずれ世話になるのだから体の動くうちは息子夫婦に従え」と説得した。

最近の若夫婦は自己中心的。姑は「うば捨て」か「内助の功」以外生きる道がない。カウンスラーたちは口々に言う。「夫は何をしてるのでしょう！ 気の毒な姑がたくさんい

るのに呼び出してもすっぱかす男が多い。妻に母をまかせきり妻の手に余ると今度は家庭相談員にオンブ。ダメ男がふえた」(ああ嫁・姑)(10・11―25毎日)

七七年の主婦の投書
読売新聞の主婦の投書欄「赤でんわ」に七七年に寄せられた投書ベスト3は「子どもの自殺」「主婦の生きがい」「老後」。その中にそれぞれ不況の影が……。

(12・31読売)

〔結婚・離婚〕

企業グループが結婚相談所

主婦の間に社会参加を望む声が大きくなっているが、いくら施設を作り、機会を整えても重い腰が上がらないことにはどうしようもない。問題は心構え。心の錠前のカギをとくことが必要。

今、アメリカでAIAというグループダイナミズムを使った教育訓練がさかん。「できっこない」「どうせダメ」の消極的態度を積極的・建設的なものに変えていこうとする試み。日本でも主婦層や女子社員教育にとり入れられ始めている。

(11・2日経)

日産自動車・日立・丸紅・富士銀行など四一社が会員になっ

て結婚相談の「芙蓉ファミリークラブ」を設立。登録料二万円。三菱グループ、三和グループですでに好評。企業離れが進む中の皮肉な現象。(3・2朝日)

男もお色直し時代

最近の披露宴では花婿のお色直しが常識化した。多いのは白

のタキシード。だが「バンドマンは裏へ」なんていわれる人もいる。イヒヒヒ。

(鯨岡阿美子)(3・14朝日)

親の離婚テーマに

両親の離婚問題をテーマにした児童文学書がふえている。たとえば『星に帰った少女』。ファンタジーの中に重いテーマを。

(3・26毎日)

二五組合同銀婚式

金婚式センターではゴールドシンウィークに二五組を無料招待した。手軽に男女が結ばれる現代の風潮の中で、結婚式そのものの意味を考え、銀婚、金婚といった人生の節目をもっと大切にしようという企画されたもの。

「終戦の混乱がまだ続く中で、結婚式をあげるどころではなかった」と参加者。(5・1朝日)

『男女の愛』 中学の教科書に

ヤコブレフ作「花むこと花よめ」など、男女の愛をテーマにしたものが国語の全教科書に登場。「愛にふれることがタブーでなくなった」と東京都教育研究会議は指摘。(6・20毎日)

老人ホームで結婚式

軽費老人ホーム清和荘でお年寄り同士のロマンが実り、初の挙式。(8・25空知新聞)

〔くらし〕

「足」の値上げ目白押し

運輸省は、政府が運賃値上げ抑制を打ち出さない限り、「足」の値上げを認可する方針。まず六大都市のタクシー運賃値上げを一月下旬か二月中旬に(基本運賃三百円台)、営団地下鉄、都

管地下鉄の値上げを三月下旬か四月に認可。また、東京都部の民営バスと都営バスの値上げ、航空運賃、国鉄の再値上げ、私鉄の値上げなども予定されており、国民は一段と暮らしくい年になりそうだ。(1・3朝日)

物価は一四・六%上昇

国民春闘関連は、労働者の家計から見た独自の「物価指数」と最近の家計の収支状況を発表。社会保険料の引き上げなどのため、これらを織り込んだ実際の「物価指数」は昨年十月の調査時点で前年同月より一四・六%も上がっていた。(1・19朝日)

消費者物価〇・六%押し上げ

倉成経済企画庁長官は二〇日、国鉄運賃、電話基本料金など五二年度中に予定される政府予算関連の公共料金の値上げ(国鉄・

電話・医療費など)が消費者物価を〇・六%押し上げる、との見解を明らかにした。しかし同長官は「全体としては物価への悪影響はない」としている。

(1・20朝日)

物価安定というが

東京都の消費者物価指数、前月より〇・六%、前年同二月より九・三%アップと発表された。生活経済研究所の主婦会員たちの生活実感指数調査では、一三・八%と出た。

(3・16読売)

〔衣〕

働く女性のハンドバッグ

店頭には、さまざまな色、デザインのパックが並んでいるが、これといったものがない。男性用のビジネスバッグを使ってい

る編集者もいる。「女の人の職業がちゃんと認められれば、バッグもバラエティーに富んでくるのかもしれない」と鯨岡阿美子さん。

(4・9朝日)

女性用反物にもＬＬ判

着物一反の横幅は男物で二尺、女物で九寸七分がここ十年来の寸法だが、ＬＬサイズの一尺ものが誕生。ＬＬ判にふみ切った八王子市織物工業組合は「消費者からの要望もあるが、販売拡張の意味合いが強い」と説明。

(5・22読売)

ベビー用品が好評の交換市

旭川市消費生活センターで三年前に始めたダイヤル交換市では子ども用品の交換が好評。ムダを省くためにもどしどし利用してほしいとのこと。

(7・20朝日北海道)

男のものもみんな女のもの

シャツでもジーンズでも気に入ったものがあれば男のもでも平気。大きいほうが楽だし、色・柄も豊富——強い女たちの勇氣ある行動が普遍化しようとしている。女子プロレス、樋口久子など、「強い女」が人気の時代。

(8・24朝日)

ふえた「男のハンドバッグ」

男性服がポケットを減らしスリムになったため、世界的に流行。女性用とのちがいはカギがかけられることか。

(9・7朝日)

〔食〕

お米もって食べて

国民のごはん離れで米が余る状態が続いているため、食糧庁

は一八日、米をもっと食べてもらう対策を新年度から始めることに決めた。小・中学校の米飯給食を大幅に伸ばし、米を原料にした新しい加工食品を開発するメーカーに、原料米を無償で提供するなど。(1・19朝日)

「チクロよりこわい」ワラビ?

ワラビ、フキノトウから発がん物質が発見され、同様に焼き魚、焼き肉の「こげた部分」からも。「天然食品とはいえ安心は禁物」と国立がんセンター研究所の河内卓・副所長。とはいえ、やたらに心配するより、その度合い、含有量を判断して「付き合う」ことが大事だろう、とコメント。(10・30朝日)

おせち商戦、様変わり

主婦の腕のふるいどころだった「おせち」だが、デパートで

のセット売りに予約殺到。一三万円が飛ぶように売れている。「女性が無精つたらしくなったということですよ。それも学校給食に起因する」(池田弥三郎)「今や食べ物というより飾り物、買うほうが合理的。当然の成り行きですよ」(俵 萌子)(12・28読売)

〔住〕

宅地造成に女 “意見番”

昭苑興業という、千葉県下で宅地開発を手がけている会社が、「人と住まいを考える主婦会議」のメンバー七人とモニター三〇人を募集。報酬は、メンバーが週一回の会議参加で月十万円、モニター一万円。任期は一年。家の主役、主婦をねらい、不動産関係のトラブル解消も期待される、というのがねらい。二千人の応募の中から論文、グルー

プ討論と面接で七人が選ばれた。(1・14朝日)

主婦がつくったモデルハウス

「人と住まいを考える主婦会議」のメンバー主婦七人は宅地建物関係の法令や業務の勉強を続け、今では専門家なみの力量。一年間の研究成果として、モデルハウスを近く完成。(11・6朝日)

〔雑誌〕

ことしの編集方針

今年の編集方針を各誌の編集長にきく。

『女性自身』の年間テーマは働く女。『週刊女性』は、「夫のつかまえ方」から「男との別れ方」への路線を。(1・10朝日)

女が作る「週刊さちじょうじ」

二種住宅で約二四％の引き上げとなる。(1・25朝日)

女子大生専用マンション

横浜、十階建て、大半は二人部屋で食費・管理費とも六万七万二千元。男性は父兄とも立入り禁止。(2・9朝日)

公営住宅の入居収入基準引上げ
全国一五五万二〇〇〇戸の公営住宅の入居基準が二年ぶりで改定されるとともに、老人、障害者などをかかえた世帯や、老人、障害者、寡婦への新たな控除制度が設けられることになり、閣議で正式決定される。
収入基準の改正は、最近の勤労世帯の収入増に合わせたもので、第一種住宅で約三二％、第

全員女性記者というこのミニコミが百号を迎えた。発行部数

一万。読者は若者や主婦。記者は中学三年から四七歳の主婦まで「パート」の八人。一部三〇円。二、三日で売り切れる。

(2・10 毎日)

婦人誌「戦国時代」へ

ベビーブームの世代が読者年齢になり急旋風。家事を夫と共有し生活を楽しむ「ニューファミリー族」を対象に「あるる」「クロワッサン」「MORE」三誌が誕生する。(2・28 朝日)

多様化時代の三誌

三誌とも、これまでの「主婦」というイメージではとらえられない考え方・行動様式をもつ女性と、家事に興味をもつ男性が対象。(3・25 毎日)

「自立」うたう二女性誌創刊

男の作り上げた社会を女の目

で見直そう——という「フェミニスト」と、これまでの「主婦」ではない新しい女のイメージを訴える「わたしは女」。

(7・31 東京/8・20 毎日)

女性誌に「晩秋」

一千万部、七〇種近い雑誌の約七〇％は女性雑誌だが、「ノラ」は四か月で廃刊。「アミカ」「すてきなお母さん」も廃刊の運命。過当競争の上、編集のまとをしぼりきれず。

(11・19 毎日)

〔性〕

少女むしばむボルノ

「街頭ボルノ」と異名のついた雑誌を自動販売機で買う少女がふえている。(1・7 読売)

ボルノ自販機、追放へ

ボルノ自動販売機の設置がふえ続け、奈良県を筆頭に他三県も規制へ。一方、規制は「表現・出版の自由」の侵害という声も。「規制より性教育が必要」と朝山新一医博。(3・10 毎日)

「性」に困惑、スポーツ界

セックスチェック(性別検査)をテニスでも始めた。性転換して女性になったテニス選手が、イタリア、フランス両オープン、に出場しようとしたためで、染色体検査をした結果、いずれも「男性」。本人は「女だ」といい、性の問題がにわかにクローズアップされた。(5・31 朝日)

女性側の性の証言

全米に十万枚まいいたアンケート調査で回収された三〇一九人

(一四歳―七八歳)の女性の側からのセックス・レポート『ハイト・リポート』の著者、シェアー・ハイトさんが来日。

「男性支配の社会の中で、いろいろな形で女は毎日傷ついている。特に、性は男性がつくり上げた神話のもっとも強い部分」「性はひじょうに個人的なもので、自分の肉体に対して自分個人が主導権や選択権を握ることが大切なことだと思う」と語る。男性側の性の証言も、三年後にまとめる予定。(7・3 朝日)

街頭のボルノ一掃をはかる

東京都中野区に環境浄化推進協議会が発足。不良雑誌を売る自動販売機の乱立に、小中学校のPTA連合会をはじめ、青少年育成地区委員会など約三〇団体が加盟。不健全な看板や出版物、自然破壊などに監視を強める。(12・7 朝日)

調査・統計

〔労働〕

現代男性の「あこがれの職業」

ベスト10は①一級建築士②機械工場の技師③牧場主④従業員三〇人ぐらいの会社の社長⑤同

千人の大会社の社長⑥同十人の町工場の工場主⑦普通の商店⑧大会社の課長⑨開業医⑩弁護士。

特殊法人雇用促進事業団職業研究所の調査で。(1・11読売)

大卒女性の職業生活

職業研究所婦人雇用研究室が

昭和三十五年に大学を出た女子を調べた結果は、十五年間退職せずは一五%で、残りは結婚・出産退職。八年目からは内職希望が急増。「子どもができてもあるが」。(2・25読売)

活発な婦人の社会参加

民間放送教育協会が、昨年十月に送った視察団のレポートがまとまった。テーマは「婦人の自立」。

ポーランドでは学校の先生は九七%が女性。スウェーデンでは小学校で、「男の仕事、

女の仕事」という考えをもたせない教育。(3・15毎日)

女性の就業者増

昨年一年間平均の労働力調査によると、女性の就業者が二三十万人増えた。これは、「家事のかたわら仕事をする女性」が多くなったため。(3・18毎日)

劣悪な家内労働の現状

約一六二万の家内労働者のうち九三%は女子。一時間あたり平均二五〇円の工賃。月平均二

万七九〇〇円。家内労働旬間がスタートしたが……。(5・20読売)

女の多い企業ほど株価が高い

①女性は結婚退社などにより回転が早く平均年齢を若く維持できる。②賃金負担は相対的に軽くてすみ、従業員の若さが企業の活力となる、と野村総合研の調査から。(7・24西日本)

主婦の内職

県下の内職労働者はほとんど

女性で約三万二千人。一時間二百―三百円以下で一日就業時間四―六時間が多い。女性の平均月収約二万六千円だが「外に出られないから」の理由が多く、年代は三〇代が四二％で最高。技術講習に殺到、「目標をもつ組」と「何もしないよりは組」があり、以前の暗いイメージは消えた。(8・2―10信毎)

女性失業者一七・六％増

政府発表の六月分労働力調査では失業率二・〇八％で、石油ショック後最高。特に女性失業者は前年同月比で六万人増。(8・10読売)

大幅に増えたパートの比重

労働省が五十一年度雇用動向調査をまとめた。

就職率は前年を上回ったが大半は臨時、日雇い。特に女子の

新就業者の三分の一、二一万人はパートとして就職、前年に比べパートは四六％の大幅増。企業は正規の常用労働者を敬遠、パートを中心とした女性で雇用をまかなおうとしている。(8・14読売)

労働力移動に関する実態調査

二六日の通産省の発表によると、産業界は①女子従業員を中心に人減らしが活発②三社に一社が配置転換を実施など、四十九年から五十一年度にかけて企業の「減量経営」が進行していることが明らかに。(9・27朝日)

冬のボーナス予想は？

富士銀行ではサラリーマン家庭の主婦や独身男女あわせて八千人にボーナス予想調査を。去年より増えそう三五％、減りそ

う八％。使いみちは、貯金八七・二％、買物七七・一％、旅行・レジャー四六・六％。三世帯に一世帯の割合で住宅資金の積み立てをしている。(11・12毎日)

「女性の意識」

社会慣習を見直す婦人週間

昨年の総理府の調査によると、男女の地位を平等にするための方策について尋ねたのに対し、「古い封建的な慣習をなくすこと」という回答がトップ。女性の社会進出を阻むものに、社会慣習の無言の圧力がある。だが、その強調が逆効果の場合も。不合理な社会慣習を乗り越えて活躍している女の実例を示すことも必要。(4・13朝日)

十年後の婦人像は？

十年後の婦人の地位や社会参

加の形はどうなっているか――内閣審議会が各分野の男女専門家にアンケート調査。

それによると女子の四年制大学進学率は現在の三倍近い二一％、大卒女子を採用する企業がふえ、組織の中で責任と影響力を持つ地位につく婦人も増加する。離婚はやや増加。婦人議員は現状の二％からもっとふえ一％が目標と。(4・16朝日)

*

各分野の専門家対象の総理府調査(過半数が五〇―六九歳で、女性九・八％)の回答にみる女性像は、進学、就職、育児期間終了後の社会参加率こそ増えるが、あくまでも「男は仕事、女は家庭」の分業路線。女性たちの描く十年後と一致するか……。 (4・29信毎)

女性の仕事を持つべき

八王子婦人センターは「婦人

の意識調査」をまとめた。「婦人の生きがい」は有職者で「趣味」三三・五%、「仕事」二二・七%、無職者は「趣味」三六・一%、「家庭と家族」二四・三%。

「女性の地位向上は何によって高められるか」は「婦人が自覚し積極的に教養を高める」が二九%、「男性の理解と協力が必要」一九%。

「職業を持たないほうがよい」と答えたのはわずか一%そこそこしかなかった。

しかし、回答者の半数以上が希望している「子どもが大きくなったら再就職したい」については、現実問題として難しく、これに積極的に取り組まなくては、とセンター所長の中橋美奈子さん。

(6・16朝日)

女性の意識と女性を見る目

「女の子は小さい時から女ら

しく」の肯定者は八九%。「家風にあわれない嫁は離縁されても仕方がない」という意見も一七%。

埼玉県地域婦人会連合会の「農村婦人の意識についての再調査」で。

(9・5東京)

私が結婚したら

「毎朝クツ磨きます」六三・九%、「着替え手伝います」五八・五%、「耳そうじします」五一・七%、「肩をおもみします」六六・九%。そのほか「帰宅を寝ないで待つ」「愛情弁当を毎日つくる」など、どれも五〇%以上。半数を割ったのは「先に入浴しない」四六%、「ツメを切ってあげる」三四・八%だけ。

東郷記念館がウェディングフェアに来た未婚女性三〇二人をアンケートした結果。

(10・20毎日)

【結婚・離婚】

離婚率は昭和の最高

厚生省の五十一年度人口動態統計によると、四十六年ごろより減り始めた婚姻率がさらに減って、戦後最低の七・七になった。

一方、離婚は三十年代半ばよりぐんぐん伸び続け、ついに十二万件を突破。離婚率千人当たり一・一一組と、昭和の五〇年間で最高の数字となった。離婚の特徴として、永年連れそった夫婦の離婚が多いことがあげられている。

(1・1朝日)

何を意味する離婚率増

厚生省発表の五十一年人口動態統計調査結果(推計)で目をひくのは離婚の増加。十二万四千件。離婚率一・一一で戦後最高。特に結婚二〇年以上の層は昭和四十年の倍という激増ぶり。

若い層に刺激されたという説もあるが原因は不明。だが一%に未成年の子があり、ほとんど母が引き取る。(1・5読売)

働く妻の離婚減る傾向

アメリカの場合も、共働きの方が育児や家事、夫の世話などがおろそかになり、離婚率が高いと思われており、最近の離婚の増加は働く女性が増えたためと結論する向きもあるが、カリフォルニア大学の社会学者エルウッド・カールソンが一九五〇年、六〇年、七〇年の国勢調査の雇用と結婚状態について調査した結果、離婚は仕事を持つ女性の場合、減少していることがわかった。

(1・8朝日)

新婚旅行、主導権は女性が

行き先は、九州が関西を抜きトップに。費用は三〇万円以内

で、十組に一組は外国へ。選択の主導権は女性が握っている。

―日本交通公社札幌支店の報告

(1・11道新)

男女学生意識調査——名城大

結婚の理由は精神安定のため

がトップで男四四％、女三六％

同棲賛成は両性の約半数。

将来自分の趣味にあった暮らしを、が女六六％、男四四％。

男の九五％、女の八九％が就職希望だが、「結婚してからも

妻が働き続ける」は男三四％、

女一八％。子の成長後の再就職

希望は六五％。(2・19朝日)

花むこの九割が「お色直し」

東京のマツヤサロンが昨年挙

式した七〇八組を調査した結果

では花むこの九割が紋服から白

のタキシードに着替えていた。

米国の夫の半数は妻に暴力

「最も知られざる犯罪」ワイ

フ・ピーティング(妻殴打)の

ショッキングな緊急報告が女性

上位の米国で発表された。

“なわのれん”がない国の欲求

不満解消法か。(7・14朝日)

結婚のお値段三〇六万円

結納・住宅・着物等の費用を

除いても、両家で三〇六万一〇

〇〇円かかる、と三和銀行女性

調査グループが発表。前年の七

％アップ。結納等を含めると男

側三三万八〇〇〇円、女側二

三万九〇〇〇〇円で男女差はほ

とんどない。新婚旅行は三組に

一組が海外。(9・21毎日)

結婚のパターン

挙式は親がかり、旅行は自前

で海外へ、できれば家事と仕事

を両立させたい、恋愛結婚八五・

三％、親と別居七〇・五％――

「ニューカップルの行動から見

たライフスタイル」(商品科学

研究所と組織工学研究所の共同

調査から)。(11・15読売)

日本の夫婦像

結婚後の男女の望ましい夫の

あり方は「家庭第一に考える」

四四％、「仕事を第一に考える

夫」四二％。仕事より家庭とい

うマイホーム主義が、全般的な

傾向。(NHK放送世論調査所

が十月に実施した二〇歳以上の

男女三六〇〇人の調査で)。(12・1日経)

〔主婦〕

生涯学習調査

日本余暇学会が行なった、受

講生対象の「生涯学習調査」に

よると、受講生の八八％は女性

で、五五％が主婦。年齢別では

四〇歳代が三三％を占めた。

(1・19朝日)

商品・物価に主婦は不満

主婦の五人に二人が購入した

食料品や衣料品に不満を持った

り被害を受けており、五人に四

人は物価に不安と不満。――国

民生活センターの三千人アンケ

ート調査で。(6・1毎日)

OLより主婦が読書好き

富士銀行がサラリーマン・OL・

主婦九千人にアンケートした

結果では、読みたい本は男性

が政治・経済・法律。女性は外

国小説や生活・育児・教育。が

現在読んでいる本で圧倒的人気

は推理小説・現代小説。一か月の

本代は独身OLより主婦の方が

が多い。(6・18信毎)

主婦は手紙ばなれ

(11・4日経)

二〇歳以上の男女二万人を対象にした全通の調査で「前ほど手紙を書かない」が五〇％。特に主婦、ついで大学生が多かった。(9・19毎日)

女房あつての亭主ヨ

現代の主婦にとって、内助の功は依然重要な女の務めらしい。家庭主婦の七五・五％がこれを肯定、勤労主婦の中にも肯定派が七一・七％を占めるが、「夫の収入の半分は妻のもの」は六二・三％で「全部夫のもの」はわずかに二・五％。

ウーマンリブに対しては、「権利を主張するだけでなく、男性との協調対話が必要」「自分たちとは遊離している」など非支持層が三分の一近くあった。(日本主婦同盟)の首都圏主婦二千人の意識調査から。

主婦の買い物実態

三分の二は毎日買い物。一週間の平均買い物数は東京五・八日、大阪五・九日だが、東京は午前七％、午後二七％、夕方六一％、大阪は午前三六％、午後二六％、夕方三八％。買い物時間三〇分以内は、東京三人に一人、大阪五人に一人。電電公社が五百人の主婦を調査した結果。

(12・9読売)

主婦の小遣い

「夫に内証のヘソクリ」を持っている人は三三・六％、額は平均四五万七千円。その財源は「家計から」が四割、あとはパート収入、株、親から。三和銀行女性調査グループ「奥さまと小遣いに関する調査」から。

(12・17朝日)

【くらっ】

春遠し、庶民の台所

春闘共闘会議の組合員三三五世帯を対象にした家計調査によれば、被服費、光熱費など実質〇・三％の減少で、家計の切りつめがうかがえる。

一方、家賃代は二二・七％も上昇。収入面では四軒に一軒は妻が内職やパートで補っている。

(2・10毎日)

おふくろの味よりCMの味

「子ども文化研究所」の食べ物調査によると好物上位はテレビCMでおなじみのインスタント食品で、ハンバーグ、カレーが一、二位。きらいなのはビーマン。

子どもの味覚はCMで決まるようなものとは、評論家、石子順さんの弁。

(2・10毎日)

物価安定というが

東京都の消費者物価指数、前月より〇・六％、前年同二月より九・三％アップと政府発表。生活経済研究所の主婦会員たちの、生活実感指数調査では、一三・八一％と出た。

(3・16読売)

母の細胞に重い負担

交通事故で父を奪われた子どもたちに奨学資金を出している「交通遺児育英会」は交通遺児の進路と教育費に関して調査を行なった。四三％にあたる一九二人が回答。うち二五％が大学・短大へ、過半数が就職。特に全体の約半数にあたる世帯収入九万円未満の家庭での大学進学率は一三％。「ほんとうに追いつめられた家庭は回答する余裕もないのではないか。数字にあらわれたのは上の水準」と同

会理事。 (4・27朝日)

女性 は訪問販売に弱い

長野消費生活センター調べによると、昨年一年間の訪問販売に関する苦情一七件、相談二七件。うち苦情一六件、相談一七件は女性。 (5・21信毎)

みそ汁の人氣は夫の好み

首都圏調査によると、朝の摂取が減り(五〇歳以上で六〇%、二〇歳で三〇%)、夕食時が増加。愛好者は女より男、子どもより大人。 (8・17毎日)

女手一つに不況風寒く

交通遺児育英会が六三〇世帯を調査した結果では、母が「健康」はわずか二・五%、働く母の月収は九割が十万円以下、七割が百人以下の小企業勤め。

同育英会は「遺児家庭の母親の雇用促進法」制定を働きかけ十一日に大会を開く。

一方、婦人少年局による「寡婦の就業調査」(三千人、うち死別五一・六%、離別四〇・四%)では、子ども数平均一・七人、親を扶養する者一一・七%、家計費一万一千円で、「一番困ること」の筆頭は経済問題。

八九・六%が働き、それだけで一家を支えている者が七四・三%、月収は自営が三万五千、家族従業者九万八千、雇用労働者八万九千、内職五万五千円。 (12・11毎日)

〔家族・家庭〕

継父でも子は満足

家族として一緒に住む父親が血縁関係のない継父であっても親子の対立や衝突は少なく、子どものほとんどは幸福で満足し

ているとサンタ・バーバラのカリフォルニア大学の調査報告。

母親が世帯主よりも、継父のいる方がうまくいっているという。

(1・18朝日)

しつけ厳しいフランス家庭

「家庭でのしつけがきびしい」の定説通りの伝統を色濃く残しながらも少しずつ変化しているのがフランス。二年間パリで暮らした彦根市立南中、荻田教諭の調査では、パリの母親約二百人中、わが子を大学には三三%、能力しだいが六六%。

(2・13朝日)

病気の予防には家庭円満

ひんぱんな引越し、身内の死亡、失業、離別などの家庭では罹病率や事故の率が二―三倍高いと、全米公衆保健協会年次大会で発表。

(3・3朝日)

〔高齢者〕

自ら望む一人暮らし

港区での老人調査(六〇歳以上)で「老後は何が不安か」という問いに「病気や体の衰え」が六〇%。「生活費」を挙げたのは一〇%足らず。年をとっても働きたいと訴える人が目立った。

(1・6読売)

老後の同居希望は三四%

「いずみの会」会員一五〇人の調査結果で、「将来同居したい」が三四%、そのうち息子夫婦とが七二%、娘夫婦とが二八%だが、台所を別にしたい人は四二%。

別居希望五六%中「老人ホームに入りたい」は二〇%。

(5・7朝日)

男も女も寿命さらに延びる

厚生省統計情報部が二五日まとめた「簡易生命表」によると、五十一年度の平均寿命は男が前年より〇・三九年延び七二・一五歳、女は〇・四〇年延び七七・三五歳に達した。

欧米と比べても、男性はスウェーデンなどと世界一、二を争うまでに延び、女性も五指に入るほどの長寿国になった。

(6・26朝日)

寂しい老後、一段と

都の老人ホーム利用者は、高齢化・虚弱化が進んでいる。八〇歳以上が四割近い。過去二年間に何らかの病気をした人が八割以上。名前・年齢・自室を忘れたり、妄想がある人も一割近い。

収入は一万五千未満が七割。社会施設利用率も低く、地域社

会との交流も少ない。

(7・1毎日)

寝たきり老人と家族の関係

東京都老人総合研究所看護学研究室は五十一年三月、小金井市内の寝たきり老人八四人を調査、そのうちことし三月までに亡くなった一七人の家族に対して面接調査した。

「肩の荷をおろした」「ホッとした」などの声が多数。また、介護者の半分は嫁で、娘、妻、と続く。同研究室は「看護指導や家族への心理的支援の大切さを感じた」と。(9・6朝日)

高齢になるほど女性優位

六五歳以上は九五五万人、うち女五四五万。八五歳以上は男一四万、女三〇万で女が二倍以上(総理府統計局発表九月一五日現在)。(9・15毎日)

別居希望は三人に一人

都民生局が一万三三〇〇人の老人を調査した結果、一人暮らしで子どもがいる人は七割、その七割は一時間以内のところに子がいた。別居老人は三三%で、四十六年度に比べ一〇%も増加。

(9・21毎日)

「子ども」

子どもにも多い動脈硬化

厚生省研究班の初の全国的な調査によると、動脈硬化の目安になる血液中的コレステロール値が高すぎる子どもが全体の四二七%もあり、研究班は「食事指導など本格的な対策が必要」といっている。(1・12朝日)

成長ストップ東京っ子

東京都の学校保健統計調査で

は、戦後、急成長を続けてきた

「東京っ子」の体位は、身長、体重、胸囲とも全体に伸びが止まり、「女子一七歳」の胸囲は十年前よりも小さくなるなど。都教育庁では、深刻なショック。

(1・21読売)

母の願いは「一男一女」

五〇歳未満の既婚婦人を対象に出生動向を調査。子どものいない人は二人希望が五八・三%、子供が一人いてあと一人生むは、五七・三%。二人いてあと一人生むは、一六〇・一%、一男一女がほしいは九〇%以上。

(6・12毎日)

幼児教育施設実態調査

文部省は一七日、厚生省の協力による五十一年度の調査結果を発表した。①幼稚園、保育所は合計約三万二五〇〇。全国の

九七%の市町村に設置。②通う子どもは三八〇万人、同年代児の六三・五%が平均値だが、五歳児だけは九〇%——などの現状が浮き彫りに。また、幼稚園児の十人に七人が私立へ通園、公立の整備の立ち遅れが目立つ。

(10・18朝日)

しつけ教育はママゴンが

子どもへのマナー教育担当者
は、母四八・二%、先生三九・七%、祖父母の順。父はわずかに七・八%。「あき缶処理対策協会」が、親一三四人、子一一六人を対象にした調査で。

(12・6毎日)

非行少女ふえる一方

少年非行に「女子」のかかわるケースが加速度を増していることが、警察庁のまとめた今年の「少年非行白書」で浮き彫り。

刑法犯で補導される男子が四九年をピークに減少しているのに、女子は五年前の一・八四倍に。家出少年の数も初めて男子を上回った。その十人に一人は「少女売春」などの犯罪の被害者になっている。

(12・26朝日)

〔性〕

「最後の線まで」は六人に一人

「婚前の女性性は性交まで進んでよい」という答えは、男子学生グループでは三五%、親世代では二五%いたが、女子学生自身は一七%。田中靖政・学習院大教授の調査から。

(1・7朝日)

性意識・総理府四十九年度統計

全国十二都市の中学―大学生
五千人中、性的関心は十二歳で
男四四%、女三三%（六〇年は

一〇%、三%）。デート経験率は女が上位。一方一部の大学女子学生が保守的。「今後モラルの階級分化が考えられる。本当の男女の出会いには社会構造と意識の変革が必要」と吉清氏。

(5・12読売)

子宮摘出、「性」への不安

鹿児島大産婦人科の森一郎教授らが、卵巣や子宮を摘出した婦人たちの性意識を調べたところ、性への関心や悩みが、摘出していない婦人に比べてかなり強く、悩みをだれかに打ち明けたいという欲求も強いことがわかった。

(11・7朝日)

〔その他〕

減った「新成人」

総理府統計局によると、成人式を迎えた青年は、男子八一万

人、女子七七万人。新成人がピークに達したのは、さる四十四年、四十五年の二四四万人で、その後は、ほぼ毎年減少。

(1・15読売)

女心とファッション

数量化Ⅲ類によるクラスター分析Ⅱ三菱レイヨン。類型化分析Ⅱ資生堂。女性ファッション業界が新方式の調査分析を行なった結果は、低成長期で衣料支出も最低額。「安くてもよいからたくさん買いたい」一方、シンブルライフとファッション離れ。「ものがあふれているのにほんとうに自分の欲しいものがない」——「むずかしい時代になりました」と担当者。(4・18朝日)

女は男の二倍の砂糖好き

商品科学研究所の荻窪テストキッチン・コアの主婦会員二六

大、田村建二教授。

(6・1朝日)

平均的日本人

三人の調査によると砂糖の一人一日の摂取量は八九・三グラムから五・九グラムまで大きな開きがあり、二〇代を除くと女性

総理府統計局が発表した社会生活基本調査によると——小学

六か月間の二〇歳未満の自殺者数は全国で三九八人。男二六七人、女一三一人、二対一の割合で男性が多い。

〇Lのきもの願望は強いが、着るのは年に一、二回。一人で着られるのは一割。全日本きものコンサルタント協会が、関東と関西の〇L千人を調査した結果。

(11・19読売)

親子心中の実態

親子心中の八割が母子心中。

動機は六五％は子どもの病気や障害、家庭不和。三四歳未満の母親が一歳未満の乳児を道連れにする例が多い。東洋大、学者

時代から塾通い、中学・高校時代はガリ勉。大学に入れば趣味や娯楽、交際を楽しむ。男性は職場や仕事に、女性に家庭にそれぞれ縛られがち。年をとれば、ぶらぶら過ごす。(10・10朝日)

男は学業、女は異性で自殺

(10・15朝日)

グループの調査で。「妊娠・育児期の母親の多くが孤立し、社会的にも放置されている」と同

五十二年三月から八月までの

独身〇Lはきもの好き

日常点検を「必ずする」はわずか一〇・四％。富士重工の五百人調査で。(12・8毎日)

乳児死亡率さらに減り

平均寿命また延びる

51年人口

51年の人口動態概況 (厚生)

件数	人口比	出生率
1,837,000	16.4	17.4
999,000	8.2	9.2
17,000	0.3	0.3
977,000	7.1	7.1

一人暮らし西欧型に

都の老人福祉基礎調査

離婚率は昭和の最高

「スーパースキーマない距離」が急増

主婦30代、主夫40代になると余裕も

生活意識と行動調査

主婦30代、主夫40代になると余裕も

生活意識と行動調査

意見

〔政治〕

もっと女性の政策決定参加を

都の予算や政策決定には、どれだけ女性がかかわっているのか。本庁の課長クラス以上の女性職員は二部長（都民生局婦人青少年部長、消費生活部長）が最高のポスト。技術系で出先機関の部長同等職が六人。本職の課長クラスは八人。知事部局職員五万七九〇〇人のうち二三％が女性。女性管理職の比率があまりに低すぎることは明らかだ。

（1・9 毎日）

議会に女性代表を

女性の校長は、長野県下小・中学を通じて一人もないが、それは単に長野の男性に認識がないというだけでなく女性にも原因がある。心狭い同性が足をひっぱることをやめて、連帯の輪を拡げよう。

（金原良子）（1・20 信毎）

婦人票の重さ

美濃部さんが女性に人気があるのは定評があるが、名古屋市長に当選した本山さんも婦人票

をつかんで成功した。選挙後、応援団体の女性リーダーは「男性票は系列化され自由を奪われているが、婦人は純粹な目で候補者を選べる」と語ったが、たしかにそういう見方もできる。

〔今日の問題から〕4・26朝日）

目ざめよ主婦も女性議員も

選挙のたびに女性議員が減少しているのは日本の家族制度が原因。夫の意見にまどわされないよう。また女性議員も、議員は最終の生活安定の場と思うことなくがんばってほしい。

なぜ女性議員は少ないか

人口の半数以上を女性が占めているのに女性議員が少ない。つい同性に点数が辛いという習性がある。夫に失望している多くの主婦が同類項の男性に期待の一票を投じるのは妙な話ではないか。

（5・7 朝日）

働く議員こそジーパン党

台所から町議へとび出したが、スーツではどうにも働けずジー

パンを愛用している。先日、全国革新無所属地方議員会議でも、やり手は男女を問わずジーパン党だった。

(川名靖子) (6・11朝日)

参院選と女性

『思想の科学』に長く関係してきたが、十年前は七%だった女性読者が現在では四〇%にも達している。「自立」意識をもつ女性の増加によって男性社会の政治が大きな曲がり角を迎えるのではないか。

(大野力) (6・30朝日)

候補者への手紙から

年金は月四万円もあって一人暮らしの老人には使いようがない。ネコ四匹の生活とテレビと盆栽いじりの毎日。週二回来るヘルパーさんとの話が楽しみ。眠れない夜など、どこか捨て子

があったらもらって来て育てたい、とバカげたことを考える。ヘルパーに遇も一度来て話し相手になってもらいたい——増田さん(七二)。 (6・29朝日)

女のひとり暮らし

戦争との関係でひとり暮らしを余儀なくされた女たちが定年期に入った。社会の空気は女のひとり暮らしに冷淡だ。参院選の婦人候補者も誰一人それにふれなかったが、それは何と重い事実か。

(佐多稲子) (8・15読売)

婦人問題この一年

政策決定の場に女がいなければ女の問題は解決しない、という声が女の側から出て、何人かの女性候補者が立ったけれど、結果は惨敗。すそ野の広がりがないまま、幻想と期待を持って

出たわけで、そうでないことが認識されたことは、これからの婦人運動の方向を指し示している。 (武田京子・評論家)

*

ある意味で女は強くなったと思うけれど、先陣争いをしているのではねえ。男の至らなさを怒るのではなく、男と女が一緒に考えていくようにしなくちゃ。

(小室加代子・評論家)
(12・29—30信毎)

〔解放・平等〕

「平等」の大事さ教える番組

米国の子供番組「セサミストリート」は人種、性、年齢、目的の異なった人々が一つのことを共同で行なう大事さ、楽しさを繰り返し教える。黒人男女が一つの新聞を読みながら歌う。「分けあっていっしょのことをするって楽しい……」

(〔番組評〕 2・15朝日)

「婦人の日」制定の動きに疑問

平等とは名ばかり、いまだに男子本位の世の中なのに制定の意図は何か。参院選へのアメ玉としか思われない。

(投書) (3・5朝日)

三月三日「婦人の日」には反対

ひな祭りを「婦人の日」には反対。祝日にするのは賛成であるが、「婦人の日」の制定によって本来の「ひな祭り」が軽視されかねない。

(会社員43歳) (3・8信毎)

婦人研究者の地位向上を

日本学術会議第七二回総会で「婦人研究者の地位改善について」の要望を政府に提出することが決議された。

戦後、科学研究の分野に婦人

が進出したが、不当な差別は深刻化した感がある。たとえば四年制大学の婦人研究者は平均して五%。そのうち助手九%、講師五%、助教授三%、教授一・五%、学長ゼロなど。

(猿橋勝子) (5・31朝日)

女であることから始めよう

女は女性であることを固持し、はっきり認識した上で社会に固定された矛盾に立ち向かうべき。「性を意識すること」「イコール「社会通念を認める」ということではない。女性の解放を上からの運動としてより、むしろコマシヤル問題のように、一見ささいなことと思われることから波及させようとするのは必然。

(学生22歳) (6・9朝日)

権利の上に眠るな

男女平等の権利が与えられた

のにそれを意識していない婦人が多い。女だけでなく、すべての方々にも「権利の上に眠るな」と言いたい。

(市川房枝) (6・11朝日)

「女流」とは男性標準の意識

「女流」とは、モノを創りだす行為が、本来男の仕事であると考えられた時代のコト。

米国の女性文学者たちは、「女流」と呼ばれることに反抗し、それとの訣別で知的独立宣言をした。

(渥美育子) (6・15読売)

アメリカで花盛り「女性学」

七〇年秋から東部海岸の女子大やシカゴで開催された「ウイメンズ・スタディーズ」は、三、四年後には米国全土百数十の大学に広がった。これは、これまでのあらゆる研究を女性の見方

によって正し、歴史を書き直すという学問の革命。日本の大学でも内から突き上げが起こってほしい。

(渥美育子) (7・30毎日)

女が電車で新聞を読むこと

「車内で女性が新聞を読む姿は感じ悪いわ」とは私の友人。

車内で新聞を読む女性がいなのは、もしかしたら本能的に男性の目(生意気だと思ふ感じ)を意識してのことか。男女同権の声は高くとも、男女の質的な違いはいろいろな所に表われて来る。本質的相違の基盤の上に、男女平等を築いてゆきたい。

(寺島道子 主婦50歳)

(10・15朝日)

男女の寿命差に思う

百歳以上の男は女の二割、平均寿命も女が五年多く、これで

見る限りは女の人生のほうがめでたい。

が、明治初期には女は男より五〇万も少なかった。間引きされるのは女だったからだ。だから支配層は多妻の一方、妻や住居を持つこともできない男も多く、同じ階層出身の売春婦にわずかな慰めを得ていた。

いま男の寿命が短いのは労働災害や交通戦争がより多く男に害を与えているからではないか。男女の被害状況はその軽重が見定めがたい。が、男たちは「女よりまし」と思いこんで身にこるむる不条理を耐える。男女の未来をひらくには、互いの構造的被害を認識し、役割分担をとりはらうことだ。

(もろさわ・ようこ) (11・5朝日)

女ものは小さく……は

かつてハンカチは婦人用は小さかったが今はほとんど同じ大

きさ、同じ柄に。しかし茶わん

や傘は女用が小さい。子連れ女には小ぶりの傘は小さすぎる。

女用だから小さくと、根拠もなく決めるのはここらですべてやめてほしい。

(近田登志子・話力研究所所長

(12・29読売)

【こゝろ】

女の解放と女ことは

英語も日本語も、丁寧な話し方には、女に高い基準が期待されているが、これは、女が自由に考え、表現する神経とエネルギーを規制する足かせ。

「女性性は主体性がなく、創造性に乏しい」と一般に考えられているが、そのように育ててきた社会的文化的条件づけの産物にすぎない。

(井出祥子) (2・3毎日)

「女らしい」はほめことばか

女性に対するほめことば「女らしい」に疑問。人間として成長していくためにことさら女らしさを強調する必要はない。女らしくなるということは人生の目的ではなく、女性の本能でもない。「父系社会の秩序の維持のために押しつけられて来た」と宮本百合子は言っている。

(大塚敏子) (5・29朝日)

ことばと社会意識

「女のくせに」「女だから」と世間の期待像の中にとじこめられ、ある時期をすぎても結婚しないと「売れ残り」。「美人」は女の人と決まっている。美しい男は「美男子」で男という字が入る。女にとって美しさがそれほど重要とされてきた。男は世の中を動かす主役。女はわき役。

男女の性別役割を作る過程の認識形成の面で一役買っているのがことば。

(井出祥子) (6・1読売)

女性のよび方さまざま

おばあさん、おばさん、奥さんなど。「職場で男性は私のことを平気で『おばさん』とよぶ。女性が男性を『おじさん』とよぶものなら大変」

(会社員48歳)

「婦人科、婦人会、婦人学級。

男性の私にもなぜ婦人だけ特別なのか不可解」 (男性66歳)

「奥さん、奥さん、とお互い

をよびあって暮らしている。個性のない「奥さん」というよび方」 (主婦 33歳)

(6・8読売)

女の子は泣かない

娘ばかりのわが家では、「女

の子は強い、泣かないの」がモットー。ところが娘たちは、

「泣いていいのは男の子と赤ん坊」と逆差別(?)。無意識に使われている日常語を再考して男女差別のない社会をきずけるような子育てをしたい。

(投書) (6・29朝日)

「フェミニスト」とは

日本製「フェミニスト」は女に甘い男。しかし英語では男女平等論者、女性解放論者のこと。(身の回りのカタカナことば) (8・31読売)

長男・長女はおかしい?

男女の別なく出生順序によって長子、次子または長女、次男と呼ぶ——これは試案に過ぎないが検討してほしい。末っ子が長男というのは形式的に過ぎる。

(8・31毎日)

〔働く〕

制度改善して看護の心を

賃上げ要求に固執すると看護

は魂を失うという説があるが、それは百年前のナイチンゲールに戻れということ。保健医療制度の改善が課題では。

（大国美智子）（2・2朝日）

商店婦人の悩み 首相に存じ？

中小、まして零細企業の女の労働条件向上は夢で、店員も長続きできない。漁・農協婦人部の団結は強いが、同業者と競争の自営商店界の女の地位は昔と変わらず、心がいたむ。

（投書）（2・19朝日）

ホームヘルパーにも賞与を

私は非常勤嘱託という職名のホームヘルパー。訪問する老人

からボーナスがでていいね、といわれるが全くゼロ。仕事を始めて九年。一度でいいから人並みに封筒の重みを感じたい。

（6・15毎日）

看護婦のあり方（対談）

〔看護婦〕階層的指示に従い、患者には共同体意識でこまかく。准看・補助看に労働のシワ寄せ。反発には知識がいる。医師と同じ教育で分業が理想。

〔医師〕地位が医者に近いと共犯的関係になる。患者の立場でアドバイスしては。知識をつけても、力関係・医師頂点の階級制は強い。（6・15—16信毎）

国鉄職員に女子採用を

国鉄総裁高木様。たび重なる不正事件で国鉄の威信は落ち、加えて財政の破局的パンク。そこで今年採用予定の六千人のう

ち思い切って二千人ぐらいは女子職員にしたらどうでしょう。

出札、改札、車掌、案内などのニコニコした笑顔が明るい国鉄づくりの「特効薬」です。

（投書）（7・23朝日）

女子大生の就職

女子大生各人が四年間真剣に勉学に励み、能力をたくわえていくことが、閉ざされている門を開く唯一の道である。

（大学生 22歳）

女の子だから、自宅外だから、という理由で採用されない風潮。ここに来てやはり社会の不合理にゆきあたってしまった。

（大学生 21歳）

高校出は、場合によっては大卒の男子以上の仕事をするし、前向きに仕事をする。それだけ真剣であり「女らしさ」がどことなくにじんでいる。女子大生も鏡をみるまえに、まず自分自

身をよくみつめ直してほしい。（男性 会社員 44歳）

（10・6朝日）

ミセスの就職

世間一般における職業婦人としてのミセスの評価は驚くほどに低く、就職は全くままならない。それでも、実力さえ持っていれば問題ないことなのだ、と自身に言い聞かせ、「実力」なるものを必死に勉強。しかし、先は遠い。ああ、就職。

（戸田淑子 主婦 27歳）

（10・19朝日）

看護婦不足はなぜか

毎年看護学校を卒業する生徒数は四万なのに、看護婦総数はそれに比して増えていない。都内の病院を調査した（五十一—五十二年）結果では、退職者の割合が七割を超え、しかも退職

者は二〇代から三〇代の中堅層が占めている。

退職の原因は、不満が一番多く、その中身は上司の職場管理と夜勤が多い。

問題はわが国の看護教育。これまで政府は質より量を優先させてきた。看護大学は十校だけ。病院付属の看護学校は各種学校で、私学助成の対象にもならない。諸外国並みの英断的改革が必要。

(小島ユキエ・日本看護協会)

(11・28読売)

「働く寡婦」食い違つ調査結果

労働省の調査は「交通遺児育英会」の調査と大きな流れとしては変わらないが深刻さが表われていない。雇用形態の解釈に大きな違いがあるためだ。

前者は全体の八六・九%が常雇で、七五・八%が比較的安定した身分だとするが、後者は

「安定は一五%」とする。

本当に寡婦の四分の三は「比較的安定した身分」で働いているのか。例えば知人のIさんは常雇だが、契約は一年更新だし、Oさんの会社は社員三人、倒産寸前だ。数字だけで雇用促進法を不要と判断するのは危険きわまりない。

(谷川俊記者)(12・11読売)

【主婦】

主婦では相手にならないのか

投資勧誘などで「ご主人は」とくると腹が立つ。そういう電話は相手にしないと決意した。

(投書 3・26毎日)

「妻」を分析したい

父系社会の残りかすでなく、母性的あたたかさを、どうしたら大地にしみこませることがで

きるのか。

(羽仁説子)(4・4朝日)

娘がくれた母の日の幸せ

外に出て働く私だが、母の日は朝、布団の中で新聞を読む。小学六年の長女が朝食の用意、二年の次女がおこづかいでカーネーションを……。今年も幸せな一日。

(小樽市・看護婦)
(5・13朝日北海道)

「主婦」という言葉は――

投書の山から拾うと――職業でなく無職。主婦○○とかママさん○○といわれると無能者か片手間業のような軽視の感じ。一見主婦ふう、なんてサエない。職業欄に主婦と書いても公的にはまっ消される。「家庭管理士」として報酬を。(5・19読売)

真版 “一豊の妻”

へソクリを抛出したとして知られている山内一豊の妻は明治三十年代の教科書ではスゴ腕の亭主操縦者として書かれている。教科書が国定になってから婦唱夫隨のすすめだということ、かんじんの部分が削られたもの。

(佐藤忠男)(5・24朝日)

“仕事中毒”の夫を持つて

妻には、あきらめ型、従順型、告発型、発散型がある。「良妻」も中身は多様。全部がほんとうに忙しいのだろうか？ 忙しいことに夫は甘えていないか、というのは、作家・黒井千次氏。

“ひととき”への投書の感想。
(6・5朝日)

女でなく人間として生きよ

母親たちの多くが生きがいの

中心は「子」とか「夫」とか答えるがさびしい限りだ。子どもは自分ひとりの生きがいを見つければ何でも苦勞なのに……。我が娘には働きぬく道を選ばせたい。

(早乙女勝元) (6・13朝日)

姑の悪口はPTAで

結婚している女性は、どのくらい実家の人々に婚家のことをしゃべっているか。

かつての嫁入り婚の妻たちの感情の吐け口は実家であり、親きょうだいしかなかった。が、このごろのミセスはPTAの会合のあとで難談。言うほうも平気、聴くほうもまた平気、いかにもひらかれた感じで、女はたしかに変わりつつある。これをもう一步進めて、婚家の人々のざっくばらんの対話にもってゆけないだろうか。

(投書) (6・22信毎)

主婦業は職業に価しない

二十余年の職業生活を終え家庭に入り、むなしさと焦燥感を味わっている。日曜に一週間分片づけていた掃除、洗たくも毎日半日かけてのんびり……。どうしてこれが職業といえるか。

(投書) (6・24朝日)

「後家」さん堂々と生きよ

未亡人ということばはきらい。私の母は三歳で「後家」となったが、仕事をもちつつ私たちを育ててくれた。その後再婚、幸せにやっている。

ご主人をなくされた方々、どうか周囲のカゲ口など気にしないで堂々と胸をはって生きて下さい。

(7・5朝日)

主婦は職業ヨ

「主婦は職業ではない」ひと

とき「欄に寄せられた声に反対投書百通近く。家事・育児は、

日曜・祝日・病休なく、無給のたいへんな仕事、と厳しい怒り。「家事・育児は女が一人で背負い込んではいけない。大切な営みは周囲のみんなが背負い合いい、そのことが人間としての優しさを生みだしていくことになる」と伊藤雅子氏。

(7・10朝日)

甘えている主婦職業論

農家や商家では、育児・家事は仕事の仲間に入らない。サラリーマンの主婦がいくら料理・洗たくを立派にやっても働いたことにはならないし、生活が成り立たない。もし収入がなくなり自ら働かなければならなくなったとき、主婦は職業だなどとは決していえないだろう。

(投書) (7・19朝日)

主婦の能力を生かして

主婦の潜在能力を遊ばせておくのはもったいない。子どもの手が離れても外に働く場がない。生きがいがほしい。そのために登録などしていつでも役に立つことができる制度を作っては。

(7・22毎日)

人生は自立への旅のはず

旅は人生だと思ふ。ところが独身女性は海外旅行は結婚前の一発勝負。帰ってきたらあきらめて主婦になる。

(おそどまきこ・トラベル・デザイナー)

(7・26東京)

被雇用者兼奥さん

日本の女性は文学部に行っちゃったばかり気がきいていて、しかしあんまりききすぎない程度の教養を身につけて結婚とい

う永久就職をする。そして、ときどき雇われ人、ときどき奥さん。これじゃ自分の周囲を交革するのは難しい。結婚だけが人生の目的であるような教育はいけません——在日九年になる英女性意見。(9・10読売)

亭主殿、家事分担頼みます

共かせぎ家庭といっても、二人の仕事の量・質・通勤時間・疲労度など千差万別。余裕のあるほうがやればよい。こういう仕事は女房がやるべきだとかいう原則はない。相手への思いやりさえあれば、家事もまた楽しからずや、ではないだろうか。働く妻を持つ世の亭主たちに頭の切り替えを願いたい。

(立松喜久子)(11・1日経)

主婦の有給休暇

結婚するとき互いに年一回の

休暇を約束した。十二年目の今年は十二日の休暇。香港で「独身貴族」を楽しんだ。夫も「独身気分になれていい」と歓迎。(小林文子 38歳)(12・9毎日)

夫が死んで得た自由なんて

「主人がいたらとてもこんな外出はできなかった」——ふと耳にした老女たちの会話にがくぜん。夫が生きているうちに、したいことをしたい。(椿芳子 54歳)(12・20読売)

友を増やせるような老後を

人間の知己の増えかたは、その人の精神活動、今はやりの言いかたでいえば「翔んでいるか否かに比例する」といえないだろうか。願わくばいつまでも飛翔することができ、いつまでも新しい友を増やすことができるような自分の老後でありたい。

(中田芳子 46歳)(12・31朝日)

〔子育て・教育〕

保父さん歓迎します

私の勤める保育所に男子大学生が卒論のため毎週通い特に年長男児や母子家庭の子の人気を集めた。若い男性が他の職場と同様幼児保育を仕事に選んではいい。(投書)(2・28朝日)

手作り保育

幼稚園に入れないことに決心。子どもと学び子どもと遊ぶ自宅幼稚園を始めた。保育講習会に参加申し込みもして大張り切り。(投書)(5・23朝日)

満たされぬ女子大生

「できることなら結婚しても働きたいが、結局OL三年やっ

て結婚するしかないのよ」大学の講義は私たちを満たしてくれないし、社会の矛盾を学ぶ場もない。同じ大学生でもマスコミは「女子大生」と呼ぶ。が、私たちは一人の人間として生きぬくことをあきらめたくない。(投書)(6・28朝日)

話し相手がいない

孤独な若いお母さん。夫との育児チームプレーはいいようだが、一つ歯車が狂うとダメージが大きいようだ。そこで考えたのが「集団育児」。(泉美智子)(7・17東京)

女教師を信用しない母親たち

男性教師にあてはまる不満も、母親は女教師に向ける。父親が母親を低めている家庭の子は女教師を信用しない。

(投書)(8・4毎日)

女先生ががんばって

女の教師は劣る、といわれながら、彼女らはだまっっている。あなたたちを日常押しつぶしているのが男と女のかかわりであることを、なぜ明かさないのか。ほとんどの先生が共働きで、家庭に何かがあると仕事を犠牲にするのは女のほう。仕事からとんで帰って家事・育児の中途ハンプな共働きではほんとうの教育は育たない。働く女たちの側で、まず自らの生き方にきびしすぎるほどの批判を注ぐことから出発すべきだ。突き上げを受けて負け犬になるようなもろさで、先生がつとまるはずがない。

(永畑道子) (11・22読売)

赤ちゃんの最初の教育は

スイスで出産したが、出産は夫婦ともどもの仕事と夫も立ち合った。産後自力で歩いて病室

へ。出産は病気ではないと。

生まれた赤ちゃんにまず教えるのは昼夜の区別。夜どんなに泣いてもお乳を与えない。おむつも変えない。このため一週間で夜泣きはピタリと止まった。(町田ひろ子・住環境デザイナー) (12・9読売)

役に立たない進学ローン

低所得層援助というが、据え置き期間や金利の点で弱者救済の視点に欠ける。貸付金は育英会の奨学金制度と同様に、本人卒業後に本人の負担で返済するという原則を貫くべきだ。金融問題ではなくて教育問題だ。

「天声人語」(12・28朝日)

「その他」

夢も希望も忘れた婦人誌

各誌とも晴れ着姿は美しいが

中身がない。(1・3読売)

まじめなSさん

私のアルバイト先にSさんという無口でおとなしく、まじめな人がいます。Sさんはいつも八時半過ぎに会社に来てコピーをします。会社の人たちは何もかもSさんにさせればいいと考えているように見えます。コピーの仕事がどんなに大切か、またそれ以上にSさんの仕事のまじめなことを知ってほしいと思います。

(投書) (1・6毎日)

賞をいただくということ

賞とは、ロクに家へも帰らず晩めしも一緒に食べない亭主をあてにせず家事と育児に明け暮れて年をとった女房への実はいわけであり、彼女へのごほうびであるのかも知れない。

(森繁久彌) (1・6毎日)

自己をさらけ出す勇気を

アメリカでは、女同士でもトータルな人間関係があるのに、日本では部分的なつきあいしかない。一人の人間が他の人間と生き生きと結びついていくためには、自分を見つめ、見つめた自分を人に伝える「勇気」と技術が必要。

(河野貴代美) (1・12読売)

婦人の知識低下

「問題提起しても意見が出ない。テーマを選ぶのに苦労。主婦の工場勤めが原因」と社会教育の先輩に指摘されショック。

(投書) (2・4信毎)

飲酒・喫煙をやめよう

最近、OL、女子大生の飲酒や喫煙が盛んとなり、都会では三人に一人の割合で流行。結婚・

出産に備えて若い女性たちが精神的にも体力的にも欠陥のない、立派な赤ちゃんを産んで欲しい。(学校職員 56歳(3・29信毎)動き出す壁の花

日本の生活水準の向上が婦人の社会進出にそれほど直結していないのは残念なことだ。国際舞台では日本女性は男性より評判がよいことが多いくらいなのに。(帰国特派員)(4・6朝日)

根性のない男に見せたい

樋口久子が全米女子プロで優勝した。女性の身体は(そして心も)、子どもを生んでからの方が強くなるのではあるまいか。(近藤経一)(6・14朝日)

五輪種目に女子マラソンを

米国体協は、オリンピックの

正式種目として女子マラソンを採用するよう国際陸連に要望書を送った。米国はじめ欧州・極東各地で普及したことを強調、女性にも有害ではないと理論づけたニューヨーク科学アカデミーの研究を引用している。なお現在女子の陸上最長距離種目は千五百メートル。(6・25毎日)

女は美人が得? に反響

「ひととき」欄への反響は、「同感。しかし四〇歳からの顔は自分で創るもの」が多かった。男性からは一通、「単なる目鼻立ちでの美人、不美人の時代は終わった」。(6・25朝日)

現代の日本女性、とてもいい

「頭がよく、魅力があります。男の人、幸福です……日本の作家たちはそんな表現はしませんか……」

「女性を文学の中に十分にあらわしていませんね。これからでしょう」

平家物語を翻訳中のモスクワ大助教授イリーナ・リュボワさん。(6・27朝日)

創作の原点は「女」

私の芝居体験はお神楽見物から始まる。お転婆だ、行儀が悪いと朝に夕に女の子としてのたしなみを求められ息がつまっていたので、お面をかぶって生身の人間と別のものになるお神楽の世界へのおこがれを深めたような気がする。

歌舞伎も私の血をわかせた。

必ずといっていいほど、女を殺し、いじめ、さいなむ場面がある。今に大きくなったら男を殺し、いじめ、やつつける芝居を書きたいと思った。

(田中澄江)(7・12読売)

教養と労働で美を磨こう

昔から変わらぬ男性の女性愛が物親が女性の不幸のもと。

女性は自尊心を確立して心を磨き、男性はパートナーとして女性のほんとうの美しさに目ざめるべき。(7・22西日本)

女の長電話は欲求不満?

井戸端会議がなくなったため、生活の会話不足を長電話が解消しているのだろう、と藤井曉さん。(7・23西日本)

人間の「値引き」は無用

人間に対する値引きとは、自分、他人を含めて現実より割り引いて評価すること。自分自身と他人に対する「値引き」をやめることが健康人として生活する上で何よりも大切。

(深沢道子)(8・17読売)

相談

家庭顧みぬ甘え亭主

四二歳の主婦、同年の夫との間に高三、中三の子供。家族への思いやりなく、パチンコに狂い、性に狂う夫。

〔答〕 徐々に甘えを切りながら亭主として責任を持たせる訓練が必要。あなたが夫のつもりでこきつかうことをすすめる。

(平井富雄)

(1・19 読売・相談)

長い別居は妻に不利か?

夫から出ていけといわれ別居

した。夫の弁護士は離婚裁判で妻に不利というが……。

〔答〕 夫の愛人関係が原因の場合には夫が訴訟しても認められません。

(鍛冶千鶴子)

毎朝亭主が朝食作り

低血圧で起きぬ妻。娘への影

響が心配だが……。

〔答〕 娘さんよりあなたや奥

さんによくはないのでは。病気ではない本態性の低血圧もある。正しい治療を。

(小糸のぶ)

(3・4 読売)

会社と結婚した夫

私生活もない、お飾りはイヤ。

〔答〕 自分でもう答を出しているではありませんか。とっくの昔に会社と結婚している男を失ったからといっていつまでもメソメソしているあなたではないでしょう。(ヘレンおばさん)

(3・6 読売)

故障の多い身障者仕様車

昨年、DKホンダに身障者仕様車を発注。夫の職場への送迎や配達等に使っていたが、故障

が多く、車の交換を購入先に申し入れたが応じてくれない。

〔答〕 七か月間に七回も故障が続いていることがわかり、北海道消費者センターの調査の結果、メーカー、販売店、部品メーカーに善処を求めたところ、同種の車両と交換することで解決。業者はアフターサービスにも十分意を尽くしてほしい。

(6・10 朝日)

更年期、早い人は三五歳で

四一歳と四三歳の主婦。生理が止まったり、出血が多かった

りする。もう更年期だろうか。

〔答〕閉経年齢は昔は四五歳ぐらゐが平均で、今は五〇歳近く。ただし、早い人は三五歳、遅い人は六〇代と、個人差が大きい。

（松山栄吉）
（8・7朝日）

離婚すれば年金権は消失

二〇年間連れそつた夫と離婚。その二年後に彼が死亡。遺族年金（厚生年金）はもらえるか？

〔答〕もらえない。離婚すれば、夫の厚生年金との縁も切れてしまう。代わつて国民年金に加入を。
（9・5読売）

夫婦関係をこばむ妻

五一歳の公務員、妻は五〇歳結婚生活二八年ですが、一年半ほど前から妻が全くセックスを拒否、「他の女性とつきあうぞ」と言つても、「離婚しないのな

らいい」という始末です。

〔答〕軽度の糖尿病、パート勤務、それに三人のお子持ち、それが五〇歳代女性にとって負担にならないはずはありません。欲望の赴くまま衝動に走るあなた。奥さんのお気持ちをもう少し考へてみてはいかがですか。

〔他に適当な女性を求めて〕は虫がよすぎます。（平井富雄）
（10・10読売）

『男性社会』の原稿にコチン

新聞を広げて「今日はどのぐらい怒ることがあるかしら」男性社会で作られた特有の無神経な表現に、私のフェミニズム・アンテナがピリピリ。先日「流通」問題、「頭でっかちになつたとはいへ、女性に頼るわけにはいかない」で怒りは頂点に。なぜ男にはできて女にできないといわなければ気がすまないのか。

〔答〕差別表現には氣を使つていて現在婦人部の重要なテーマになつてゐる。このたびは婦人部に女性のデスクも生まれた。ご支援を得てさらに努力を続けたい。

（山本婦人部長）
（10・15読売）

年下の男性との交際は？

友人（四七）が二五歳も年下の男と交際中。うまくいくかしら？

〔答〕いいじゃないですか。女は四〇代に入つて人生のおもしろさを知り魅力的になる。そういう女性とつきあふことの楽しさを知っている青年はたくさんいる。（ヘレンおばさん）
（11・13読売）

妻のパート収入があると……

パートでも、収入があれば夫の扶養者から除外され、さかの

ぼつて税金を徴収されますか。

〔答〕一年の収入が七〇万円以下なら所得税はかからず配偶者控除も受けられますが、七〇・七九万円だと所得税はかからな

い配偶者控除が受けられなくなり、七九万円を超すと所得税がかかり配偶者控除もなくなります。
（11・21読売）

子供の頃から顔や性格に劣等感を抱き悩んでゐる。外出しなければならぬときは前夜は眠れず下痢までしてしまふあります。夫も無愛想だ、田舎者メ、とバカにする。子供さえいなければ、と死を思う毎日。

〔答〕三九歳にもなつてなん

逃避をしているのでは。「死を思う」というのも敗北の心理。「子供さえいなかったら」とは何事か。亭主のエゴにまけるな。

(平井富雄)
(11・26読売)

「化粧しない」と離婚話

昨年見合い結婚した二四歳の女。ちょっとした夫婦げんかから「化粧もしない」と離婚を申

し渡され、荷物を引き取りました。その後半年、何の連絡もありませんが。

〔答〕別れるにしてもなっとくのいく別れ方をすべきで、仲人が間に立つのもいいでしょうが問題は本人同士です。ささいなことを理由に離婚を迫る夫にこそ問題があるわけで、家裁に調停申し立てをするのが一番よいでしょう。

(鍛冶千鶴子)
(12・10読売)

女にふられ帰って来た彼

娘を傷ものにした

サムと同棲して七年、次々に秘書に手を出し、今度はふられたようです。そんな彼とよりを戻すべきか……。(28歳の女)

と、二三歳の息子が慰謝料を求められています。(母)
〔答〕結婚の約束をして肉体関係にはいったのに一方的に破ったというのならともかく、慰謝料を払えとはへんな話。当人同士が解決するのが筋。それでも解決しないなら調停を頼むほうがいいでしょう。(小山いと子)

(ヘレンおばさん)
(12・18読売)

(小山いと子)
(12・26読売)

どうしました

いまだあります。四十年代から五十年代前半にかけて、あんなので、この人たちが早過ぎるとはいえませんが、数年前で閉経する人が多いのですが、一年足らずから十年も閉経人までさまざまです。閉経、更年期障害は必ずあるのですか。

害、何でもない人も少なくありません。確かに閉経では、七八割は更迭症状を感じています。害か、本当に酷い原因はないかと考へることも

害、何でもない人も少なくありません。確かに閉経では、七八割は更迭症状を感じています。害か、本当に酷い原因はないかと考へることも

い人は35歳で 障害、くわしく検

25歳下の男性と交際
人間的な交流、セックス永続するか

40

相談

故陣の多い身障者仕様車

七カ月に次々と七回

不十分なアフターサービス

と、二三歳の息子が慰謝料を求められています。(母)

〔答〕結婚の約束をして肉体関係にはいったのに一方的に破ったというのならともかく、慰謝料を払えとはへんな話。当人同士が解決するのが筋。それでも

解決しないなら調停を頼むほうがいいでしょう。(小山いと子)

(小山いと子)
(12・26読売)

人

〔人〕

防災の第一線で

佐藤俊子さん(二〇)。昨春共立女子短大を出て六・七倍の婦人消防官試験に合格。「いまはホルマリン漬けの死体にも慣れた……」。(1・1毎日)

平凡な女の持つ豊かさ

青江三奈さんには、平凡で古風な女が持っている豊かさみたいなものがあふれている。だが、最近の彼女は、美空ひばりがい

まだに持ちつづけているような毒々しさとか、いたたまれなさみたいなものが薄れてきてしまった。もう一歩踏みこんでほしい。

(鈴木忠志)(1・7朝日)

手づくり絵本 百余冊

川上ヨリさん(六)。母から、祖母から、子守歌がわりに聞いた物語・民話・昔話・童話を素材に、創意工夫をこらした絵本百余冊をつくり、下町っ子に昔話を伝え続けている。

(1・11毎日)

遺産を国際文化会館へ

国際交流・文化活動で大きな足跡を残した坂西志保さんが、私財一億数千万円を国際文化会館の活動資金に寄付したと一周忌を機会に発表された。

(1・15毎日)

「東京ローズ」を追跡調査

日系人女性の歴史研究をと、図書館で手がかりを求めているとき目にとまったのが、「東京ローズ」。記録や資料を読めば読むほどのめりこみ、追跡調査

を本にまとめる。「執筆の一年間は、主婦としても母としてもゼロでした」と語るドウス昌代さん。

(1・25朝日)

こけしに女の魂を

会津若松の井上ゆき子さん。四十七年以来、こけし工人として幾多の賞を。

(1・25読売)

一級寝具技能士

通学三年でふとん仕立ての仕事場を。斎藤年子さん(三五)。

(1・25読売)

国連大学翻訳官に女性採用

男女応募者一二五四人の中からただ一人採用されることが内定した田代泰子さん(二三)。試験は三次まで行なわれ、最後の面接に残った十一人(うち女五人)のほとんどが翻訳の仕事をしていた。

田代さんは国際基督教大人文学科卒。英国留学の経験があり、現在はスウェーデン系の会社のPR雑誌を編集している。「正確な言葉の選択、基本姿勢がしっかりしている点に好感が持てた」と採用者。(1・27朝日)

料理計量化の先覚者

香川綾さん(七七)。東京女子医専卒後、栄養学を料理に導入、世界唯一の『栄養大学』を創設。早朝マラソンを欠かさない一徹な明治の女。(2・2朝日)

商品危害に食いつく

国民生活センター調査役青山ミチ子さん(四五)。経企庁、生産性本部、消費者協会と転職を重ね、「そのたびに主婦業に逃げこもうかと思った」が、今は『危害情報』のシステムづくりを専念。(2・8読売)

私は大学聴講生

長野県の主婦・酒井かおるさん(四三)は昨年十月から信州大学教育学部の聴講生に。農家の嫁として無我夢中で働くうち、生活改善グループ作りに。さらに自分の人生を納得のいくものにと勉強を熱望、やっと聴講生になれた。が、無気力な学生や高い授業料に不満。(2・12毎日)

老後問題は婦人問題

奴隷のような農村婦人の姿を

見て自立を決意、教員生活三年の瀬尾逸子さん(六八)。

「私の生まれ育った環境では育児だけを仕事にしている女性は見たことがなかった」。

老後問題研究会など四つの会員。(2・14読売)

今年から長篇を執筆

一四日に第二八回読売文学賞を受賞した河野多恵子さん、「今度は三十五年の長篇に取り組みたい、水路で長旅に出る心境」と。(2・18毎日)

食用廃油を粉石けんに交換

使い捨ての食用油を回収して油脂会社に渡し、粉石けんと交換するユニークな消費者運動《和甲グループ》のリーダー石原真子さん(四一)。(2・19毎日)

七〇歳の自費出版夢みて

佐藤愛子さん(五一)。貯金をはたいて『昭和の点景』を自費出版。次は七〇歳ごろに……。(2・21読売)

中山千夏——女についての本

一か月サイクルで作家やタレント選の本百冊を展示即売する某書店で、中山さんは体・解放・歴史などに分類した女の本を披露した。女性問題に関心を持ったのは結婚してからという。(2・23朝日)

全盲の身で盲人ガイド手帳を

視覚障害者に関する情報を網羅して作成した昆野留美子さん(二四)。盛岡在住。(2・26読売)

基地と若者を児童文学に

岩瀬成子さん(二二〇)が「朝は
だんだん見えてくる」を出版。
新鮮な世代感覚が生きて生き。

(3・4朝日)

東京大空襲の画展

銀座「はばたき」画廊の田中
那須子さん(五一)が計画。

(3・5読売)

婦人検事活躍

千葉県政界をゆるがした千葉
開発汚職事件を担当しているの
は、渡辺靖子千葉県検検事、四
〇歳。

(3・4毎日)

89歳、アフリカに行く

女流画家の集まり「朱葉の会」
の会長、吉田ふじさん(八九)は、
なお制作に余念なく、昨年暮れ

には、ケニア・タンザニアも訪
れた。

(3・9毎日)

国連報道官として活躍

木村裕子さん(三〇)。各国
代表の個性あふれる演説をその
場で発表文にまとめる。抜群の
語学力・集中力・文章力で、多
い日は一日六〇ページも書く。

(3・10朝日)

自分流のリップ

わたしは自分流の方法で運動
している。「女の銀行」の株主
でもある。プラカードをかかげ
て行進はしないけど、そういう
人もたいせつ。来日したバーブ
ラ・ストライサンドさん。

(3・11朝日)

ママさん大工

三歳の長男を保育所に入れ、

滝川専修職訓校建築科を卒業し
た深沢幾子さん(三三)。ただの
大工ではなく、女性の立場で日
本の住宅を改革すると張り切っ
ている。

(3・12朝日)

ママさん医学生誕生

大阪市内に住む一児の母親が、
三年がかりの受験勉強で大阪市
立大医学部に合格。

「大学は時間に余裕があるか
ら、共働きの主婦よりずっと楽
何年かかってても、本物の医者にな
らなくちゃあ」。(3・19毎日)

闘士発掘

オーストラリアの留学生、ジ
ン・カラザスさん(二四)が、近
藤三郎についての論文を発表。

近藤氏は、セレベス島での旧日
本海軍の軍政に反対、インドネ
シア独立運動に大きな影響を与
えた新聞記者。(3・19毎日)

さわやかな修了式

茨城県、勝田市の小滝晴子さ
ん(四二)。早大・同大学院で、
十一年間学び続け、見事に修士
号を手に入れた。「家事もテキパキや
り、立派だと思えます」と長女
(3・25毎日)

二〇歳の女性刑事

岐阜県関署で誕生した。小島
久美子巡査。「聞き込みなども、
若い女性なら協力者があるので
は」と署長。「内気な女の子に
できるか」と母は心配。

(3・27朝日)

片山潜の長女帰る

昭和八年にモスクワで病死し
たコミンテルン代表の片山潜の
長女ヤスさん(七八)が帰国。
約三週間滞在する。現在は「ソ
日協会」副会長。(4・1毎日)

ルソー流の育児休暇

フリー・ライターの桐島洋子さん、三人の子どもを連れてアメリカへ。自然にかえって子どもたちを鍛えたい、と。

(4・10朝日)

文学座と共に四十年

文学座が劇団創立四十年を迎えた。この四十年間、文学座の中心女優として活躍してきた杉村春子さん。「だれが選んでくれたんでもない自分で選んだ道」

(4・11毎日)

ラ・バシヨナリア

スペイン共産党議長、ドロレス・イバルリさん、党合法化で帰国。八一歳の今も元気で、スペイン共産党の支柱。

(4・14朝日)

サッチャー訪日

英、保守党党首サッチャー女史が、四日間の予定でわが国を訪れている。

「やさしい外貌からは想像もできないような鋭い政治感覚の持ち主」には福田首相も耳を傾けるべきことが多いにちがいない。

(4・13朝日)

「女」強調はお断り

「予期以上の美女、才女」エレガントな笑みをふりまいて去ったサッチャー党首。自動車工場の視察では組み立て中の車の下に入り込んでエンジンの取り付け方まで質問。

「政治家に男女の別はありません。私の『女性』を強調してもらいたくない」と、キッパリ。

(4・17朝日)

女子高生、空の“ひとり歩き”

北九州市の女子高生が十七日、同市上空を小型飛行機で単独飛行した。この「雲のじゅうたん・九州版」は高校三年・寺西ひとみさん(一七)で、ことし一月に家族と小型機に乗って以来空の魅力にひかれた。自家用機の免許は取得済みだが、「免許をとったら、家族や友達と遊覧飛行を試みたい」。

(4・18朝日)

マラソン・ママ

ゴーマン・美智子さん(四五)。ボストン・マラソンに女子の部で再び優勝。

(4・19読売)

婦警特別機動隊初代隊長

中西道子さん(五三)。婦警二百人の機動隊を率いる。「オンナが警備するなんて、われわれを差別している証拠だ」とある

グループに言われて、「そういうことこそ差別じゃないですか」と反論。

(4・20朝日)

一日欠かさず五〇年の日記

山本松枝さんは古稀と金婚式を記念して、結婚後の日記をもとに自伝を書き自費出版。

(5・3読売)

難病を克服して出産

ベーチェット病患者A子さん(二八)は、周囲の反対を押し切って出産。育児一年半で母子ともに順調。

(5・10朝日北海道)

川崎製鉄初の女係長

高橋千代子さん(五一)。社員三万七千名中、女性は二千人の男性中心の職場、川崎製鉄初の女性管理職に。社歴は二十七年。

(5・10千葉日報)

ライオンやカバの獣医

夏目典子さん(二三)。上野動物園四人の獣医の紅一点。

「ゾウはゾウらしく野生の本来の姿を見せるのが使命。ベットの感覚では動物をダメにする」。

(5・14朝日)

「ミナマタ」を訪れた秋吉敏子

組曲「ミナマタ」を収録した「インサイツ」でジャズ・ディスク大賞・金賞を受賞したピアニストで作曲家の秋吉敏子さんが九州公演。

「私は九州出身だから、水俣を通じて繁栄は幻にすぎないことを表現したかった」。

(5・14西日本)

国際看護協会大会を準備

小林富美栄さん(五六)。

「看護は医師の手伝いじゃない」

い。患者や地域の人を中心に、医者と看護婦がどう協力していくか……」

八七か国、一万三千人の大会を進行させる。(5・17朝日)

ろうあ教育の母

辻本モトさん(七六)。昭和三年、夫の繁氏と共に八雲町にろうあ学院を創設。後、室蘭市に移設。戦前、戦後を通じてろうあ教育に尽力。

(5・24朝日北海道)

説得力で女性解放を

ブラジルで空前のベストセラーになっている「母なる奥地」を書いたディナー・ケイロス女史が来日。

作家であると同時に女性解放運動家としても知られている。

「女性の武器は説得力です。女性同士の協力が大事」と。

(5・26読売)

全国でただ一人の女性騎手

吉田弥生さん(二一)。騎手になって一年、盛岡競馬場で白いムチを振る。月給四万円、まだ三勝。「でも馬はウツつかないから好き」。

(5・29朝日)

手づくりで政治にパイプ

「女の味方を議会へ」と呼びかける舟本恵美さん(三八)。小柄で色白、リブ仲間では無口。とはいえ、としふりたる全学連の感じで運動の趣旨・方針など言うべきことは言う。

(6・1朝日)

市議会議長はジープン党

上福岡市議の亀井麗子さん(二三)。本職は著述業だったが、「地域グループから誰かを」で、

子なしの亀井さんが市議選に出、この三月にはついに議長に。

「市町村議会は全員女性だっていい。これまで男性のご都合主義にやられていた」と。

(6・4朝日)

二人目の信州大教授

小野貞子さん(六四)。「教育界長野」でも女の教頭は四人、校長ゼロ。けわしい「谷間の开拓者」。「女教師批判には腹が立ちます。教職を目指す女子学生は真剣に学んでいるのに」。

(6・6毎日)

集団遺伝学十一年

三島市の国立遺伝学研究所集団遺伝部第一研究室長の太田朋子さん(四三)。東大農学部からノースカロライナ州立大学大学院を出てこの道一筋、「非ダーウィン進化の『中立説』」で世界的

論争を巻き起こした。「肉体労働でないから、女性向きでは」。一児の母。(6・7毎日)

ミニスカートの創始者

マリー・クワントさんが英国から訪日。「女性が常に女っぽくしている必要はない」「ミニは女性に解放感を味わせる」と。(6・10朝日)

「騒音一一〇番」事務局長

二年前に続き「騒音一一〇番」を開設した佐野芳子さん(六七)。四十五年「騒音被害者の会」を結成。「うるさ型」と片づけられますが」と、エネルギーと執念を要す。「近隣騒音」の編集者でもある。(6・10朝日)

看護婦五十年

十五のとき実母が急死、この

道を志した甲賀はなさん(六八)。静岡赤十字病院看護婦部長。五月にフロレンス・ナイチンゲール記章を。「若い人は思いやりがないって言われますが看護婦を志している人はやさしい」。(6・11毎日)

「受験資格なし」を克服

朝鮮高を出て準看護婦学校に入ろうとしてダメといわれたが、都の再試験を求め合格した黄奈美さん(一八)。「被差別体験はありません。朝鮮人と言われはしたが、事実そうなんだし、言われてうれしかった」。(6・14毎日)

金華山の宮司

奥海睦さん。二〇年前夫が他界、二児を預けて国学院大三年に編入、女性第一号の「明階」の資格をもらい、宮司に突如転

進。「女性宮司は全国でも八五人、ほとんど私同様、家庭の事情でなった人」。(6・14毎日)

賃立て船の女船長

西村美津子さん。「女だてらにって言われるけど、海が好きだからって言ってやるの」一五〇万円で中古船を買って松島湾で賃立て料理を。(6・16毎日)

最後の警女引退

中静ミサヲさん(六七)、金子セキさん(六五)、手引きの関矢ハナさん(六七)の、昭和二年以来のコンビが、盲老人センターに。「行く先々で親切にされて幸せでした」(6・19毎日)

“野焼きオブジェ”をつくる

藤田昭子さん(四四)。直径十

五メートルの「原住居空間・出縄」を平塚市につくった。世界でも初めて。気迫に満ちた野人との評もある。(6・19朝日)

文部省初の女性局長

国立では世界でも初めてという「婦人教育会館」館長に縫田摩子さん(五五)が内定。(6・29各紙)

*

縫田さんはしたかで賢くチャイミング。四十六年、四九歳の若さで都の民生局長に。たちまち職員のアイドルになり、まむし議員たちをそろってシンパ化。「古風なれどリブ」と評されたことをうれしがる。(6・29毎日/信毎)

*

「婦人に関する情報センター」が生かされるのが気に入った」「特に国際交流を柱にしたい」と女性解放ひと筋。

(7・6 東京)

六九歳でロッククライミング

川森佐智子さん。自宅の十メートルの壁面でトレーニング。「体のバランスが良くなるし、スマートになるわよ。」

(7・5 朝日)

主婦の夢

テレビタレントの黒柳徹子さんは「いわば主婦の夢。解放され、開けっぴろげで、率直で……」と武者小路公秀氏夫人。

(7・12 東京)

肝っ玉かあちゃん世界一周

食堂のおばちゃん大平さち子さん(四八)が八つ下の父ちゃんと弟のおしりをひっぱたきながらヨットで世界一周した。「女にとって四〇代は何かできる最

後のチャンスのような気がしたんです。」

(7・13 朝日)

放送作家の権利を主張

寺島アキ子さん(五二)。脚本料は安すぎると主張し続け「ホサレちゃった」と笑う。日本放送作家組合常務理事。

(7・15 朝日)

タイから“ガ”の研究に

福岡の英彦山にタイの女性昆虫学者アヌーン・リユワニさん(三〇)が「母国の農業に役立てたい」とガの採集に来日。

(7・22 西日本)

七〇歳で日本一周マラソン

波多野 斐さん。日中は化粧品会社で幼児の世話。夕方ひと休みのあと料理屋で深夜一時すぎまでサラ洗いしてマラソンの

資金に。なぎなた・水泳もする「明治四十年女」。(7・25 朝日)

設計に男女はない

鈴木玲子さん。三年前、秋田県で初の女性一級建築士に。秋田工高時代の同級生の夫と設計事務所を。「以前働いていた東京の設計事務所の所長が、女建築家を育てる夢を抱いており、男なみにどなりちらされた。それがよかった」。(7・30 毎日)

心身障害者授産指導所開設

荒巻静枝さん(六〇)が養護学校の退職金で、春日市に一昨年、福岡市に今年、開設。組みヒモを指導。

(8・2 西日本)

サッカーの女性監督

少年サッカーリーグの優勝チーム清水F.C.の監督は、辻小学校

の綾部美知枝先生(二八)。出来の悪い試合の翌日は、歌わせ笑わせてリラックスさせる。大事な試合でたくさん得点した選手はあとでシュートの特訓。「気分をよくしているときに練習したことは全部吸収するから」と。そのへんの男のコーチよりよっぽど力がある。

(8・4 読売)

炎くぐってバスを運転

昭和二〇年八月一四日、運転する大阪市バスを車庫に入れようとしたとき機銃掃射を受け、車体はハチの巣のように。奇跡的に助かったが、何人もの同僚女性が死んだ。あれはまさに戦場だった。男なみどころか男以上の働きをした日々を語る桂あや子さん(五五)。(8・16 読売)

きり絵で“夫婦の戦後史”

金子静枝さん(四七)、徳好さ

ん(五)が、戦後の社会を一市民として反戦一筋に生きてきた

夫婦の歩みを、『きり絵でつづる―ある夫婦の戦後史』にまとめ出版。日中出版。一五〇〇円。(8・25読売)

ナマ放送を二〇年で六千回

ラジオ番組「秋山ちえ子の談話室」で世相や政治や身辺のあれこれを語りつづけた秋山さん。(8・26毎日)

お嬢さん劇作家誕生

芸術座の『つゆのひぬま』で、遠藤公愛さん(二八)が抜てきされた。

劇作家不足に悩む演劇界で期待されているが、本人は「十年以上早かった。この一作に自分を出しきった」と首をすくめる。(8・31朝日)

紅一点の一塁手

松本市の草野球チーム「リポーズ」の一塁手は紅一点、中山和子(二四)さん。守って軽快、打って逆転打を放つ。応援から正メンバーになった。今はチームの主力。(9・7読売)

公害五百年を年表に

東大医学部助手の飯島仲子さん(三八)が、このほど労作を発表した。

新たな公害が発生すると「予告できなかった」とされるが、企業・住民ともに歴史を知っていたら防げたはず、と六年間、毎日最低一時間は原典に当たって集大成。

大阪市大の宮本教授も「比肩するものない資料的価値があり、科学者が安心して利用できる客観性も備えている」と激賞。(9・9朝日)

OLローンの社長

鹿島初江さん(三三)。デパートのOLから転身、毎月六千万円を動かす。主な客は二〇―二五歳、使い道は一に旅行、二に買いもの。「生活のにおいがしてくると危ない。主婦はお断り」。(9・10朝日)

方言辞典を編む

長田須磨さん(七五)。「ノロ(巫女)の血のなせるわざ」で、発心以来三〇年近くかけてこのほど「奄美方言分類辞典」上巻を出した。さらい年には下巻が出る。(9・14読売)

九三歳で英語塾教師

小平市の吉田其枝さん。八三歳で開いて十年目。いま生徒は一九人、一人一時間ずつのマン・ツー・マン教授。問題集も市販

は使わず全部手書きで。

「先生? うーん六〇歳ぐらいかな」と生徒。(9・15朝日)

七九歳の英語の先生

お年寄りたちの「寿英語教室」(恵比寿区民会館) 教師も長寿の中込富士子さん。

「パスポートのサインができるようになった」

「孫に尊敬された」と生徒たちも大喜び。(9・15毎日)

国際捜査の女刑事

警視庁に新設の国際捜査共助係の女性刑事第一号に清水康子さん(二〇)が。昨年暮れ、南美系外人スリ団上陸のさい、スペイン留学の経験がある彼女のスペイン語が捜査に役立ったのがきっかけでの起用。(9・19道新)

お茶大出の巡査部長

斎藤澄江さん。学生時代は権力的な警察に反感、五十年卒業時、教員試験もパスしたが「女性の新しい職場として魅力を感じ」警察入り。将来の女署長と上司が目を細める勤務ぶり。

(9・21毎日)

女性解放の論文集を出版

ますます執筆に意欲を示す山川菊栄さん(八七)。「女性解放へ社会主義婦人運動論」(日本婦人会議出版局刊)には、大正デモクラシー当時を中心に、晶子・らいてう等との「母性保護論争」など十三篇を収載、校正も自分の手で行ない、かつて検閲で削除された部分を補った。「当用漢字に時々古い字がまじりましてネ、動脈硬化だ」と自分を叱っております。

(9・22毎日)

鉄と取り組んで三十七年

新日鉄・金石製鉄所で研究ひと筋の半田ミナさん。コークス量節減や「高純度鋳物鉄」の生産化などに成功。一七歳で入社、三日目から「一番弱い化学の仕事をやられ」「死ぬまで勉強と工夫です」。

(9・29毎日)

アイヌ語と日本の敬語研究

博士号をとったキーステン・田中さん。二九歳、デンマーク生まれ。「敬語をなくすには、男女・上下の関係をなくす、平等になる、つまり社会状況を変えなきゃ。女性を解放しなきゃダメなんだなあ」(10・3朝日)

“ドヤ街”の保健婦

保健婦生活三〇年の渡辺幸子さん(五一)。日雇い労働者や家族との交流を「寿町保健日記」

にまとめた。「この町に一度入ると、とりこになる。ダイナミックな解放感があります。人間がとにかく仲間のね。人と人との結びつきが普通の社会通念と違う。知識のある人のほうが冷たいわね」。

(10・10朝日)

生活問題専門学校

「生活の専門家・生活問題のプロ」と自任する山本松代さん(八八歳、農林省初代生活改善課長)。生活問題の専門家養成のミニ学校をつくる。「生活優先か、経済成長優先か、じゃない。生活が目的で経済は手段です」。

(10・10朝日)

患者の謝礼辞退運動

「金品のお礼に勝る患者の笑顔」などの標語で、患者からのお礼辞退運動をしている立山正子さん(五一)。日本看護協会看護婦

部会秋田支部長。(10・12道新)表彰された女性警察職員

全国優良警察職員として警察庁から表彰された相沢みよさん(五三)。女性の受賞は初めて。

戦時下の一九四三年、旭川署に交換手として勤務、一時退職後、道庁警察部に再就職、三三年間にわたり交換手一筋。今でも夜勤を続ける。

(10・24道新)

女性のキャリア外交官誕生

外務省に二〇年ぶりの女性キャリア外交官が。外務公務員上級試験に清井美紀恵さん(二三)と楠田かおるさん(二三)が合格。将来は女性大使が誕生するかも。

(10・26日経/朝日)

共産党初の女性幹部

党員四〇万弱。幹部会委員は

四二人。「黨員の三分の一は女性だから大いにがんばれということでしょう」と語る小笠原貞子さん(五七)。脳卒中で倒れた夫と八八歳の老母と二人とも寝たきり。ハシをとり、二人に食べさせている。(10・27道新)

「小さな島国では、土地の人々との連帯なしには、充実した生活は営めません。お産のたびに帰国する白人たちは地元の人々からみれば『ビジター』に過ぎない。地元の人と仲良くなるためにも西サモアでお産をする覚悟を決めました」。

出産費用は千四百円。

(11・11朝日)

不幸をバネに生きる

広告ゼロ、口コミだけで一万四千部、さらに増刷中の小さな一冊『ともにいきる・身障者に正しい理解を』をまとめた片岡みどりさん(五〇)。NHK劇団二期生、朗読を通じて「身障友の会」に入り、理事長を十二年。「人にはやさしい心が、それを掘り起こしたい」。(11・4朝日)

「婦人公論」編集部次長から作家となった沢地久枝さん。一四歳のとき満州で敗戦、二八歳のとき心臓病で倒れ、一方会社では、夜間大学出・女・異例の若さながら編集次長になったこと等へのあつれきに苦しむ。「意地でもへこたれるわけにはいかなかった」。

(11・12朝日)

南太平洋の小さな島国西サモアに住む若い夫婦、太石敏雄・登代子さんはサモアで「回出産」

学生結婚の夫は酒飲みの共産黨員、ついに離婚、三八歳でまた心臓の大手術、ことしの六月

にも失神、「また、ためされている、なぜこんなに……と思うこともある。でも私は後悔したくない人間なんです。生きていく限り怠けることができない。本当は弱虫なんだけど。(運命は不幸以外のムチを知らない)とツアイクは書いています」。

(11・12読売)

初の「女船長」へ

甲種一等航海士の筆記試験に女で初めて合格した若原千鶴子さん(三三)。一年間船に乗って経験を積み、口述試験に受ければ、初の女船長誕生となる。

「海はいいですよ。ほんと、海みてる、小さなことなんかすぐ忘れちゃうから」。

(11・12朝日)

日本の伝統工芸に気を吐く

来春、イタリアの古城でアク

セサリーの展示会を開く村山治江さん(四九)。装飾品デザイナー。「デザインするだけだから製品としての値段はわからない」と。東南アジアや南米に決死の貴石採掘。

(11・15読売)

四八歳で社会保険労務士

子持ちで会社勤めの札幌の女性(四八)が、職場の仕事を通じ勉強強、三度目の正直で国家試験に合格。できれば開業したいと語っている。(11・17道新)

女性青年海外協力隊員

一盛和世さん(二六)と平岩千尋さん(二四)。南太平洋の西サモアで、世界保健機関の医師団とともに象皮病撲滅の第一線に。朝夕、蚊を採取、血液検査に出かける。(11・18朝日)

男よりも仕事を選ぶ

「フランス航空宇宙工業会日本代表」「貿易コンサルタント」の肩書を持つ平野清子さん。日仏の男たちの間に立って商談を成立させている。学生時代フランス語は全くやらなかったのに、必要に迫られて二年間でマスター・マンションに秘書を置いて独立独歩。
(11・19朝日)

研究こそ生きる支え

「幾つものカベがあり、『死にたい思い』をしてきたが、それらに立ち向かうことで乗り越えてきた」という君島久子さん(五二)。国立民族学博物館教授、中国文学・歴史民族学専攻。
(11・19読売)

婦人消防官活躍

目黒消防署の婦人消防官西条

五子さん(二五)。階級章は星一つ。ものおじしないで人の中に入っていける、と自己PRを入署面接に。

「社会のお役に直接立てる仕事ができたくて」就職。幼稚園や独り暮らしの老人訪問、広報紙作成など、仕事は山積。
(11・22読売)

走り続ける四二歳

世界女子マラソン界の第一人者、ミチコ・ゴーマン夫人は、今年に入ってからボストン・マラソン、ワールド・マスターズ、ニューヨークシティ・マラソンで優勝。

「彼女の意気込みは大したものだ」とは夫のマイク氏の弁。
(11・23読売)

英断にこたえた「一号」

文部省情報図書館課長の遠山

敦子さん。六二年に文部省が採用したキャリアウーマン組の第一号。

小学四年の娘が、最近の作文に将来は職業を持ちたいと書いた。それを知って、「それなりに私の後ろ姿を見ていてくれるのかなあ」。
(11・24読売)

ジェット整備の婦人自衛官

一等航海士加藤了子さん(二〇)。「心身の鍛錬になるし、女性の職業として安定すると思ってる」。月給八万五千元。将来は整備士の資格をとり、パイロットにもなりたい、と夢いっぱい。
(11・26朝日)

野坂恵子意欲の二十弦箏

二十弦箏の野坂恵子が「箏でドラマを弾く」と銘打って、十二月二日、七回目的リサイタルを開く。

曲目の最初は「鎮魂歌」で、長崎で被爆した十歳のときの荻野美智子の詩に野坂が曲をつけ、ソプラノの増田睦美が歌う。
(11・29読売)

下町を歩く米国女性

「下町は明るくて人情が厚いので大好き」と体の不自由なドロシー・テッソンさん(三五)は、江戸時代の町人文化を研究する。下町っ子の案内で、電動イスに乗ってあこがれの浅草かいわいを歩く。
(11・30朝日)

女性の昭和史佐多稲子全集

講談社から佐多稲子全集全一八巻が出る。デビュー作『キララメル工場から』など一九二〇年代後半から三三年までの初期作品が収められている。これらの作品に描かれている少女たちの姿は胸を打つ。不況の農村か

ら上京して工場の寄宿舎に寝泊りして働く少女たちは、けなげで哀切である。

現在のOLたちは豊かで海外旅行にも出かけていく。しかし、佐多さんは疑問を持つ。婦人労働者はそんなに恵まれているだろうか？ 不況で女子就職難が起こっているのではないか……。

婦人問題とプロレタリア運動
これは佐多さんの生涯のテーマとなった。
(12・1読売)

文も絵も自作

上質紙を九つに切り、その二枚を半分に折ってホッチキスでとめただけの八ページの絵本——これが赤間紀子さん(三四)の手作り絵本。いま七冊目を製作中。「やっている最中はつらくて、もうやめようと思うんだけど、終わるとまた次を考えてる」。

(12・4読売)

素焼きの家を完成

陶土一四〇トン、世界最大の「素焼きの家」を平塚市郊外につくった藤田昭子さん(四四)。新しい分野を精力的に開拓している女流彫刻家。夢は「みんなが参加できる焼物公園」。

(12・5読売)

女ひとりヨットで世界一周

オーストラリア出身のアン・ガッシュさん(五四)。二年半前「どうせ引き止められるから」と家族に内証で出港、無事世界一周を。「英国へ行くのにお金がい足りなかったので行ったのよ」と祝杯！(12・6読売)

ソ連・東欧・おんな一人旅

旅行レポーター・久保田弘子さんは、ジョーンズで二〇キロ余りのリュックを背負い、ソ連・

東欧を約二か月間旅行し、土地の人たちの熱い心に触れた。

レニングラードで出会ったベラは、三組に一组というソ連の離婚率の高さの例にもれず、離婚経験者。第二次大戦後、男女の比率が一对一〇近くになり、女たちが男を大事にしすぎたから、亭主関白がいっそう強くなっ

たとか。
(12・6読売)

車イス少女、短大へ

車イスの生活が続く桑名敦子さん(一八)は、福島市の聖母女子短大の推せん入学に合格、「大学で英語を学び、独り立ちしたい」という夢を実現。

(12・6朝日)

駿河ダコの伝統を守る

一日中、時には夜なべまでして、あぐらをかいてタコの武者絵を描く静岡市の四代目鳳八

(たこはち)、加藤阿さ子さん(四九)。父のあとを継いで三年。「女の描く武者絵はやっぱり線が弱い」と言われると、反撥して筆勢を強くする。

(12・11読売)

「奇人でけっこつ」

二五年間、妻として付き人として見つめた左ト全さんの思い出をまとめた三ヶ島糸さん。

「夫の実像のきびしさかなしさ、特異な芸の出どころを、独り秘めておくには切な過ぎました」。

(12・12読売)

モンゴルの先覚女性

教育近代化に成功したモンゴル。その芽は七〇年前、若い日本女性、河原操子によってまかれた。東京女高師を出て明治三六年単身モンゴルへ。女学堂を開き、卒業生三人を日本に留学

させるなど尽力した。

(12・15毎日)

自立する女のマンガを

チビツ子にバカうけの『キャンディ・キャンディ』の作家、いがらしゆみこさん(二七)。高三から漫画雑誌でデビュー。

「一人ばっちでも明るく、自分で考え、自分の足で歩いて行こうって、キャンディを借りて訴えてる」。

(12・16読売)

ボクシングレフェリー

女でただひとりのレフェリー、今は水沢市の体育協会で事務をとる大久保令子さん。東海大学二年生のとき資格を取った。女を意識せずにひた走った学生時代。それがいまや「ボクシング」と「女である自分」との間にすき間がヒューヒューと。

(12・17朝日)

赤いドレスのうらない師

銀座日航ホテル前で人気の杉田典映さん(三二)。慶大法学部在学中からこの道に。田中角栄の没落、江川君のプロ入り拒否等を早々と予告。夢は易学を経営コンサルタントに取り入れること。

(12・22毎日)

水原勇氣「はいた」

ビュンビュンと左腕から快速球、打者を三振に打ちとる女投手、星野富恵ちゃん(小六)。「レッドサンズ」の五番打者で一番のノック。

ずっと男の子と野球をやりたいという彼女、中学の野球部が受け入れてくれるかどうか。(12・22読売)

混血孤児を育てる

日本の役人からも、主婦から

も米軍将校夫人からも、混血孤児の世話なんてと責められた。

「反撥して意地で今まで続けてこられたんです」という沢田美喜さん(七二)。

罪を犯した子に面会に行った控室で「いい年してヒモがいるのかよ」とからまれ、「ヒモの意味知らなくて、パンツのヒモがとけたのかと、足もと見ちゃいました。ホホホ」。二十人を経話し、いま園児は九〇人。

(12・24読売)

身障者に電動式車イスを

西洋料理とアート・フラワー

を三〇年教えている飯田深雪さん(七四)。五十年秋、勲五等宝冠章を受けて以来、なにか世間に役立つことはないかと身障者に電動式車イスを贈りつづけている。

(12・31朝日)

〔賞〕

ジャズ・ディスク大賞、金賞

第十回ジャズ・ディスク大賞(スイング・ジャーナル誌主催)の金賞に秋吉敏子が。

(1・7朝日)

第四回テアトロ演劇賞

奈良岡朋子さん(劇団民芸女優)に決定。民芸公演「奇蹟の人」「七人みさき」、芸術座公演「忍ぶ川」の演技成果で。

(2・28朝日)

第十七回田村俊子賞

木々康子氏「蒼龍の系譜」と武田百合子氏「富士日記」に決定。授賞は四月。(3・5朝日)

*

武田泰淳氏夫人、武田百合子さんは、泰淳氏の最後の夏から

入院までの日記をまず発表、
《海》に連載中の『富士日記』
で受賞。 (3・17誌売)

第二十回群像新人賞 (評論)

中島 梓さん (4・18各紙)

赤松賞

四十年に死去した参院議員赤
松常子さん (民社) を記念して、
埋もれた仕事に献身する女性に
贈られる赤松賞。今年の受賞者
は、西村好江 (全国婦人相談員
連絡協議会会長)、万代房子、
楠本かず枝さん。 (5・5朝日)

世界バドミントン女子複で優勝

京都の日中親善大会で出会っ
て一目ぼれ。東京・大阪と離れ
ばなれを電話や手紙の練習計画
でおこない見事優勝した梅野尾
悦子さんと植野恵美子さん。

(5・12朝日)

第十六回女流文学賞

宮尾登美子さん (6・8各紙)

高橋たか子さん (6・8各紙)

ゴルフで全米を制す

樋口久子さん (三二)。全米女

子プロゴルフ選手権で最終日に
逆転優勝、八度目のチャレンジ
に成功。 (6・13朝日)

*

年収三一八七万円、男子をふ
くめても日本のプロでは三位の
高収入。 (6・13毎日)

*

「だが、ゴルフを除けば普通
の女と変わらないんだよ」と夫
の松井プロ。 (6・14毎日)

マンガ原作者の紅一輪

水木杏子さん、『キャンディ

・キャンディ』で第一回講談社
漫画賞を受賞。少女小説出身。
「幼な妻」が流行になってから
やめてたんですが、マンガの依
頼が来て、小説で書けないもの
を……」と。男性原作者がマン

ガ家と対等の待遇なのに、少女
マンガの原作者の待遇は低いの
を問題視。 (6・19毎日)

「浅草の女」沢村貞子さん

二冊目の『私の浅草』でエッ
セイスト・クラブ賞を。情が深
く、自分をよく知っていておだ
てにのらないのが「浅草の女」。
女も経済的に独立したほうがよ
い、と女優に。 (6・21朝日)

第十一回超空賞

芸術上、実生活上のさまざま
な迫害や困難に決してつぶされ
ず、端然として歌作にはげんで
いる斉藤史さんに贈られた。そ

の歌集『ひたくれぬい』の佳吟
は著者の強固な熟成を示してい
る。 (6・26朝日)

国際赤十字映画祭

「ねむの木学園」を描いた
「ねむの木」の詩がきこえる」(宮
城まり子さん製作・監督・主演)
が特別優秀賞。被爆問題を扱っ
た「生きる——その証のために」
(秋吉宣子さん製作) が短編部
門でグランプリ。 (6・27朝日)

久留島武彦文化賞

小嶋くるみさん (7・3各紙)

第十回道芸術新賞受賞

小倉和子さん (五六)。日本い
け花芸術協会特別会員、道いけ
花連盟理事、草月流支部草和会
長。全米に生け花を紹介し、海
外交流に尽くしてきた。

(8・26朝日北海道)

旭川市文化奨励賞

(四)に。

七十七年度が国際アムネスティ

第五回ウィンナーワールド・

オペラ賞大賞

伊藤雪女さん(七九)。東京女子薬学校卒。俳句の道六〇年。

中沢桂さん(ソプラノ)

(10・11朝日)

「花樺社」主宰。育った俳人一二〇〇人。道俳句協会地方委員。

(10・25朝日北海道)

映画一すじ

第一四回日本翻訳文化賞

〈日本映画復興のために〉と私財を投じて文化財団を設立した

湯楨ます、薄井担子、小玉香津子さんら、『ナイチンゲール

山路ふみ子さんの第一回「山路

著作集(全三巻)」で。第一三

ふみ子映画功労賞」をうける浦

回日本翻訳出版文化賞も同時に

辺桑子さん。一七歳で浅草のコ

受賞。(11・11読売)

ラスガールに。根性のない人は

ノーベル平和賞女性が受賞

消えればいい、ときびしい名バ

イブレーヤー。(10・12読売)

中三で音楽コンクール一位

一九七六、七十七年度のノー

中村絃子以来二人目の中学生

ベル平和賞授賞式が、ノルウェー

一位となった千住真理子さん

のオスロ大学で。

(十五)。「天性の音楽家」と審

査員も感激。(10・29毎日)

〔逝去〕

女義太夫の第一人者

人権擁護賞を大阪の主婦に

竹本小土佐さん(二〇四)。一

国際アムネスティ韓国委員会

世をわかせた名人、美人、八八

は、同委が新しく設けた人権擁

歳で引退。(1・3読売)

護賞を大阪府豊中市の主婦・恒

成和子さんに贈った。

久松喜世子さん(九〇)。老衰

七三年十一月から日本アムネ

で。(1・4各紙)

スティ第十グループで韓国政治

金山らくさん

犯に下着を差し入れたり、釈放

七日、老衰のため。八十八歳、

された学生の職業訓練などのた

日本の女性理学士第一号。

めに計千万ウォン(約五五〇万

一〇六歳で大往生

円)にのぼる救援基金を継続し

宮崎県の最高齢者夏田ナツさ

たことが評価されたもの。(12・11朝日)

んが八日老衰で。全国百歳の会

母。パートの事務員。授賞作は

副会長、メガネをかけず縫いも

『関谷の日々』。(12・22読売)

のをしていた。(2・10毎日)

沢崎梅子さん九〇歳で

歳。無声映画時代にデビュー。

日本初のトーキー作品に主演。

二一日、老衰のため。料理研

昭和の映画史の一人。

究家。
(2・22毎日)

(3・22朝日)

無形文化財贅女唄伝承者

萩原正吟さん

伊平タケさん(九一)。二四日

急性じん臓炎のため。

(2・26各紙)

関西の代表的筆曲家、無形文
化財記録保持者、京都市文化功
労者。二三日脳軟化症で。七六

歳。
(4・24朝日)

佐藤雅子さん

ジョン・クロフォード

二八日、肝しゅようのため。

料理研究家。
(3・1朝日)

十日、心臓発作のため。六九

歳。米女優。
(5・11朝日)

高田せい子さん

辰巳浜子さん

現代舞踊の草分け。一九日、

大動脈りゅう破裂で。

(3・21各紙)

料理研究家。十一日、心臓マ
ヒで。七三歳。
(6・12朝日)

田中絹代さん

森田翠香さん

二一日、脳しゅようで。六七

書家。六月二五日、老衰のた

め豊中市で。七六歳。女性でた

だ一人の日展審査員をつとめた

人。
(6・16朝日)

長谷部広子さん

元参議院議員。六月一八日胆

道しゅようで。七八歳。

(6・20朝日)

土岐タカさん

歌人。六月二五日、胆のう炎

で。九〇歳。
(6・27朝日)

森 三千代さん

作家。脳出血のため。七六歳

夫、金子光晴氏の三回忌の前日、

六月二九日に。
(6・29朝日)

宮園千之さん

古曲家元、重要無形文化財保

持者。二六日、肺炎で、八五歳

(7・28朝日)

マリア・カラス

一六日、パリで。心臓発作、

五三歳。広い音域、美貌で奔放

な生涯を。「他の歌手よりキャ

ンセルは少ないのにキャンセル

で有名なのは、それだけ苦情が

多い、つまり客の失望が多いっ

てことよ」
(9・17各紙)

吉野せいさん

四日、いわき市で。七八歳。

作品集「渾(はな)をたらした

神」で第一回田村俊子賞と第

六回大宅壮一ノンフィクション

賞を。農民作家。(11・5各紙)

山高しげりさん

一三日、急性ジン不全で。七

八歳。大正末期の婦人参政権運

動以来、五〇余年、わが国婦人

本

女性ばかりの童話同人誌

『海賊』が発刊満十年。三月十二日、日本女子大で「詩と童話のまつり」を。(1・5朝日)

あるスモン女性の青春

星三枝子さん(二八)。八年間にわたる点字手記『春は残酷である』(毎日新聞社刊)を一月下旬に出版。(1・6毎日)

『私の言いたいこと』

市川房枝著。四分の一くらい

が自伝。あとは日本の政治の仕組みと問題点を示したもの。

(1・8道新)

ひめゆり教師の本

沖縄戦線で悲惨な最期を遂げた「ひめゆり学徒隊」ただ一人の引率女教師、親泊千代さんをしのお一冊の本が、東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大)時代の同級生辻千鶴子さんの手で自費出版された。

一二六ページの小型本『伊原野(いばるの)に死す』

(1・9読売)

『北の女たち』を追求

高橋三枝子さんが主宰する北海道女性史研究会で昨年十一月『北海道の女たち』を発刊。北海道開拓の支えとなりながら、日の当たることがなかった母や祖母たちの歴史——その生きざまを『女の視点』から見つめ直そうと『証言』を書き書きたもの。

(1・12道新)

葉の山に殺された娘

重症無力症で入院中の女性が突然、呼吸困難を起こして植物

人間になり、死亡。母親は「葉の大量投与で娘が死んだ」として、病床日記に独自調査の資料をつけ、一冊の本を出版、医学論争に発展。(1・13読売)

『スペイン子連れ留学生』

七歳と四歳と二歳の女の子を連れて一年間スペインに留学したママの「子連れ留学記」が出版された。(1・17各紙)

女性民俗学会雑誌復刊

柳田国男によって作られた

『女の会』による『女性と経験』が復刊。年一回刊、三百円。連絡先は、新宿区東大久保二二〇、瀬川清子。(1・23読売)

『都市と主婦たち』

神戸市を舞台に、戦後の主婦たちがいかに自分を見つめ、自分たちの住む町のあり方を考え行動し、成長したか、消費者運動・市政懇談会などを通じて解きあかした本。(1・29毎日)

『おんなの事典』コーナー

三省堂書店(新宿・渋谷・池袋各店)は、二月五日から二八日まで『おんなの事典』コーナーを特設。女性解放情報書を集めて販売。(2・5読売)

アニメーション狂

富沢洋子さん(一三)。専門

月刊誌『FILM124』を編集。(2・6朝日)

『日本の家庭 世界の家庭』

日本の夫婦はなぜデートしない……。家庭を無視して残業するなど、考えさせられる点が多い本が出た。高橋 歌著。(2・21読売)

『おばあちゃんの自分史』

村山マスさん(八六)が自費出版。(3・12朝日)

『男たちよ!』

男が主導権を握ってきた社会で女は男のつくった神話にとじこめられてきた。女の本当の像をさぐるうとしたユニークな書。中山千夏著、話の特集刊。(3・17朝日)

『ママ本にしていよいよ』

自閉症児を持つ母が出産前の日記から始め、兆候、対応など洗いだらい発表した記録書。杉澤子著、創世社刊。(3・30朝日)

『静かな終末』

愛に結ばれて結婚したが『男からの独立』を目指して離脱した児童文学者、矢川澄子さんの著。筑摩書房刊。(4・1朝日)

女性ジャーナル紙一周年

『女性の手による女性のための新聞』として主婦ら六人で発行している同紙が近く一三号を迎える。(4・4朝日)

二人の女性が変身実験

ナンシー・ウェーバー著小沢

瑞穂詠「自分をみつめる旅に出てみた」はアメリカ女性のライフ・スワップ(人生交換)の記録。

中途でぎ折。だが、二人は、それぞれの生き方に自信を強めたように見える。三笠書房刊、九八〇円。(4・4朝日)

ブラジル文学翻訳

ブラジルに移住して四〇余年、ポルトガル語を独学で修めた河井美津子さん(五六)が、デyna・ケイロス女史の『城壁』を日本語に翻訳。女主人公の気丈さにひかれて。(4・7朝日)

白血病児の記録

野崎明子著『お姉ちゃんお嫁に行っちゃった』が反響を呼び、ごま書房から刊行された。(4・7朝日)

『平塚らいてう』

著者は、「元始、女性は大陽であつた」の編集を手伝い、らいてうと生活を共にした小林登美枝。「らいてうの実像に肉迫しなかった」と。大月書店刊。

(4・11毎日)

『中世の女たち』

一九四〇年に世を去つた英国の女性経済学者の遺稿やノートを編集した中世女性史への入門書。女たちの生活が粗いタッチではあるが的確に浮かび上がる。アイリーン・パウア著、思索社、一二〇〇円。(5・9読売)

『ジョング旋風』

アメリカ・ヨーロッパでベストセラーになっている『翔ぶのが怖い』は日本でも好評。アメリカでは女性学講座のテキスト

に使う大学もあり、映画も上映される予定。(6・16毎日)

*

世間はとかく女を精神型かセックス型の二つに分けて見ようとした。でも現代の女が自分自身に正直であろうとすればその両方を持った存在になる。その点を、熱意をこめてしかも風刺的に追求したのが受けたのでしよう。

『翔ぶのが怖い』の著者、エリカ・ジョングさんの話

(9・5読売)

『看護婦のオヤジがんばる』

『看護婦のオヤジの会』ができて三年、会報にのせた文書やマンガを一冊にまとめた。「一同、大臣国を訪問、子どものおシメをとりかえる姿なんて、考えただけでも愉快」——要求だけでなくユーモアにもあふれている。(あゆみ出版八〇〇円)

(6・25朝日)

『房総の女』

各時代を生きぬく女人群像に光をあてた好読みもの。荒井愛子著。昭和図書出版刊、一五〇〇円。(6・27千葉日報)

『別の女』

アフリカ女流作家の双壁の一人、ケニアの女流作家グレイス・オゴトの短編集。

『教授』は、西欧的思考とアフリカの思考の対立を浮き彫りにした作品で、彼女の短編中の白眉の一つといえる。

(6・27朝日)

『ダイヤモンドの針』

夫とわかれ、娘も巣立ち、一人になった女流作家の自伝風な連作。中里恒子著、講談社刊。

(7・11朝日)

『越後賢女唄冬の旅』

三味線をかかえ、背には生活用具一式を背負い、三人五人と組をつくって村々をたどりあるいた盲目の女芸人ゴゼ(賢女)さんたちの一年間の旅ぐらしを描いた小説。村山富士子著・筑摩書房刊。(7・25朝日)

『続・テレビに』

子守りをさせないで』

『テレビに子守りをさせないで』(水曜社刊)を出版した岩佐京子さんは、石崎輝子さんとともにルナ子ども相談所を開いた。この相談所にやってきた子どもたちの様子、自閉症児を受け入れた保育園のとまどいなどを統編に。(7・27朝日)

『ジョルジュ・サンド評伝』

長年サンド研究に打ちこんできた著者が、サンド復権のために愛惜こめて書きつづった労作。長塚隆二著。読売新聞社刊。

(8・1読売)

『ロンリー・ウーマン』

なにかしれぬ内部の渴望に翻弄される女たちが主人公。独立した短編として発表された五編をたくみな構成でひとつの長編小説へと組み立てている。高橋たか子著。

(8・1読売)

『谷中村問題と学生運動』

田中正造に傾倒、生涯ペンで戦い通したジャーナリスト、菊池茂の論文集を娘の斎藤英子さん(五二)が編集、自己出版。これから十年の間に四、五巻は出したいと意気込んでいる。

(8・2読売)

『あなたに似たひと』

選択の余地なく向こうからやってくるさまざまな出会いを生き抜いた十一人の女の物語。沢地久枝著・文芸春秋社刊。

(8・3読売)

『むしろ女人の性を礼拝せよ』

平塚らいてうが大正から昭和のはじめにかけて婦人雑誌に発表した性・結婚・家庭・職業をめぐる女性問題評論集。

借りものの理論によらず、自分の体験のなかから、自分の頭で考えぬいた、ひとりの女の提言。平塚らいてう著、人文書院刊。

(8・9読売)

一つの女性解放史

『雑草のように遅く——赤

松常子の足あと』は、初の参議院議員となり、婦人労働運動家として活躍した赤松さんの短歌・文章・年譜、共に闘った人々の思い出の記をおさめたもの。赤松常子顕彰会刊。(8・10読売)

思い悩む人生に助け舟

『小山いと子の人生相談』大陸書房刊。

弁護士鍛冶千鶴子さんによる法律的視野からの回答は『人生案内』(評論社)に。

(8・13読売)

『ワルツと囃子』

日本はうらやましい女性天国。女の役割がはっきり二つにわかれている。家庭婦人と兵卒やバー

で男を楽しませる役割と。西洋では一人が二役をする。また西洋では男は女を信用せず子ども扱い、日本では女の人をおかあ

さんのように考え大事にしている。ドロシー・ブリトン著、実業之日本社刊。(8・15読売)

『限りなく透明に近い

ブルー』を英訳

訳者のナンシー・アンドリュースさん(三〇)は「私の大学時代は、変革」の時代だった。私は女性運動に身を投じた。この作品は、自己変革の時代と妙に重なりあって気持ちや感情で共鳴した」と。(8・15読売)

『三十三年目の証言』

女性が戦時記録を出版——もと挺身隊員たちが今も生活の原点である体験を「胸に穴があいた」「生き残った者の務め」にまとめた。

飯田の婦人会は「衣と食にまつわる思い出集」上田の創作グループは「引き揚げ記録」を。

(8・15—17信毎)

『漂泊と定住と』

柳田国男の社会変動論の内容がいかなるものであったかを浮きぼりにして、その方向が現代の課題といかにかかわるかを究明した労作。鶴見和子著、筑摩書房刊 (8・29読売)

『高群逸枝』

日本近代史の研究者、鹿野政直氏は逸枝の共同体の論理に、詩人の堀場清子さんは女の論理に、より深い関心をもつ。この夫婦による優れた共同作業は、逸枝と夫、橋本憲三の「同行二人」の人生とその論理をいっそう深いものにした。

(8・29読売)

脈打つ「断固公害追放」

有害食品で数々のヒットをとばしている美唄消費者協会が、今までの活動を一冊の本にまとめた。「ベカンベの詩(うた)」。ベカンベはアイヌが常食した植物の実で、公害のない自然食品をと願った題名。地元的女性史なども収録しており一冊四〇〇円。

(9・21道新)

『ほづつのあとに』

従軍看護婦たちの手記集「ほづつのあとに——殉職従軍赤十字看護婦追悼記」が関係者の手でまとめられた。十代、二〇代の若さで看護婦になった女性たちの手記一六編が収録されている。

編集責任に当たった日本赤十字社幹部看護婦研修所前教務部長の小林清子さんは「敵、味方なく傷病者を看護した真実の姿

や生き方は平和を考える上での礎石」と追悼する。一〇〇〇円。

(9・23朝日)

『化粧品公害リポート』

化粧品公害研究会(事務局・大阪)が化粧品被害の実態などをまとめて発刊した。

医師、化学者、主婦らの「化粧品と障害の因果関係」「運動の経過」などについての説明、被害の実態調査報告、被害者の手記が掲載されている。五〇〇円。

(10・9朝日)

『ゆたかでつよい心をそだてる』

莊司雅子編。幼児期に「感謝」「根性」の気持ちを植えつける必要性について、有識者の提言やアンケートによる結果を報告。また、これらについて話しあった教育者たちの座談会記録も添えている。幼児教育のうち家

庭の分担すべき分野はどこまでかという問題も提示、テキスト用に好適。キョックリヒ記念財団刊、七〇〇円。(10・14朝日)

『スーパーレディー〇〇九人』

「二二世紀を孕む女のカタログスーパーレディー〇〇九」という本が近く出版される。女たちが選んだ世界人物事典の女性編。企画・立案・編集・筆者すべて女。上巻に収録されたのは阿部定からスーザン・ソントグまで四八五人。

(11・10朝日)

女って？

女とは何ぞや、は永遠のなぞ。四人の新聞記者がその「本質」にせまって歩きまわった。題して「女」。読売新聞社大阪本社、八五〇円。

(11・12読売)

『母子福祉四〇年』

戦前・戦中・戦後各編に、著者（山高しげり）とともに婦人運動を進めてきた人たちの手記が数多く入っており、母子福祉の足跡をたどるうえで貴重な資料。翔文化刊、九八〇円。

（11・21読売／11・28日経）

心をうつ “女の悲しみ”

大原富枝著『信従の海』は表題作ほか三編を収めた小説集だ

が、全体として四部作をなすように構成されている。いずれも川を表題としていて、それぞれの川のほとりには、いつも同じ一人の女がたたずんでいる。微妙にエロティックな川の姿が女の心を反映し、そのひそかな思いを、客観化している。

（11・28読売）

『生物時計をさぐる』

宇尾淳子著。サーカディアン・リズムを調節するのは食道下神

経節だという定説を破り、それは視葉であることを明らかにした研究体験記。米・英・独と留学先を変え、家族もちの女性科学者が困難をこえて研究を進めていく姿はまことに立派。蒼樹書房、一八〇〇円。

（12・5読売）

自己主張が自他を幸せに

米国の女流心理学者たちにによる自己主張のトレーニングの具体的事例集『自分を変える本』

がほん訳出版された。声高ではないが、女の解放を着実に目指した本。BOC出版部、一三〇〇円。（12・9各紙）

『ぼんじゅうる』

創刊七年目、山の手唯一の月刊タウン誌。編集は全員女性。月刊、一五〇円。（12・11読売）

ひとむきに聞い倒れる

栄田 道子著

ひとすじの光



従軍看護婦が手記



「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

「生かしては救えない」

事件

〔母子心中〕

札幌市のホテルの七階から、泣き叫ぶ二児突き落とし母も。夫婦げんかして。(1・20各紙)

神奈川県下の小田急線に、主婦(三四)が長女(六つ)と長男(四つ)と飛び込み、長男だけ助かった。原因は二人の子供の言語障害。(2・8毎日)

二六日未明、山梨県八田村で発生した火災で焼跡から母子五人の焼死体が見つかった。夫の女性関係を苦にしての心中の疑

い。

東京・小松川の都営団地で十階から母子三人飛び降り。夫が新聞販売店で早起きなのを苦しめて。(3・4朝日)

長野県豊野町で母親(三〇)が一歳四か月の長男を絞殺後、首つり自殺。育児に悩んで。(3・18信毎)

北海道後志庁泊村で母子三人海中へ。夫婦げんかなどを苦しめて。警察の保護手配に間に合わず。(4・9朝日)

大阪の女性が、愛知県下で、夫の経営する町工場の不振を苦に、子ども三人を殺し、駐車中の他人の車の中に放置したうえ、東海道線に飛び込み自殺を図った。(5・1信毎)

武蔵野市の若い母親(二七)が、病弱を苦に子ども二人を道連れに電車で飛び込み、無理心中。(5・13信毎)

千葉県で家庭不和を苦に母子四人が入水、母は三二歳。(6・12信毎)

東京で、四三歳の母、八歳の長男と電車で飛び込み心中。(6・15毎日)

四日市市内で母(二七)と子(六歳、五歳)が。ぜんそくを苦しめて。(6・10朝日)

春日部市内で三二歳の妻が実母(八五)、長男(十一)を道連れに。夫に家出されて。(6・10毎日)

十一日、千葉県八千代市で三一歳の母、三児を連れて入水。「お許し下さい。強く生きるこ

とができません」と遺書。

(6・11朝日)

四三歳の母、追ってきた長男(八)を道連れに、日野市で京王線に飛び込んだ。

(6・15朝日)

愛知県豊田市で持病を苦しめた母(二四)が三人の子ども(四歳、二歳、六か月)を道連れに団地の八階から飛び降り、無理心中。

(6・20朝日/6・21信毎)

二児を絞殺、京都のホテル八階から母(二六)が飛び降り。

(7・13毎日)

相模湖で入水。母(三四)、子(五つ)。

(7・13毎日)

日頃義父母と仲の悪かった若い嫁が子を道連れに。子どもを山笠祭りに連れて行くか否かの

口論から。(7・16西日本)

「親の反対を押し切って結婚

したので実家に戻れない」と走り書きして母が子二人と。家庭不和が原因か?(7・26西日本)

小倉駅ホームから子どもと飛

び込み助かり、小倉北署に保護中、母だけが屋上から投身自殺。

(7・27西日本)

夫との別居を悩み教師(二三)が五歳児とガス心中。

(8・8毎日)

母親(二四)が長女(一)と。

夫婦仲を苦し。(8・9西日本)

長野市内のアパートで、若い母親(二四)が、長女の病弱を

苦しに無理心中。長女死亡、母親重体。

(8・25信毎)

三人の子がおり、夫が病気で

はと、横浜のホステス(二七)が生まれたばかりの子を。

(8・28毎日)

七年前に夫に死別、寂しさに耐えかねたと、子二人を道連れに。

(8・29西日本)

家計簿に「END」と書いて船員の夫の留守中に下関市の母子三人がガス心中。

(8・30西日本)

東京都福生市で、母(四一)が長女(五)を道連れにプロバン心中。

(9・3朝日)

五日、春日部市で、夫婦仲を苦しに母(三三)が七、四歳の二児を道連れに。

(10・5各紙)

六日、旭川でホステス(三二)が養女(三)を殺し、自分は未

遂。夫(三五)が長期出張でノイローゼ気味。(10・7道新)

十一日、武蔵村山市で、母(三三)が一歳を刺殺。家庭不和を苦し。(10・12各紙)

一七日、東京で母(三〇)が四歳を殺しガス自殺をはかった。夫は借金を残して蒸発中。

(10・17毎日)

二二日、船橋市で母(二九)が九歳と。夫に現金紛失をとがめられ。

(10・23毎日)

二四日、小金井市で母(二三)が一歳を抱き飛び込み。夫の葬式二日後。(10・25各紙)

二九日、大阪で母(二四)が五、二歳と。八〇万円の借金を苦しに。夫(三五)の月収は二二

二万、なぜ秘密の借金を」と驚愕。(10・30毎日)

一日、町田市で住宅のローンと長男の病気を苦しに母(三一)

が子(七、五)と放火心中。父親はぼうぜん。(11・2毎日)

八日、浦和市で自分の病氣に加え二児の看病に疲れた母(三二)が二児を背負って国電に飛び込み心中。(11・8毎日)

一八日、流産後の母(三三)が長男(五)を連れて焼身自殺。(11・19毎日)

二三日、東京で母(五二)が子(十二)と。夫のるすの夜に。進学問題で夫と争って。(12・24毎日)

二三日、東京で母(五二)が子(十二)を絞殺して放火心中。病苦。(12・24読売)

〔父子心中〕

東久留米市で妻に蒸発された夫(四五)が長男(一〇)を道

連れに。(6・22毎日)

妻に家出された翌朝ガス心中。父(二八)、子(四歳、一歳)。(7・2朝日)

一六日、福岡で父(三三)が新生児を抱いて妻(一九)の目の前で飛び降り。「オレの収入が少ないのに病院の個室に入るとは」と。(9・17各紙)

二一日、那須で父(三四)が八、六、四歳と無理心中。夫婦仲が悪く。(9・22各紙)

二一日、富士市で父(三六)が四歳を巻き添えに。事業不振。妻はパートに出ていた。(9・22各紙)

六日、館林で父(四五)が一五、九、五歳と弾銃心中。三月に妻に死なれてから家庭がうまくいかない。(10・6毎日)

一九日、バーに勤めている妻(二五)との不和を苦にして長女(二)を抱いて橋のらんかんからパパ(二八)が飛びおり自殺。(11・19毎日)

水商売をやめない妻に「疲れた」と遺書を残して会社員(四〇)が長男(中一)を殺して自殺。(11・28毎日/読売)

一四日、松戸市で父(三六)が二児(四、二)を殺して自殺未遂。妻は忘年会、一人で酒を飲んで。(12・15各紙)

二九日、父(四四)が子(七)と。妻(四五)が借金返済のためホステスになり蒸発したため。(12・30各紙)

〔一家心中〕

渋谷区内の旅館で四〇歳すぎの女性と五歳ぐらいの男の子が

死んでいた。中年の男と三人で宿泊したが、男は明け方、山の手線渋谷駅で飛び込み自殺。(2・15毎日)

宇和島市で父母が二児をひっぱり列車へ。病氣、借金苦に。(6・6朝日)

一七日、船橋で夫(四一)と妻(四二)が三歳を道連れに。商売不振で。(10・17毎日)

一八日、鴨川市で山口の夫妻(四八、四三)が一五、一二歳と。妻の病弱を苦に。(10・18各紙)

二七日、窃盗で重要参考人として取調べをうたけことに抗議して夫婦(三〇、二三)が二児(一、二)を道連れにガス心中。一歳の子供は死亡、三人は命を取りとめた。(11・28毎日)

二三日、妻のけがで二か月会社を休んだ夫が、会社の昇格試験にうからなかったことを苦に、妻と二児を道連れに。

(12・24朝日)

〔心中〕

愛人を殺してガス自殺

三鷹市のアパートで女店員(三九)がガス自殺、そばに愛人(四七)が首を絞められて死んでいた。

(2・14毎日)

一日、神奈川県奥の山林で三〇歳前後の男女と幼女の死体が見つかると。互いに配偶者があった。

(2・15毎日)

二一日、国立で夫妻(四一、四四)が一五歳を殺し失跡。借金苦に。父は二七日大阪で自殺。

(12・22、28各紙)

〔子捨て〕

捨て子の母捜し放映

NETテレビ局に捨てられた女の子(四か月)。局は、「モニングショー」で、母親に「名乗り出て下さい」と呼びかけた。

(1・10朝日)

嬰兒を置き去りにし、父親が逮捕されたのを知って、蒸発した母親が出頭。「夫と別れ子供とひっそり暮らしたい」と。

(1・12各紙)

寒空に幼い兄弟捨てた父親

妻に逃げられ、「チカレタ」と五歳、二歳を新宿駅に置き去り。

(1・25各紙)

「チカレタ」父が自首、逮捕された。

(1・27各紙)

幼い妹弟を捨てた父

新宿児童相談センター前に。

(3・5読売)

父が自首。サラリーマンローンが焦げつき放浪中の一家。母は「客待ち」で捕えられていた。

(3・6読売)

〔子殺し〕

母が子を…

二歳の子を湯ぶねで。広島の主婦(二二)。

(1・25信毎)

五歳と二歳の子を刺した二九歳の母。横浜で。(1・25信毎)

赤ちゃん刺殺

継母が六歳坊や惨殺

福岡県で若い継母が。「愛人をつくった夫への報復」と自供。

(1・30読売)

赤ちゃん投げ殺す

埼玉県児玉郡で「先妻の子」殺し事件。

(2・4毎日)

赤ちゃん捨て死なす

板橋区の主婦(三四)が自宅で女兒を出産したが出血多量で死亡。夫は赤ちゃんの処置に困り、空家に捨て死なせた。

(2・9毎日)

育児に悩み、長女を絞殺

太田区の主婦(二九)が生後六か月の長女を絞殺。ミルクだけで育てていることに不安をもっていた。

(2・9毎日)

借財を残し家出の夫に悩んで

死とされ香典が集まったのに味をしめ。
(3・2朝日)

島根岩瀬郡で。(4・9朝日)

(8・25朝日)

父が幼女を車中で死なす

石廊崎で娘(三二)を絞殺した放心状態の母親(五四)を逮捕。
(2・18朝日)

天井裏にわが子の二死体

一五日、東京・足立区の母親(二七)、つまみ食いをした男児をせっかんして。(4・16朝日)

研究会に行くことで口論した妻を追いかけた夫が三〇度を越す残暑の車の中に三歳の娘を置き去り、幼女は脱水死。夫婦は二七歳共働き。夫婦仲はよくなかったという。(9・13読売)

新婚旅行の宿で出産して殺す

ハネムーン中の花嫁が投宿先

で夫とは別の男性の子を出産、始末に困って殺し、死体を自宅に隠していたのが発覚。
(2・19毎日)

紙袋入りえい児死体

生後六七日の長女の泣声に父(三〇)が殴殺。交通裁判でイライラしていた。(6・20毎日)

息子の荷物に乳児の死体

雪中約一米にえい児死体

上野駅、みどりの窓口カウンターで。
(3・25毎日)

夫への怒りで

北九州市でAさんが東京から引き取った息子の荷物を整理したら中から乳児の死体が。息子は失業して姿を消している。(9・13西日本)

志賀高原駐車場で。

(2・28朝日)

父が三児を殺す

ギャンブル亭主に怒った母(三四)が八つ当たりして、生後五〇日の子を。(8・12読売)

夫に死別して

うなされて長女殺しも自供

岩手県で会社員(二八)が、四、三、一歳の女兒をフロで水死させた。
(4・6朝日)

未婚ゆえに

夫に死別して

長男殺して逮捕された母(二二)

が夢でうなされて八か月前の長女殺しも自供。女に狂う夫への面当てで長女を殺したが病

わが子四人絞殺

母親、夫婦げんかの果て。福

未婚で出産、殺した遺体と二年八か月を共にしていた母(三四)が東京で自首。

一六日、東京で母(三三)が十歳、八歳を。夫に死別、自分は病弱で。
(9・16各紙)

ノイローゼで

二二日、母(二四)が乳児を川へ投げ捨て。ノイローゼだった。(9・22各紙)

妊娠を告げられず

札幌の地下鉄コインロッカーで発見されたえい児は母(三〇)の犯行と判明。同棲中の男は妊娠さえ知らなかった。(10・7道新)

愛人がいやがったので

九月十一日、大阪湾で発見された水死体(五歳)は父(二七)の犯行と判明。妻と別れ愛人と同居したが愛人が子をいやがったので。(10・11各紙)

子に保険をかけて

二八日発見された水死体(六

歳)は母(三一)の犯行。三年前離婚、生活に困り娘に保険をかけて。(10・31毎日)

「障害」を悲観

三日、横浜で母(二四)が二歳を。生まれつき耳が悪いのを悲観。(12・4毎日)

イタズラをせっかんして

九日、内縁の男女(共に二四)が二歳を。いたずらが過ぎるとせっかん、一昼夜縛って放置して。(12・10各紙)

飲んで八つ当たり

十一日、北九州で父(三七)が飲み残しの酒がないと八つ当たり、乳児を。屋台店で働く妻(三八)のるす中だった。(12・12毎日)

連れ子をせっかん

十二日、横浜で男(一九)が内妻の連れ子(二歳)をせっかんして。(12・14各紙)

泣く子を

一四日、松戸で父(二五)が泣く子(五か月)をふとんむし。(12・15毎日)

「夫殺し」

口論、妻が夫に熱湯

妻(五二)の実力行使で夫(五八)は死亡。(2・4朝日)

バカとなじった夫を殴殺

酔って朝帰りした内縁の夫(六〇)を。旭川市の女(五五)。(3・19朝日)

浮気を怒る

二九日、東京で三〇歳の妻が四三歳の夫を刺殺。夫の浮気が理由。(9・29毎日)

つもる怒りで

一三日、東京で夫(三七)のボinasが少ない、禁酒の約束を破ったと妻(三四)が刺殺。(12・13各紙)

殺してとせがまれて

二〇日、東京で老婆(六九)が脳軟化症の夫(七八)を殺し、自分は未遂。「殺して」とせがまれたとぼう然。(12・21読売)

浮気をとがめられた妻が兇行

先月二六日、横手市で妻(三五)が夫をハンマーで殴殺。娘を絞殺。夫の出稼ぎ中に愛人を

つくったのを非難されて。

(12・29各紙)

〔妻殺し〕

販売成績氣に病み妻を刺殺

販売成績が悪くノイローゼの夫(三四)が妻(二八)を。横浜で。(3・3読売)

妻を殴り殺す

酒好きでケンカが絶えぬ夫(四五)が妻(四一)を。横浜で。(3・7読売)

〔刺傷〕

妻へのしつとで二歳の子を刺す

川崎で会社員の父が二歳の長男の背中を刺す。(1・16朝日)

弘田三枝子さん刺される

愛人の妻にナイフで刺され、全治十日間。(1・25各紙)

全治十日間。(1・25各紙)

〔殺された女〕

ペンフレンドに殺される

山形市の女性(一八)が広島

の男(二〇)に。三度文通し、会うのを楽しみにしていた、その初対面で。(6・24毎日)

〔女が殺人〕

女の仲 冷めて血で清算

埼玉県上尾の団地で、三五歳の主婦が、三六歳の主婦を刺殺。(7・30毎日/読売)

不仲の嫁がしゅうとめ刺す

夫の両親のところに娘が一泊

したのを娘をとられると心配した母(三七)がしゅうとめ(六二)を包丁で。(9・1朝日)

(9・1朝日)

借金返済を迫られて

二〇日、加古川で、四五歳のベテラン保険外交員が主婦を殺害。一千万円の借金の返済を迫られたため。(9・20各紙)

一八日、中野区の下四半のアパートの電気コタツで死後一か月の沖繩出身元美容師見習女性が発見された。食物もお金も皆無で。(1・19各紙)

嫁を殺して自殺

一八歳娘、孤独の凍死

三日、神戸市内で老女(七九)が家人のすきをみて自宅に放火した上、日ごろ折あいの悪い嫁(五一)をナイフでめつた突きにして重傷を負わせ自分も焼身自殺。(11・4毎日)

二四日、世田谷区内のアパートでSさん(一八)が死んでいるのが発見された。美容院の勤めをやめ、イラストの勉強。ほとんど外出も近所付合いもなかった。(2・25毎日)

〔孤独な死〕

大学講師、孤独の死

死んだ老夫と三日間

神戸市で発見。老夫(七四)

のそばに妻(八一)が衰弱しきっていた。(1・6各紙)

娘さん孤独な死

帝京大専任女性講師(四一)が死後二〇日後にアパート自室で発見された。入浴中病死?

(4・22朝日)

五児残して内職の母衰弱死

病気で失業した夫に代わり、

内職をして月三万円で五人の幼児を養ってきた主婦が、栄養失調による衰弱死。

子どもたちはよく太り、自分はパンの耳と水。「あすは食べるものが何もない」と飢餓日記を残していた。(5・21読売)

トルコ嬢孤独死

浅草のマンションで一か月後発見。名前も身元も不明。

(9・7朝日)

〔自殺〕

キーバンチャー焼身自殺

五年キャリアのキーバンチャーが腕のしびれで通院していたが、

回復に絶望し、庭先で焼身自殺。埼玉県草加市で。(1・17各紙)

女性スタイリスト焼身自殺

仕事の魅力にとりつかれた四歳の子どもをもつ母親が、仕事と育児のはざまで悩み焼身自殺。(1・17各紙)

身投げの主婦助かる

投身自殺の江島区大島の主婦、タクシー運転手らが救助。原因はノイローゼ。(4・10朝日)

女子小学生が首つり

国分寺市の女子小学生(十)が首つり自殺。自宅物置でテレビ「全員集合」の「自殺ギャグ」をまねていた可能性。

(10・19朝日)

〔女の自殺〕

一四日、東京で老女(七十一)の死体発見。預金四百万だったが。老人ホームは三十一倍の難関。(9・15毎日)

一五日、足立区で老女(七十三)が発見された。夫は山形に療養に行つて留守。(9・16読売)

一五日、埼玉で八三歳、六三歳の老女がそれぞれ自殺。東京では大学教授を息子にもつ富裕な七十一歳が家に放火して焼死。(9・16毎日)

二二日、京王線に老女(七四)が飛び込み。高血圧を苦し。(9・22各紙)

三〇日、中野で老女(八三)が焼身自殺? 一人暮らしはさみしいと言っていた。(12・1毎日)

一四日、静岡の母の眠る霊園のそばで五五歳が。(12・14毎日)

一六日、川崎で一人暮らし(六六)が飛び込み。町工場の給料がストップ、老人ホームにも入れず。(12・17読売)

一九日、東京で飛び降りた五二歳。夫の三回忌だった。(12・20毎日)

〔激増する少女売春〕

女子高校生らをそのかして売春させていたゲームセンター経営者と、友達を世話した少女二人を逮捕。(1・22各紙)

札幌ススキノ浄化作戦で、家出少女をトルコぶろで働かせていた暴力団員五人を逮捕。

(4・30朝日/道新)

中学生やホステスなど未成年者に売春させていた十勝の薬局店主(五〇)が逮捕された。

(7・30朝日/北海道)

福岡県で半年に六九人(昨年六一人)補導。背後に暴力団と覚せい剤。

(8・20西日本)

博多署は小六と中二を相手にした疑いで大工(四六)を検挙。小学生の売春は全国で初めて。身長一三五センチながら薄化粧で高校生ぐらいにみえたという。

(9・21毎日)

旭川署は、少女を覚せい剤中毒にさせたくて、売春を強要していた暴力団員ら三人を逮捕。

(9・28道新)

栗山署管内で少年非行が多発。悪質化しており、女子の件数がふえている。

(10・4道新)

新宿署が男二人(二六、二二)を逮捕。家出の中学生を脅迫、十万円をかせいでいた。

伊勢原署は暴力団員八人を検挙。女高中生十一人をふくむ一五人に覚せい剤を打ってかせがせていた。

(10・13各紙)

室蘭署管内では少女をバーに売り飛ばしたり売春の周旋など児童福祉犯罪が今年は昨年の三倍に。家の束縛がイヤで家出し小づかいかせぎに誘いにのった少女が多い。

(12・19道新)

〔性犯罪〕

六年生男児が殺人

福島県須賀川市で、下校途中の小学校二年生の女児が殺された事件で、一五日、六年生の児童が「乱暴しようとしたが、抵抗され殺した」と告白。

(1・16朝日)

タイ女性でわいせつショー

タイ女性四人(一八一・二六歳)を入国させ、ストリップに出演させていた旅行社社員(三〇)に対し、函館地裁は懲役二年、執行猶予三年の有罪判決。

(5・7朝日)

“カギツ”少女襲わる

五反田のマンションで、中二の少女を乱暴。「水道局のもの」とカギを開けさせて。

(6・16毎日)

女が男を襲う

同棲、三度も中絶、入籍も認めぬ男(二五)の局所を女(二三)が切断。「もてあそばれた。一生苦しむとよい」

(6・27各紙)

ペンフレンド“オオカミ”

映画雑誌のペンフレンドコーナーで知り合った女子高校生などを自宅に連れ込んで乱暴していた男(二〇)が逮捕された。

(7・16東京)

二女子中学生を乱暴

砂川市の土木作業員(二二)。留守番中の(二三)と友達(二四)に。(9・11朝日北海道)

〔女の犯罪〕

親の遺産の通帳を盗み使う

現行犯の妹(一九)を断固告訴する、と姉(二二)は冷たい。

(3・19毎日)

四八歳二億円を使い込み

名古屋市中で経理事務員(四八)

が二億円を使い込み。二八年勤務のベテラン。昭和四八年以来、弟の町工場の経営不振を助けようと。

(10・13毎日)

四七歳が二億円

埼玉の農協支所長(四七)が二億円を流用、土地売買。オイルショックで二千万円コゲつき、発覚。

(10・26毎日)

〔だまされて〕

『女性ドリーム商法』蒸発

「銀座・渋谷にあなたの店を」『百万円の投資で月十万円の特ナント料を引いても五万円の配当』と、〇しら約五百人から商品や出資金を集めた「レンタルボックス」の被害者九〇人が渋谷で初会合、警察も調査を始めた。とびついた女性が多かったが、先月二八日突然不渡りを出

し、社員は蒸発していた。

(11・7読売)

調べてびっくり女スリ

函館で逮捕されたスリ常習犯は、約一千万円かせいで貯金が趣味というカタい生活をしていた。夫は仕事に追われて全く知らずにいた。

(12・3道新)

銀座のハンカチ娘

銀座などで「歳末助け合いにご協力を」とハンカチを売りつけているが、「善意銀行」の窓口へ現われ偽装登録しようとして八人が同じ住所なのを疑われ退散。なお去年も善意銀行の預託証をコピーして「恵まれない人に」とキーホルダーを売りつけていた「クリスチャン奉仕会」なる女性グループがあったことが判明。

(12・15読売)

〔事故〕

主婦作業員三人死亡

新潟の地すべり防止工事現場のなだれで。

(1・29信毎)

採石現場で土砂崩れで死亡

過疎地帯、京都網野町で五九一

六三歳の女性作業員三名が。

(2・28朝日)

パニックそのとき……

電車が火花を出した事故で、けがをした乗客二三人。うち九人は女性。

(3・19朝日)

〔お手柄〕

主婦ら機転、少女救う

東京都江東区で、道路で遊んでいた小学三年生の少女を誘い

出し、乱暴しようとした男を主婦が目撃、あとをつけ一一〇番通報した。

(1・16朝日)

強盗退散

主婦、ナイフをもぎとり、強盗、何もとらずに退散。

(4・5朝日)

婦警さんお手柄

郵便局強盗を出会いがしらにつかまえた二人の婦警は、合気道初段と三級。

(4・9朝日)

ジーパン主婦坊やを救助

運河の堤防で遊んでいた三歳の坊やが運河に落ちた。堤防わきに住んでいた小倉さん、ジーパンのままザブンと飛びこみ、救助。「自分も水に浮く程度だが、岸に近かったのでなんとかなると思った」と。(9・10読売)

海外

〔韓国〕

民主救国憲章署名入りで発表

韓国で、二二日発表された「民主救国憲章」は、獄中詩人・金芝河氏の母（五四）が先頭に立ち、厳しい監視をくぐって、署名をとったものだった。

（3・25朝日）

〔北朝鮮〕

北朝鮮の女性と家庭

北朝鮮から初めての女性代表

団が社会党の招きで来日した。

北朝鮮では、法的に完全に男女平等が保障されており、職場進出・賃金や兵役も男女平等。託児所と幼稚園が完備していて、子どもの養育・教育については国がすべての責任をもつ体制ができています。ただし、親子が切り離されるわけではなく、仕事が終われば親子一緒に、授乳時間も二時間ある。家事軽減のためにごはん・おかず工場もある。五五歳になると社会保障で生活できるので、いわゆる老人問題はないと、団長の許貞淑女史。

（10・18道新）

国を支える「片方の車輪」

あらゆる経済活動分野で女性の占める割合は四八％、「女性は片方の車輪」という北朝鮮。

すべて働ける人は働く。働かないのは恥ずかしいことだと考えられている。

（10・22朝日）

〔中国〕

結婚式は職場の会議室で

金のない人が結婚できない不平等をなくそうと。ただし人口九億近く、「遅い恋愛、遅い結

婚を奨励」。

（3・2朝日）

機関士にも女性活躍

豊山機関区では、今一六人の女性機関士を養成中。そのうち八人が、副機関士として乗務している。

（3・24毎日）

出産は一〇〇％有給

「天の半分」を支えているといわれる中国の女性を訪ねた。まだ、意識的に指導者層に女性を加えている段階で、予想ほど「天の半分」を強調する説明に

出あわなかった。それがかえって「天の半分」の定着化を感じさせた。

(由里幸子記者)(10・11朝日)

おばあちゃん育児が好評

保育所完備、男性も家事か育児を分担、隣近所は助け合う、うらやましい国、それが中国の印象だった。意外だったのは老人との同居が多いこと。家は2K・2DKで日本より住宅事情は悪いが、老人も働いていたと、きの七五%の年金があることも、嫁姑の関係をよくしているようだ。(江口裕子記者)(10・15読売)

中国女性是对等に扱えない

今でも封建思想に影響されており、男性よりはるかに関心が狭いから対等に扱うのは難しい。婚期を遅らせる政策には個人的には賛成できない——フランス

女性と結婚した鉄道労働者、田利君の言。(12・12読売)

【台湾】

「台湾は男性天国」に地元が抗議

「恥」という字をご存知ですか——地元の旅行業者が旅行業界紙に、日本の旅行業者を非難する意見広告を長期掲載している。掲載主は台北・精華旅行社。「日本の旅行業者のダンピング競争が、夜の観光を生む。日本業者の過当競争に反省をうながす広告」と同社。(10・30朝日)

【フィリピン】

評価高まるイメルダ外交

フィリピンのイメルダ・マルコス大統領夫人は、回教徒紛争解決のためリビア政府と交渉。

交渉はフィリピン政府にとって、きわめて有利に展開。(4・4朝日)

フィリピンに女性大使

フィリピンのハンガリー駐在大使として、レティシア・R・シャハニ夫人が任命された。最近、対東欧諸国外交が目立っているが、女性大使任命もそのひとつ。(7・19朝日)

【インドネシア】

富んでも子たくさんは減らず

「所得の増加が子たくさんを減らす」とする説が一般的だが、インドネシアには当てはまらない。インドネシア大学人口問題研究所の学者がまとめた調査によると、むしろ有産階級の方が貧困層より産む子どもの数が多い。国家統計局の「住宅事情と

家族数に関する調査」でも、生活水準が上がるにつれて死亡率は下がるが、家族数は増加していることが明らかになった。(10・6朝日)

【マレーシア】

「キスでクビ」は行き過ぎ

マレーシアで「コーランに帰れ」運動が広がりはじめた。「異常接近」でクビ、浮気した夫や妻にはムチ打ちの刑が検討されているが、法相は「好ましくない風潮」と警告。(12・19読売)

【タイ】

からゆきさん今昔

昔、日本から東南アジアへ、今、タイから日本へ。哀しみは現在も変わりなく。(4・3毎日)

女性銀行大はやり

バンコクにあるバンコク銀行
ラージャデビ支店は、窓口から
支店長、守衛、運搬まで全部女
性。客の大半が男性で成績は上
の上。
(5・26朝日)

〔シンガポール〕

女でもつ？シンガポール

シンガポールでは男も女も子
どもも働きの。なかでも女性
の活躍が目立つ。男女同一賃金
男女同権は徹底している。

中央銀行ともいふべきマネタ
リオーソリティのナンバー2
は女性。先日、日本からのミッ
ションが行って出席者が女性な
ので対話の調子が落ちてしまっ
たところ、「シンガポールの女
性は完全に男性と同権」と痛烈
なだめ押しをされた。(7・19
朝日)

〔スリランカ〕

最後の女帝

世界最初の女性首相で、通算
十一年余もそのイスに座り続け
るスリランカのバンダラナイケ
首相(六十一)、二二日の総選挙
に、長男アヌーラ氏(二十八)と
母子で出馬する。(7・20東京)

〔インド〕

家族計画は強制せぬと表明

インドのガンジー首相は、左
派国民会議派の選挙綱領を発表
貧困・不平等・不正の三悪根絶
を新しいスローガンに掲げた。

綱領の中で注目されるのは、人
口抑制をめざす家族計画は自発
的なもので、これ以上強制しな
いことを明らかにした点。ガン
ジー政権は強権発動を背景に不
妊手術による家族計画の推進を

試みたが、宗教的な理由から回
教徒の反発を買っていた。

(2・9朝日)

インドに米国型リブは不要

「インドの女性は独立のため
に男と手を取り合って戦った。
その過程で解放され、学問でも
仕事でも平等」と、ゴンザルベ
ス駐日インド大使夫人。

(6・18朝日)

ガンジー前インド首相、逮捕

インディラ・ガンジー前首相
が三日、汚職の疑いで逮捕され
た。ガンジー夫人は逮捕後「こ
の陰謀は私を民衆と世界の耳目
からそらそうとする試み」と声
明を発表。ガンジー邸前には支
持者千人が集まり、「ガンジー
支持」を叫んだ。(10・4朝日)

求婚広告に時代の流れ

お見合いをまとめるより、選
択範囲が広い新聞の求婚広告で
配偶者を探すケースが増えてい
る。以前は女の外見に関する記
述が多かったが、大都市で働く
女性の増加に伴い、女性がかせ
げる技術や能力を明記する広告
が目立つ。また離婚女性が再婚
を求める広告も。(10・6朝日)

〔オーストラリア〕

妻の性交渉承諾権

南オーストラリア州上院は結
婚している「夫婦間の強姦」を
禁ずる法律を通過させ、この種
の法律を制定した世界初の地域
となった。
(1・8朝日)

女性、砂漠横断に成功

ラクダに乗って単身オースト

ラリアのギブソン砂漠横断に挑戦した若い女性が四か月がかりで横断に成功。(9・11読売)

母親も参加する幼稚園

オーストラリアとニュージーランドの幼稚園を見学したがどこもゆったりしていた。規模が小さく、大人の人が多いことが影響しているようだ。二〇人程度のクラスに、先生のほか母親が一、二人、助手をしており、弟妹をつれて来て一緒に遊ばせている母もいた。

(津守 真・保育学(10・30朝日)

「アフガニスタン」

アフガニスタンの女たち

既婚女性を撮るのはまだタブー、女性フォトグラファーの私だけが撮影を許された。広大な砂漠の中、営々と同じ紋様のじゅう

たんを織りつづける女たち。男の所有物として太った女のほうが値打ちがあり、男は第四夫人まで持て、喫茶店でのんびり憩う。(逸見泰子(10・26毎日)

「トルコ」

女性の進学率低いトルコ

既婚女性の六五%が文盲のトルコでは、女子の小学校進学率は八〇%だが、中学二〇%、高校一〇%、大学三%と少ない。(12・26朝日)

「イラク」

地位向上めざす婦人団体

イラクの婦人会は、革命評議会に直属。有能な幹部が使命感にもえて活動している。

しかし閣僚、国務大臣の中には婦人は一人も入っていない。

(市川房枝)(7・12朝日)

「シリア」

今ではベールも形だけ

実際はベールをかぶりながら大学で学び技師や博士になった女性は大勢います。つまりベールは形だけ。考え方そのものではありません。(シリア文化国民指導相ナジャ・アタル女史)(7・12東京)

「イエメン」

労働者の半分は女性

イエメン人民民主共和国(南イエメン)では、独立十周年を迎えるが、独立後、憲法で女性の権利の尊重が主張され、男女平等が実現、現在労働者の半分は女性。(12・30朝日)

「エジプト」

披露宴は紅茶とサンドだけ

エジプト大統領末娘の結婚式は披露宴を最大行事とするエジプトには極めて新しいものとなった。(1・4毎日)

「チュニジア」

近代女性へ転身図る

観光資源を守りつつ、石油などの工業化が進んでいる。女性の地位は比較的高く、回教国ではタブーの産児制限にも積極的。

(1・22朝日)

「タンザニア」

大統領、リブ擁護の演説

タンザニア婦人会の定例年次会議が三日間にわたり、首都ダ

ルエスサラーム大学で開かれた。アフリカ各国からも代表者が参加したが、席上、ニエレレ大統領は「もはや女性に男性のために作られた労働者や愛がん物ではない。まず女性自身が女性解放組織を作り、声を大にして呼びかけて欲しい」と演説。

(4・25朝日)

転勤の妻にも職を！

人材開発大臣は政府公官庁に対し「公務員の夫の転勤に従って職場を去った共働きの妻には、夫の任地先で職業を得られるよう協力して欲しい」と要請。

(10・10朝日)

「ナミビア」

異人種間の結婚解禁

ちがう人種間の結婚や性的関係を不倫でわいせつとみなし、

白人と非白人との混血を禁止する目的で施行されていた「不道徳法」が南西アフリカの国ナミビアで廃止された。

(11・5朝日)

「ノルウェー」

大学法律学部

「女性の権利」課程

ノルウェー、ノルインフォルム紙によると、この課程には今のところ、女子学生しか在籍していないが、これら女子学生自身がカリキュラムを組んでいるという。

(4・15朝日)

「スウェーデン」

パパの育児休暇は七か月

夫婦は子どもに対して平等の育児義務と責任があると、スウェーデンでは九五%の賃金を保証し

ながら、連続または断続的に子供の世話のできる七か月間の父親休暇制度を三年前から実施。利用者が増え、有資格者の七%に。

(1・8朝日)

急増ぶり目立つ女性の自殺

スウェーデンの自殺率は高くなっており、特に女性の自殺率は倍増。ベスコフ博士は女性が「社会的な進出とともにアルコールや麻薬などに接するようになったことも大きな原因ではないか」と言っている。

(3・21朝日)

結婚しても元の名字でOK

スウェーデンのエクスプレッセン紙は、夫婦別姓の新法の立案を伝えている。夫の姓に変えても、取り消しはいたって簡単になる。

(4・15朝日)

スウェーデンでは「保祖父」

核家族化が進み、老人と子の交流を促進しなくては、とスウェーデンでは対策に熱心。保育園に午前九時―午後二時勤務の保祖父さんは、食事・着がえ・こわれた自転車修理……何でもして、圧倒的人気。若者と老人を結ぶ「若者のホームヘルパー制」もある。

(9・6朝日)

墮胎用ピルを近々市販

二、三年のうちに墮胎用ピルが市販されるだろう。これは今までの避妊ピルを上回って人気商品になりうるとエクスプレッセン紙は伝えている。

この墮胎ピルは、ストックホルム・ベリイストロム教授の開発によるもの。分べんをうながすのに使われる薬品だという。

(10・14朝日)

「フィンランド」

交通事故より多い自殺

ヘルシンキ自殺予防センターは自殺のデータをまとめたが、生活水準が平均以上で医療サービスが最高の地域に一番多く、その方法は男は首つり、女は服毒となっている。二五歳以上の男女では、自殺による死亡が交通事故よりも多くなっている。

(10・9朝日)

「東ドイツ」

家庭不和…家と酒から

東独の国営通信ADNは、結婚に関するアンケート結果を発表。それによると、結婚相手に求めるのは信頼感と誠実さ。妻の労働は収入不足の時に限るべきとする意見が、男性一九%、女性一一%。(6・14毎日)

「西ドイツ」

深く静かに盗聴ブーム

西独の電波通信法は小型盗聴器についてきびしい規制をしているが、大都市を中心にひそかなブームを呼んでいる。購入者は、ビジネスマン、教師、家庭の主婦からギャングの親分まで。使用目的は妻や夫、あるいは子どもの言動を監視する「家庭用」が大半。(1・10朝日)

離婚へのいざない

西独では、新婚姻法が発効し、「結婚生活の破たん」だけを条件に、別れたければ別れられる。この法には、離婚する当事者両性のうち生活力の高い方から低い方への「生活保証」の原則が取り入れられている。

(7・1毎日)

「スイス」

スイスはまだ中絶非合法

カトリックとプロテスタントにはば二分できるこの連邦国で九月末、妊娠十二週までの中絶合法の是非をめぐる国民投票が行なわれ、結果はほんの小差でこれまでどおり禁止と決定。

(11・5朝日)

「フランス」

妻を殺し無罪放免

二年前、妻を殺した元空軍将校(七二)が精神鑑定後、自由の身に。刑務所内で「妻が毎日現れる」などと訴えたことが鑑定へつながり、「異常」との結果。罪は問われず精神病院行きとなった。同病院の主任医師は

法廷で「正常」と判定した一人だが、「正常な人間は収容しな

い」と釈放した。(1・6朝日)
非教育ママ

女性が働くのは普通のこと、その収入のほとんどが、家事手伝人の手にわたるケースが多いというフランス。月一度夜六時からPTA会合では「なぜ、成績のことで子供の競争心をあおるのか」と先生を責める。

(1・17読売)

リーダー望まぬ女性

企業のリーダーを望む女性は一四%、男性の六三%に比べ大差がある。しかも現在のポストが今後どうなるか六二%がわからない。最初から昇進を放棄している。フランスの社会学者が職業につく女性を調査した結果。

(6・26朝日)

ボルノ放映賛成は半分

「ボルノ映画の全国テレビ放映に賛成」(五一%)、「あなたはセックスへのアプローチで、自分とは新しいと思うか」に「現代的だ」と答えた人は男五五%、女四九%。(フランスの新週刊誌VSD調査) (11・5朝日)

「イギリス」

英国にも「越山会の女王」

ウィルソン前英首相の女性個人秘書が巨大な権力をふるって、いたことが前首相の新聞秘書より暴露され英国中の話題をさらっている。(2・9毎日)

同性愛―初めて政府が支援

英国同性愛組織(フレンド)は国内に十一支部をもち五年前から同性愛者地位向上運動で地

方自治体の援助を受けているが、年間経費の四分の三を内務省、残りを区の負担でロンドン事務所をオープン。(2・15朝日)

産み分け自由の薬の人体実験

イギリスのボラード医師が開発。ウサギの実験では成功率八〇%。百人の女性有志をつのり人体実験する。(3・1朝日)

MS、公文書にも登場

MIS、MRSに代わるMSは去年改訂されたオックスフォードの辞書にのったが、最近は公文書にも。(4・14朝日)

運転事故は女性が多いが

運輸省道路研究所は、女性ドライバーは男性ドライバーにとるわけではないが、未経験から事故を起こすことが多いと調

査報告。(7・15朝日)

英国で離婚率急上昇

若い世代からも「結婚の尊厳性を見直す運動」が起こり「家庭の崩壊を防ぐ唯一の方法は、妻や母が外での仕事をやめ、家庭生活の中心に復帰すること」の意見さえも。(7・30西日本)

快速「ドーバー娘」

一九歳のカナダ人女学生、ニコラスさん、女性初のイギリス海峡ノンストップ往復横断水泳に成功。男性の記録を十時間以上短縮する一九時間五五分の新記録を樹立。(9・9読売)

「スペイン」

女性議員数四倍に

スペインの民主化は女権拡大

運動に当然ながら発展。七人だった国会議員は二十七人に。秘密運動を続けていた女性解放グループも続々と地上に現われ、名門婦人も闘士に。(6・25朝日)

「イタリア」

妊娠中絶法、下院で可決

妊娠三か月以内の女性について中絶を認める。(1・22毎日)

妊娠中絶合法化振出しに

下院では承認されたものの上院が否決、再び振り出しに戻された。絶対反対を主張するパチカンの影響力か。いずれ来年六月の国民投票実施により決着。(6・9信毎)

女性側が勝訴か…

合計一八人の男性から「暴行

を受けたイタリア女性(一八)

は、告訴にふみきった。『女性

軽視』の根強いイタリアの話、

原告の勝利に終わったかにみえ

たが、彼女は売春婦であつたとい

う批判者からの暴露などでも

めにもめている。(5・11読売)

崩れる男性天国・南欧

南欧諸国では、最近相次いで

政治的大変動が起こっているが、

それに伴って南欧女性たちも前

進を開始したようだ。特に

イタリアでは、女性運動の集団

が、学校・工場・郊外の町・劇

場・銀行にまで誕生した。

(7・31東京)

イタリアのリブ活発化

六八年の学生騒動後、ウーマ

ンリブの団体がいくつかできた

が、細々と活動していただけだ

た。それが今年になって突然息

を吹き返した。(8・30読売)

成果ありフェミニスト運動

ヨーロッパではどこもさかん、

イタリアでも例外ではない。ロー

マには二つのフェミニスト団体

ほかに女性ジャーナリスト団体

もあり、ジャーナリスト会議は

四日間にわたり仕事内容・昇進

等を語り合い、改善申し入れの

半分が聞き入れられた。

(9・22毎日)

「バチカン」

女性神父禁止のバチカン通達

二七日に通達したが、これは

差別ではないとローマ法王。

「女性」は「主」ではない。イエ

スもマリアを神父になかった」

と。(2・1朝日)

「ギリシア」

ギリシア国会議員

映画「日曜はだめよ」で知ら

れる国際的女優メリナ・メルクー

リさん(五二)が、総選挙で全

ギリシア社会主義運動候補者と

して当選した。軍事政權に反対

して国外追放となり、七四年の

民政復帰とともに帰国した反骨

の闘士。(11・23朝日)

「ユーゴスラビア」

ユダヤ支援女性らを追放

ユーゴ当局は、全欧会議の会

場前でソ連のユダヤ人問題に抗

議のデモを計画していた英国の

ユダヤ人女性組織のメンバー

五人を国外追放した。

(6・16毎日)

「ソ連」

生活自立、離婚も増

キエフの織物工場の労働者は

六千人、うち五千人が女、労使

とも「長」は女。こうした女性

解放が進むにつれ離婚は増加、

モスクワで四六%、そのイニシ

アチブは六〇―七〇%が女。

(9・13朝日)

ジェット旅客機で女性が世界新

乗員が女性だけのソ連大型ジェッ

ト旅客機が、飛行世界新記録を

樹立。ジェット機はソ連国営航

空(アエロフロート)のIL-

62Mで、機長はイライダ・ベル

チブラホーバさん。

(9・18朝日)

「妻は何もしない」ソ連

「家庭で妻が働かないので一

切の家事を私がやらなければならず、本業はおるすになりがち」という投書がソ連の一新聞にのり、波紋をおこしている。「資質が違うのだから女は仕事より家事が大切。女らしさを教育しよう」という声がある一方で「たいていは同じ仕事から帰っても男は新聞を広げテレビを見ており、女だけが台所に立って過剰労働を強いられる」とこぼす主婦も。(9・28道新)

ソ連新憲法で勤労女性保護

七日に発表されたソ連新憲法は、男女平等の権利をうたった第三十五条に「子どもを持つ女性の労働時間短縮」を新しく挿入、働く女性の保護を強めた。

(10・18朝日)

モスクワの亭主たち

ソ連の女たちは、革命後六〇

年の間に、男たちに伍して働くことをすっかり身につけた。日本と比べて亭主族の相対的な地位の低下は否めないとところだが、男たちが日本男性よりはるかに見ずばらしいのは、寂しい。

(五月女道子)(10・27日経)

〔カナダ〕

首相夫人より写真家で自立

カナダ首相と別居したマーガレットさん(二八)、夫になぐられ、フリーの写真家を目指す。

(6・9朝日)

〔アメリカ合衆国〕

議会で父親が育児

多忙な奥さんに代わり、米九五議会の席上で、議員(マックス・ボークス氏)が赤ん坊にミルクを。

(1・6読売)

日系婦人が米国総務次官補に

カーター米次期大統領はハワイ州選出の日系民主党前下院議員バツィー・タケモト・ミンク夫人を、海洋・環境問題担当国務次官補に近く任命。

(1・7各紙)

現代駆け込み寺繁盛

アメリカでは夫の妻虐待が問題になっており、駆け込み寺シェルター(避難所)が続々できています。二四時間電話を受け、子供連れで駆け込んで来る妻を保護し、一泊二五セントから二ドルで泊まる部屋を提供。

(1・8朝日)

米女性、地位向上に奮戦中

カーター政権は、妊娠、育児期間の三、四年の空白期間は勤務中とみなす等の女性登用政策

を発表。(1・17朝日)

男女の賃金差開くアメリカ

労働省雇用基準局婦人部がまとめた報告によると、格差は過去二〇年に倍近くなり、一九七四年には女は男の五七%になった。原因は超過勤務が少ないこと、学歴差など。(2・8朝日)

三〇歳の女頭取

一昨年設立の全米初の婦人銀行の初代頭取は半年で四〇万ドルの赤字で退職。二代目になり込んだリン・サルベージさんは女性だからと貸し付け条件をゆるめるなどの「差別」はしないと宣言。再建は一年で、と自信満々。(2・13朝日)

女性差別に六億円補償

米国NBC放送は同社の女性

職員を「男女職員の比率・職種・

昇進の度合で差別した」理由で総額約六億円（一人平均二四〇万円）を二八〇〇人の女子職員に支払うことに同意、今後女性の採用、幹部登用を増やすと約束した。「連邦機会均等委」に提訴した結果だが、米国ではこの種の訴えは珍しくない。

（2・14朝日／毎日）

アメリカの女性詩人たち

大学に、各地の朗読会にと社会的影響力は大きい。彼女たちに共通なのは「いざとなると強い」と俗にいう生物学的耐久力ではなく、生き方を女の目で見直すこと、歴史的な見通しに立つ批判意識と女自身の世界観から生まれる「文化的な強さ」だ。

（渥美育子）（2・15朝日）

ホワイトハウスでゲイが会談

大統領補佐官コンスタンザ・グレアが米国の同性愛組織の代表をホワイトハウスに招いて一連の会談。外国の訪米同性愛主義者にも市民権を、軍隊が同性愛の軍人を追放しない、同性愛主義者にも税法上の特権を認めることなどについて話し合いの用意ありと表明。

（2・16朝日）

米・新時代にとまどう男性

リブの時代に育つ女性と共に生きる男性の研究結果が「男らしさのジレンマ」という本になって出版された。進歩的と自負するコロンビア大生中にも知性と情緒のズレや、かなりの混迷がみられる。半面「男っぽい」女性を苦なく受け入れるところもある。

（2・17朝日）

独身美人の州最高裁長官

カリフォルニア州のローズ・エリザベス・バードさん（四〇）。「ブラウン知事の最も意義ある決断」と賛成派。反対派は「判事歴がない。女性であることは問題ないが」と追求。

（2・20読売）

格式ばらない米国会

議場で赤ん坊にミルクをやる議員にみるように、「子連れ」議員は珍しくない。鬼ごっこをはじめ子供たちも。日本の国会は格式ばる、と見学した米議員。

（2・27朝日）

好評のジョブ・シェアリング

一つ仕事を二人で分け合い、収入も折半という新しい就業パターンが母親や学生に好評。問題は一つ仕事に二人のトレイニ

ングが必要なことだが、これを奨励する州もあり、連邦政府の動きによっては普及の可能性十分とタイム誌。

（2・28朝日）

「駆け込み寺」建設計画

夫の虐待に耐えかねても、子連れでは出て行くあてもないヘンリー・ストリート・セツルメントは、このような母子を対象にニューヨークに米国版「駆け込み寺」の建設を計画。

（3・8信毎）

ホモにも人権を

「軍隊ではホモとわかると除隊になる」「入国管理局」はホモを不当に差別扱いしている」の二点をめぐって改善指導要求を大統領に。

（3・28読売）

女性の「場立ち」登場

ニューヨーク証券取引所内に女性の場立ちが現われる。東京のカプト町では、とても、とても。(3・28信毎)

米に流行「仕事中毒」

仕事を口実に、家庭生活のわずらわしさから逃げ出す夫たち。名づけて「仕事中毒」。精神病

医学のH・ルーベユ博士の新著は、仕事中毒がテーマの『危険と救済』。(4・4朝日)

おもちゃまで平等

男の「看護夫」から女の「大統領」まで——差別意識撤廃のために米国へ女性行動連盟がつくるおもちゃは徹底して男女平等。(4・25読売)

名門女子大、男に門戸

男にも門戸を開いている米国プリンマー大学のハリス・L・ウォッフォード学長が来日したが、伝統的な女性観や男性観に基づいた言葉はまったく聞かれなかった。(5・7朝日)

アメリカの女性運動

独自の診療所・文化センターを女たちが持ち、大学では女性学の講座が普及、女性解放の出版物を集めた本屋は一日二五〇人の客。日本でも運動の中から生まれたものを再認識する時期に来ているのでは。

(松本路子)(5・30朝日)

家事は一時間弱

アメリカの主婦五万人を対象としたアンケートで、五五%が夫の協力具合に満足していると

でた。が、自分のベッド作りをする夫はたった五%、食事を作るのは四%弱。(6・6朝日)

カーター政権の女性高官

「市民高官」として三人が活躍中。消費者問題特別補佐官のエスター・ピーターソンさん(七〇)は、消費者運動家として全米に知らぬ者なし。消費者保護庁の新設に意欲を燃やす。ジョージ・クレイブルックさん(三九)は、欠陥自動車摘発で「ドラゴン・レディー」の異名をとる、運輸省道路交通安全局長に。同じ三〇代のキャロル・タッカー・フォーマンさんも農務省次官補として活躍。

(6・11毎日)

試行錯誤重ね進む性の解放

米国で、六〇年代の運動によって起こった大きな変化は「女性」

と「性」だといわれるが、新しい男女の関係、セックスのあり方は、まだ試行錯誤の段階にあるようだ。(6・13朝日)

女しか乗せぬ駆逐艦を

試験的に乗組員全員を女にしたいとクレイター米海軍長官が発言、議会はビックリ。だが法律を改正しないことには女は戦闘につけない。五月に上院に提出された女性のミサイル地下格納庫進出案も九〇対三で否決されたばかり。(6・27朝日)

婦女暴行だけで死刑は違憲

米連邦最高裁は、殺人行為を伴わない単なる婦女暴行罪で死刑を宣告するのは、憲法修正第八条「残酷で異常な刑罰」の禁止に違反するとの判断を示した。

(6・30毎日)

米国で「断種族」増加中

プリンストン大学の調査では薬による受胎調節より男女双方断種が増加。子供があり夫婦のどちらかが行なう例は七〇—七五年間に二倍以上増加。

(7・30毎日)

米国では大学生は女が多い

昨年は二二歳以下の米国大学生中五二%が女子で二〇万人の差。

(8・2毎日)

中絶反対に女性官僚抗議

「連邦政府の金を妊娠中絶補助に支出することには反対する」というカーター発言に反対してコスタンザ補佐官らは「私信」を提出した。

(8・13読売)

〈NOW〉の文化革命

十周年を迎える米国最大のリブ団体〈NOW〉の会長に、はじめて職歴のない主婦が圧倒的多数で選ばれ「多数派を活動させる時代」と就任の弁。ホームメーカー委員会も新設。

〈NOW〉の三大目標は出産選択権、同性愛解放、男女平等法。ピンクカラー職権、賃金格差ゼロが課題。

(8・19毎日)

米国で女性平等デー

カーター大統領は、婦人参政権施行の八月二六日を「女性平等デー」と宣言。同時に、雇用の機会や資金面で男女差別が行われていないか調査するよう各省庁に通達した。

(8・27読売)

テレビ最優秀賞女優は八五歳

七十七年度「エミー賞」にビュー

ラ・ポンジさんが選ばれた。

(9・13朝日)

米国でメン・リブ

三組の夫婦のうち一組は離婚に終わる米国、夫から妻へ一方的に離婚手当、子どもの養育費を払うのは男女の逆差別である。と。

子どもを引き取る権利は平等(フロリダ州)、生活能力のある妻には離婚手当の要なし(ミズリー州)、失業中の前夫に離婚手当払え、など。こうしたメンリブ運動は、従来の性差別役割がこわされていっている証拠だろう。

(9・13読売)

「ミズ」が創刊五周年

現在五〇万部、広告収益も順調。「今日まで続いたのは安定にあぐらをかかず、雑誌存続のためのたたかいによって常に新

生児のような新鮮さを保てたから」と編集長のスタイネム女史。

(9・28毎日)

行動では信用獲得、米女性

「米国では女性が働けるはずもないと思われていた職種への進出が盛ん。ゼロックスやIBMの重い機械をかついで設置・修理したり、電話線の架設、大工、レンガ工、電気技師等も。一方、底辺のピンクカラー層も出現、平均賃金は下がった。

多くの経営者は「うちの家内がこんな仕事をするはずがない」と言うが、「やりたい人にやらせてみたら」と説得して来た。女は実力で証明することが大切——二九歳の若さで米労働省婦人局長に就任したアレクシス・ハーマンさんの意見。

(10・29朝日)

最も有力な女性

米国の婦人月刊誌「ハーバース・バザー・マガジン」十一月号の特集は「米国で最も有力な女性十人」。

「圧倒的な不利を克服し、伝統的に男性が牛耳ってきた領域を大胆に侵略した」というのが選考基準。ニュース・キャスターのバーバラ・ウォルターズ女史、テニスのビルリー・キング選手ほか。

(11・2朝日)

ふえる未婚の子

アメリカ全体の「未婚の子」出産比率は、七五年の全米保健統計センターによると一四%、ワシントン市などは、未婚の母から生まれた子どもが正式の子を上回った。

(11・5朝日)

ワタシ議会っ子

イリノイ州議会に赤ちゃん片手にあらわれたのはスーザン・カタニア議員。赤ちゃんはマーガレットちゃん、生後六週間。「上の娘もこうやって育てたし、問題ないわ」と。(11・12読売)

米国女性に驚かれる

「草の根の民主主義」をまさに地で行く方法で、アメリカは「婦人の十年・国内行動計画」を採択しようとしている。日本ではすでに二月に策定されたという、アメリカの女性たちは「エッ」と目をむき、「すごいわね」と驚くが、その計画を決めた婦人問題推進本部(各省庁次官で構成)のメンバーは全員男性だと説明すると、再び「エッ」と目をむくか、絶句するか、ふき出す。

(深尾凱子記者)(11・16読売)

米国人はセックスに保守的

セックスが開放的と思われている米国は意外に保守的。夫の不貞を不道徳と考える七六%、妻の不貞を非とする七九%。十代の性交いけなない六三%。婚前交渉男は待つべき三四%、女は待つべき四二%。同性愛は四七%が背徳としながらも、基本的人権の保障には五六%が賛成。

(11・19読売)

歴史を書き換える熱気

——米国女性会議——

「この瞬間、私たちは歴史を書き上げているのだ」十一月一八二二日ヒューストン市で開かれた第一回米国女性会議では、大多数の出席者がこの思いに酔いしれた。

二六の決議案は、保育所の設立・性差別のない学校教育・雇用の平等・家庭を守る「ホーム

メーカー」にも平等の権利を。マスコミは性差別のない女性像を・老婦人対策を、等、大部分は日本の女性にも共通の問題だった。

最も激論になったのはERA(憲法平等修正案)と、出産・避妊・中絶の自由、レズビアン中の差別撤廃。会議二日目の真夜中、どこからともなく「ERA」の大合唱がわき、反対派は「ノー!ノー!」と大あわて。結局、八対二の比率で成立。会議場の周りでは保守的な反対派が氣勢を上げていたがかなたし。出産・中絶の自由も同様。最も反対の多かったレズ問題も、最後にベティ・フリーダが「私は強く反対してきたが、ERAには同性愛者を守る要素が含まれていないことに気がついた。彼女らにも平等の権利を認めよう」と発言、われるような拍手の中で採択、その瞬間、レズ運動家たちは抱き合い、一斉に無数の風

船が舞い上がった。

数年前まで世間のからかいや冗談のタネにされ、反体制運動とみられていたのに、大統領・同夫人・政治家・社会学者・人類学者・法律家、ありとあらゆる人々を巻き込んで社会の主流にしてしまったアメリカ女性運動のダイナミックさ、社会変動の速さ、広い国土のあちこちから飛行機で飛んで来て、朝から真夜中まで何日間も延々と討論する女性たちのねばり強さに改めて驚き、「権利は勝ちとるもの」と改めて思った。(深尾凱子記者) (11・26、28読売)

リブ絵本が続々

アメリカでは男女差別のない絵本が多数出版されている。

女は消防士にはなれないという通念を打ち破って、燃えさかる家からウサギを助け出す少女を書いた『ファイアガール』。

機械工・科学者・騎手など、男の分野で活躍する少女たちを登場させたぬり絵絵本『ABCワークブック』など。リブ絵本」といわれ、女性だけの出版社から出されている。

(脇山怜・翻訳家) (12・7日経)

パートタイム・パパ

ニューヨーク。離婚した男が別れたときの契約に従って週に一回、妻のもとにいる子どもとの面会を許され、子連れで一日を過ごす。この男を世間ではパートタイム・パパと呼ぶ。

(12・15朝日)

ニューヨーク無宿女

家がなく、街頭のコンクリートがベッドの女性「ジョッピングバッグ・レディー」たちが、街角から街角へと眠る場所を変えている。

史上初の黒人女王

サントドミンゴで開かれたミス・ユニバース・コンテストでトリニダードトバコ代表のハネリュ・コモンシオンさん(二四)が女王に。史上初の黒人ミス・ユニバース。(7・18朝日)

〔ドミニカ〕

ニューヨーク市に今や八百人。ほとんどがお年寄り。どうして並みの生活をしたくないのかと聞かれても「路上が好きだから、私はハッピー」と言うだけ。(12・20朝日)



女学生に聞く

「女性解放は自由と平等を求めてきた。女性解放は自由と平等を求めてきた。女性解放は自由と平等を求めてきた。」



「女性解放は自由と平等を求めてきた。女性解放は自由と平等を求めてきた。女性解放は自由と平等を求めてきた。」



ガンジ一審判

「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。

「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。



「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。

「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。

「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。

「ガンジ一審判」は、女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。女性解放の闘争を描いた作品。

名門女子大、男に門戸

企業幹部の道も開け

家族計画は強制せよ

ジェット旅客機で女性

ノ運 飛行距離

米女性

地位向上に奮戦中



新政府の女性登用の選考対象は九千人と語るブラムさん 一宮藤竹西員

インタビュー

男女交代で大統領に

カーター政権の女性登用を
推進する次期大統領の側近
バーバラ・プラムさん

戦闘任務にもつけて

女性的一般教養を発表した
全米女性運動組織の委員長
カレン・デクロウさん

[illegible]

台湾の男性天国 日本に責任問う

旅行社激しい値切り

「地元の頼りこの道だけ」

[illegible]

「保祖父さん」大活躍

スウェーデンからの報告



職業化がすすむにつれ
 て、子どもの中には、ほと
 んど老人との付き合いがな
 いまま、おとなになつてし
 まう子どもといふ一
 層が、スウェーデンでこの
 問題が、本然に心配さ
 れてゐる。

[illegible]

老
その

[illegible]

地元業者が
非難の広告

資料集

資料 1

看護職員の雇用、労働条件及び生活状態に関する条約（ILO 第二四九号条約）

国際労働機関の総会は、

理事会によりジュネーヴに招集されて、一九七七年六月一日にその第六十三回会期として会合し、

住民の健康及び福祉の保護及び向上において看護職員が保健の分野における他の労働者と共に果たす重要な役割を認識し、

看護職員の使用者としての公共部門が看護職員の雇用条件及び労働条件の向上において積極的な役割を果たすべきであることを認識し、

資格を有する者が不足し及び現存の職員が必ずしも最も有効に活用されていない多くの国における看護職員の現状が有効な保健業務の発展に障害となつていることに留意し、看護職員が、差別待遇、結社の自由及び団体交渉権、任意調停及び任意仲裁、労働時間、有給休暇及び有給教育休暇、社会保障及び福祉施設並びに母性保護及び労働者の健康の保護に関する文書等雇用及び労働条件に関する一般的な基準を定める多くの国際労働条約及び国際労働勧告の対象となつてゐることを想起し、

看護が遂行される特別な状況にかんがみ、看護職員が保健の分野におけるその役割に相応し、かつ、看護職員にとつて受け入れ得る地位を享受し得るようにするための特に看護職員に適用される基準によつて前記の一般的な基準を補足することが望ましいことを考慮し、

次の基準が世界保健機関との協力の下に作成されたこと及びその適用を促進し及び確保するため同機関との協力が引き続き行われることに留意し、

前記の会期の議事日程の第六議題である看護職員の雇用、労働条件及び生活状態に関する提案の採択を決定し、

その提案が国際条約の形式をとるべきであると決定して、次の条約（引用に際しては、千九百七十七年の看護職員条約と称することができる。）を千九百七十七年六月二十一日に採択する。

第一条

1 この条約の適用上、「看護職員」とは、看護及び看護業務を行うすべての種類の者をいう。

2 この条約は、職務を遂行する場所のいかんを問わず、すべての看護職員について適用する。

3 権限のある機関は、関係のある使用者団体及び労働者団体が存在する場合にはこれらの団体との協議の上、奉仕的に看護及び看護業務を行う看護職員に関する特別な規則を定めることができる。この規則は、第二条2(a)、第三条、第四条及び第七条の規定を損なうものであつてはならない。

第二条

1 この条約を批准する各加盟国は、一般的な保健計画が存在する場合にはその計画のわく内において、及び保健業務全体のために利用し得る資源の範囲内において、住民のできる限り高い健康水準を達成するために必要な量及び質の看護の提供を意図する看護業務及び看護職員に関する政策を、国内事情に適する方法によつて採用し及び適用する。

2 特に、各加盟国は、看護職員をその職業に引き付けかつ留めておくために適当な次のものを看護職員に対して提供することを目的とする必要な措置をとる。

(a) 看護職員の職務の遂行のために適切な教育及び訓練

(b) 雇用条件及び労働条件（進路の見通し及び報酬を含む。）

3 1の政策は、関係のある使用者団体及び労働者団体が

存在する場合にはこれらの団体との協議の上、策定する。

4 1の政策は、関係のある使用者団体及び労働者団体との協議の上、保健業務の他の側面及び保健の分野における他の労働者に関する政策と調整する。

第三条

1 看護教育及び看護訓練に関する基本的要件並びにそのような教育及び訓練の監督については、国内法令で定め又は国内法令で授権された権限のある機関若しくは権限のある職業上の団体が定める。

2 看護教育及び看護訓練は、保健の分野における他の労働者の教育及び訓練と調整する。

第四条

国内法令は、看護を業とするための要件を明記し、看護を業とすることをその要件を満たす者に限定する。

第五条

1 看護業務の企画への看護職員の参加及び看護職員に関する決定についての看護職員との協議を促進するため、国内事情に適する方法によつて措置をとる。

2 雇用条件及び労働条件の決定は、なるべく、関係のある使用者団体と労働者団体との間の交渉によつて行う。

3 雇用条件の決定に関連して生ずる紛争は、当事者間の交渉を通じ又は、利害関係のある当事者の信頼を確保す

るような方法で、あつ旋、調停及び任意仲裁等の独立の
かつ公平な手続を通じて解決を求める。

第六条

看護職員は、次の分野において当該国の他の労働者の条件と同等の又はそれ以上の条件を享受する。

- (a) 労働時間（超過勤務、不便な時間及び交替制による労働に関する規制及び補償を含む。）
- (b) 週休
- (c) 年次有給休暇
- (d) 教育休暇
- (e) 出産休暇
- (f) 病気休暇
- (g) 社会保障

第七条

各加盟国は、必要な場合には、労働衛生及び産業安全に関する現存の法令を看護職員の労働及び看護職員の労働が遂行される環境の特殊性に適合させることによって、当該法令を改善するように努める。

第八条

この条約は、労働協約、就業規則、仲裁裁定若しくは裁判所の判決又は国内慣行に適合しかつ国内事情に適するその他の方法によつて実施されない限り、国内法令によつて

実施する。

第九条

この条約の正式の批准は、登録のため国際労働事務局長に通知する。

第十条

- 1 この条約は、国際労働機関の加盟国でその批准が事務局長に登録されたもののみを拘束する。
- 2 この条約は、二の加盟国の批准が事務局長に登録された日の後十二箇月で効力を生ずる。
- 3 その後は、この条約は、いずれの加盟国についても、その批准が登録された日の後十二箇月で効力を生ずる。

第十一条

- 1 この条約を批准した加盟国は、この条約が最初に効力を生じた日から十年を経過した後は、登録のため国際労働事務局長に送付する文書によつてこの条約を廃棄することができる。その廃棄は、登録された日の後一年間は効力を生じない。

- 2 この条約を批准した加盟国で、1に定める十年の期間が満了した後一年以内にこの条に規定する廃棄の権利を行使しないものは、更に十年間拘束を受けるものとし、その後は、十年の期間が満了することに、この条に定める条件に従つてこの条約を廃棄することができる。

第十二条

1 国際労働事務局局長は、国際労働機関の加盟国から通知を受けたすべての批准及び廃棄の登録をすべての加盟国に通告する。

2 事務局局長は、通知を受けた二番目の批准の登録を国際労働機関の加盟国に通告する際に、この条約が効力を生ずる日につき加盟国の注意を喚起する。

第十三条

国際労働事務局局長は、国際連合憲章第百二条の規定による登録のため、前諸条の規定に従つて登録されたすべての批准及び廃棄の完全な明細を国際連合事務総長に通知する。

第十四条

国際労働機関の理事会は、必要と認めるときは、この条約の運用に関する報告を総会に提出するものとし、また、この条約の全部又は一部の改正に関する問題を総会の議事日程に加えることの可否を検討する。

第十五条

1 総会がこの条約の全部又は一部を改正する条約を新たに採択する場合には、その改正条約に別段の規定がない限り、

(a) 加盟国によるその改正条約の批准は、その改正条

約の効力発生を条件として、第十一条の規定にかかわらず、当然にこの条約の即時の廃棄を伴う。

(b) 加盟国による批准のためのこの条約の開放は、その改正条約が効力を生ずる日に終了する。

2 この条約は、これを批准した加盟国で1の改正条約を批准していないものについては、いかなる場合にも、その現在の形式及び内容で引き続き効力を有する。

第十六条

この条約の英文及びフランス文は、ひとしく正文とする。

資料集

資料2

看護職員の雇用、労働条件及び生活状態に関する勧告（ILO第一五七号条約）

国際労働機関の総会は、

理事會によりジュネーヴに招集されて、千九百七十七年六月一日にその第六十三回會期として會合し、

住民の健康及び福祉の保護及び向上において看護職員が保健の分野における他の労働者と共に果たす重要な役割を認識し、

地域社會の必要に適した看護業務の提供を確保するために、政府と關係のある使用者団体及び労働者団体との間の協力を通じて保健業務を拡大することが必要であることを強調し、

看護職員の使用としての公共部門が看護職員の雇用条件及び労働条件の向上において特に積極的な役割を果たすべきであることを認識し、

資格を有する者が不足し及び現存の職員が必ずしも最も有効に活用されていない多くの國における看護職員の現状が有効な保健業務の發展に障害となつてゐることに留意し、看護職員が、差別待遇、結社の自由及び団体交渉權、任意調停及び任意仲裁、労働時間、有給休暇及び有給教育休

暇、社會保障及び福祉施設並びに母性保護及び労働者の健康の保護に関する文書等雇用及び労働条件に関する一般的な基準を定める多くの國際労働條約及び國際労働勧告の対象となつてゐることを想起し、

看護が遂行される特別な状況にかんがみ、看護職員が保健の分野におけるその役割に相應し、かつ、看護職員にとつて受け入れ得る地位を享受し得るようになるための特に看護職員に適用される基準によつて前記の一般的な基準を補足することが望ましいことを考慮し、

次の基準が世界保健機關との協力の下に作成されたこと及びその適用を促進し及び確保するため同機關との協力が引き続き行われることに留意し、

前記の會期の議事日程の第六議題である看護職員の雇用、労働条件及び生活状態に関する提案の採択を決定し、

その提案が勧告の形式をとるべきであると決定して、次の勧告（引用に際しては、千九百七十七年の看護職員勧告と称することができる。）を千九百七十七年六月二十一日に採択する。

I 適用範圍

1 この勧告の適用上、「看護職員」とは、看護及び看護業務を行うすべての種類の者をいう。

2 この勧告は、職務を遂行する場所のいかんを問わず、すべての看護職員について適用する。

3 権限のある機関は、関係のある使用者団体及び労働者団体が存在する場合にはこれらの団体との協議の上、奉仕的に働く看護職員に関する特別な規則を定めることができる。この規則はⅡ、Ⅲ、Ⅳ及びⅨの規定を損なうものであるべきではない。

Ⅱ 看護業務及び看護職員に関する政策

4 (1) 各加盟国は、一般的な保健計画のわく内において、及び保健業務全体のために利用し得る資源の範囲内において、住民のできる限り高い健康水準を達成するために必要な量及び質の看護の提供を意図する看護業務及び看護職員に関する政策を、国内事情に適する方法によつて採用し及び適用すべきである。

(2) (1)の政策は、

(a) 保健の分野における他の労働者の代表者との協議の上、保健業務の他の側面及び保健の分野における他の労働者に関する政策と調整すべきである。

(b) 看護職のための教育及び訓練並びに看護の実務に関する法令を採用すること及びこのような法令を看護業務に対する需要を満たすために必要とされる看護職員の資格及び責任についての進展に適合させることを含むべきである。

(c) 次のことを目的とする措置を含むべきである。
(i) 国全体としての看護職員の有効な活用を促進すること。

(ii) 看護職員を雇用している種々の施設、地域及び部門における看護職員の資格の最大限の活用を促進すること。

(d) 関係のある使用者団体及び労働者団体との協議の上、策定すべきである。

5 (1) 教育及び訓練、職務の水準並びに免許を参考として決定される限られた数の種類に看護職員を分類することによつて合理的な看護職員構造を確立するため、関係のある使用者団体及び労働者団体との協議の上、措置をとるべきである。

(2) (1)看護職員構造は、国内慣行に従い、次の種類の者を含むことができる。

(a) 高度に複雑なかつ責任のある職務に就くために必要と認められた教育及び訓練をうけ、かつ、そのような職務を遂行するための免許を受けた専門的看護婦

(b) 適当な場合には専門的看護婦の監督の下で、

比較的複雑でない職務に就くために必要と認められた教育及び訓練を少なくとも受け、かつ、そのような職務を遂行するための免許を受けた補助的看護婦

(c) 専門的看護婦又は補助的看護婦の監督の下で、特定の任務の遂行を可能にする事前の教育及び(又は)職場訓練を受けた看護補助者

6(1) 看護職員の職務は、必要とされる判断の水準、決定を行う権限、他の職務との関係の複雑性、必要とされる技術的能力の水準及び看護業務についての責任の水準によつて分類されるべきである。

(2) (1)の分類の結果は、看護職員を雇用する各種の施設、地域及び部門における雇用構造の一層の均一性を確保するために利用されるべきである。

(3) 一定の種類の看護職員は、特別な緊急の場合に臨時に使用される場合であつて適切な訓練又は経験を有し、かつ、適切な保償を与えられる場合を除くほか、上級の看護職員に代えて使用されるべきではない。

III 教育及び訓練

7(1) 看護職に就くことを望む者に對し、看護職に関する必要な情報及び指導を提供するための措置がとられるべきである。

(2) 基礎的な看護教育は、適当な場合には、当該国

の一般教育制度のわく内における教育機関において、類似の職業集団に対する教育の水準と同様の水準で行われるべきである。

(3) 法令は、看護教育及び看護訓練に関する基本的要件並びにそのような教育及び訓練の監督について規定すべきであり又は権限のある機関若しくは権限のある職業上の団体に對しそのような規定を設ける権限を付与すべきである。

(4) 看護教育及び看護訓練は、当該国における利用可能な資源を考慮に入れて、認められた地域社会の必要に照らして組織すべきであり、また、保健の分野における他の労働者に対する教育及び訓練と調整すべきである。

8(1) 看護教育及び看護訓練には、権限のある機関によつて公式に認められた計画に従い、理論及び実習の双方を含むべきである。

(2) 実技訓練は、認定された予防機関、治療機関及びリハビリテーション機関において、資格を有する看護婦の監督の下で行われるべきである。

9(1) 基礎的な看護教育及び看護訓練の期間は、訓練を受けるための最低限度の教育上の要件及び訓練の目的によるべきである。

(2) 認定された基礎的な教育及び訓練には、次の二の水準があるべきである。

(a) 病院その他地域社会の保健関係機関において、

最も複雑な看護を行うとともに看護を組織し及び評価することができるようにするため充分広範かつ高度な技能を有する専門的看護婦を訓練するための高等水準。この水準の教育及び訓練に受け入れられる学生は、可能な限り、大学入學に必要な一般教育の水準を達成しているべきである。

(b) 比較的複雑ではないが技術的能力及び対人関係への適性を必要とする一般的看護を行うことができる補助的看護婦を訓練するための中等水準。この水準の教育及び訓練に受け入れられる学生は、中等教育において可能な限り高い水準を達成しているべきである。

10 直接的及び補助的看護、看護業務の管理、看護教育並びに看護の分野における研究及び開発における最も高い責任を負うことができるように看護職員を準備させるための一層高度な看護教育の計画があるべきである。

11 看護補助者は、その職務に適する理論及び実技の訓練を与えられるべきである。

12 (1) 職場内及び職場外の双方における継続教育及び継続訓練は、8(1)の計画の不可分の一部であるべきであり、知識及び技能の補充及び向上を確保するため並びに看護職員が看護及び関連科学の分野における新しい考え方及び技術を取得し及び適

用することができるようにするため、すべての者にとつて利用可能であるべきである。

(2) (1)の継続教育及び継続訓練には、看護補助者及び補助的看護婦の昇進を助長し及び促進する計画を含むべきである。

(3) (1)の継続教育及び継続訓練には、就業中断期間の後における看護職への復帰を促進する計画をも含むべきである。

IV 看護の実務

13 看護の実務に関する法令は、

(a) 専門的看護婦又は補助的看護婦としての看護の実務のための要件を明記すべきであり、必要な教育及び訓練の水準を達成したことを証明する証明書所持が看護の実務を行う権利を自動的に意味しない場合には、看護職員の代表者を含む機関に免許を与える権限を付与すべきである。

(b) 看護の実務を行うことを正式に免許された者に限定すべきである。

(c) 必要な場合には、看護職における最近の進歩及び慣行に従い、再検討し及び補足すべきである。

14 看護の実務に関する基準は、他の保健職種の実務に関する基準と調整すべきである。

15 (1) 看護職員は、その資格及び能力を超える職務に就かせられるべきではない。

(2) 看護職員は、既に就いている職務につき資格を有していない場合には、必要な資格を取得するた
めできる限り速やかに訓練されるべきであり、ま
た、このような資格を取得するための便宜が与え
られるべきである。

16 看護職員の職務の遂行から生ずる看護職員の民事責
任の問題によって必要となる措置に対して考慮が払わ
れるべきである。

17 看護職員に適用される懲戒規則は、看護職員の代表
者の参加を得て定められるべきであり、また、国内事
情に適する方法により、手続のすべての段階において
看護職員の選ぶ者を代理者とする権利を含む公正な審
査及び申立てを行う適当な手続を、看護職員に対して
保障すべきである。

18 看護職員は、特定の任務の遂行が看護職員の宗教的、
道德的又は倫理的信念と相反する場合であつて、患者
にとつて欠くことの出来ない看護が影響を受けな
いことを確保するために必要な代替的措施がとられ得るよ
う充分事前に異議を監督者に通報するときは、制裁を
受けることなくその任務の遂行の免除を求めることが
できるべきである。

V 参加

19 (1) 国内一般保健政策、特に看護職に関する企画及
び決定への看護職員の参加を促進するため、すべ

ての段階で、国内事情に適する方法によつて措置
をとるべきである。

(2) 特に、

(a) 看護職員の資格を有する代表者又は看護職員
を代表する団体の資格を有する代表者は、看護
職に関する政策及び一般原則(教育及び訓練並
びに看護の実務に関する政策及び一般原則を含
む。)の作成及び適用に参与すべきである。

(b) 雇用条件及び労働条件は、関係のある使用者
団体と労働者団体との間の交渉によつて決定さ
れるべきである。

(c) 雇用条件の決定に関連して生ずる紛争は、看
護職員を代表する団体が他の労働者の団体にそ
の合法的な利益を保護するために通常開かれて
いる他の手段に頼ることを不必要にするため、
当事者間の交渉を通じ又はあつ旋、調停及び任
意仲裁等の独立のかつ公平な手続を通じて解決
を求めるべきである。

(d) 看護職員を雇用する施設において、看護職員
又は千九百七十一年の労働者代表条約第三条の
意味における看護職員の代表は、看護職員の職
業生活に関する決定に当該問題に適する方法に
よつて参与すべきである。

20 看護職員の代表は、千九百七十一年の労働者代表条
約及び千九百七十一年の労働者代表勧告に規定される

保護を保障されるべきである。

VI 進路開発

21 (1) 十分に多様かつ広範な職業的昇進の可能性を規定すること、直接的及び補助的看護、看護業務の管理、看護教育並びに看護の分野における研究及び開発における指導的地位を規定すること、並びに責任の増大を伴い、かつ、一層優れた技術的能力及び職業上の判断力を必要とする職務を受け入れることを認める等級制度及び報酬制度を規定することにより、合理的な進路の見通しを看護職員に与えるための措置がとられるべきである。

(2) (1)の措置は、患者及び公衆との直接的な関係を伴う職務の重要性をも認めるべきである。

22 進路の見通し及び、適当な場合には、就業中断期間の後における看護職への復帰に関する助言及び指導を看護職員に対して与えるための措置がとられるべきである。

23 就業の中断の後に看護職に復帰する看護職員が就くべき職務の水準を決定するに当たっては、以前の看護経験及び就業中断期間が考慮されるべきである。

24 (1) 継続教育訓練計画への参加を望み、かつ、参加する能力のある看護職員は、必要な便宜を与えられるべきである。

(2) (1)の便宜は、有給の又は無給の教育休暇の付

VII 報酬

与、労働時間の調整及び学習又は訓練の費用の支給から成ることができる。看護職員は、可能な場合にはいつでも、千九百七十四年の有給教育休暇条約に従い、有給教育休暇を与えられるべきである。

(3) 使用者は、なるべく職場において、看護職員の現職訓練のための職員及び施設を提供すべきである。

25 (1) 看護職員の報酬は、看護職員の社会的及び経済的必要、資格、責任、任務及び経験に相応する、看護職に固有の拘束及び危険を考慮に入れた、看護職員をその職業に引き付けかつ留めておくような水準に決定されるべきである。

(2) 報酬の水準は、同様な又は同等の資格を必要とし及び同様な又は同等の責任を負う他の職業の報酬の水準と同程度なものであるべきである。

(3) 同様な又は同等の任務を有し及び同様な又は同等の条件の下で労働する看護職員の報酬の水準は、労働する施設、地域又は部門のいかなを問わず、同程度なものであるべきである。

(4) 報酬は、生計費の変化及び国内の生活水準の向上を考慮に入れて随時調整されるべきである。

(5) 看護職員の報酬は、なるべく、労働協約によつ

て決定されるべきである。

- 26 報酬率は、5及び6において勧告されている職務及び責任の分類並びに21に規定する進路に関する政策の原則を考慮すべきである。

- 27 特に困難な又は不快な条件の下で労働する看護職員は、これに対する金銭的な補償を受けるべきである。

- 28 (1) 報酬は、金銭でその全額を支払うべきである。

- (2) 賃金からの控除は、国内法令又は労働協約若しくは仲裁裁定で定める条件及び限度でのみ認められるべきである。

- (3) 看護職員は、使用者が提供するサービスを利用するか否かを決定する自由を有すべきである。

- 29 使用者によつて要求される又は仕事の遂行上必要な作業衣、医療用品一式、輸送手段その他の供給品は、使用者によつて看護職員に提供され、かつ、無償で維持されるべきである。

VII 作業時間及び休息期間

- 30 この勧告の適用上、

- (a) 「通常の労働時間」とは、各国で法令、労働協約若しくは仲裁裁定により又はこれらに基づいて定められる時間数をいう。

- (b) 「超過勤務」とは、通常の労働時間を超えて労働した時間をいう。

- (c) 「呼出し待機」とは、看護職員がおりうる呼出し

に応ずるため、職場又はその他の場所において使用者によつて自由に使用され得る状態にある時間をいう。

- (d) 「不便な時間」とは、当該国の通常の労働日以外の日及び通常の作業時間以外の時間において労働した時間をいう。

- 31 看護職員の作業を編成するために必要な時間、指示を受け及び伝達するために必要な時間等看護職員が使用者によつて自由に使用され得る時間は、呼出し待機に関するありうる特別規定に従うことを条件として、看護職員の作業時間として計算されるべきである。

- 32 (1) 看護職員の通常の週労働時間は、当該国の一般労働者について定められている労働時間を上回るべきではない。

- (2) 一般労働者の通常の週労働時間が四十時間を超える場合には、千九百六十二年の労働時間短縮勧告9の規定に従つて、看護職員のために給料を減少させることなく労働時間を漸進的にしかしできる限り速やかに週四十時間の水準にまで短縮するための措置がとられるべきである。

- 33 (1) 一日当たりの通常の労働時間は、弾力的な作業時間又は週労働日数の短縮に関する措置が法令、労働協約、就業規則又は仲裁裁定によつてとられる場合を除くほか、継続的であるべきであり、かつ、八時間を超えるべきではない。いかなる場合

にも、通常の週労働時間は、32(1)に規定する限度内にとどめられるべきである。

(2) 一日の労働時間(超過勤務を含む。)は、十二時間を超えるべきではない。

(3) この33の規定に対する一時的な例外は、特別な緊急の場合にのみ認められるべきである。

34(1) 合理的な長さの食事時間が与えられるべきである。

(2) 通常の労働時間に含まれる合理的な長さの休憩時間が与えられるべきである。

35 作業時間表は、看護職員がその個人生活及び家族生活にそれに応じて組織し得るようにするため、看護職員に充分事前に予告されるべきである。この作業時間表に対する例外は、特別な緊急の場合にのみ認められるべきである。

36(1) 看護職員が四十八時間未満の継続する週休を受ける権利を有する場合には、看護職員の週休を四十八時間の水準にまで引き上げるための措置がとられるべきである。

(2) 看護職員の週休は、いかなる場合にも、継続する三十六時間を下回るべきではない。

37(1) 超過勤務、不便な時間における労働及び呼出し待機を用いることは、できる限り少なくすべきである。

(2) 超過勤務及び公の休日における労働に対しては、

代休が与えられるべきであり及び(又は)通常の賃金率よりも高い率で賃金が支払われるべきである。

(3) 公の休日以外の不便な時間における労働は、給料への追加によつて補償されるべきである。

38(1) 交替制による労働は、国内における他の雇用に係る交替制による労働について適用される報酬の増加を下回らない報酬の増加によつて補償されるべきである。

(2) 交替制による労働に従事する看護職員は、交替時間と次の交替時間との間に少なくとも十二時間の継続する休息期間を享受すべきである。

(3) 無給の時間帯によつて分断される一回の交替勤務時間(分割された交替勤務時間)は、避けられるべきである。

39(1) 看護職員は、国内の他の労働者と少なくとも同じ長さの年次有給休暇を受ける権利を有すべきであり、かつ、そのような休暇をとることを要求されるべきである。

(2) 年次有給休暇の長さが一年の勤務につき四週間未満である場合には、看護職員のために休暇の長さを漸進的にしかしできる限り速やかに四週間の水準にまで引き上げるための措置がとられるべきである。

40 特に困難な又は不快な条件の下で労働する看護職員

は、報酬総額の減少を伴うことなく、労働時間の短縮及び（又は）休息期間の増加を享受すべきである。

41(1) 疾病又は負傷のために欠勤する看護職員は、法令又は労働協約によつて定められる期間中及びそのような方法により、次の権利を有すべきである。

(a) 雇用関係の維持及び雇用関係から生ずる権利の保全に対する権利

(b) 所得の保障に対する権利

(2) 病氣休暇を受ける権利を定める法令又は労働協約は、次の場合を区別すべきである。

(a) 疾病又は負傷が業務上のものである場合

(b) 当該者は労働不能ではないが、他の者の健康を保護するために欠勤が必要である場合

(c) 業務と無関係の疾病又は負傷の場合

42(1) 看護職員は、既婚者と未婚者との間の差別なしに、千九百五十二年の母性保護条約（改正）及び千九百五十二年の母性保護勧告に規定する給付及び保護を確保されるべきである。

(2) 出産休暇は、病氣休暇とされるべきではない。

(3) 千九百六十五年の雇用（家庭責任をもつ婦人）勧告に規定する措置は、看護職員について適用されるべきである。

43 作業の編成、作業時間及び休息期間に関する決定は、19の規定に従い、看護職員の自由に選ばれた代表者又は看護職員を代表する団体との合意又は協議の上、行

われるべきである。それらの決定は、特に次の事項に關して行われるべきである。

(a) 不便な時間とされるべき時間

(b) 呼出し待機が作業時間として計算される条件

(c) 33(3)及び35に規定する例外が認められる条件

(d) 34に規定する食事時間及び休憩時間の長さ並びにそれらの時間をとる方法

(e) 37及び38に規定する補償の形態及び額

(f) 作業時間表

(g) 27及び40の規定の適用上、特に困難な又は不快なものと考えられる条件

IX 労働衛生上の保護

44 各加盟国は、労働衛生及び産業安全に関する法令を看護職員の労働及び看護職員の労働が遂行される環境の特殊性に適合させるよう並びにそのような法令によつて与えられる保護を増加させるように努めるべきである。

45(1) 看護職員は、千九百五十九年の職業衛生機関勧告の規定に従つて運営される職業衛生機関を利用する機会を有すべきである。

(2) 職業衛生機関がまたすべての企業のために設置されていない場合には、看護職員を使用する医療施設は、同勧告4の規定に従い、そのような機関が最初に設置されるべきであるとされている企業

について存在すべきである。

- 46 (1) 各加盟国並びに関係のある使用者団体及び労働者団体は、千九百五十三年の労働者健康保護勧告の規定に特別の注意を払うべきであり、看護職員に対するその適用を確保するように努めるべきである。

- (2) 同勧告1から7までの規定に従い、看護職員の健康又は安全に対する危険を防止し、減少させ又は除去するためのすべての適当な措置がとられるべきである。

- 47 (1) 看護職員は、就職時及び離職時において並びにその勤務期間中は一定の間隔を置いて健康診断を受けるべきである。

- (2) 看護職員自身の健康又はその周囲の他の者の健康に対する明白な危険が存在し又は存在する疑いのあるような状況の下で常時就業している看護職員は、そのもたらす危険に適合する間隔を置いて定期健康診断を受けるべきである。

- (3) この47に規定する健康診断においては、客観性及び秘密性が確保されるべきである。当該健康診断は、健康診断を受ける者が勤務上密接な関係を有する医師によつて実施させるべきではない。

- 48 (1) 看護職員がその職務を遂行するに当たつてさらされるおそれのある特別な危険が防止され及び、適当な場合には、その結果に対する補償がなされ

るよう、そのような危険を決定するための研究が行われるべきであり、かつ、最新のものとされておくべきである。

- (2) (1)の目標のために、労働に係る事故の事案及び業務災害給付に関する法令に基づき職業病と認められる疾病又は職業性の疑いのある疾病の事案は、千九百五十三年の労働者健康保護勧告14から17までの規定に従い、国内法令で規定される方法により権限のある機関に対して通告されるべきである。

- 49 (1) 看護職員が特別な危険にさらされないことを確保するため、可能なすべての措置がとられるべきである。特別な危険にさらされることを避けることができない場合には、それを最少にするための措置がとられるべきである。

- (2) 特別な危険を伴う業務に常時就いている看護職員については、そのような危険にさらされることを減少させるために、保護衣の提供及び使用、免疫、時間の短縮、休憩時間の頻度の増加、当該危険からの一時的な離脱又は年次休暇の長さの延長等の措置が規定されるべきである。

- (3) 更に、特別な危険にさらされる看護職員は、金銭的な補償を受けるべきである。

- 50 妊婦及び幼少の子の親でその通常就いている業務が自らの健康又はその子の健康を損なうおそれがあるも

のは、その権利の喪失を伴うことなく、その状態に適した業務に配置換えされるべきである。

51 看護職員の健康及び安全の保護に関する規定の有効な適用を確保するため、看護職員及び看護職員を代表する団体の協力が求められるべきである。

52 看護職員の健康及び安全の保護に関する法令その他の規定の適用を監督するための適当な措置がとられるべきである。

X 社会保障

53 (1) 看護職員は、場合により、看護職員以外の者であつて当該国における公務、公共部門若しくは民間部門で雇用されるもの又は自営業に従事するものと同等の又はそれ以上の社会保障の保護を享受すべきである。この保護は、看護職員として常時雇用される者の試みの使用期間及び訓練期間にも行われるべきである。

(2) 看護職員に対する社会保障の保護は、看護職員の業務の特殊性を考慮すべきである。

54 雇用の変更及び雇用の一時的な中断の場合においては、権利の取得及び給付の支給における継続性を確保するための適当な措置ができる限りとられるべきである。

55 (1) 社会保障制度が保護対象者に医師及び医療機関の自由な選択を認めている場合には、看護職員は、同様な選択の自由を享受すべきである。

(2) 看護職員の医療記録は、秘密事項とされるべきである。

56 国内法令は、看護職員がその労働の結果罹患した疾病に対し、職業病として補償することを可能にすべきである。

XI 特別雇用措置

57 利用可能な看護職員を最も有効に活用し、かつ、資格を有する者が看護職から離れることを防止するために、看護職員を臨時に又はパート・タイムで雇い入れることを可能にするための措置がとられるべきである。

58 臨時に雇い入れられる看護職員及びパート・タイムで雇い入れられる看護職員の雇用条件は、それぞれ常用の職員及び専従の職員の雇用条件と同等であるべきであり、かつ、それらの者の権利は、適当な場合には、比例を基礎として決定されるべきである。

XII 看護学生

59 看護学生は、その教育及び訓練に不可欠な制限のみ従うことを条件として、他の課程の学生が有する権利及び自由を享受すべきである。

60 (1) 看護学生の実習作業は、看護学生の訓練の必要に応じて組織され、かつ、実施されるべきである。看護学生の実習作業は、いかなる場合にも、通常の定員の必要を満たす手段として用いられるべき

ではない。

(2) 看護学生は、その実習作業期間中、その学習水準に相応する仕事にのみ就かせられるべきである。

(3) 看護学生は、その教育及び訓練の期間中、看護職員と同様の健康上の保護を受けるべきである。

(4) 看護学生は、適当な法律上の保護を受けるべきである。

61 看護学生は、その教育及び訓練の期間中、看護職員の雇用条件、労働条件、及び進路の見通しについて並びに看護学生の経済的、社会的及び職業的利益を促進するために利用し得る手段について、正確かつ詳細な情報を受けるべきである。

XII 国際協力

62 職員、意見及び知識の交換を促進し、それによつて看護を改善するため、加盟国は、特に多数国間又は二国間の取決めによつて、次のことを行うように努めるべきである。

(a) 基準を低下させることなしに、看護職のための教育及び訓練を調和させること。

(b) 外国で取得された資格に関する相互承認の条件を定めること。

(c) 免許の要件を調和させること。

(d) 看護職員交換計画を組織すること。

63 (1) 看護職員は、自国で提供される教育機会及び訓練機会を活用することを奨励されるべきである。

(2) 看護職員は、必要がある場所又は望ましい場合には、できる限り組織された交換計画による外国での教育機会及び訓練機会を有すべきである。

64 (1) 外国で教育又は訓練を受ける看護職員は、多数国間若しくは二国間の協定又は国内法令によつて定められる条件の下で適当な金銭的援助を受けることができるべきである。

(2) (1)の援助は、看護職員が合理的な期間内に自国に帰り、他の自国民に適用される条件と同一の又はそれ以上の条件で、新たに取得した資格に相応する職に一定の最小限度の期間就くことを約束することを条件とすることができる。

65 一定の期間外国で就業すること又は訓練を受けることを希望する看護職員を、雇用関係を中断することなしに、職場から離脱させる可能性に対して考慮が払われるべきである。

66 (1) 外国人看護職員は、その就くべき職に適當であると権限のある機関によつて認められた資格を有すべきであり、かつ、就業先の国において看護の実務のための他のすべての条件を満たすべきである。組織された交換計画に参加している外国人看護職員については、後者の要件を免除することができる。

(2) 使用者は、外国人看護職員が就くべき職に適切

な語学力を有することを確保すべきである。

(3) 同等の資格を有する外国人看護職員は、同様の任務及び責任を伴う職に就いている自国民看護職員の雇用条件と同等に有利な雇用条件を享受すべきである。

67(1) 雇用のための外国人看護職員の募集は、次の場合にのみ認められるべきである。

(a) 就業先の国において、就くべき職について資格を有する職員が不足している場合

(b) 求められた資格を有する看護職員が送出国において不足していない場合

(2) 外国人看護職員の募集は、千九百四十九年の移民労働者条約(改正)及び千九百四十九年の移民労働者勧告(改正)の関係規定に従って行われるべきである。

68 外国で雇用され又は訓練を受ける看護職員は、帰国を希望する場合には、すべての必要な便宜を与えられるべきである。

69 社会保障について、加盟国は、国内慣行に従い、(a) 自国で訓練を受け又は就業する外国人看護職員に対し、自国民看護職員との待遇の均等を保障すべきである。

(b) 移民看護職員の既得権又は取得の途中にある権利の保全及び外国での給付の支給を確保するため、の二国間又は多数国間の取決めに参加すべきである。

IV 適用方法

70 この勧告は、国内法令、労働協約、就業規則、仲裁裁定若しくは裁判所の判決又は国内慣行に適合しかつ国内事情に適するその他の方法によって適用することができる。

71 この勧告の規定を適用するに当たり、加盟国並びに関係のある使用者団体及び労働者団体は、可能なかつ望ましい限度において、附属書に掲げる実際の適用に関する提案を指針とすべきである。

附属書 実際の適用に関する提案

看護業務及び看護職員に関する政策

1 看護業務及び看護職員に関する国内政策の目的の達成を可能にするため、充分な予算措置がとられるべきである。

2(1) 看護業務の計画の作成は、すべての段階における一般保健計画の作成の継続的な過程であるべきである。

(2) 看護業務は、次の事項に基づいて計画されるべきである。

(a) 発生する問題、必要及び利用可能な資源に關し適切な評価を可能にするための継続的性格を有する研究及び調査から得られる情報

(b) 変化する必要並びに全国的及び地方的条件に適した技術基準

(3) 特に、次の事項を目的とする措置がとられるべきである。

(a) 適当な看護基準を設定すること。

(b) 認められた必要によつて要求される看護職務を明示すること。

(c) すべての段階及び種類について必要とされる看護職員の数及び資格に関し、看護チームの適切な構成を確保するための職員配置基準を決定すること。

(d) (c)の基準に基づき、看護業務全体の発展及び看護職員の有効な活用のために必要とされる看護職員の種類、人数及び水準を決定すること。

(d) 関係者の代表者との協議の上、看護職員と他の保健職員との関係を決定すること。

(e) 関係者の代表者との協議の上、看護職員と他の保健職員との関係を決定すること。

3 看護業務及び看護職員に関する政策は、看護職員の職務の四の分野（直接的及び補助的看護、看護業務の管理、看護教育並びに看護の分野における研究及び開発）を開発することを目的とすべきである。

4 看護職員の任務の適正な遂行のため、適当な技術的及び物的資源が提供されるべきである。

5 この勧告5において勧告している職務の分類は、関

係のある使用者団体及び労働者団体との協議の上行われる職務分析及び職務評価に基づくべきである。

教育及び訓練

6 住民の大きな部分の教育機会が少ない場合には、この勧告9の規定に従つて要求される水準に達していない学生の一般教育を補足するための措置が看護教育及び看護訓練の計画のわく内にとられるべきである。

7 看護教育及び看護訓練の計画は、一層高度な責任のための教育及び訓練を受け得るための基礎を提供し、自己啓発の意欲を刺激し、また学生がその知識及び技能を保健チームの構成員として用いることができるようにすべきである。

看護の実務

8 (1) 所定の条件の下で、看護の実務を行うための免許の更新を要求することができる。

(2) 免許を受けた看護職員が引き続き十分な資格を有することを確保するために必要と認められる場合には、(1)の更新は、継続教育及び継続訓練の要件を満たすことを条件として行うことができる。

9 就業の中断の後における看護職への復帰は、特定の下では、資格の検証を条件として行うことができる。このような場合には、検証が行われる前の特定の期間他の者を併せて雇用する等の方法によつて復帰

を促進することに考慮が払われるべきである。

10(1) 看護職員に適用される懲戒規則には、次の事項を含むべきである。

(a) 看護職の性質及び看護職に適用される職業的倫理基準を考慮に入れた職業上の違反行為に関する定義

(b) 違反行為の重大性に比例して適用される制裁の指撝

(2) 看護職員に適用される懲戒規則は、保健職員全体に適用される規則のわく内で定められるべきであり、又は、そのような規則がない場合には、他の種類の保健職員に適用される規則を充分考慮すべきである。

進路開発

11 看護業務に対する一般的な見方の結果として、職業的昇進の機会が少ない場合には、保健の分野における他の職業のための資格を取得することを可能にする学習を促進するための措置をとることができる。

12(1) この勧告6に規定する職務の水準の分類に基づき、職業的昇進の機会を提供する分類の制度及び報酬率の制度を確立するための措置がとられるべきである。

(2) (1)の制度は、看護職員が一の水準から他の水準へ移るための刺激を与えるように充分開放的で

あるべきである。

(3) 看護職員の昇進は、公平な基準に基づくべきであり、経験及び発揮された能力を考慮すべきである。

13 報酬の増加は、経験及び能力の増大に基づき、職務の各水準で行われるべきである。

14(1) 看護職員がその知識及び資格をその業務の上で最大限度活用するように奨励するための措置がとられるべきである。

(2) 看護職員によつて実際に引き受けられた責任及び看護職員によつて示された能力は、それらに相応する報酬及び昇進又は昇格の機会を確保するため、継続的に検討されるべきである。

15(1) 有給教育休暇の期間は、社会的給付を受ける権利その他の雇用関係から生ずる権利の決定上、勤務期間とみなされるべきである。

(2) 追加教育及び追加訓練のための無給教育休暇の期間は、特に報酬及び年金権に関し、先任権の期間計算に当たつてできる限り考慮されるべきである。

報酬

16 同様な又は同等の資格を要し、かつ、同様な又は同等の責任を負う他の職業の報酬水準と同程度の報酬水準が達成されないうちは、看護職員をその職業に引き

付けかつ留めておくような水準にまでできる限り速やかに報酬を引き上げるための措置が、必要な場合には、とられるべきである。

17(1) 通常支給される給与への追加及び補償的給与は、有給休暇、年金その他の社会的給付についての計算上、16で言及された他の職業における一般的慣行と均衡がとれた範囲内で、報酬の不可分の一部とみなされるべきである。

(2) (1)の給与への追加及び補償的給与の金額は、生計費の変化に照らして定期的に再検討されるべきである。

作業時間及び休息期間

18(1) 労働時間の編成に当たり、交替制による労働、超過勤務及び不便な時間の労働を、看護職員の間で、特に常用職員と臨時職員との間及び専従職員とパート・タイム職員との間で、公平に配分し、また、個人的選好及び気候、交通、家庭責任等の事項に関する特別な配慮をできる限り考慮するためあらゆる努力が、業務の要請に従うことを条件として、なされるべきである。

(2) 看護職員の労働時間の編成は、その他の保健職員の作業形態に従属するよりはむしろ看護業務に關する必要に基づくべきである。

19(1) 作業の編成、職員の人数及び活用に関する決定

並びに労働時間の編成の分野において、超過勤務、不便な時間の労働及び呼出し待機の必要を制限するための適当な措置がとられるべきである。法令又は労働協約によつて認められる欠勤又は休暇の期間中、出勤している看護職員の負担が過重にならないよう、代替看護職員を入れる必要が特に考慮されるべきである。

(2) 患者の看護のために必要であり、かつ、充分な志願者が得られない場合を除くほか、超過勤務は、自発的に行われるべきである。

20 この勧告35に規定する作業時間表の予告は、二週間又はそれ以上前になされるべきである。

21 看護職員が職場に残ることを要求される呼出し待機の期間又は看護職員の業務が実際に行われる呼出し待機の期間は、作業時間とみなされるべきであり、かつ、作業時間として報酬が支払われるべきである。

22(1) 看護職員は、自ら選ぶ場所で食事をとる自由を有すべきである。

(2) 看護職員は、その休憩時間をその職場以外の場所で行うことができるべきである。

23 年次休暇がとられるべき時期は、家庭での責務、個人的選好及び業務の要請を十分に考慮した上、公平に決定されるべきである。

労働衛生上の保護

24 この勧告47(2)・49及び50に規定するような特別措置の対象となる看護職員には、特に、電離放射線又は麻酔物質に常時さらされる職員及び伝染病又は精神病と接触する職員を含むべきである。

25 更に、電離放射線に常時さらされる看護職員は、千九百六十年の放射線からの保護に関する条約及び千九百六十年の放射線からの保護に関する勧告に規定する措置の保護を享受すべきである。

26 妊婦又は幼少の子の母親を就かせるべきではない業務には、次のものを含むべきである。

(a) 千九百五十二年の母性保護勧告5の規定の対象となる女子については、その5に列举する種類の業務

(b) 一般的に電離放射線又は麻酔物質にさらされることを伴う業務又は伝染病との接触を伴う業務

社会保障

27 この勧告54に規定する権利の取得及び給付の支給における継続性を確保するため、現存の各種の私的な補足的制度を相互に調整し及び法定の制度と調整するた

めの措置がとられるべきである。

28 看護職員が、その労働の結果罹患した疾病に関し、この勧告56に規定する保償を受けることを確保するた

め、加盟国は、法令により、

(a) 一定の疾病につき、看護職員が罹患した場合には、職業に起因するものであるとの推定を確定する一覽表を規定すべきであり、また、看護職員に影響を及ぼす科学的及び技術的發展に照らして、当該一覽表を定期的に改訂すべきである。

(b) 職業病の一般的定義により又は、(a)の一覽表の規定によつては職業上のものと推定されない疾病につき、それが職業に起因するものであることを看護職員が確立することを可能にするその他の規定により、同一一覽表を補足すべきである。

国際協力

29 外国で教育又は訓練を受ける看護職員に与えられる金銭的援助は、適当な場合には、次のものを含むことができる。

(a) 旅費の支給

(b) 研究費用の支給

(c) 奨学金

(d) 既に雇用されている看護職員の場合には、報酬の全額又は一部を継続して支払うこと。

30 外国で訓練を受け又は就業するための休暇又は職場からの離脱の期間は、特に報酬及び年金権に関し、先任権の期間計算に当たつてできる限り考慮されるべきである。

資料3 五十二年度 国の婦人関係予算

(昭和五十二年四月十六日参議院本会議で可決・成立)

昭和五十二年度の国家予算は、四月十六日参議院本会議で可決、成立した。

本年度一般会計予算は、二兆八千五百一十三億円で、前年度より一七・四％の増。そのうち婦人に関する予算は二億一千四百五十七万円で昨年に比べて四〇・〇億円の増(一九・三七％増)。しかし、これは総婦人予算の一％弱でしかない。

婦人に関する予算のうち二億六千九百〇〇万円は、現在、埼玉県比企郡に建設中の「国立婦人教育会館」(仮称)の設置費であり、また農村漁村の婦人対策費の大半を占める二億二千万円は「農村婦人の家」建設費となっている。

今年は、二月一日に国内行動計画が策定された。各方面から批判の多かった国内行動計画とともに、婦人関係予算は、国の婦人問題への取り組み方を示す重要なポイントと言えよう。各省別に見た関係予算の主なものは、次のとおりである。

(『あいさ』16号(77年5月発行)より)

総理府(婦人問題担当室)

(単位:百万円)

項 目	51年度	52年度	対前年 増 減
I 婦人問題に関する総合計画の推進に必要な経費	202	254	+52
(1)連絡調査経費	76	130	+54
(2)婦人問題企画推進会議経費	94	101	+ 7
(3)婦人問題企画推進本部経費	32	23	- 9
II 婦人関係問題の総合調査に必要な経費	27	26	- 1
合 計	229	280	+51

農林省生活改善課

(単位：千円)

項 目	51年度	52年度	対前年 増 減
農山漁村の婦人対策			
(1)婦人農業従事者セミナー開催費 婦人農業従事者の労働の適正管理 農家生活における婦人の役割向上等 についてセミナーを開催するのに要 する経費（各都道府県）	0	81,937	+81,937
(2)「農村婦人の家」設置 農村婦人の共同学習、自主的交流、 情報交換等多目的に利用される施設 である「農村婦人の家」の設置に要 する経費（32ヵ所）	0	223,193	+223,193
(3)農家生活改善技術等普及推進費 農山漁村において生活改善を実行し ている自主的グループの活動の促進 を図るため実績発表大会、実績顕彰 事業等に要する経費	0	16,250	+16,250
(4)農村婦人、高齢者活動促進事業費 農村婦人及び高齢者を対象に生活改 善のための資質及び技術の向上を図 るため、生活技術習得のための講習 会等を開催するのに要する経費（各 都道府県）	37,703	39,059	+ 1,356
(5)全国農山漁村婦人グループ活動の促進 事業費 農山漁村において生活改善を実行し ている自主的グループが実績の発表 大会や情報交換のための広報誌の発 行を行なうのに要する経費	2,736	0	- 2,736
合 計	40,439	360,439	+320,000

厚 生 省

児童家庭局
生活課保護係

(単位：百万円)

項 目	51年度	52年度	対前年 増 減
I 母子保健対策の推進			
(1) 1歳6ヵ月児健康診断の実施 ☆実施主体 市町村 一般検診及び歯科検診	0	150	+ 150
(2) 先天性代謝異常検査の実施 フェニルケトン尿症等の先天性代謝異常による精神薄弱の発生予防のため新しく開発された検査を実施する。 ☆実施主体 都道府県 対象 生後5～7日の新生児	0	137	+ 137
(3) 家族計画特別相談事業への助成 遺伝問題を中心とした相談事業への実施 ☆団体補助（定額） ☆相談担当者研修及び遺伝相談の実施	0	16	+ 16
(4) 市町村母子保健事業への推進 市町村段階ですでに実施している各種の母子保健事業に新たに母子保健指導事業を加え、地域の実情に応じ弾力的に推進できる選択の巾を広げメニュー化する。	0	527	+ 527
(5) 小児慢性特定疾患治療研究拡充 膠原病及び血友病の年齢を18歳未満から20歳未満に引上げる	2,399	2,472	+ 73
(6) 心身障害研究の推進	630	680	+ 50
II 保育対策の充実			
(1) 保育所施設の整備 (社会福祉施設整備費に一括計上) 建築単価の引上げ 7.3%アップ 初年度設備費の引上げ 43%アップ			

(次ページへ続く)

(2)保育所措置費の改善	200,950	238,820	+37,870
1.乳児保育の充実			
9人セット→3人セット (1保育所に乳児9人以上を入所 させている場合に補助の対象とし ている。今回の改正により乳児3 人でも補助対象になるよう改善さ れる。)			
2.施設長等の等級調整(実施率1/2)			
施設長 行(一)六等級九号俸→五等 級六号俸			
主任保母 行(一)七等級七号俸→六 等級四号俸			
3.民間施設給与等改善費			
8.5%→9%			
4.年休代替要員費			
保母及び調理員 6日分→8日分			
5.施設経営費の改善			
嘱託医手当(年額)			
60,000円→90,000円			
庁費(年額)			
50,800円→54,400円			
補修費(平方米当たり)			
337円→361円			
6.児童処遇費の改善			
一般生活費児童用採暖費			
12.8%アップ			
(3)保母養成所の充実	320	347	+27
社会福祉法人立施設の増(7施設→ 8施設)			
職員給与の改善			
(4)保育所保母研修等事業費	66	74	+8
(5)保母修学資金の改善	218	249	+31
貸与月額 8,000円→9,000円			
Ⅲ 婦人保護			
(1)婦人相談所職員設置費補助金	250	274	+24
(2)婦人相談員設置費等補助金	189	197	+8
(3)婦人保護施設運営費	1,154	1,325	+171
合 計	203,176	245,268	+39,092

労働省婦人少年局

(単位：百万円)

項 目	51年度	52年度	対前年 増 減
I 国内行動計画推進のための啓発活動の展開	47	43	- 4
(1)日本婦人問題会議の開催			
(2)その他の啓発活動の展開			
II 職場における男女平等対策の推進	1	5	+ 4
婦人雇用コンサルタントの設置、各婦人少年室に1名配置			
III 勤労婦人の母性健康管理対策の充実	13	14	+ 1
(1)母性健康管理指導医の増置 18室→25室			
(2)母性健康管理推進者セミナーの開催			
IV 職業生活と家庭生活の調和対策の推進	443	565	+122
(1)育児休業制度の普及促進	43	60	+ 17
①育児休業奨励金の増額			
@88,000円→95,000円			
②特定職種育児休業利用			
○ 給付金の支給			
1人当たり 年額 30,000円			
対象 450人			
(2)働く婦人の家の拡充	180	270	+ 90
①施設の設置数増			
51年度 6所 52年度 9所			
②補助単価 30,000千円 (前年同様)			
(3)内職対策の推進	201	217	+ 16
①内職相談施設 (45所) の機能の充実			
(3所は「婦人就業援助センター」=			
仮称=へ改組)			
②内職相談員手当の引上げ			
月額 10,000円→12,000円			
(4)その他の対策	19	18	- 1
V 寡婦対策の推進	187	276	+ 89
(1)母子家庭の母の就業をめぐる生活実態の把握→母子家庭の母の就業に関する調査の実施	0	11	+ 11
調査対象 母子家庭の母 6,000人			
(2)就業に関する相談機能等の強化	16	27	+ 11
内職相談施設のうち3所を「婦人就業援助センター」(仮称)へ改組、充実			
新規事業経費 10,114千円			
(3)訓練手当の支給→支給期間 6ヵ月	81	135	+ 54
(4)寡婦等雇用奨励金制度の充実	90	103	+ 13
①1人当たり月額 10,000円→11,000円			
②支給期間 12か月			
合 計	691	903	+212

文部省少年教育局婦人教育課

(単位: 万円)

項 目	51年度	52年度	対前年 増 減
家庭教育の振興	146,538	147,421	+ 883
I 直轄事業			
(1)家庭教育に関する研究集会の開催	55	52	- 3
(2)家庭教育に関する資料等の作成と情報の供与に努めること			
ア家庭教育に関する資料等の作成と配布	338	331	- 7
イ乳幼児期の家庭教育に関する指導資料の作成と配布	772	785	+ 13
II 都道府県・市町村に対する補助事業			
(1)生涯教育指導事業費補助			
家庭教育(幼児期)相談事業に対する補助	62,696	62,083	- 613
1 事業当たり 26,418,400円 ½補助			
(2)生涯教育学習事業費補助			
ア家庭教育学級の開設の補助	30,024	20,000	-10,024
1 事業当たり 定額5万円 4千学級			
イ乳幼児学級の開設の補助	2,868	6,000	+3,132
1 事業当たり 定額5万円 1,200学級			
(3)社会教育施設活動促進補助			
公民館活動に対する補助(社会教育課所管)	15,000	15,840	+ 840
1 事業当たり 150万円 ½補助 220ヵ所			
III 団体に対する助成			
家庭教育の振興を目的とする社会教育団体に対する補助。(2団体)	600	650	+ 50
IV 家庭教育テレビ放送等の実施委託費(視聴覚教育課所管)	34,185	41,680	+7,495
婦人教育の振興	204,571	317,130	+112,559
I 直轄事業			
(1)国立婦人教育会館(仮称)の設置 (文部省附属機関、昭和52年7月機関設置、10月事業開始)	174,196	296,870	+122,674
(2)婦人教育研究集会の開催	606	558	- 48
(3)婦人教育相談事業促進方策の研究成果のまとめ	701	668	- 33
(4)婦人教育資料の作成と情報の供与に努めること	227	209	- 18
II 都道府県・市町村に対する補助事業			
(1)生涯教育指導事業費補助			
社会教育指導者研修の事業の補助	20,567	255	-20,312
研修事業1コース当たり 400千円			
国内研修1班当たり 375千円 ½補助			
(2)生涯教育学習事業費補助			
婦人学級の開設の補助	0	9,000	+9,000
1 学級当たり 定額5万円 1,800学級			
(3)生涯教育地域活動費補助			
婦人ボランティア活動促進事業の補助	6,020	6,720	+ 700
1 事業当たり 定額20万円 350所			
III 団体に対する助成			
全国組織の婦人団体に対する補助 6団体	2,010	2,850	+ 840
全国婦人団体研究集会に対する補助	244	0	- 244
合 計	351,109	464,551	+113,442

『あごら』202号（特集40号） ●発行 1994年12月10日
●編集 『新聞切り抜きに見る女の16年V』編集会議
●発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4-303
●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替00100-0-5264
●発行人 あごら運営会議 定価2575円(2500円＋税75円)

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球

かけがえのないわたし

たいせつに たいせつに しよう

あなたも

わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば